

**令和 7 年度**  
**「男女共同参画に関する市民意識と実態調査」**  
**調 査 報 告 書**

長 野 市



## 目 次

I	調査の概要	1
	1 調査の目的	
	2 調査の対象	
	3 抽出方法	
	4 調査の方法	
	5 調査時期	
	6 送付・回収状況	
	7 調査事項	
	8 調査票の集計	
	報告書の見方	
II	回答者の属性	5
III	結果の概要	13
IV	調査の結果	20
	一般的なこと	22
	職場における「女性活躍と就労」に関することについて	58
	仕事と生活の調和に関することについて	114
	地域社会に関することについて	148
	男女の人権に関することについて	158
	「性」の多様性に関することについて	170
	男女共同参画施策に関することについて	178
	資 料	182
	単純集計	184
	調 査 票	210



# I 調査の概要



## 1 調査の目的

市民の男女共同参画・女性活躍等の推進に関する意識と実態を統計的手法によって把握・分析し、長野市の男女共同参画施策の基礎資料を得るとともに、今後の施策に反映することを目的とする。

## 2 調査の対象

令和7年7月1日現在で長野市に在住する18歳以上75歳未満の男女各1,000人  
(計：2,000人)

## 3 抽出方法

長野市住民基本台帳より、単純無作為抽出

## 4 調査の方法

調査票を郵送し、個人へ記入を依頼。その後、返信用封筒（料金受取人払）により調査票を返送してもらう郵送調査法による（調査票は別紙のとおり）。

## 5 調査時期

令和7年8月1日（金） ～ 令和7年8月29日（金）

## 6 送付・回収状況

送付数：2,000票

回収数：710票（回収率：35.5%）

【男性票：300票、女性票：400票 性別無回答他：10票】

## 7 調査事項

### ● 回答者の属性

F1性別 F2年齢 F3職業 F4家族 F5配偶者の有無

F6子の有無 F7配偶者またはパートナーの就業の有無

- (1) 一般的な質問
- (2) 職場における女性活躍と就労に関する質問
- (3) 仕事と生活の調和に関する質問
- (4) 地域社会に関する質問
- (5) 男女の人権に関する質問
- (6) 性の多様性に関する質問
- (7) 男女共同参画施策に関する質問
- (8) 自由記入

## 8 調査票の集計

電子計算機による集計（委託）

### 報告書の見方

- ①調査結果の数値は、原則として百分率で表記した。百分率の値は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表記している。従って、内訳を合計しても100%に合致しない場合がある。
- ②アンケートへの回答は、単数回答と複数回答を求めた設問があり、複数回答を求めた設問では、比率の合計が100%を上回る場合がある。
- ③属性別の結果については、特徴的なもの、資料として重要と思われるものについて分析した。なお、図表によっては、不明サンプルを表示していないため、標本数の合計が全体の標本数と異なる場合がある。
- ④設問中の選択肢の文字数が多いものについては、本文中や図表中において、便宜上短く省略している場合がある。
- ⑤回答者数が少ない場合参考値として掲載。データの精度が低くなる為その分析は行わないものとする。



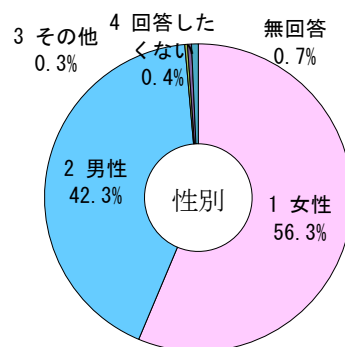


## Ⅱ 回答者の属性



## F 1 性別

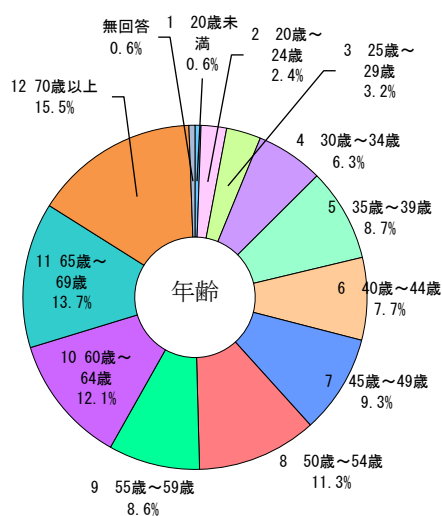
	回答者数 (人)	割合 (%)
1 女性	400	56.3%
2 男性	300	42.3%
3 その他	2	0.3%
4 回答したくない	3	0.4%
無回答	5	0.7%
合計	710	100.0%



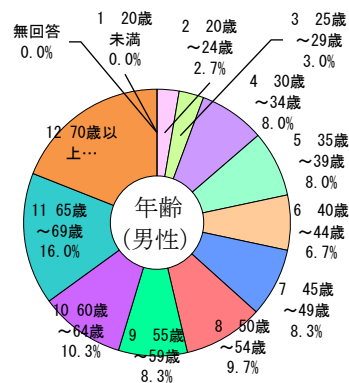
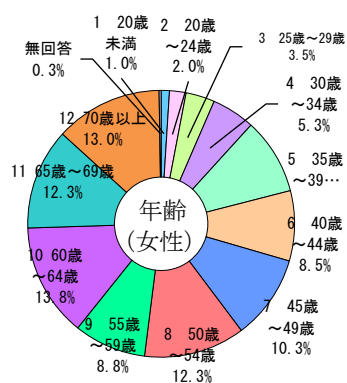
## F 2 年齢

	回答者数 (人)				割合 (%)			
	全体	女性	男性	その他	全体	女性	男性	その他
1 20 歳未満	4	4	0	0	0.6	1.0	0.0	0.0
2 20 歳～24 歳	17	8	8	1	2.4	2.0	2.7	50.0
3 25 歳～29 歳	23	14	9	0	3.2	3.5	3.0	0.0
4 30 歳～34 歳	45	21	24	0	6.3	5.3	8.0	0.0
5 35 歳～39 歳	62	37	24	0	8.7	9.3	8.0	0.0
6 40 歳～44 歳	55	34	20	0	7.7	8.5	6.7	0.0
7 45 歳～49 歳	66	41	25	0	9.3	10.3	8.3	0.0
8 50 歳～54 歳	80	49	29	0	11.3	12.3	9.7	0.0
9 55 歳～59 歳	61	35	25	1	8.6	8.8	8.3	50.0
10 60 歳～64 歳	86	55	31	0	12.1	13.8	10.3	0.0
11 65 歳～69 歳	97	49	48	0	13.7	12.3	16.0	0.0
12 70 歳以上	110	52	57	0	15.5	13.0	19.0	0.0
無回答	4	1	0	0	0.6	0.3	0.0	0.0
合計	710	400	300	2	100.0	100.0	100.0	100.0

### 【全体】



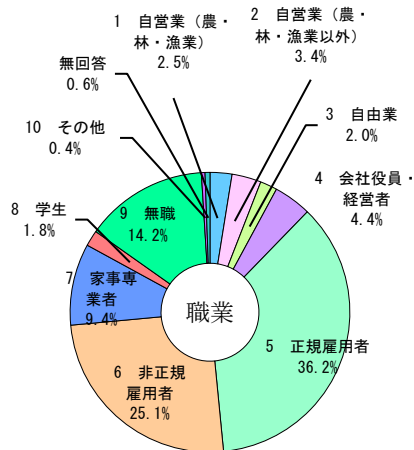
### 【男女別】



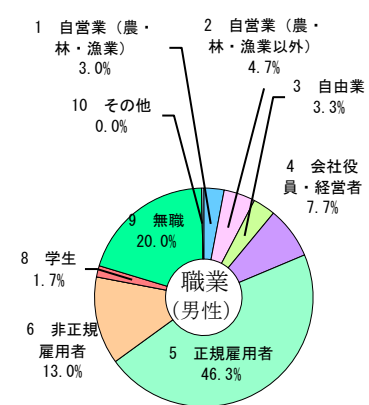
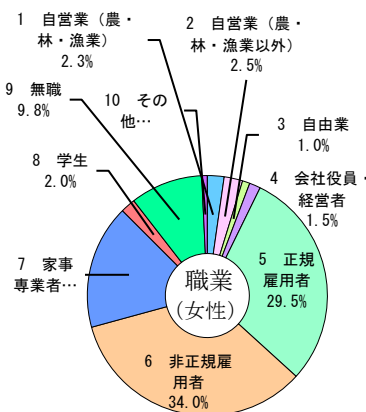
F 3 職業

	回答者数（人）				割合（％）			
	全体	女性	男性	その他	全体	女性	男性	その他
1 自営業（農・林・漁業）	18	9	9	0	2.5	2.3	3.0	0.0
2 自営業（農・林・漁業以外）	24	10	14	0	3.4	2.5	4.7	0.0
3 自由業	14	4	10	0	2.0	1.0	3.3	0.0
4 会社役員・経営者	31	6	23	0	4.4	1.5	7.7	0.0
5 正規雇用者	257	118	139	0	36.2	29.5	46.3	0.0
6 非正規雇用者	178	136	39	1	25.1	34.0	13.0	50.0
7 家事専業者	67	67	0	0	9.4	16.8	0.0	0.0
8 学生	13	8	5	0	1.8	2.0	1.7	0.0
9 無職	101	39	60	1	14.2	9.8	20.0	50.0
10 その他	3	3	0	0	0.4	0.8	0.0	0.0
無回答	4	0	1	0	0.6	0.0	0.3	0.0
合計	710	400	300	2	100.0	100.0	100.0	100.0

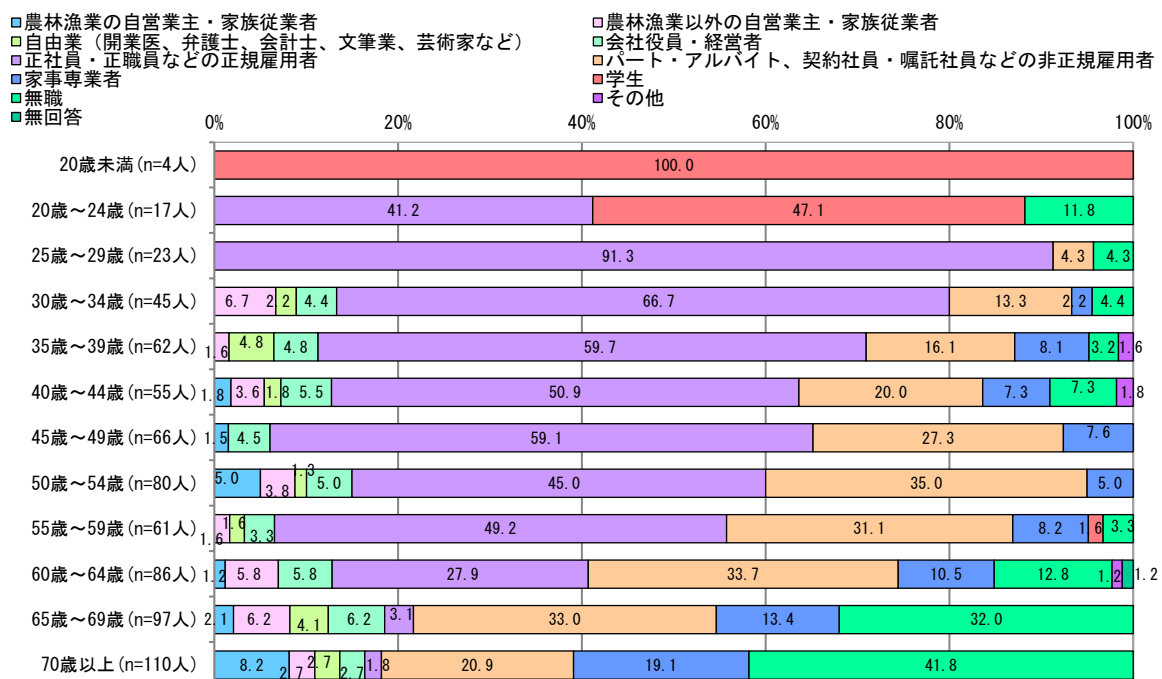
【全体】



【男女別】



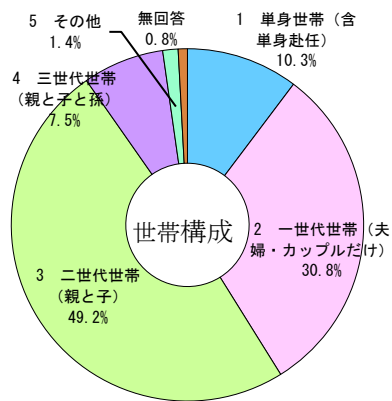
【年代別】



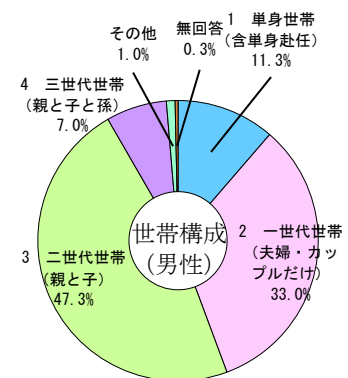
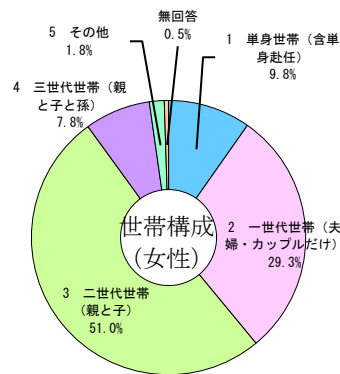
F 4 あなたのご家族の構成（世帯構成）について教えてください。（○は1つ）

	回答者数（人）				割合（％）			
	全体	女性	男性	その他	全体	女性	男性	その他
1 単身世帯（含単身赴任）	73	39	34	0	10.3	9.8	11.3	0.0
2 一世代世帯（夫婦・カップルだけ）	219	117	99	1	30.8	29.3	33.0	50.0
3 二世世代世帯（親と子）	349	204	142	1	49.2	51.0	47.3	50.0
4 三世世代世帯（親と子と孫）	53	31	21	0	7.5	7.8	7.0	0.0
5 その他	10	7	3	0	1.4	1.8	1.0	0.0
無回答	6	2	1	0	0.8	0.5	0.3	0.0
合計	710	400	300	2	100.0	100.0	100.0	100.0

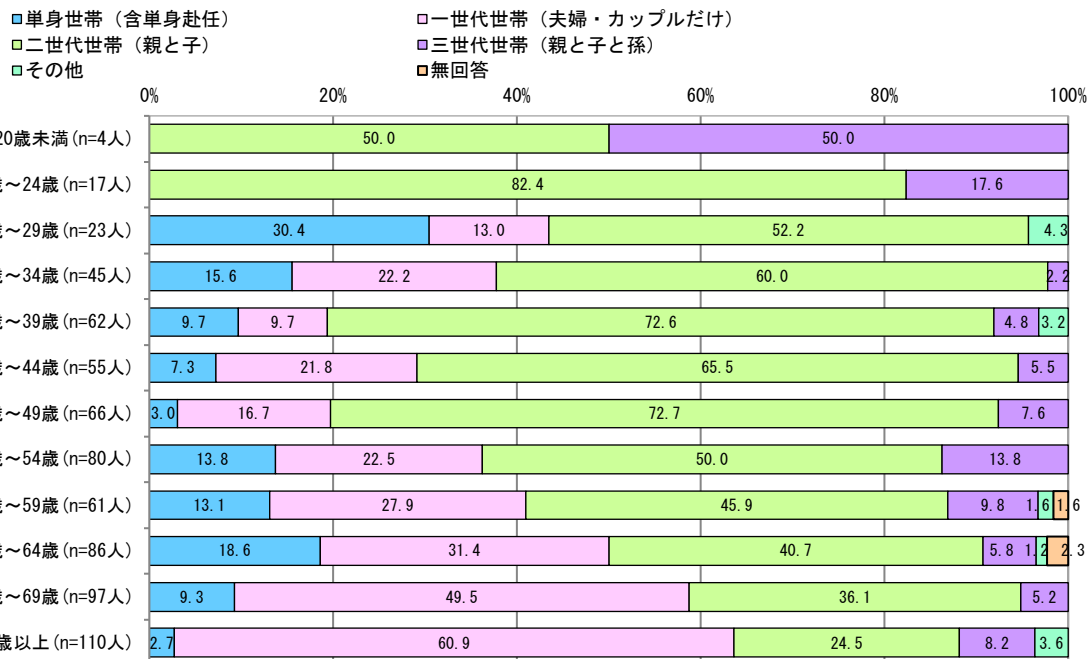
【全体】



【男女別】



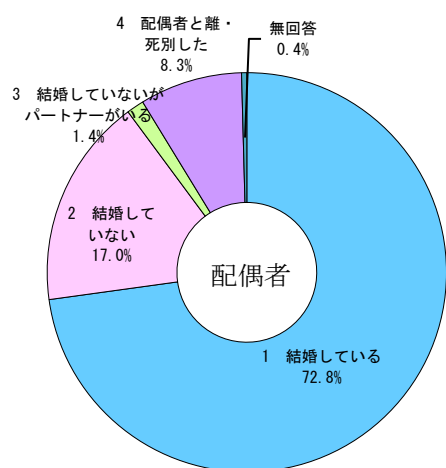
【年代別】



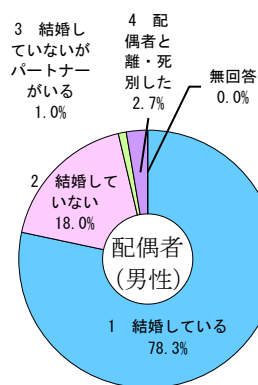
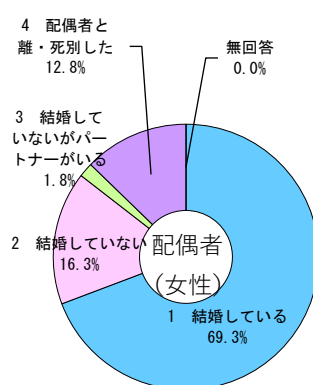
F 5 あなたは現在、結婚していますか。(○は1つ)

	回答者数（人）				割合（％）			
	全体	女性	男性	その他	全体	女性	男性	その他
1 結婚している	517	277	235	1	72.8	69.3	78.3	50.0
2 結婚していない	121	65	54	1	17.0	16.3	18.0	50.0
3 結婚していないがパートナーがいる	10	7	3	0	1.4	1.8	1.0	0.0
4 配偶者と離・死別した	59	51	8	0	8.3	12.8	2.7	0.0
無回答	3	0	0	0	0.4	0.0	0.0	0.0
合計	710	400	300	2	100.0	100.0	100.0	100.0

【全体】

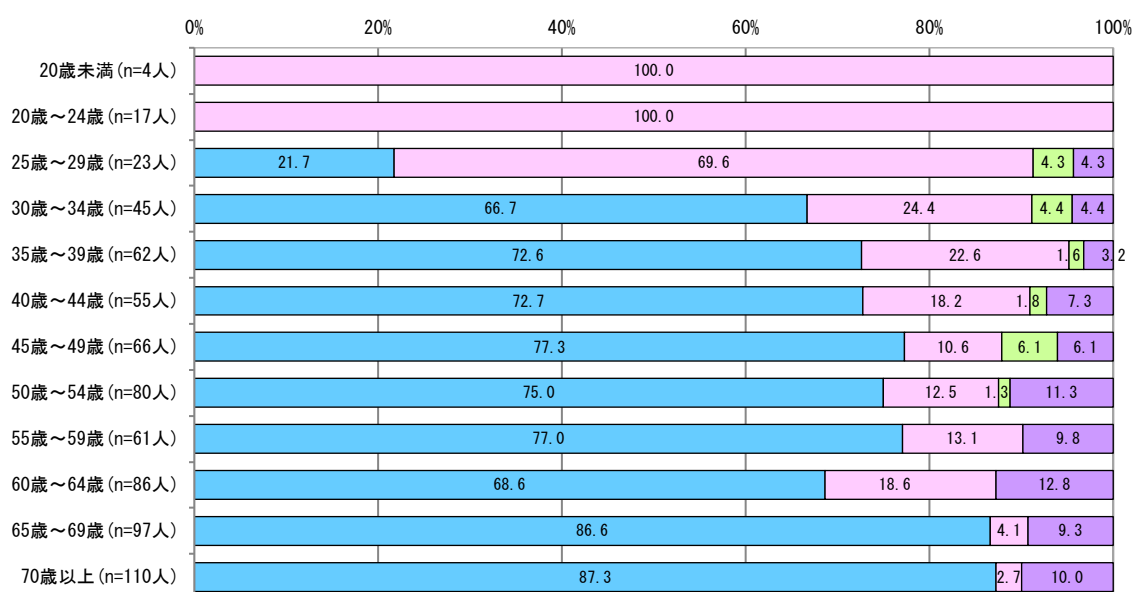


【男女別】



【年代別】

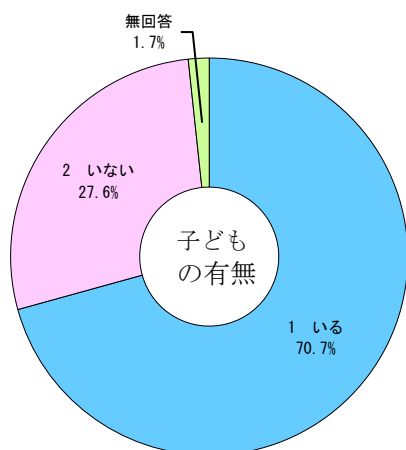
■結婚している ■結婚していない ■結婚していないがパートナーがいる ■配偶者と離・死別した ■無回答



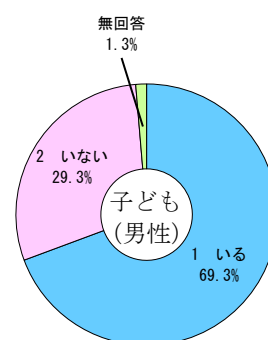
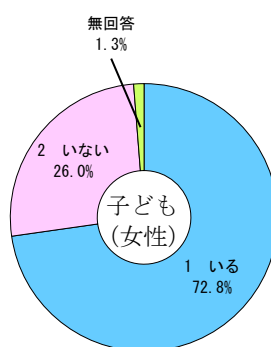
F 6 あなたにお子さんはいらっしゃるですか。(○は1つ)

	回答者数（人）				割合（％）			
	全体	女性	男性	その他	全体	女性	男性	その他
1 いる	502	291	208	0	70.7	72.8	69.3	0.0
2 いない	196	104	88	2	27.6	26.0	29.3	100.0
無回答	12	5	4	0	1.7	1.3	1.3	0.0
合計	710	400	300	2	100.0	100.0	100.0	100.0

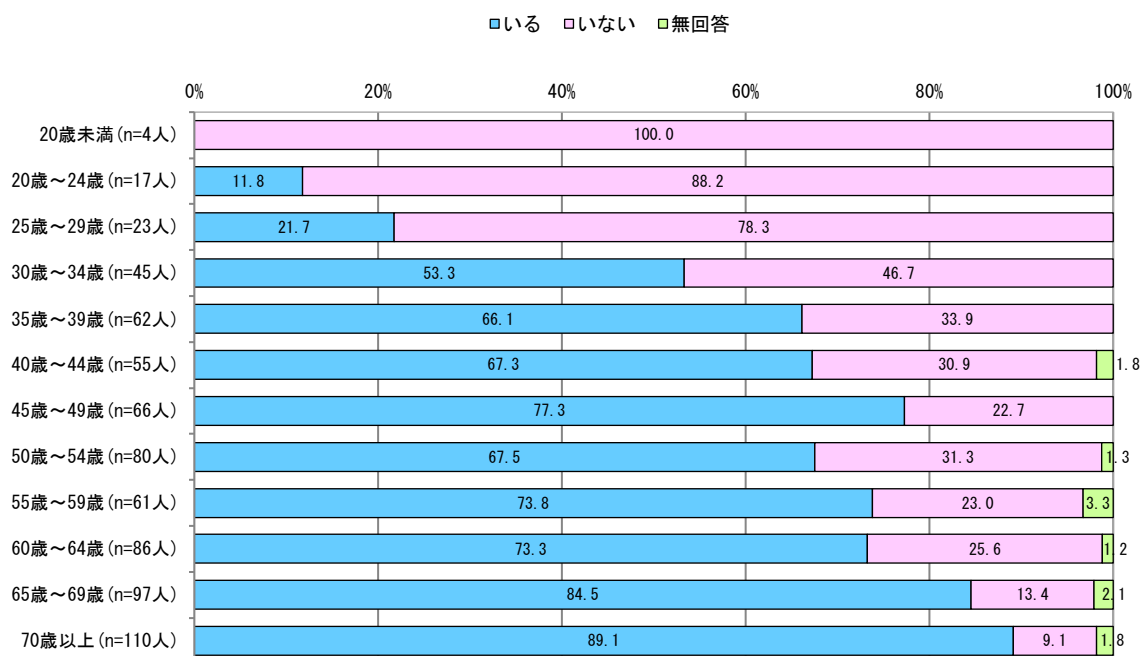
【全体】



【男女別】



【年代別】

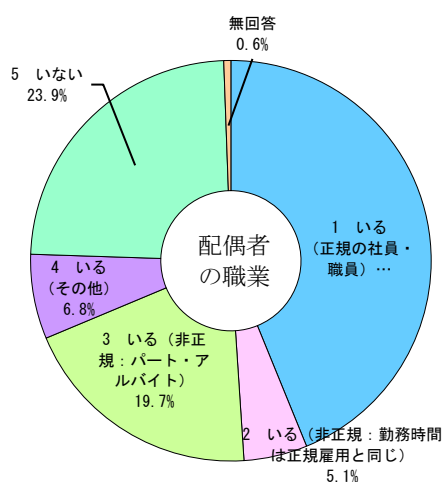


結婚している方またはパートナーがいる方におたずねします。

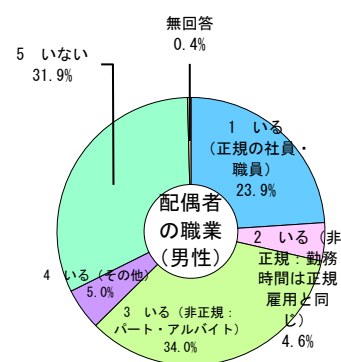
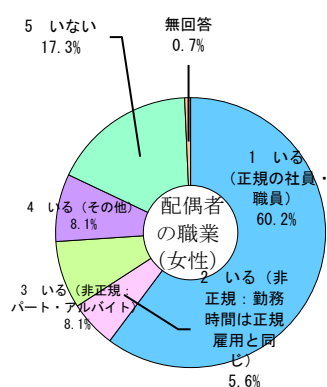
F 7 配偶者またはパートナーは現在職業に就いていらっしゃいますか。(○は1つ)

	回答者数（人）				割合（％）			
	全体	女性	男性	その他	全体	女性	男性	その他
1 いる（正規の社員・職員）	231	171	57	1	43.8	60.2	23.9	100.0
2 いる（非正規：勤務時間は正規雇用と同じ）	27	16	11	0	5.1	5.6	4.6	0.0
3 いる（非正規：パート・アルバイト）	104	23	81	0	19.7	8.1	34.0	0.0
4 いる（その他）	36	23	12	0	6.8	8.1	5.0	0.0
5 いない	126	49	76	0	23.9	17.3	31.9	0.0
無回答	3	2	1	0	0.6	0.7	0.4	0.0
合計	527	284	238	1	100.0	100.0	100.0	100.0

【全体】



【男女別】



【年代別】

- いる（正規の社員・職員）
- いる（非正規：パート・アルバイト）
- いない

- いる（非正規：勤務時間は正規雇用と同じ）
- いる（その他）
- 無回答





### Ⅲ 結果の概要



## 1 一般的なこと

### (1) 社会における男女の扱いについて

「家庭生活」、「学校教育の場」、「地域社会」、「職場」、「法律や制度の上」、「社会通念・慣習・しきたり」、「政治の場」、「社会全体」の8つの分野に関して、男女は平等になっているかを尋ねたところ、「平等である」と考えている割合が高いのは、「学校教育」(55.6%)の1分野であった。それ以外の分野では「男性の方が優遇」という回答割合の合計が最も多くなっている。特に「社会通念・慣習・しきたり」、「政治の場」では「男性の方が優遇」という回答割合の合計が約8割となっている。

分野別でみると、「家庭生活」においては、「男性の方が優遇」という回答割合の合計は、女性が65.8%に対し、男性が39.6%となり、性別による感じ方に差がある。同様に、「法律や制度の上」においても、「男性の方が優遇」という回答割合の合計は、女性は55.1%なのに対し、男性が35.7%となっている。また、「地域社会」、「職場」、「社会通念・慣習・しきたり」、「政治の場」、「社会全体」といった分野でも、「男性の方が優遇」という回答割合が多く、男女とも約5割～8割となっている。

### (2) 男女共同参画に関する用語について

「男女共同参画」に関する7つの用語の認知度を尋ねたところ、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計が高いのは、「ジェンダー」(94.6%)、「DV防止法」(92.0%)、「男女共同参画社会」(83.6%)となっている。また、「女性活躍推進法」(59.2%)、「女子差別撤廃条約」(55.3%)も、5割以上となっている。それ以外の4つの用語の認知度は、5割を下回っている。

### (3) 固定的性別役割分担意識について

「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について、「賛成」及び「どちらかといえば賛成」という回答割合の合計は15.3%、一方、「反対」及び「どちらかといえば反対」という回答割合の合計は75.2%となっている。前年に比べ、前者は0.2ポイント増加し、後者は0.1ポイント増加した。平成22年調査から、「反対」、「どちらかといえば反対」という回答の合計が、半数を上回っている。世代別性別でみると、30歳～34歳の男性、35歳～39歳の女性、40歳～44歳の男女、45歳～49歳の男性、60歳～64歳の男性、70歳以上の女性で「賛成」がいる結果となっている。

### (4) 「女らしさ・男らしさ」などを言われたり、期待されることについて

「たまにある」という回答が、男女とも約5割となる。20歳未満の女性、20歳～29歳の男女を除く、いずれの世代別性別でも、「よくある」、「たまにある」の回答割合の合計が6割以上となっている。

言われる場としては、「家庭」、「職場」、「地域・近隣」、「親族関係」がそれぞれ4割以上となる。男性では「職場」、「地域・近隣」、女性では「家庭」、「親族関係」が多い傾向にある。内容としては、「家事・育児・介護」、「働き方や仕事内容」、「行動の仕方」が4割以上となっている。

### (5) 女性が職業をもつことについて

女性が働くことへの考え方に関しては、男女ともに「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が5割以上と、最も多い回答となっている。

## 2 職場における「女性活躍と就労」に関することについて

### (1) 方針決定の場などへの女性活躍の必要性について

方針決定の場への女性の参画や女性の職域拡大等、女性活躍の必要性に関しては、男女ともに「必要だと思う」という回答が最も多い回答となっており、「必要ないと思う」という回答は2.8%となっている。

### (2) 職場における男女の平等について

職場における「賃金」、「昇進や昇格」、「仕事の内容」、「研修の機会や内容」、「経験や能力を発揮する機会」の5つに関して、男女が平等であるかを尋ねたところ、いずれの項目でも「平等である」という回答が最も多くなっている。「昇進や昇格」に関しては、「平等である」がやや多いものの、「男性の方が優遇されている」という回答割合の合計と拮抗している。「どちらかといえば女性の方が優遇されている」という回答が最も多いのは、「仕事の内容」で9.8%となっているが、この項目における「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は21.5%と女性を上回っている。

### (3) 就労意識について

職業に就いている方に尋ねたところ、「そう思う」と考えている割合が高いのは、「あなた自身は活躍したい」(30.1%)、「女性も管理職として活躍している」(25.5%)、「仕事を続けキャリアを積んでいきたい」(24.5%)、「現在の生活や仕事に満足している」(23.6%)の4分野であった。「思わない」と考えている割合が高いのは、「女性の管理職の部下には、なりたくない」(48.1%)、「退職して仕事に就かない」(46.7%)、「管理職への打診があれば受けてみたい」(28.4%)の3分野であった。

### (4) 職場における女性の雇用や登用の推進について

女性が活躍するために企業が取り組むべきは何かと尋ねたところ、「とても重要だと思う」と考えている割合が高いのは、「出産や育児等による休業がハンディとならないような人事制度の導入」(57.9%)、「在宅勤務、時短勤務・フレックスタイム等、勤務場所や勤務時間の柔軟化」(51.4%)、「企業内託児所や学童保育所などの設置」(50.9%)、「非正規労働者の正社員・職員への転換・待遇改善」(42.4%)の4分野であった。

### (5) 再就職について

離職されている方に、再就職の際の雇用形態の希望を尋ねたところ、全体でみると「パート・アルバイト（家に子どもがいない時間のみなど）」(38.1%)という回答が最も多くなっている。男女ともに、次いで「派遣・嘱託・契約・非常勤などの社員・職員」、「その他」の順に並んでいる。

「派遣・嘱託・契約・非常勤などの社員・職員」、「パート・アルバイト（家に子どもがいない時間のみなど）」を回答した理由を尋ねたところ、女性は、「仕事より家庭生活を優先したいから」、男性は、「仕事より家庭生活を優先したいから」、「時間外勤務や休日出勤を避けたいから」が同率で最も多い回答となっている。

### (6) 離職の原因（理由）について

離職の原因（理由）について尋ねたところ、「結婚」という回答が全体で26.1%、「出産」が全体で24.8%となっているが、「結婚」では男性が2.3%なのに対し、女性は37.8%、「出産」では男性が1.5%なのに対し、女性は36.3%となり、性別により差がある。

### (7) 女性の就労について

女性の活躍を進めるうえでの問題について尋ねたところ、「家事・育児などと仕事の両立が難しい」(80.1%)という回答が最も多くなっており、次いで「結婚・出産で退職する(退職せざるを得ない)女性が多い」(52.1%)、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」(35.9%)となっている。

女性が意欲をもって働き続けるために何が必要か尋ねたところ、「育児・介護に関する制度の充実」(45.1%)が最も多い回答となっており、次いで「職場の理解や協力」(37.9%)、「家族の理解や協力」(37.0%)、「働き方改革の推進」(30.1%)と続いている。

離職した女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要だと思うか尋ねたところ、「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」(80.0%)が最も多い回答となっており、次いで「保育所などの保育施設の充実」(60.1%)、「離職しても同一企業に再雇用されるようにすること」(53.9%)と続いている。

## 3 仕事と生活の調和に関することについて

### (1) ワーク・ライフ・バランスの認知度について

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知度については、「言葉も内容も知っている」という回答が、全体の48.6%となっており、前年に比べ、9.0ポイント増加した。

「言葉も内容も知っている」という回答は、男性が55.7%と女性の43.0%より多くなっている。

### (2) 理想とする生活と、現実の生活について

「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活」の優先度について、理想とする生活と、現実の生活について尋ねたところ、理想とする生活、現実の生活ともに、『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が最も多い回答となっている。

### (3) 家事と育児・介護について

「掃除」、「洗濯」、「食料品、日用品などの買物」、「食事のしたく」、「食事の後かたづけ」、「ごみ捨て」の6つの分野に関して尋ねたところ、「主に自分がしている」と答えた割合が最も高いのは、男性では、「ごみ捨て」(50.3%)、女性では、「食事のしたく」(75.0%)であった。「していない」と答えた割合が最も高いのは、男性では、「洗濯」(32.7%)で、女性では、「ごみ捨て」(13.8%)であった。

また、男性は、「食料品、日用品などの買物」については、「自分と家族が同じ程度している」という回答割合が3割を超えている。

家事従事時間に関しては、平日では「0～1時間未満」という回答は、女性6.3%、男性48.3%と差が大きくなっている。休日では「0～1時間未満」という回答が女性4.8%、男性29.0%となっており、平日に比べて差が小さくなっている。

育児に関しては、「主に自分がしている」、「自分と家族が同じ程度している」という回答割合の合計は、女性は53.7%、男性は34.9%と差が大きいが、介護に関しては女性が17.8%、男性が13.9%と育児より差が小さい。

「育児・介護休業制度」に関しても、「職場や同僚に迷惑がかかるから」(57.9%)、「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」(55.2%)、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」(48.3%)、「昇給、昇格に影響すると考えるから」(28.7%)といった理由で、男性の利用が進まない状況となっている。

## 4 地域社会に関することについて

### (1) 自治会やPTAなど地域の活動における現状と女性の参画について

自治会やPTAなど、地域での活動における事例について尋ねたところ、「そうである」という回答が多かったのは、「自治会やPTAの責任ある役職は、ほとんどが男性である」で、46.9%となっている。一方、「そうではない」という回答は、「役員や組織の運営事項は、男性だけで決めている」(41.8%)、「女性が責任ある役職に就こうとすると、男性や他の女性から反対される」(35.9%)、「自治会やPTAの会長は、男性と決まっている」(35.2%)となっている。

女性が地域の重要な方針決定の場に参画するためにはどうすればよいか尋ねたところ、「積極的改善措置(ポジティブ・アクション)は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」という回答が最も多く、2割(24.2%)となっている。次いで、「地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと」(18.5%)と「役員のなかの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置(ポジティブ・アクション)を導入すること」(13.7%)と続いている。

## 5 男女の人権に関することについて

### (1) DV(ドメスティック・バイオレンス)について

DVを受けた又はしたことがあるか尋ねたところ、「受けたことがある」と答えた割合は、男性が29.3%に対し、女性は42.5%となっている。項目別でみると、「大声で怒鳴る」については、男性で「したことがある」という回答が17.7%、女性では4.8%、女性では「受けたことがある」という回答が18.0%、男性は4.0%となっている。

DVにあったときの相談窓口として、「知っている」という回答が最も多かったのは、「県警(警察安全相談窓口)」で4割(45.9%)となっている。次いで、「相談できる窓口は知らない」(35.9%)、「女性の人権ホットライン」(16.2%)、「長野県女性相談センター」(14.9%)、「長野県児童虐待・DV24時間ホットライン」(14.4%)、「長野市福祉事務所」(9.9%)の順となる。

DVに対する考え方は、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う」が最も多く、約5割(53.8%)となっている。

## 6 「性」の多様性に関することについて

### (1) 性的マイノリティ(性的少数者)について

性的マイノリティ(性的少数者)についてどのような考え、イメージを持っているか尋ねたところ、「性の多様性として認めるべきである」(63.2%)が最も多く約6割となっている。次いで、「テレビ等マスコミにも取り上げられており、理解に努めようと思う」(41.7%)、「身近な存在だと思う」(23.9%)と続いている。

### (2) 性的マイノリティ(性的少数者)の人権について

「学校等、子供のころからの教育や啓発」(46.5%)で、約5割となっている。次いで、「社会全体での教育や啓発」(45.6%)、「性的少数者に関する相談や支援の充実」(22.0%)と続いている。「学校等、子供のころからの教育や啓発」の回答割合は、男性が40.3%、女性が51.0%となっており、性別により違いがある。

## 7 男女共同参画施策に関することについて

### (1) 男女共同参画社会実現へ向けた行政に期待することについて

行政に期待することについては、「保育所や小学生の放課後の居場所など、子育てしながら働くための環境整備」(62.3%)が最も多くなっている。次いで、「多様で柔軟な働き方(テレワークや在宅勤務、フレックスタイム制など)や仕事と育児・介護との両立支援の推進に向けた企業への働きかけ」(55.6%)、「出産や子育てで離職した女性の再就職を支援する取組」(53.1%)の順となっている。

## IV 調査の結果





---

## 一般的なこと

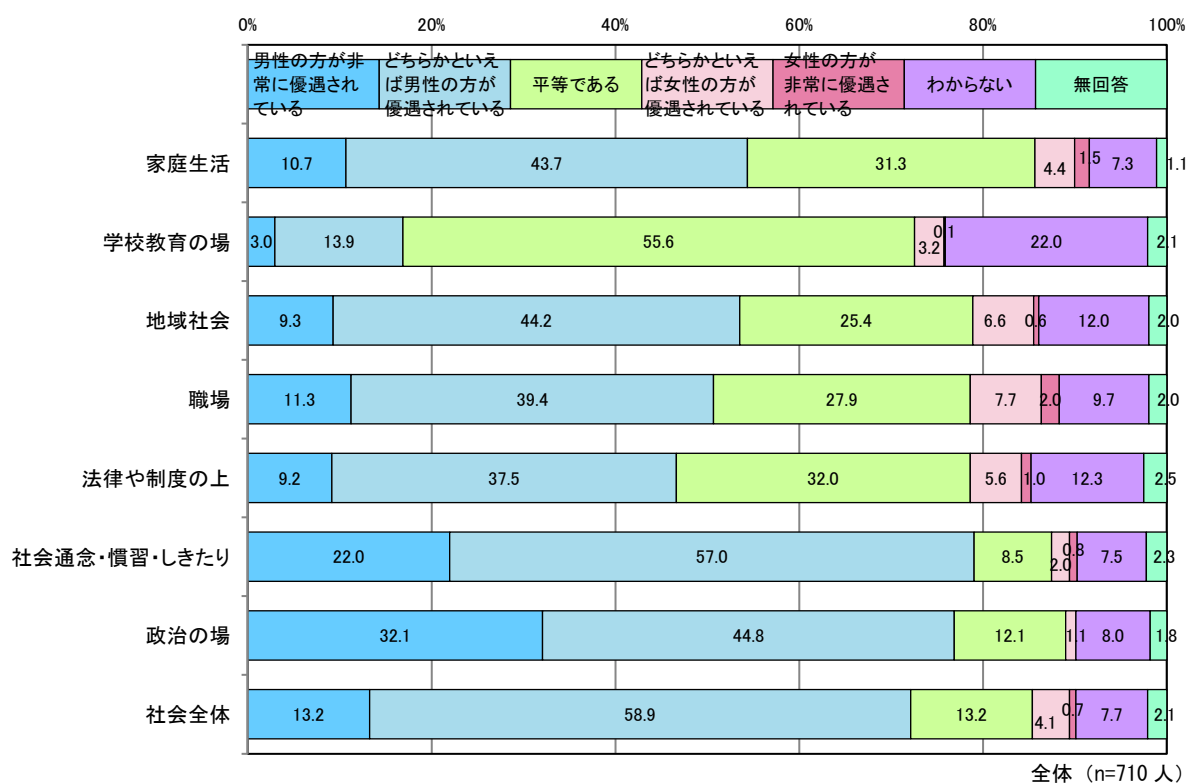
---



問１ あなたは次にあげる分野で男女は平等になっていると思いますか。（それぞれ○は１つ）

- ・「平等である」と考えている割合が多いのは、「学校教育の場」（55.6%）、「法律や制度の上」（32.0%）、「家庭生活」（31.3%）の3分野となっている。
- ・一方、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答割合の合計が多いのは、「社会通念・慣習・しきたり」79.0%、「政治の場」76.9%と、いずれも約8割になっている。

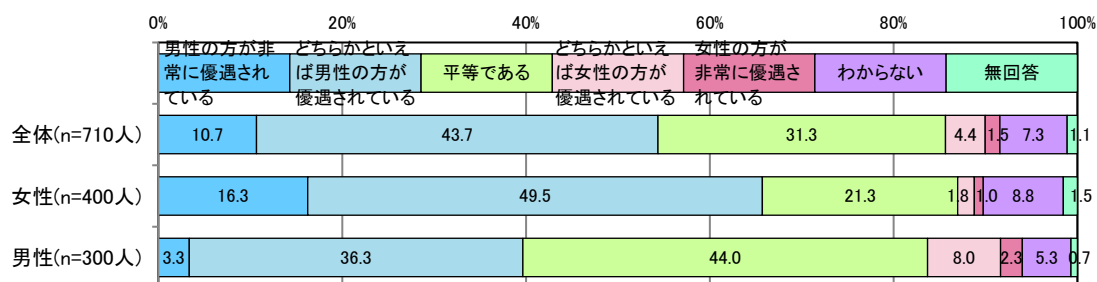
【全分野】



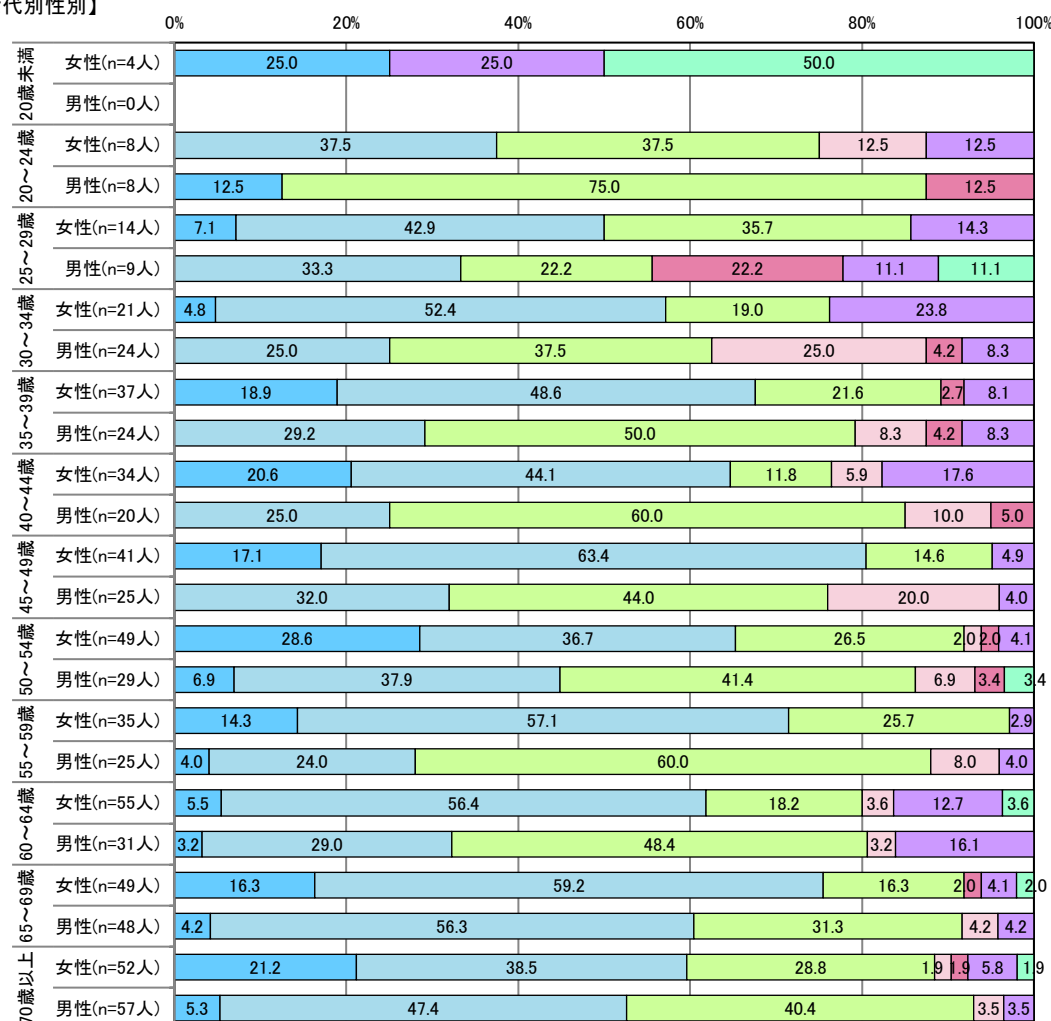
## 1. 家庭生活

- ・性別でみると、女性は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（49.5％）が約5割となっている。男性も「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（36.3％）という回答が最も多く、約4割となっている。「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答割合の合計は、女性では約7割（65.8％）となっているが、男性では約4割（39.6％）となっている。
- ・世代別性別でみると、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答割合の合計は、女性では35歳～39歳、45歳～59歳、65歳～69歳で約7割となっている。男性でも、65歳～69歳で6割を超えている。

### 【性別】



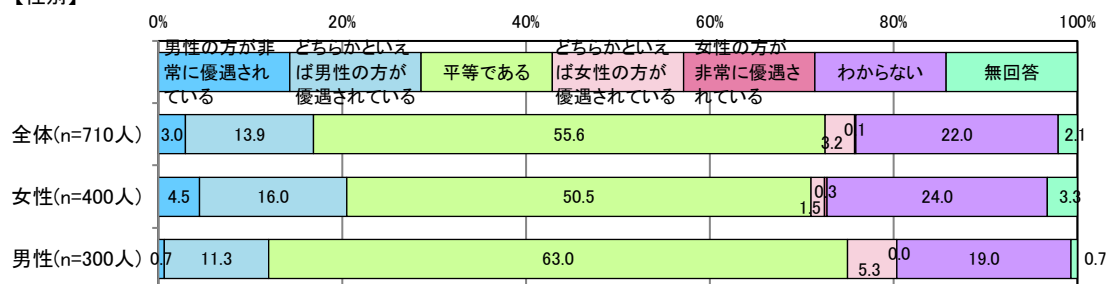
### 【世代別性別】



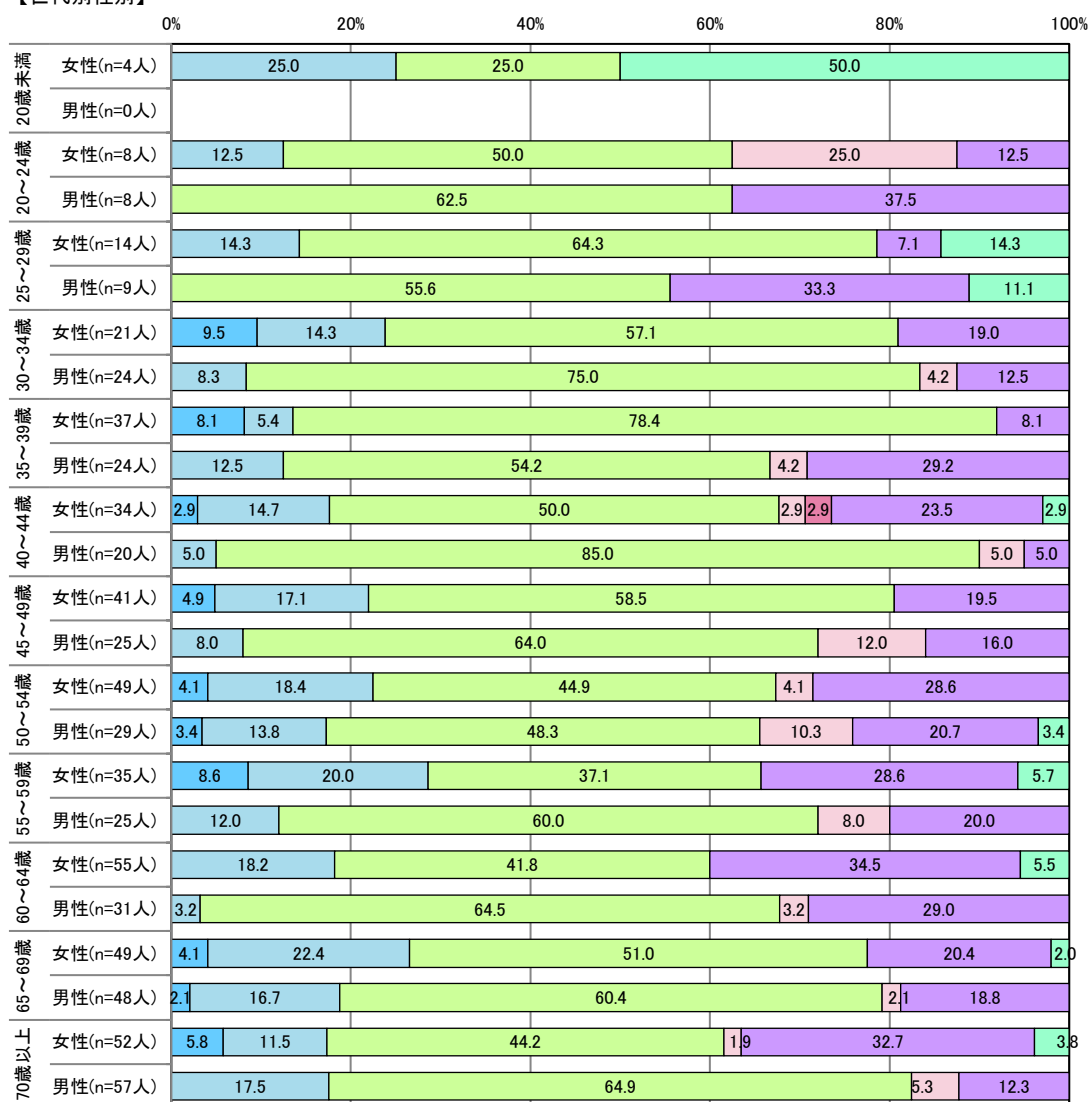
## 2. 学校教育の場

- 性別でみると、男女とも「平等である」という回答が最も多く、女性は 50.5%、男性は 63.0% となっている。「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答割合の合計は、男性よりも女性の方が多くなっている。
- 世代別性別でみると、いずれの世代でも「平等である」という回答が最も多くなっている。55 歳～59 歳、65 歳～69 歳の女性では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答が 2 割となっている。

【性別】



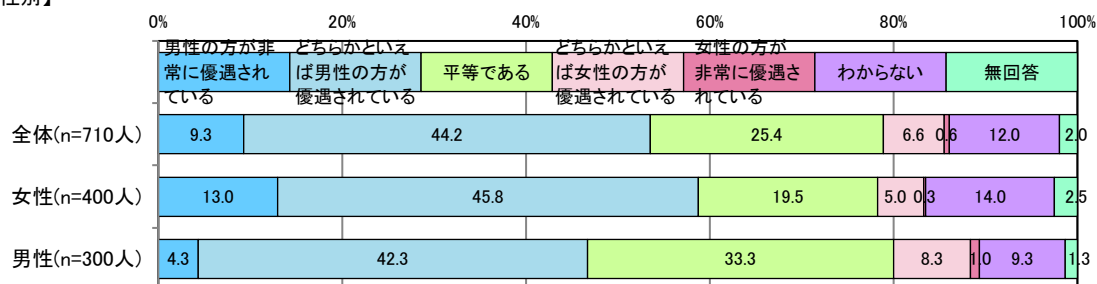
【世代別性別】



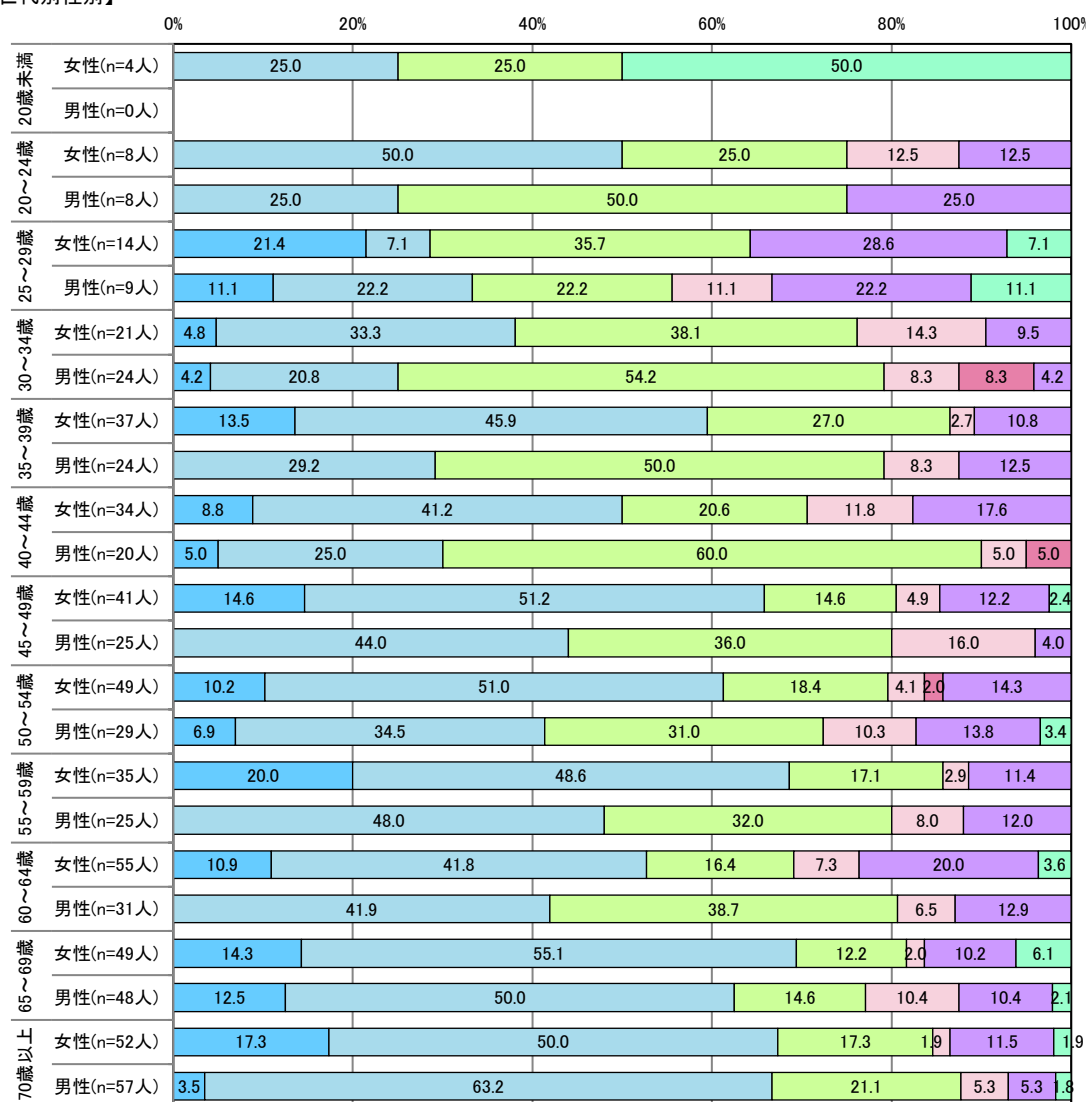
### 3. 地域社会

- ・性別でみると、男女とも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答が最も多く、女性は45.8%、男性は42.3%となっている。一方、「平等である」という回答は男性が3割以上（33.3%）であるのに対し、女性は約2割（19.5%）となっている。
- ・世代別性別でみると、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答割合の合計が6割以上となる世代は、45歳～59歳の女性、65歳以上の男女となっている。

【性別】

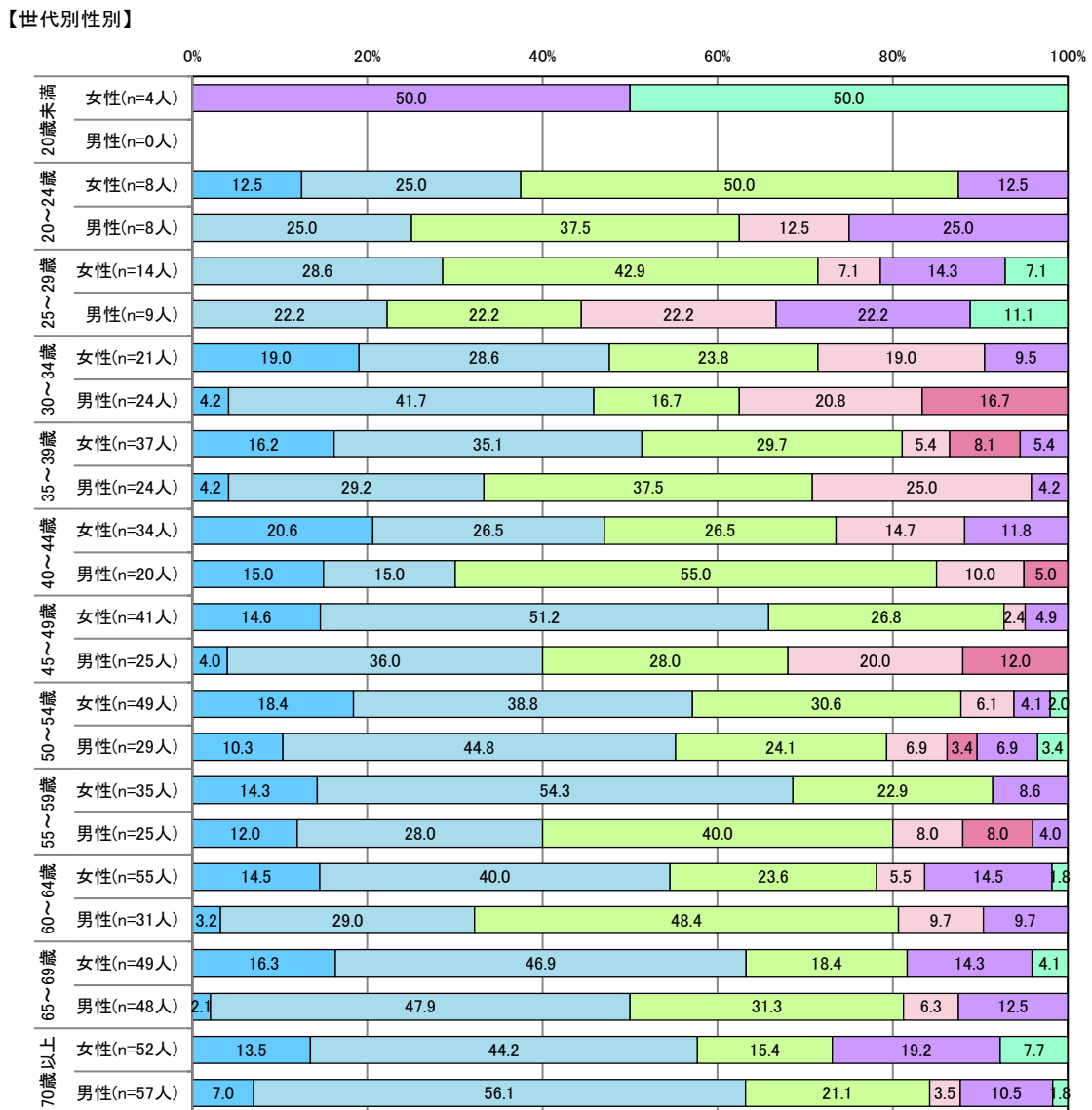
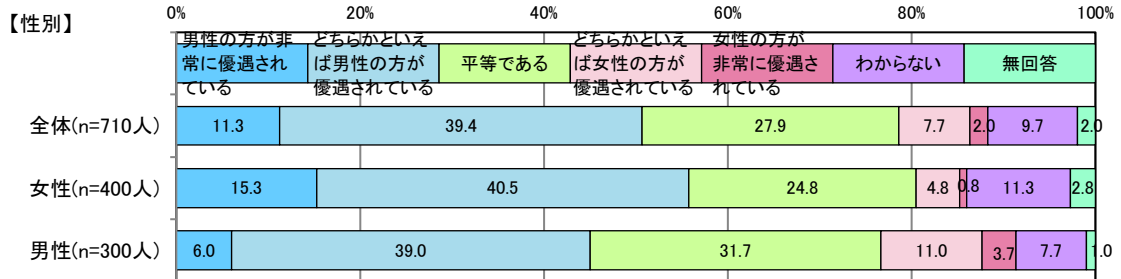


【世代別性別】



#### 4. 職場

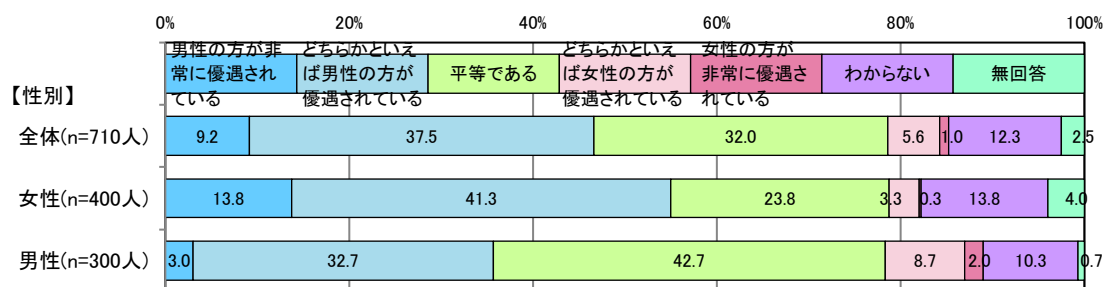
- ・性別でみると、男女とも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答が最も多く、女性は40.5%、男性は39.0%となっている。
- ・世代別性別でみると、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答割合の合計が6割以上となる世代は、45歳～49歳の女性、55歳～59歳の女性、65歳～69歳の女性、70歳以上の男性となっている。



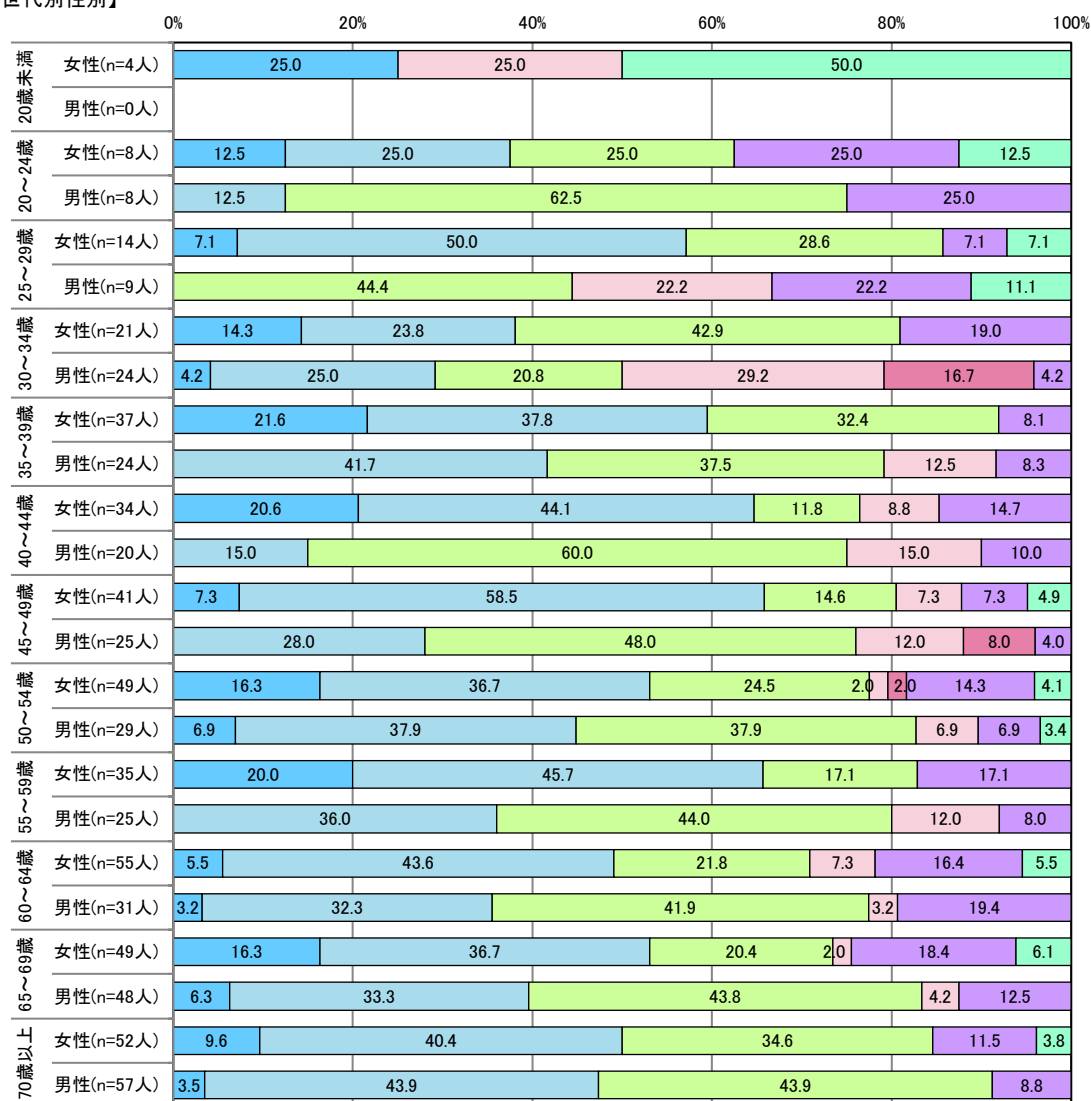


## 5. 法律や制度の上

- 性別でみると、女性は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（41.3％）という回答が最も多くなっている。一方、男性では「平等である」という回答が最も多く、約4割（42.7％）と、法律や制度については男女間で感じ方に差があると考えられる。
- 世代別性別でみると、女性では、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答割合の合計が6割以上となる世代は、40歳～49歳、55歳～59歳となっている。男性では、20歳～24歳、40歳～44歳の世代で、「平等である」という回答が6割以上となる。

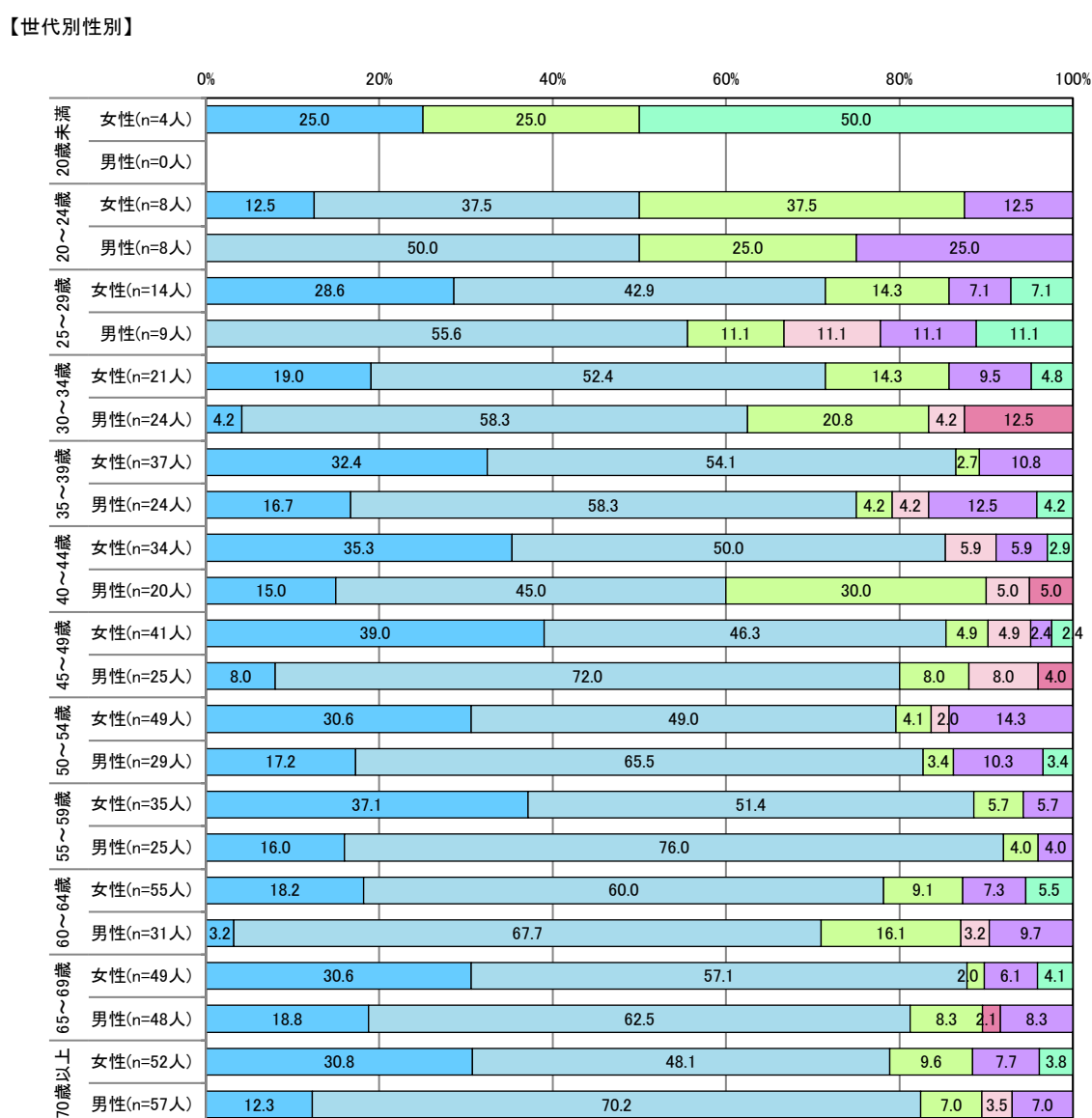
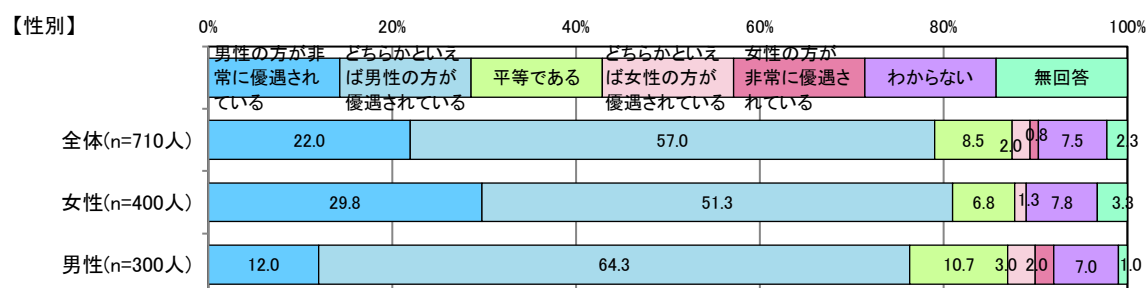


【世代別性別】



## 6. 社会通念・慣習・しきたり

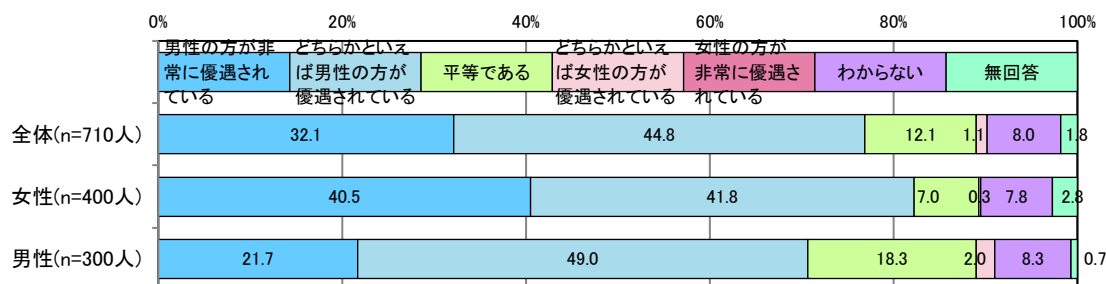
- ・性別でみると、男女とも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答が最も多く、女性は51.3%、男性は64.3%となっている。
- ・世代別性別でみると20歳未満の女性、20歳～24歳の男女、25歳～29歳の男性の世代を除いて、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答割合の合計が6割以上となっている。
- ・特に女性では、20歳未満、20歳～24歳を除いて、回答割合の合計が7割以上となっている。



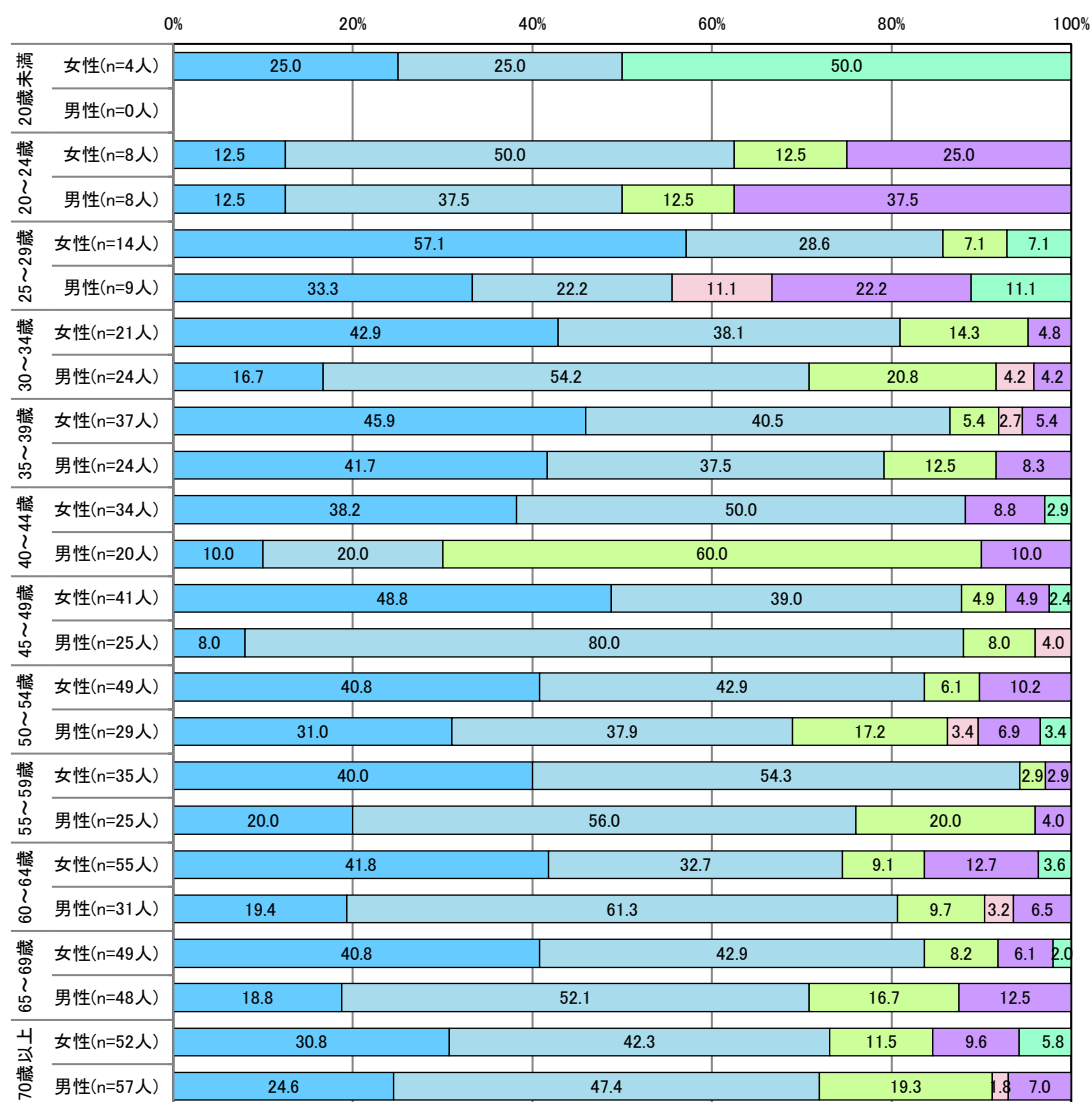
## 7. 政治の場

- ・性別でみると、男女とも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答が最も多く、女性は41.8%、男性は49.0%となっている。
- ・世代別性別でみると、20歳未満の女性、20歳～29歳の男性、40歳～44歳の男性の世代を除いて、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答割合の合計が6割以上となっている。

### 【性別】



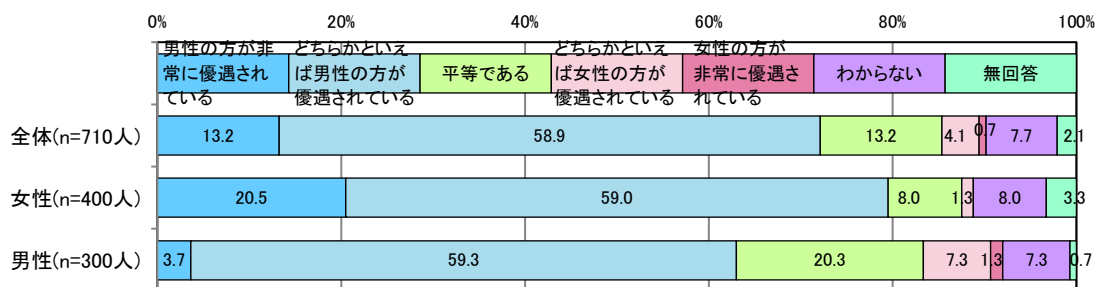
### 【世代別性別】



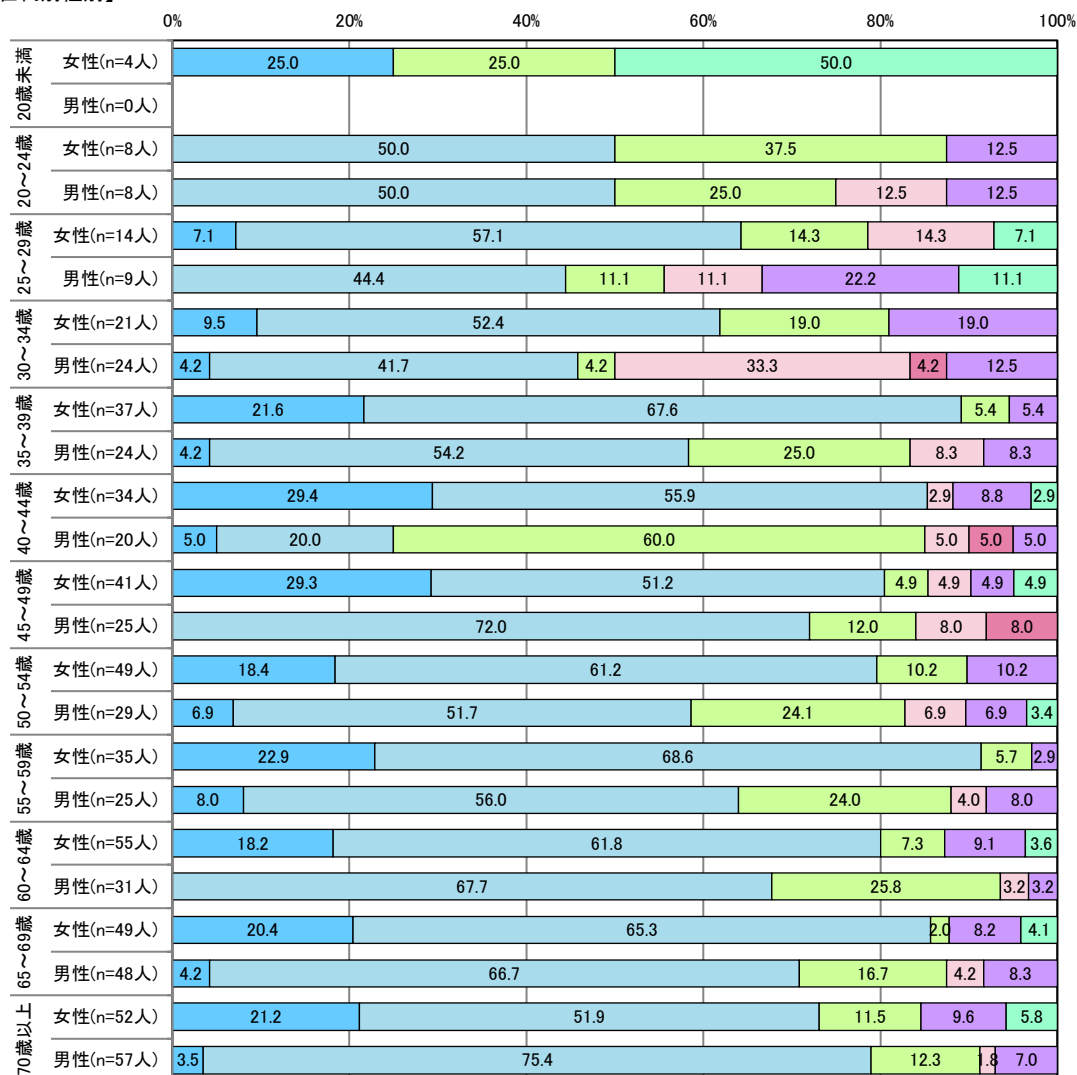
## 8. 社会全体

- ・性別でみると、男女とも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答が最も多く、女性は59.0%、男性は59.3%と約6割となっている。
- ・「平等である」という回答は、男性が約2割（20.3%）、女性が約1割（8.0%）となる。社会全体においても男性が優位であると感じている割合が多くなっている。
- ・世代別性別でみると、20歳未満の女性、20歳～24歳の男女、25歳～44歳の男性、50歳～54歳の男性を除き、いずれの世代においても「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答割合の合計が6割以上となっている。

### 【性別】

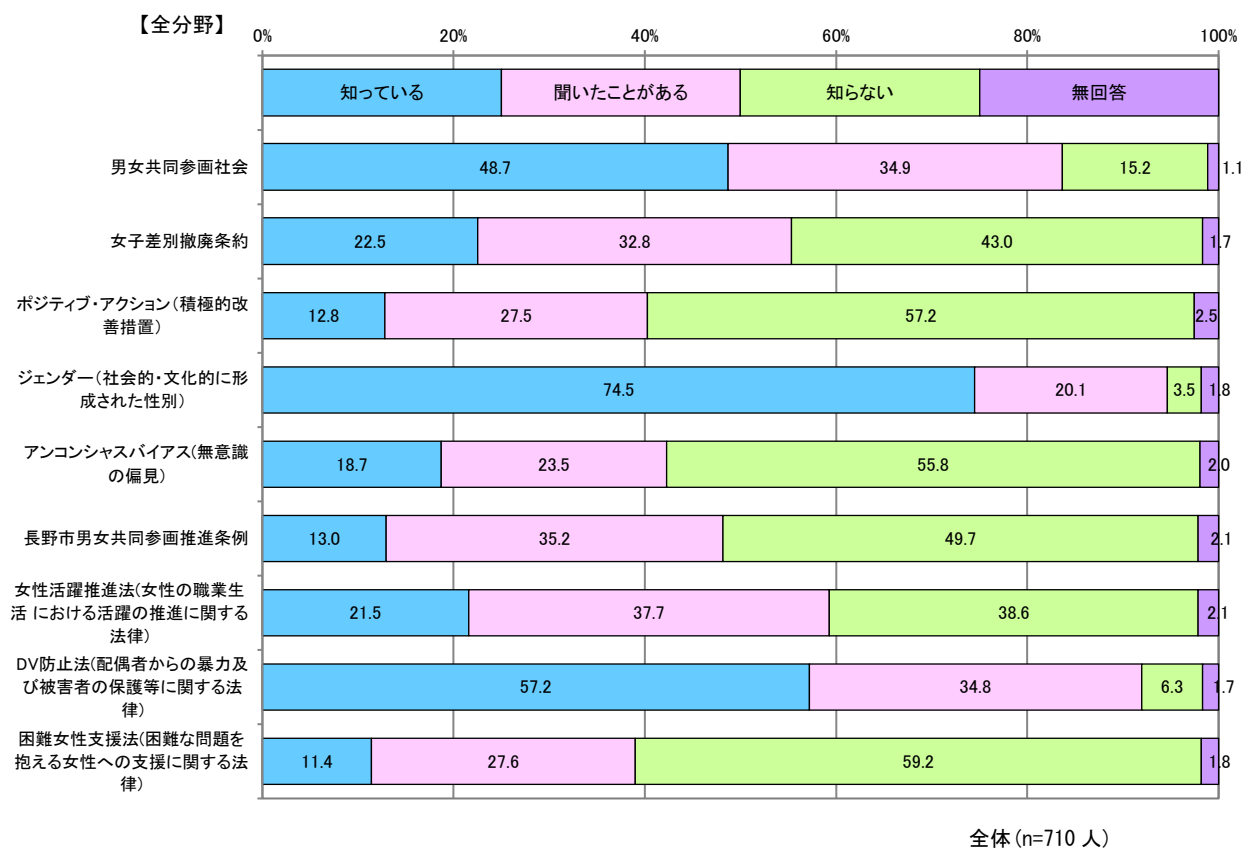


### 【世代別性別】



問2 次の言葉やことがらについて、知っているか、または聞いたことがありますか。  
(それぞれ〇は1つ)

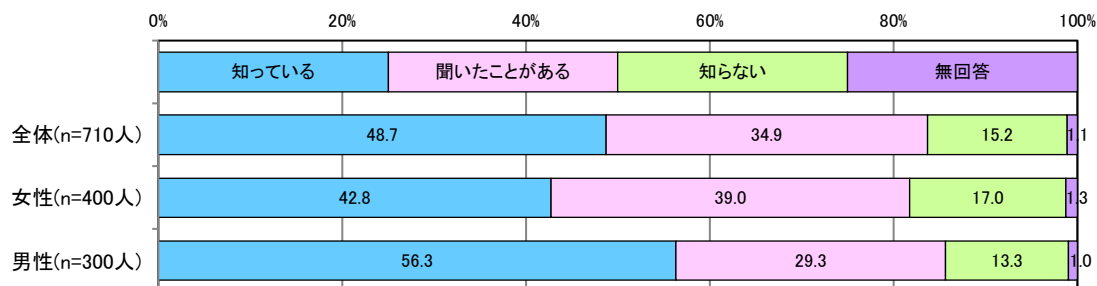
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合を合計すると、「ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）」（94.6%）、「DV 防止法（配偶者からの暴力及び被害者の保護等に関する法律）」（92.0%）、「男女共同参画社会」（83.6%）が8割以上と認知度が高い。次に、「女性活躍推進法」（59.2%）、「女子差別撤廃条約」（55.3%）が5割以上、「長野市男女共同参画推進条例」（48.2%）と続いている。



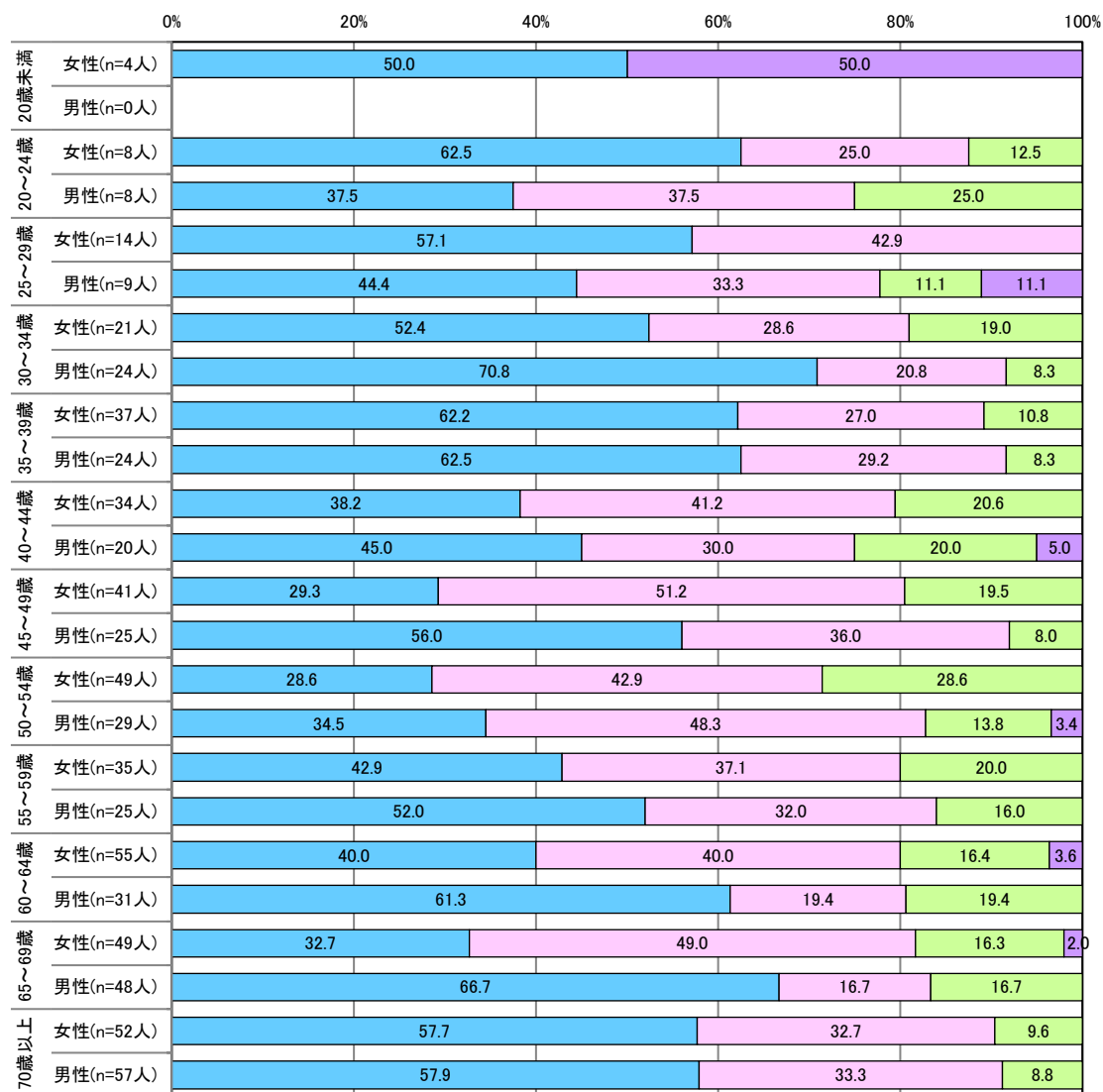
## 1. 男女共同参画社会

- ・性別でみると、男女とも「知っている」及び「聞いたことがある」の回答割合の合計が、8割を超えている。
- ・世代別性別でみると、女性では50歳～54歳で、「知らない」という回答が、約3割となっている。一方、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計が9割を超えているのは、男性では30歳～39歳、45歳～49歳、70歳以上となっている。

【性別】



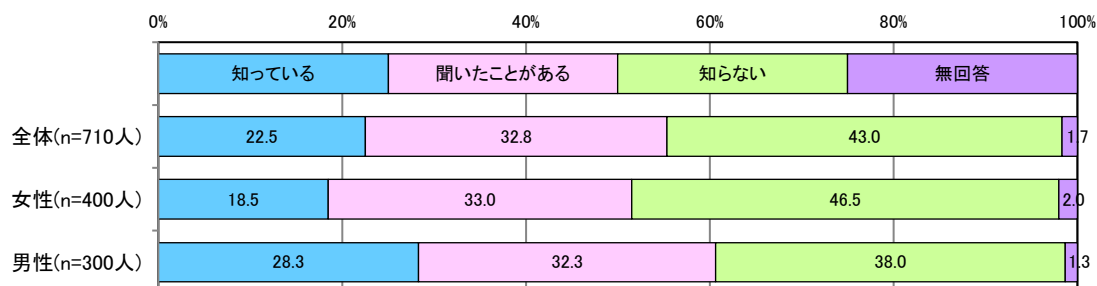
【世代別性別】



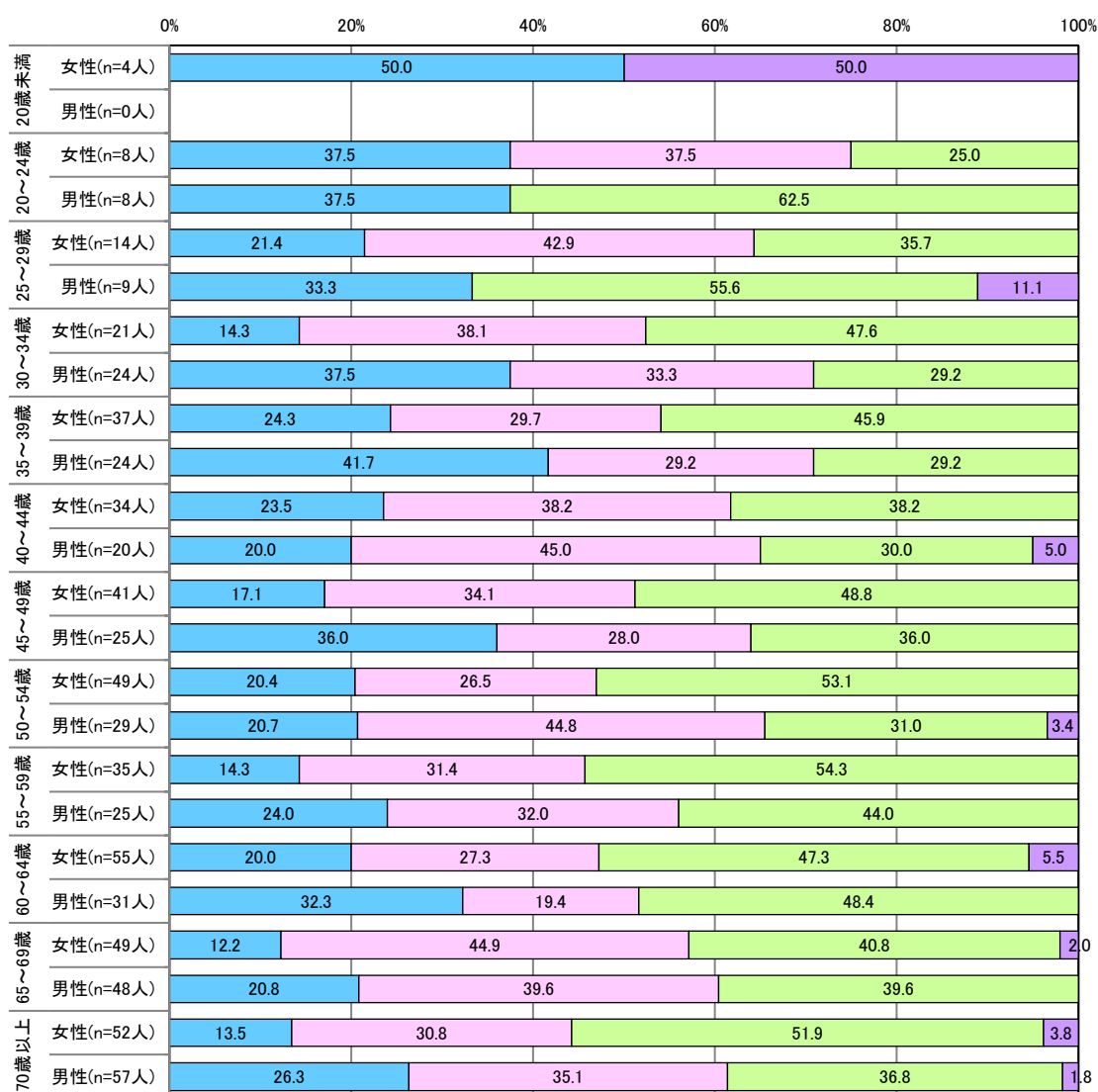
## 2. 女子差別撤廃条約

- ・性別でみると、男女ともに「知らない」が、女性は 46.5%、男性は 38.0%で最も多くなっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計は、女性が 51.5%、男性が 60.6%、となっている。
- ・世代別性別でみると、20 歳～29 歳の男性、50 歳～59 歳の女性、70 歳以上の女性で、「知らない」という回答が5割以上となっている。

### 【性別】



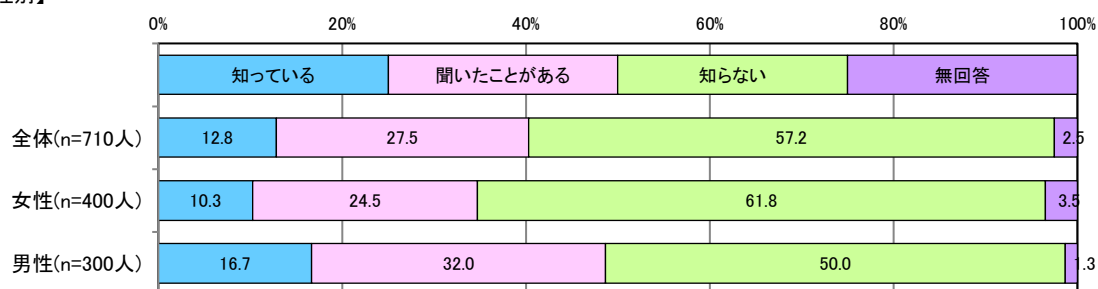
### 【世代別性別】



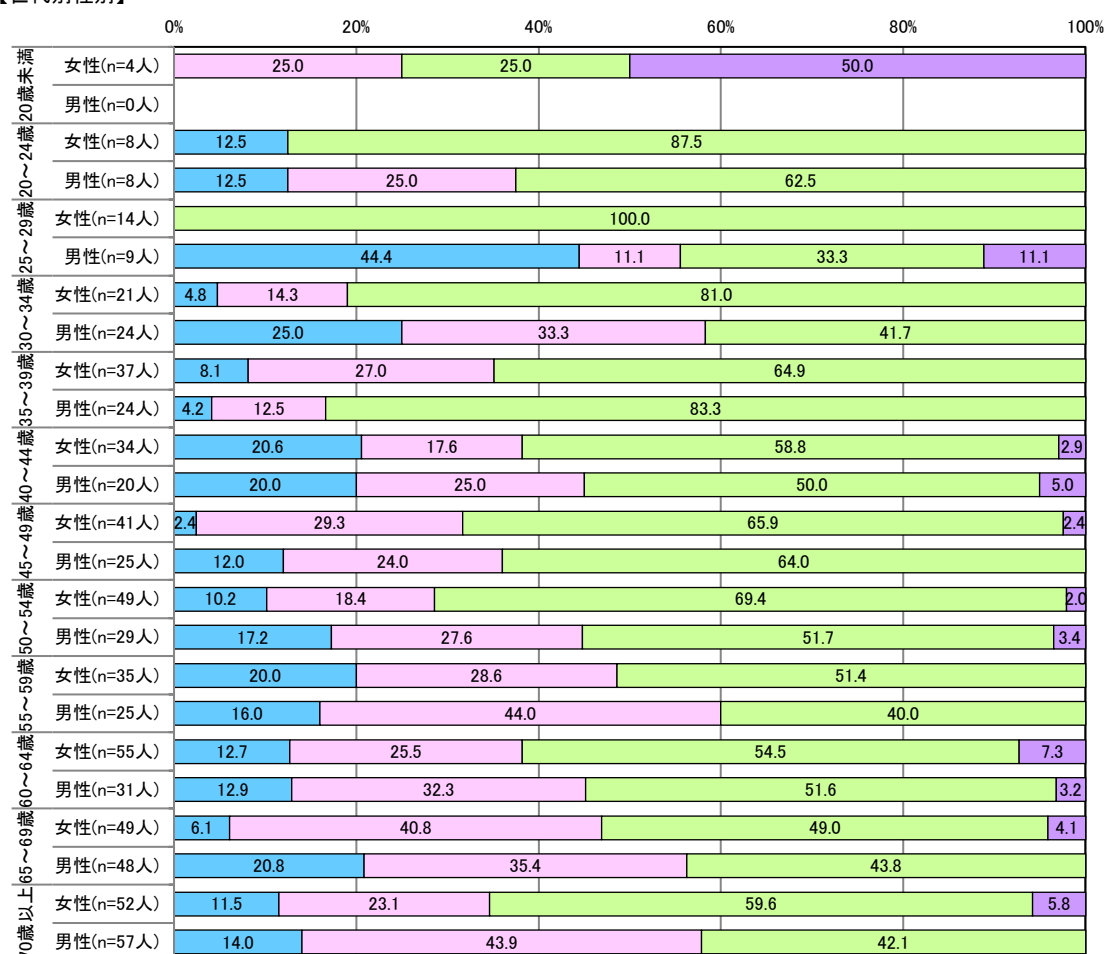
### 3. ポジティブ・アクション（積極的改善措置）

- ・性別でみると、「知らない」という回答が男女とも最も多く、女性が 61.8%、男性が 50.0%となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計は、女性が 34.8%、男性が 48.7%となっている。
- ・世代別性別でみると、20 歳～34 歳の女性、35 歳～39 歳の男性の世代で、「知らない」という回答割合が 7 割以上となっている。「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計が 5 割以上は、25 歳～34 歳の男性、55 歳～59 歳の男性、65 歳以上の男性となっている。

【性別】



【世代別性別】

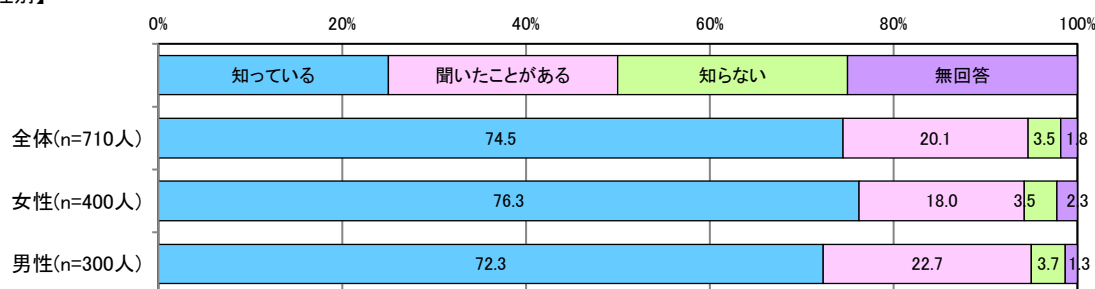




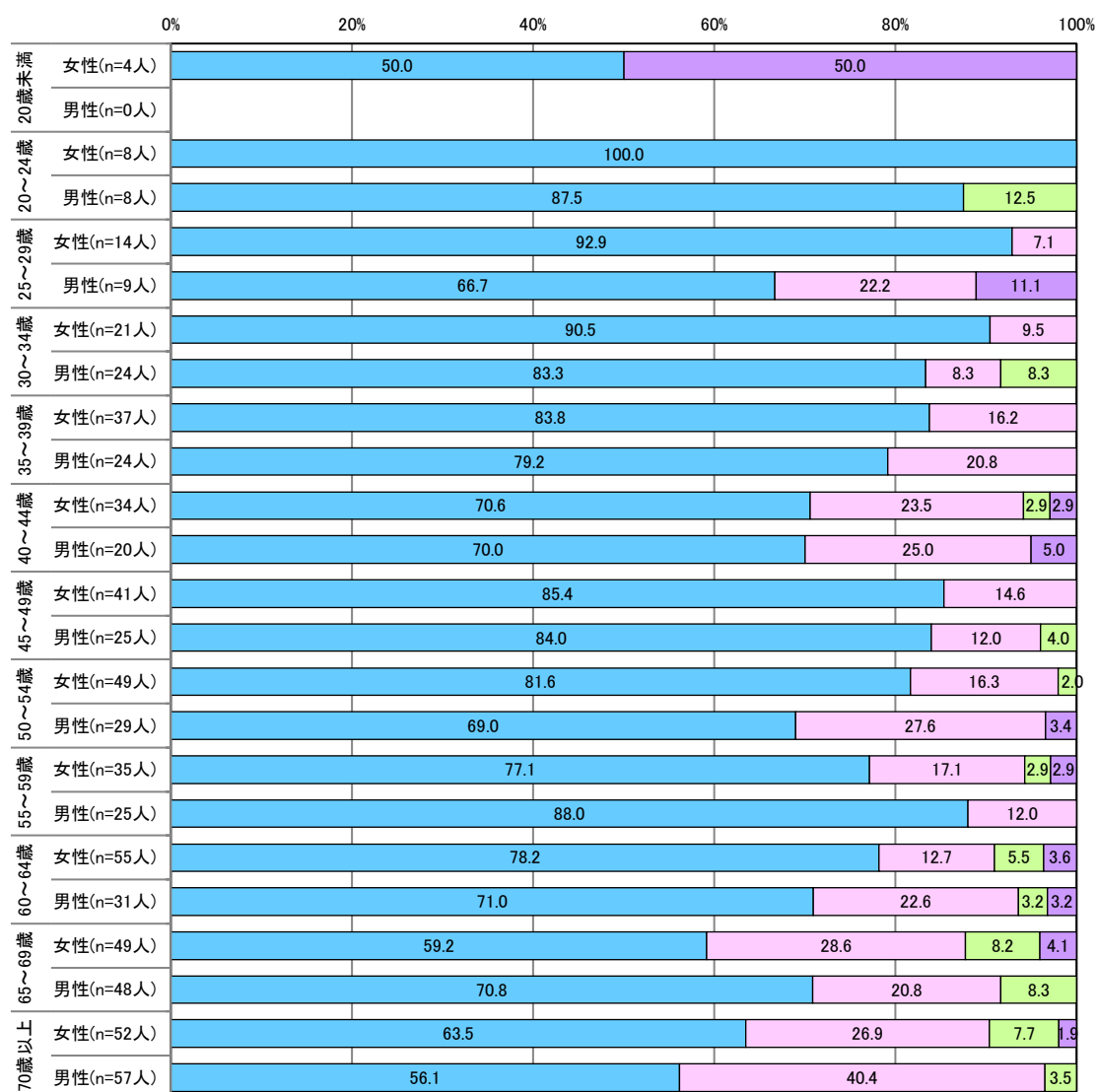
#### 4. ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）

- ・性別でみると、「知っている」という回答が男女とも最も多く、女性は 76.3%、男性は 72.3%となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計は、女性が 94.3%、男性が 95.0%となっている。
- ・世代別性別でみると、「知っている」という回答割合が8割を超えているのは、20 歳～24 歳の男性、20 歳～39 歳の女性、30 歳～34 歳の男性、45 歳～54 歳の女性、45 歳～49 歳の男性、55 歳～59 歳の男性となっている。

【性別】



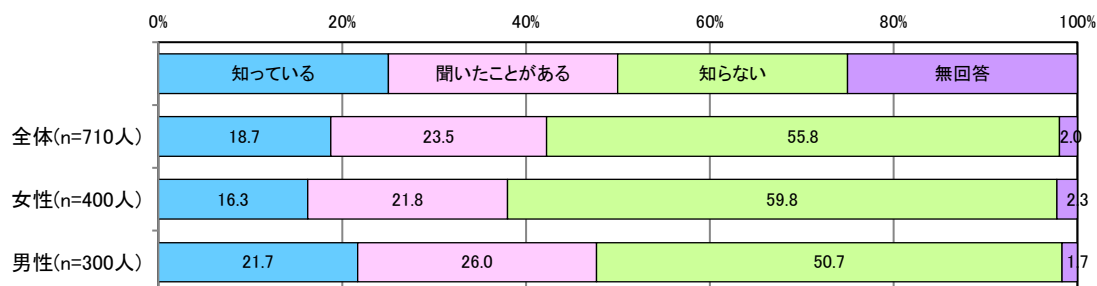
【世代別性別】



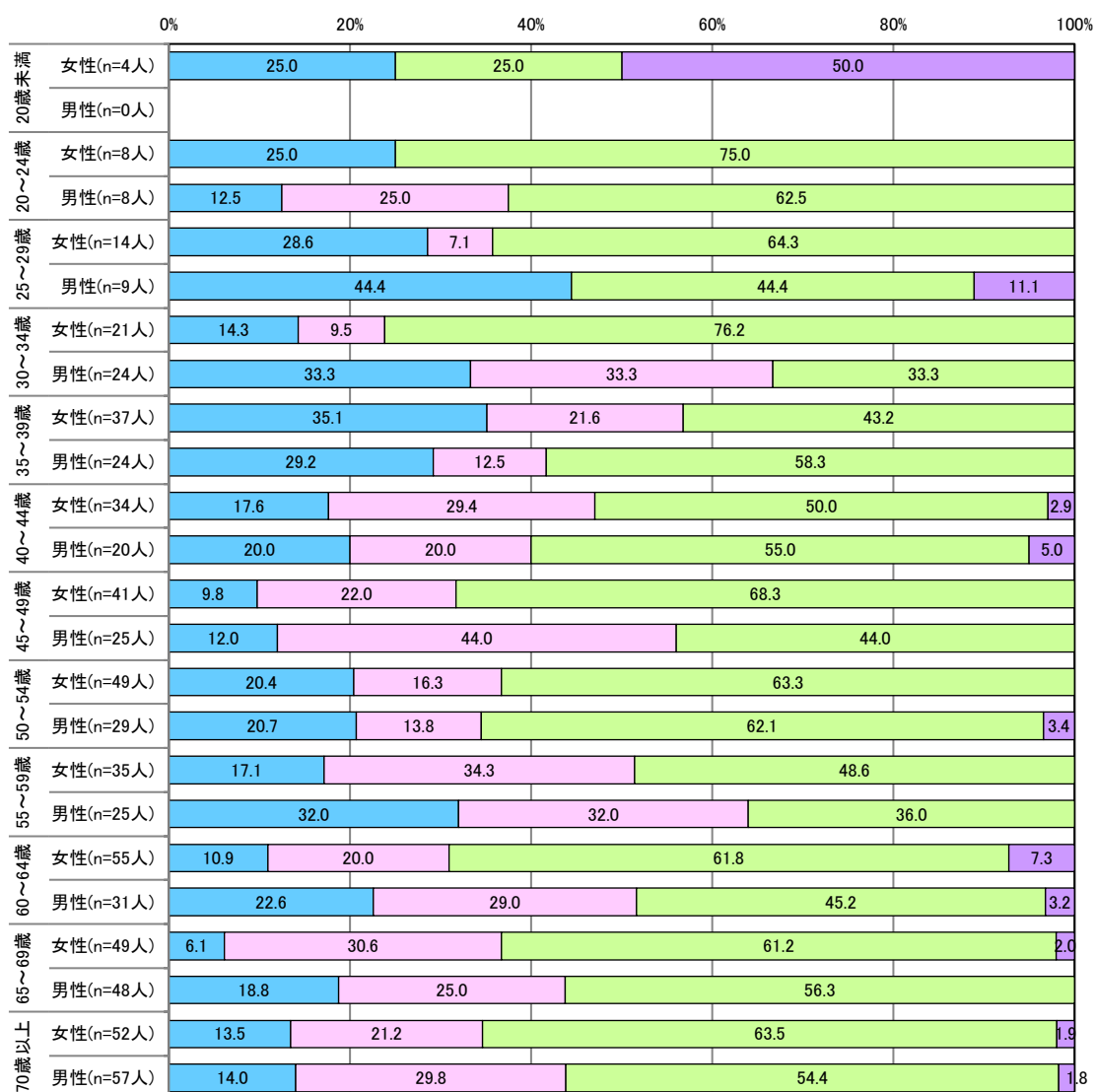
## 5. アンコンシャスバイアス(無意識の偏見)

- ・性別でみると、男女とも「知らない」という回答が最も多く、女性は 59.8%、男性は 50.7%となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計は、女性が 38.1%、男性が 47.7%となっている。
- ・世代別性別でみると、30 歳～34 歳の男性、35 歳～39 歳の女性、45 歳～49 歳の男性、55 歳～59 歳の男女、60 歳～64 歳の男性で、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計が 5 割以上となっている。

### 【性別】



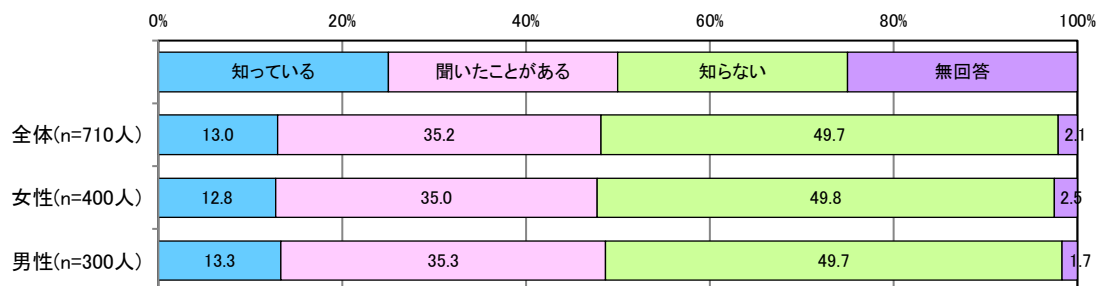
### 【世代別性別】



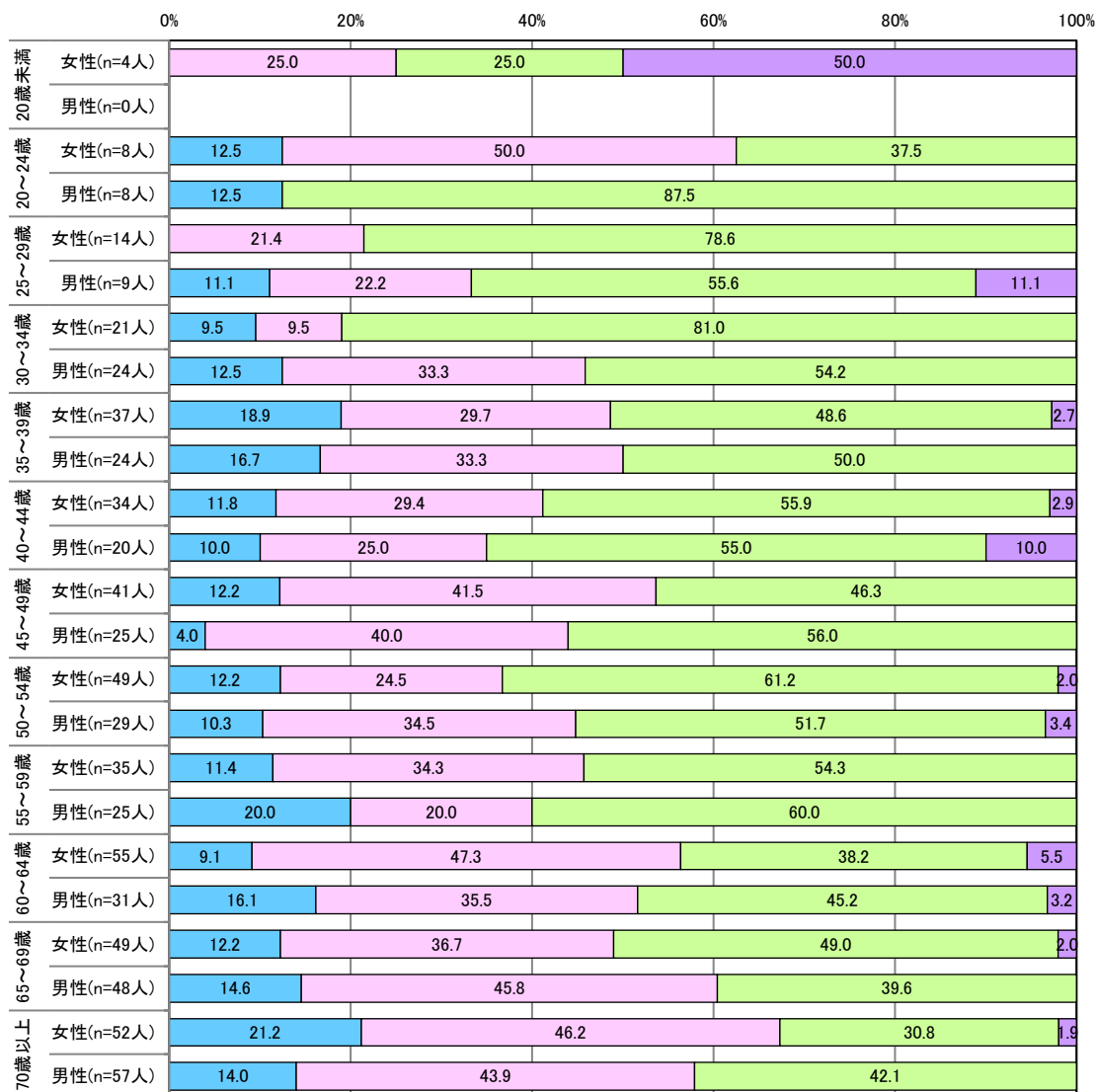
## 6. 長野市男女共同参画推進条例

- ・性別でみると、男女とも「知らない」という回答が最も多く、女性は 49.8%、男性は 49.7%となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計は、女性が 47.8%、男性が 48.6%となっている。
- ・世代別性別でみると、20 歳～24 歳の男性、25 歳～34 歳の女性、50 歳～54 歳の女性、55 歳～59 歳の男性で、「知らない」という回答が 6 割以上となっている。

### 【性別】



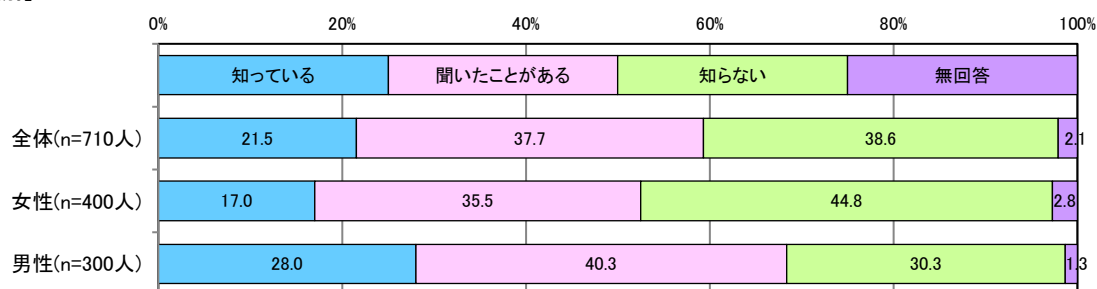
### 【世代別性別】



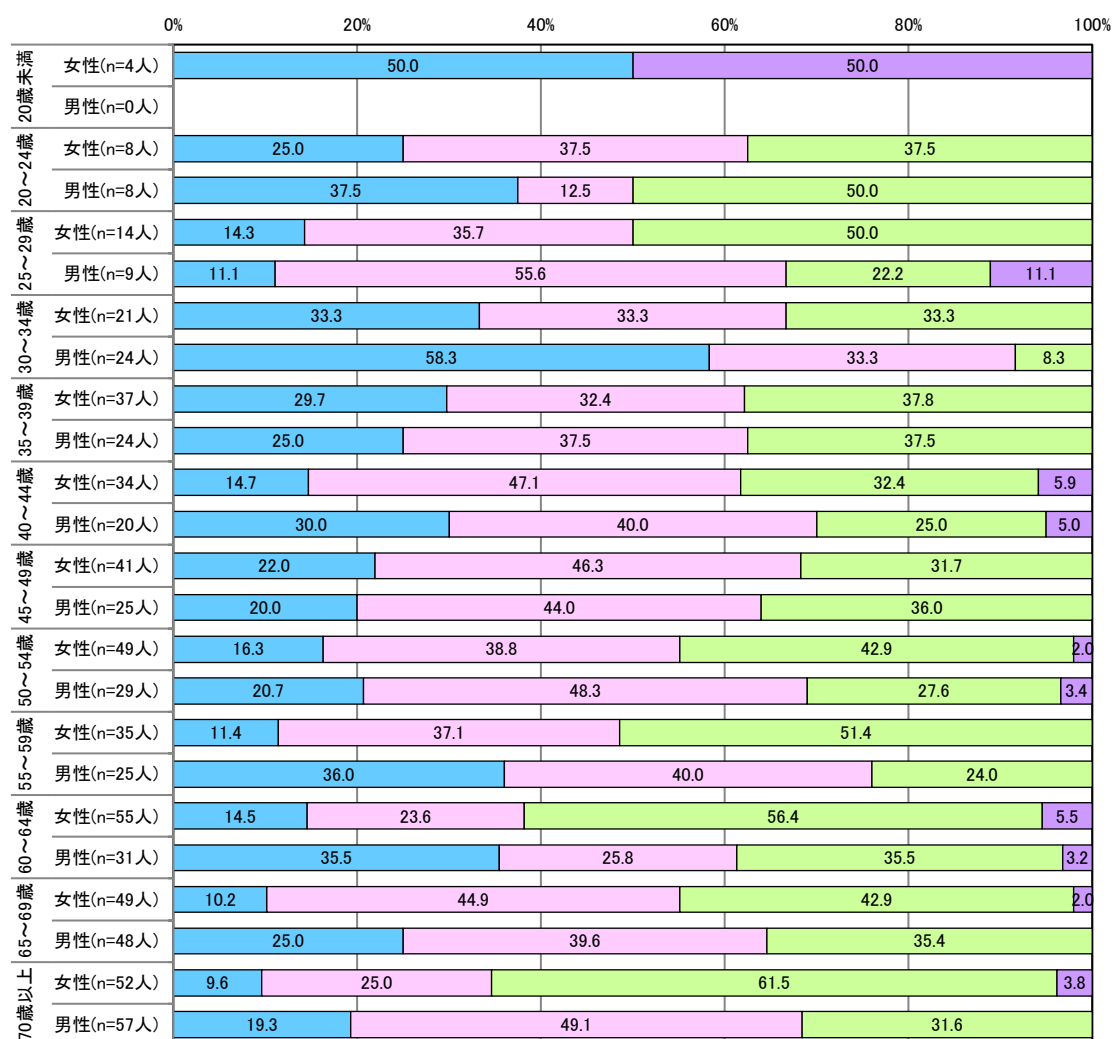
## 7. 女性活躍推進法(女性の職業生活 における活躍の推進に関する法律)

- ・性別でみると、女性は「知らない」(44.8%)という回答が最も多くなっている。一方、男性は、「聞いたことがある」という回答が最も多く、約4割(40.3%)となり、男女間に差があると考えられる。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計は、女性が52.5%、男性が68.3%となっている。
- ・世代別性別でみると、20歳～24歳の男性、25歳～29歳の女性、55歳～64歳の女性、70歳以上の女性で、「知らない」という回答が5割以上となっている。

### 【性別】



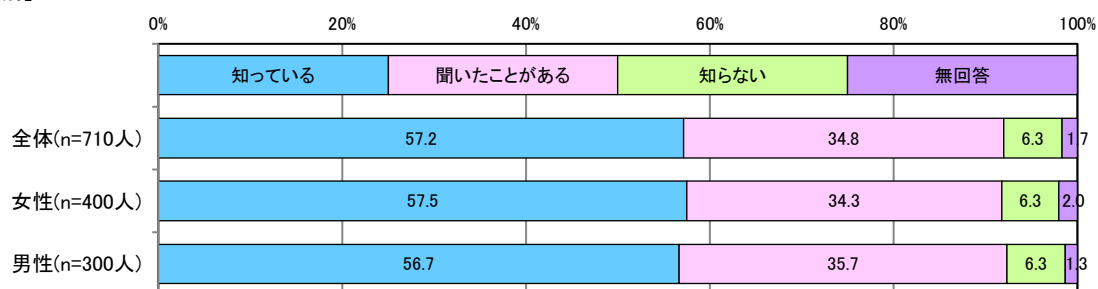
### 【世代別性別】



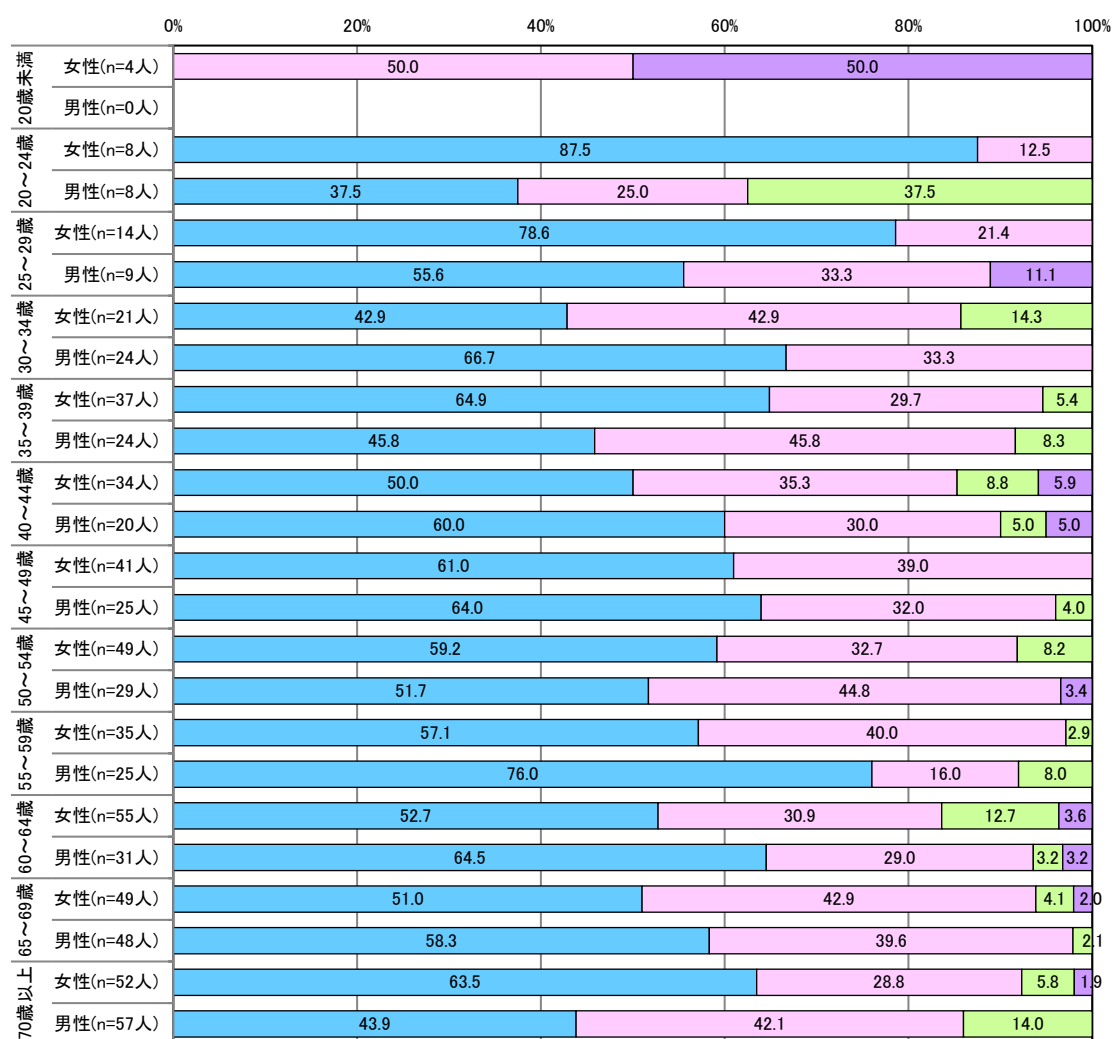
## 8. DV 防止法(配偶者からの暴力及び被害者の保護等に関する法律)

- ・性別でみると、男女とも「知っている」という回答が最も多く、女性は 57.5%、男性は 56.7%となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計は、女性が 91.8%、男性が 92.4%となっている。
- ・世代別性別でみると、20 歳～29 歳の女性、30 歳～69 歳の男性、35 歳～39 歳の女性、45 歳～59 歳の女性、65 歳以上の女性で、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計が 9 割以上となっている。

### 【性別】



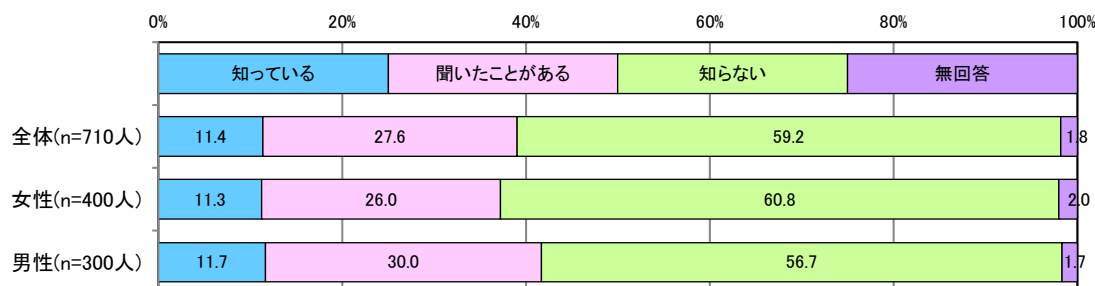
### 【世代別性別】



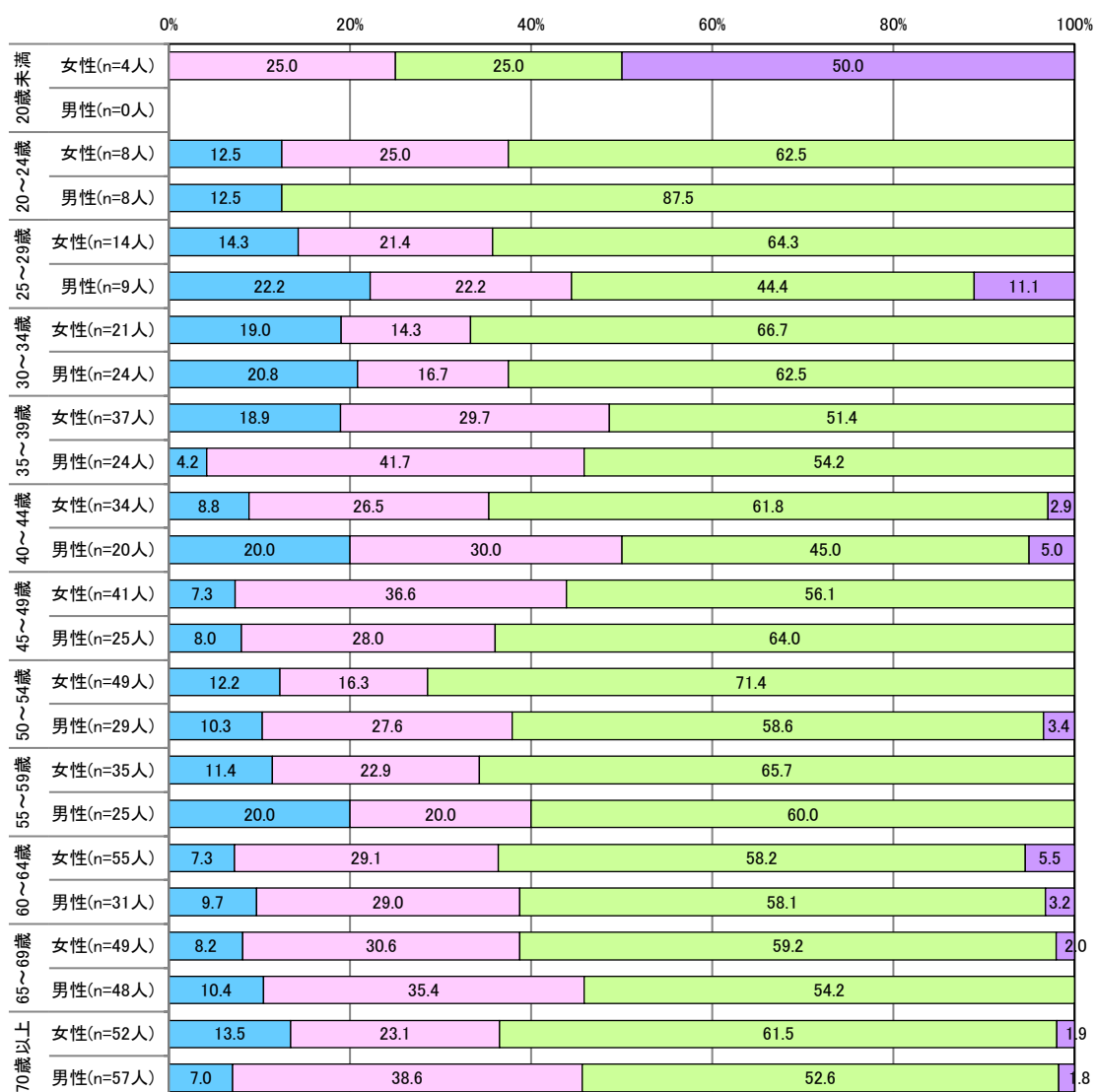
## 9. 困難女性支援法(困難な問題を抱える女性への支援に関する法律)

- ・性別でみると、男女とも「知らない」という回答が最も多く、女性は 60.8%、男性は 56.7%となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計は、女性が 37.3%、男性が 41.7%となっている。
- ・世代別性別でみると、20 歳～24 歳の男性、20 歳～34 歳の女性、30 歳～34 歳の男性、40 歳～44 歳の女性、45 歳～49 歳の男性、50 歳～59 歳の女性、55 歳～59 歳の男性、70 歳以上の女性で、「知らない」という回答が6割以上となっている。

【性別】



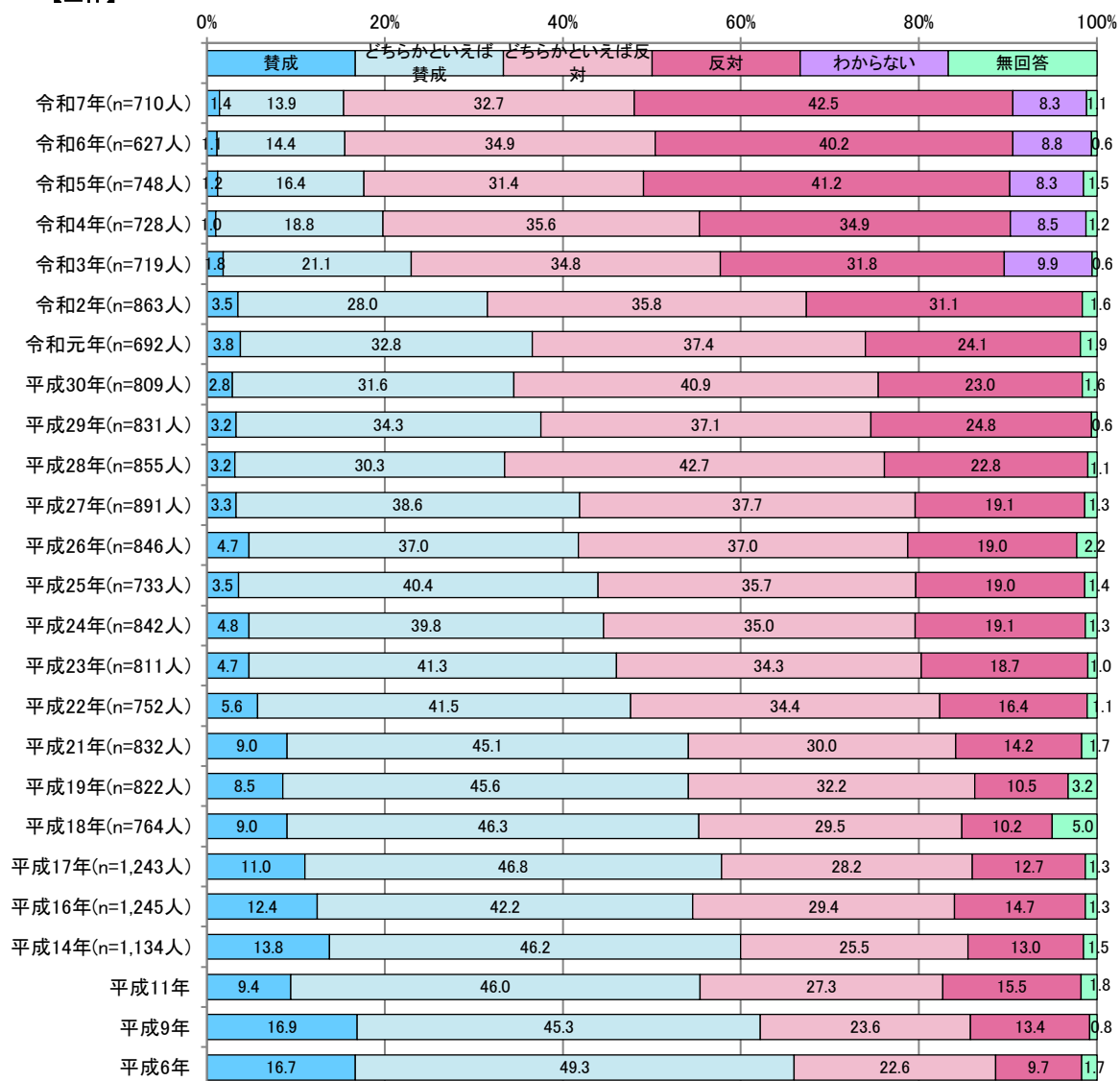
【世代別性別】



問3 「男性は仕事、女性は家事・育児」という、性別によって役割を固定する考え方について、  
どう思いますか。（〇は1つ）

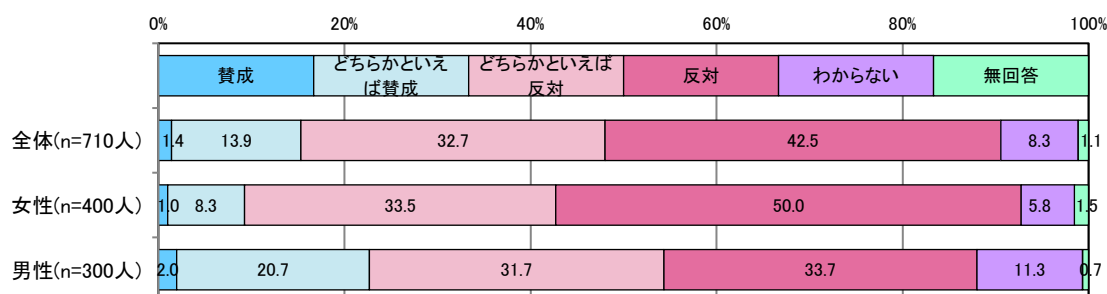
- ・令和7年の調査結果は、「賛成」が1.4%「どちらかといえば賛成」が13.9%、「どちらかといえば反対」が32.7%、「反対」が42.5%となった。
- ・経年的にみると、「賛成」及び「どちらかといえば賛成」という回答割合の合計は年々減少傾向にあり、平成28年以降は横ばい傾向となっていたものの、令和元年以降、再度減少傾向にある。令和7年は令和6年と比べて、「どちらかといえば賛成」は0.5ポイント、「どちらかといえば反対」は2.2ポイント、「わからない」が0.5ポイント減少となった。一方、「賛成」が0.3ポイント、「反対」は2.3ポイント増加となった。

【全体】

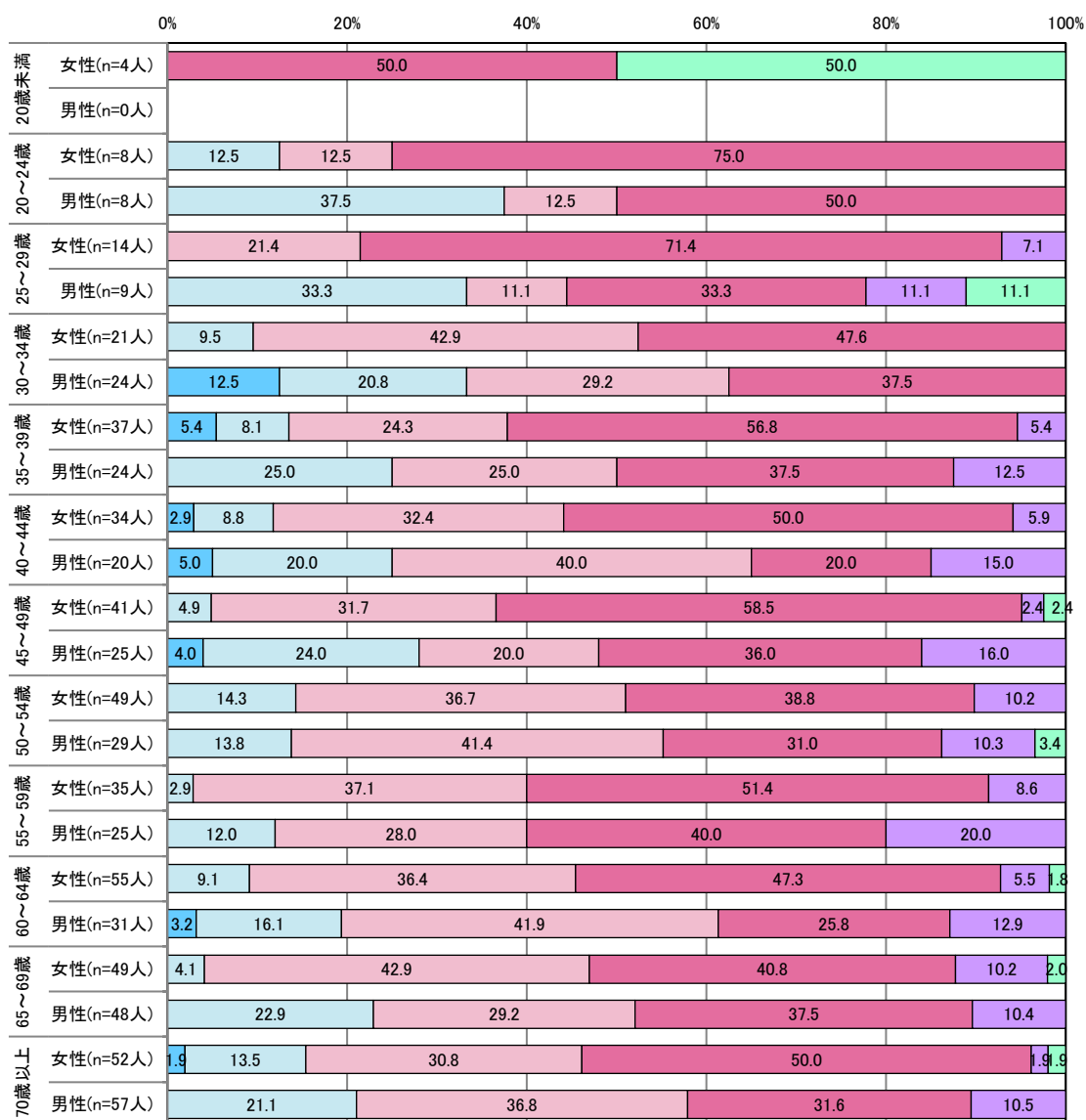


- ・性別でみると、「反対」及び「どちらかといえば反対」という回答割合の合計は、女性が83.5%、男性が65.4%となっている。男性より女性の方が、性別によって役割を固定する考え方に否定的な方が多くなっている。
- ・世代別性別でみると、「どちらかといえば反対」及び「反対」の回答割合の合計は25歳～29歳の男性を除いて、いずれの世代も5割以上となっている。

#### 【性別】



#### 【世代別性別】

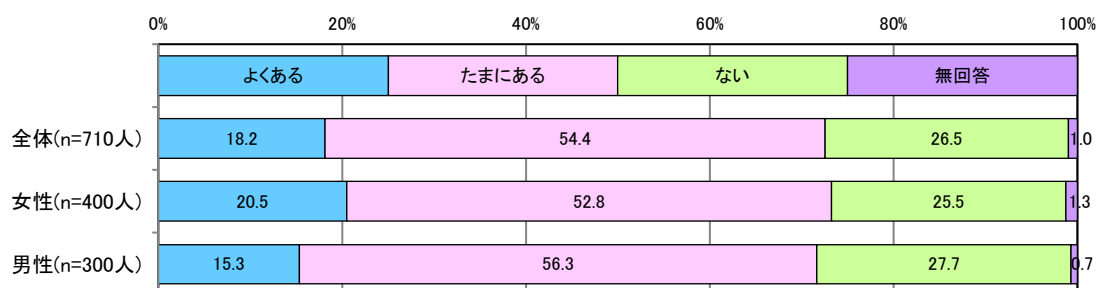




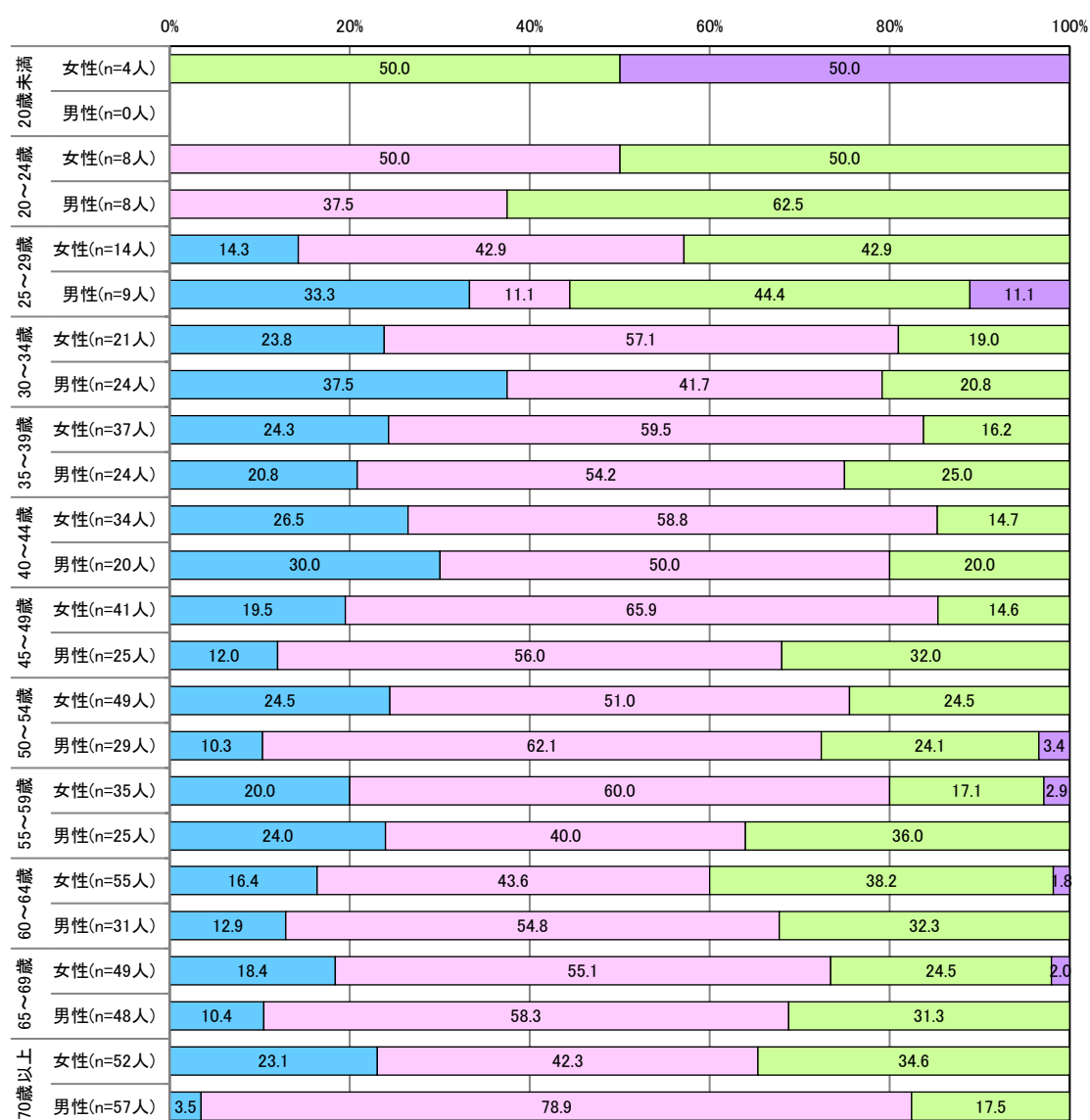
問4 日常の生活で、「女らしさ・男らしさ」や「女性の役割・男性の役割」などを言われたり、期待されたりすることはありますか。(〇は1つ)

- ・性別でみると、「たまにある」が5割以上と最も多い。女性は52.8%、男性は56.3%と男女で差はない結果となっている。
- ・世代別性別でみると、30歳～49歳の女性、40歳～44歳の男性、55歳～59歳の女性、70歳以上の男性で、「よくある」、「たまにある」の回答割合の合計が8割以上となっている。

【性別】



【世代別性別】

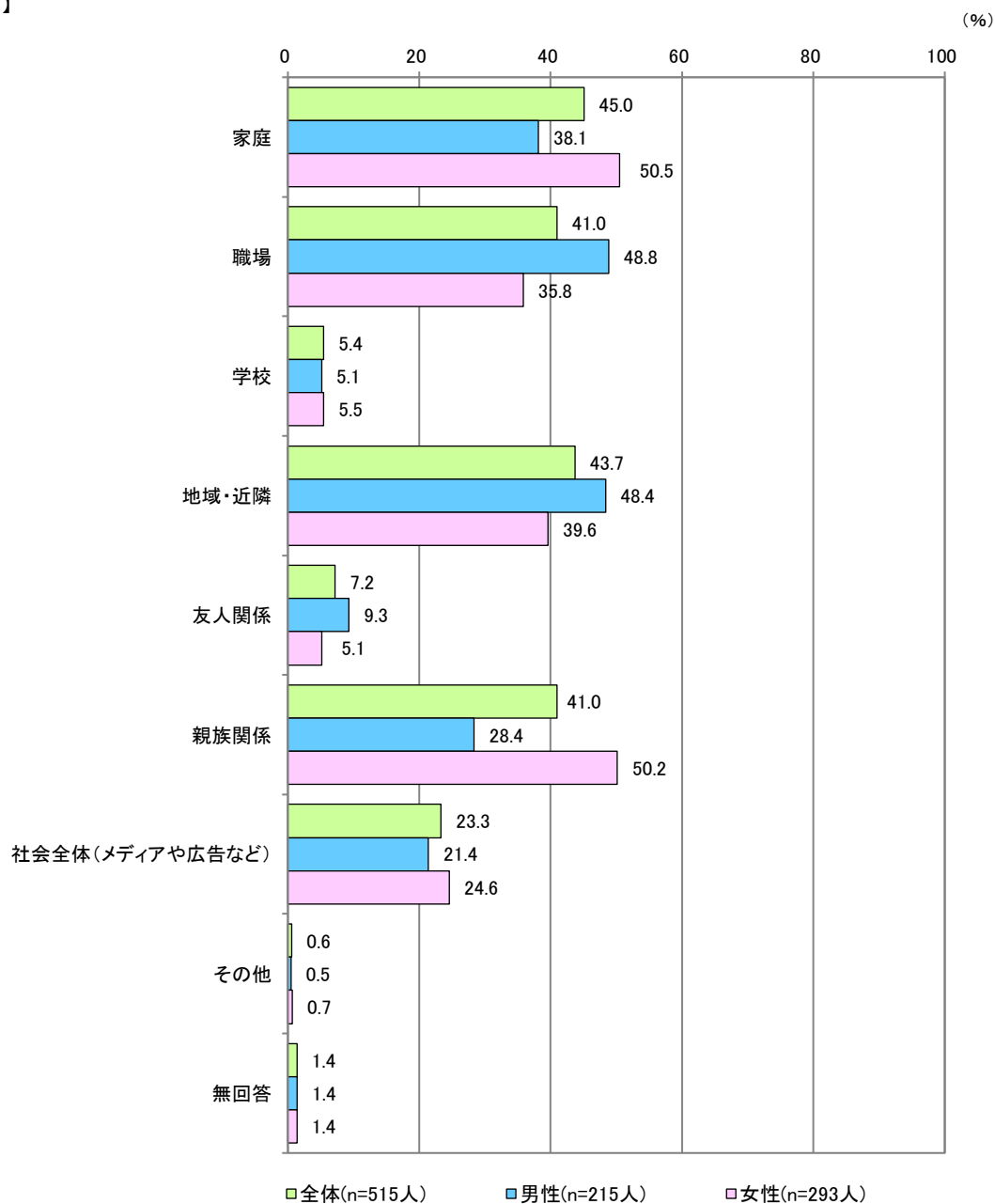


問4で「1. よくある」または「2. たまにある」を選ばれた方におたずねします。

問5どのような場で言われたり、期待されたりしますか。(〇はいくつでも)

- ・性別でみると、男性では、「職場」(48.8%) が約5割と最も多く、次に、「地域・近隣」(48.4%) となる。一方、女性では、「家庭」(50.5%) が5割を超え最も多く、次に、「親族関係」(50.2%) となっている。

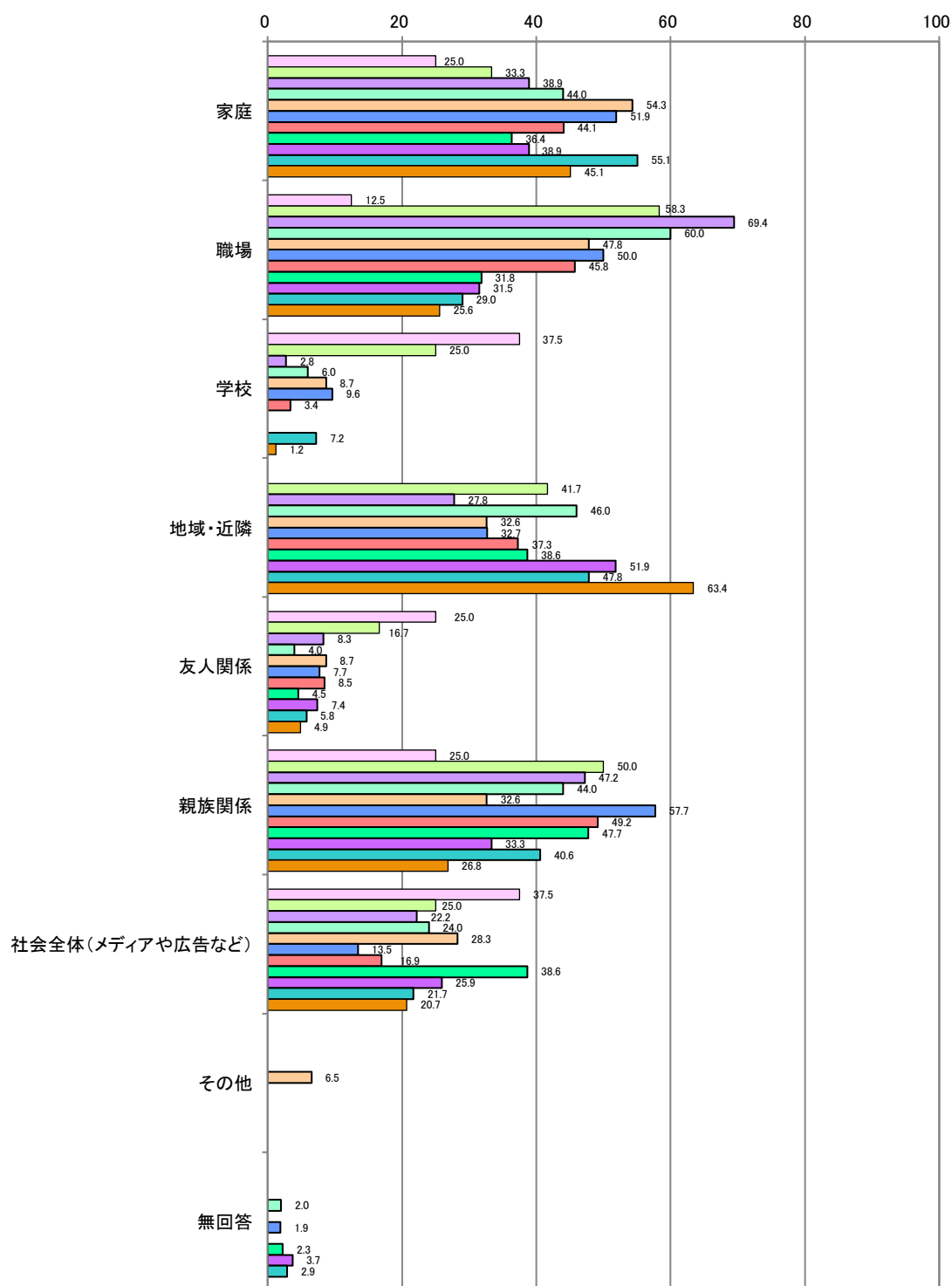
【性別】



・世代別でみると、25 歳～39 歳では、「職場」が約 6 割以上と最も多い。40 歳～44 歳、65 歳～69 歳では、「家庭」が、45 歳～49 歳では、「親族関係」が 5 割以上と最も多く、60 歳～64 歳、70 歳以上では、「地域・近隣」が最も多くなっている。

【世代別】

(%)

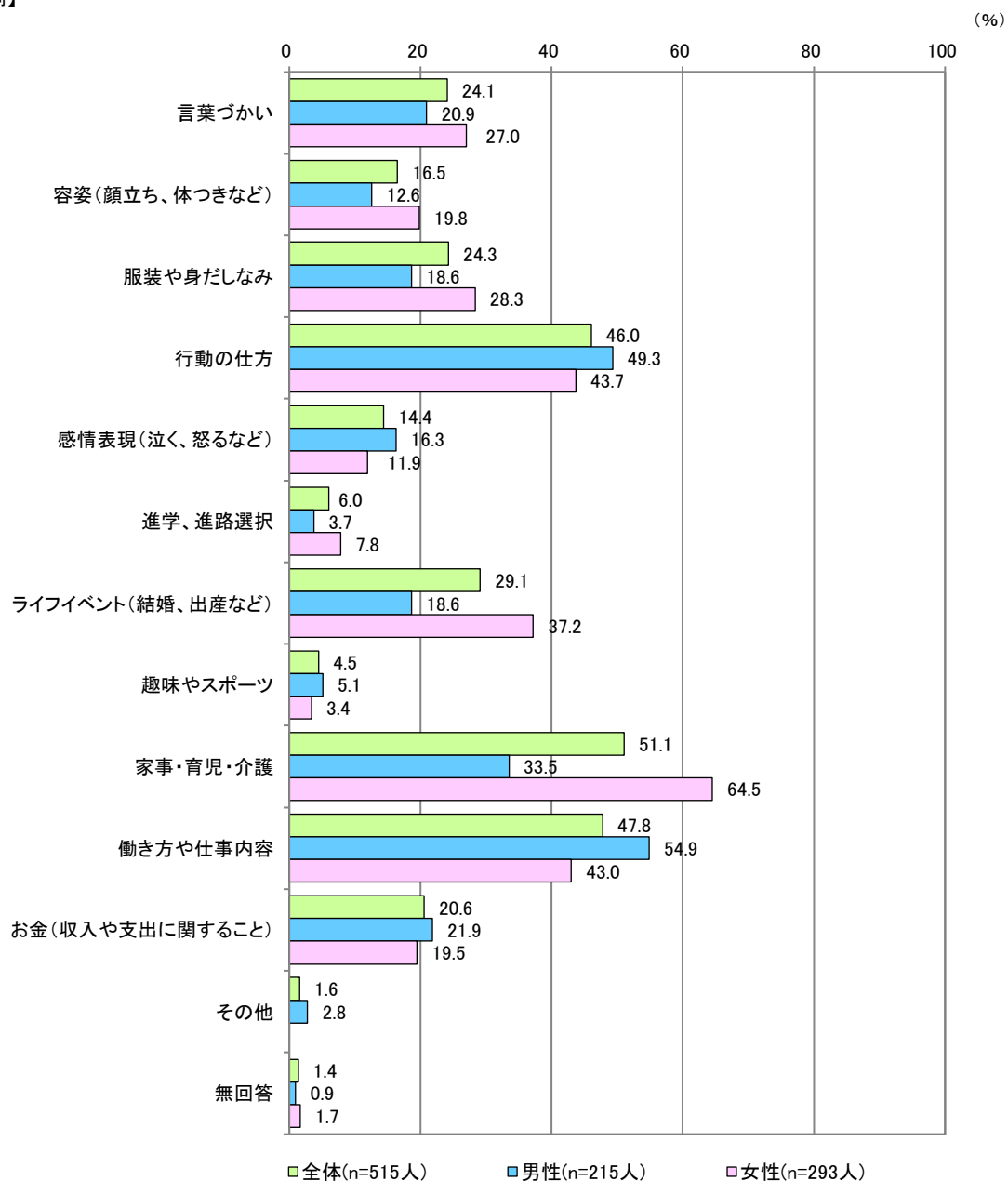


■ 20歳未満(n=0人) ■ 20歳～24歳(n=8人) ■ 25歳～29歳(n=12人) ■ 30歳～34歳(n=36人)  
 ■ 35歳～39歳(n=50人) ■ 40歳～44歳(n=46人) ■ 45歳～49歳(n=52人) ■ 50歳～54歳(n=59人)  
 ■ 55歳～59歳(n=44人) ■ 60歳～64歳(n=54人) ■ 65歳～69歳(n=69人) ■ 70歳以上(n=82人)

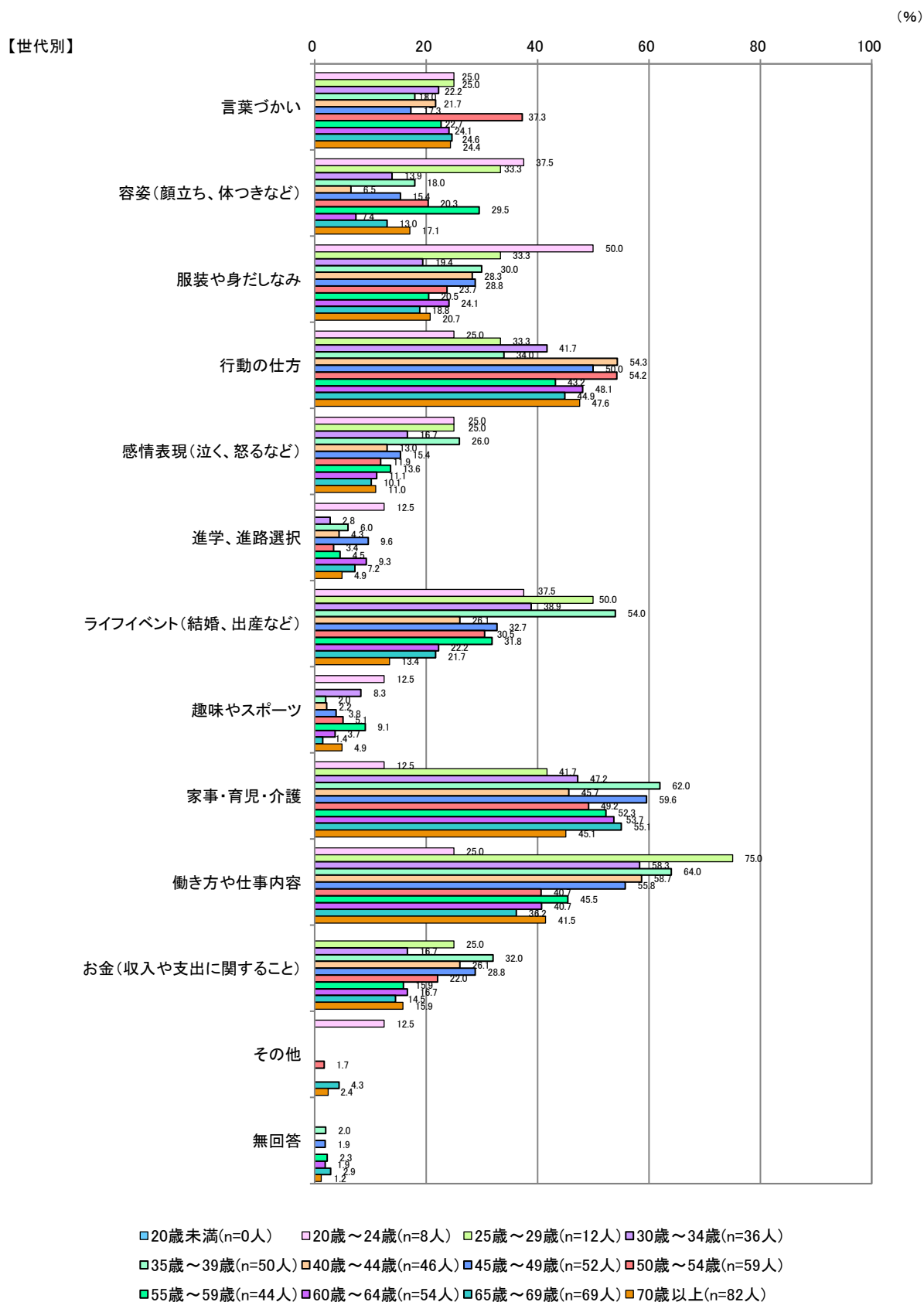
問6 それは、どのような内容に関することですか。(〇はいくつでも)

- ・性別でみると、男性では、「働き方や仕事内容」(54.9%)が5割以上と最も多く、次に、「行動の仕方」(49.3%)となる。一方、女性では、「家事・育児・介護」(64.5%)が6割以上と最も多く、次に、「行動の仕方」(43.7%)、「働き方や仕事内容」(43.0%)となっている。
- ・「家事・育児・介護」、「ライフイベント(結婚、出産など)」、「服装や身だしなみ」、「言葉づかい」、「容姿(顔立ち、体つきなど)」、「進学、進路選択」では、女性の回答割合が男性よりも高くなっている。

【性別】



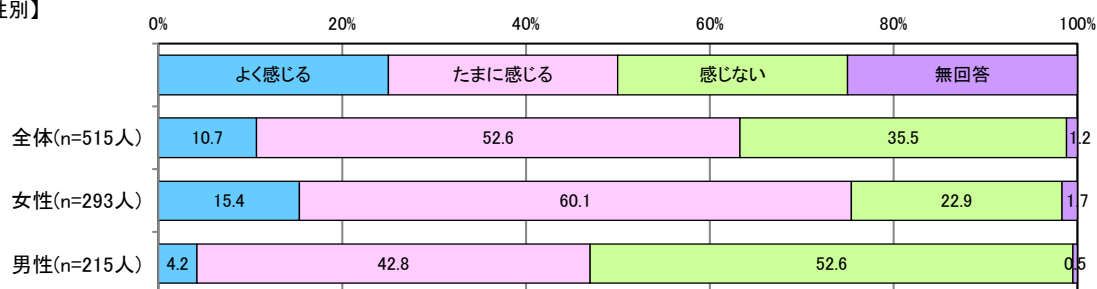
- ・世代別でみると、25歳～44歳では、「働き方や仕事内容」が最も多くなっている。45歳～49歳、55歳～69歳は、「家事・育児・介護」が最も多くなっている。50歳～54歳、70歳以上は、「行動の仕方」が最も多い回答となる。



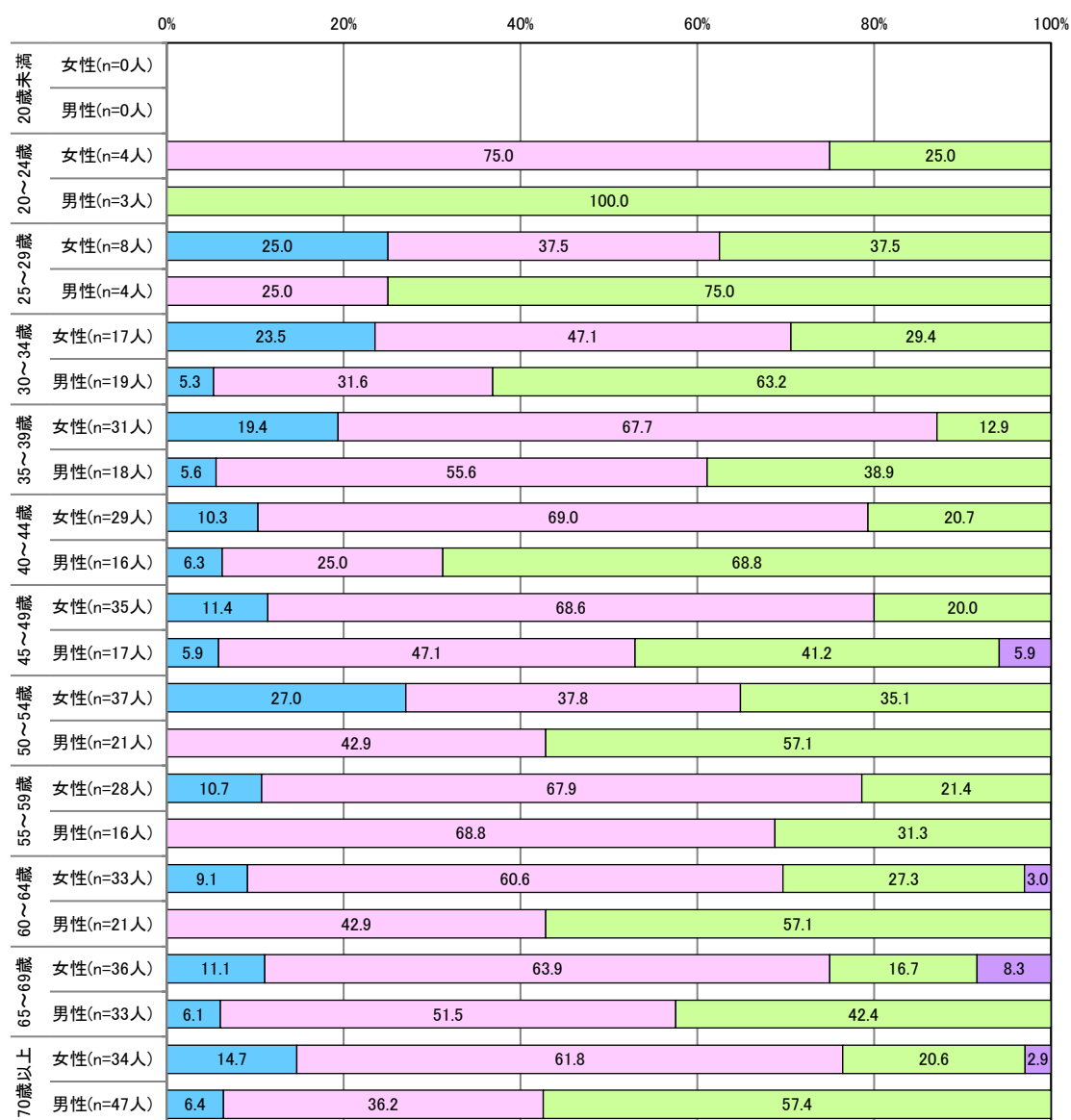
問7 日常生活における「女らしさ・男らしさ」や「女性の役割・男性の役割」などについて、不便さや不快感、生きづらさを感じますか。(〇は1つ)

- ・性別でみると、女性では、「たまに感じる」(60.1%)が約6割と最も多い。一方、男性では、「感じない」(52.6%)が約5割と最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、20歳～24歳の女性が約8割、35歳～49歳の女性、55歳～59歳の男女で、「たまに感じる」が約7割となっている。

【性別】



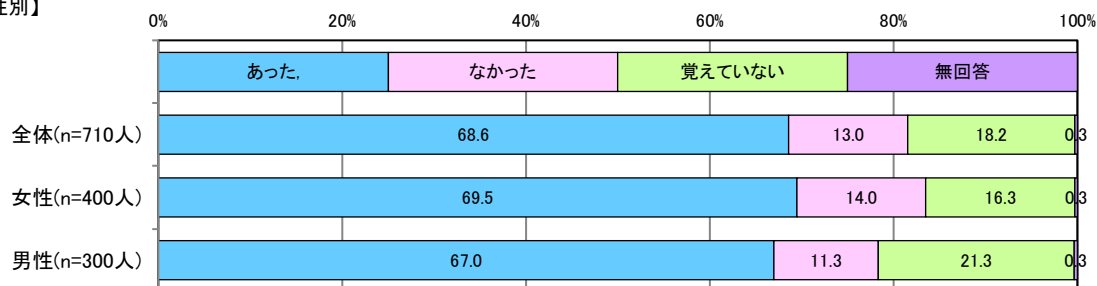
【世代別性別】



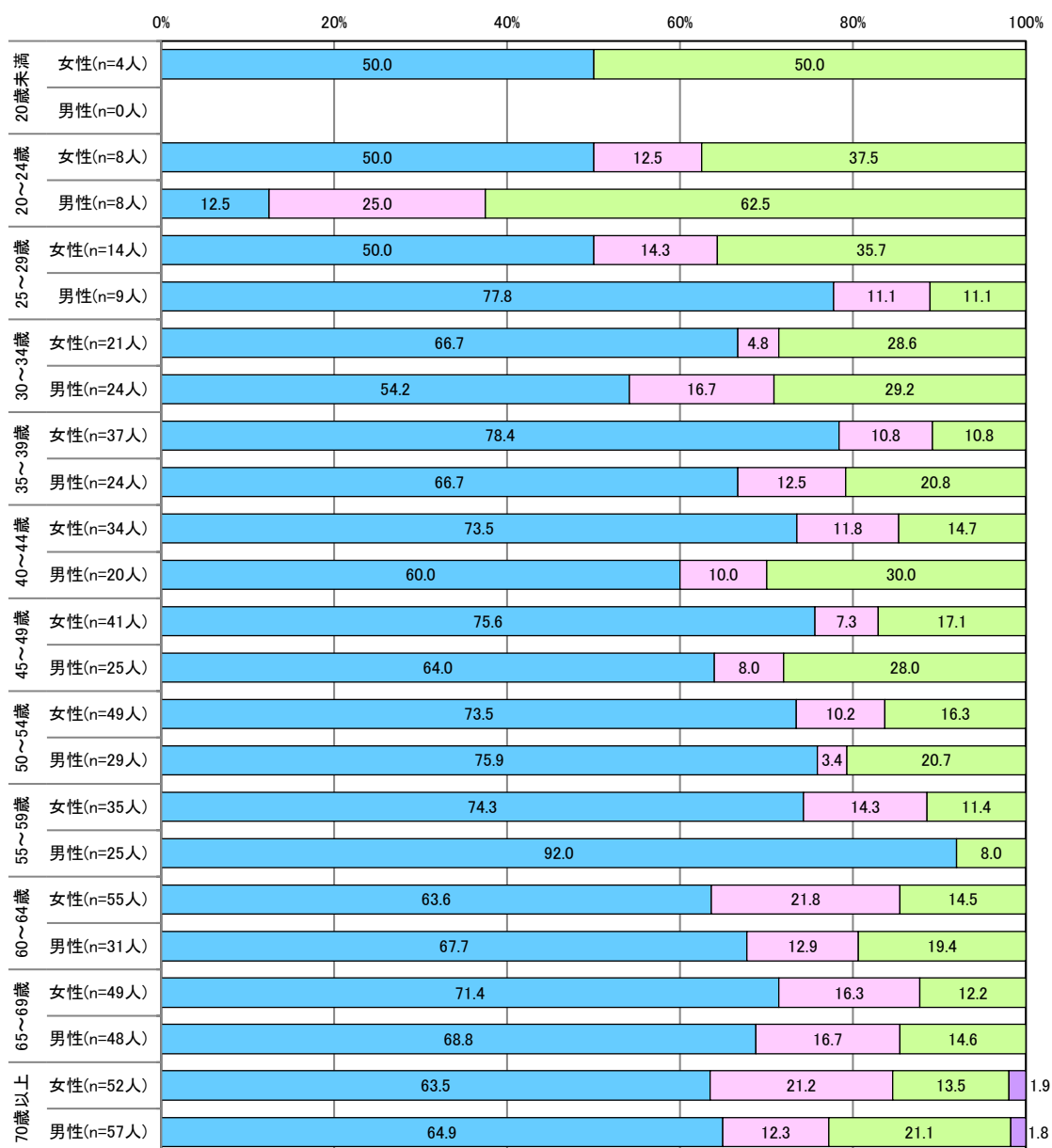
問8 子ども時代に「女の子／男の子だから〇〇しなさい」や「女の子らしく・男の子らしく」などと言われたことがありましたか。(〇は1つ)

- ・性別でみると、男女とも「あった」が6割を超え最も多い。
- ・世代別性別でみると、55歳～59歳の男性で「あった」が9割以上となっている。

【性別】



【世代別性別】



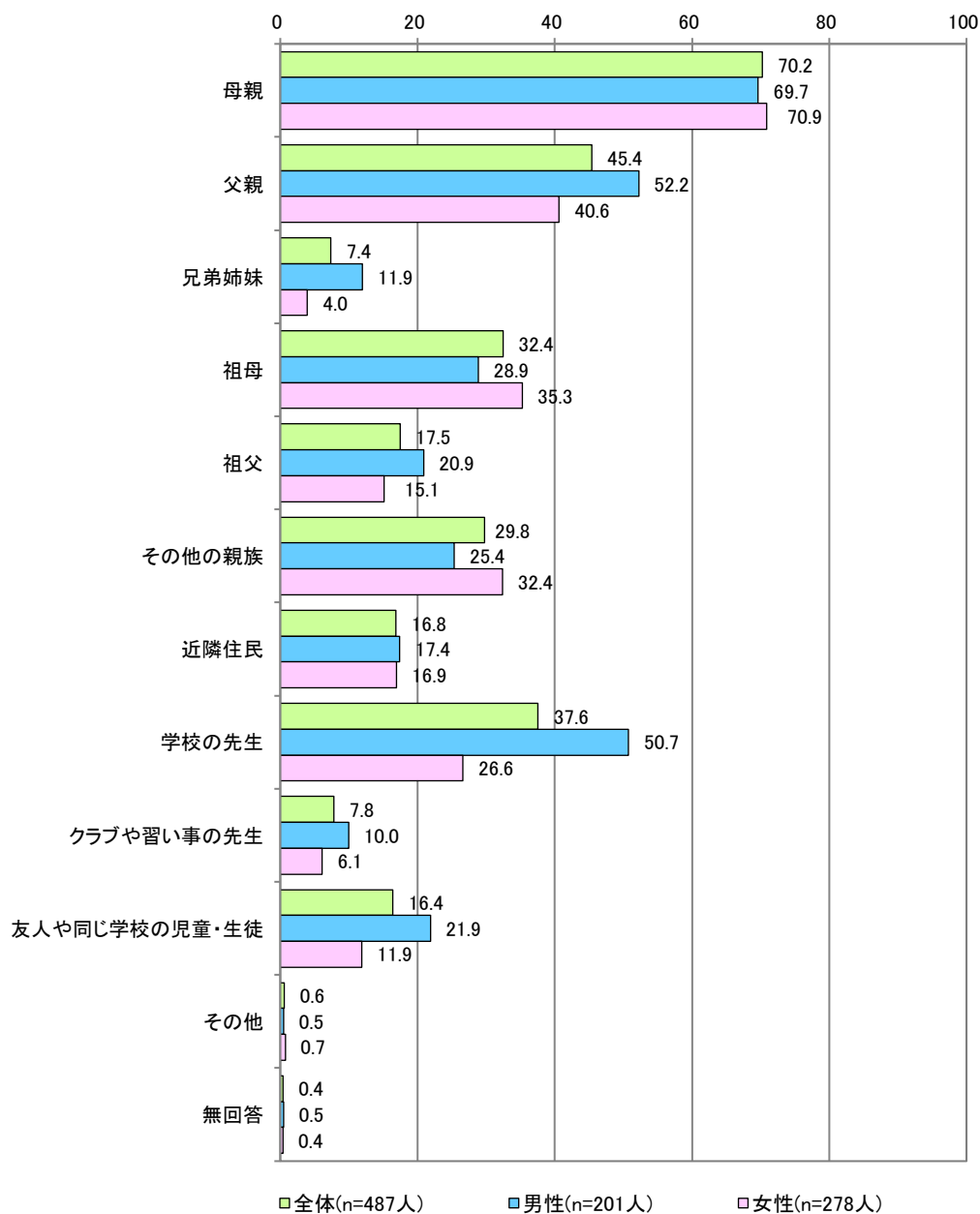
**問8 で「1. あった」を選ばれた方におたずねします。**

問9 それは、誰に言われましたか。(〇はいくつでも)

- ・性別でみると、男女ともに「母親」が男性（69.7%）、女性（70.9%）で約7割と最も多い。次に、「父親」となる。3番目に多い回答は、男性では「学校の先生」、女性では「祖母」となる。
- ・「母親」、「祖母」、「その他の親族」では、男性よりも女性の回答割合が多くなっている。

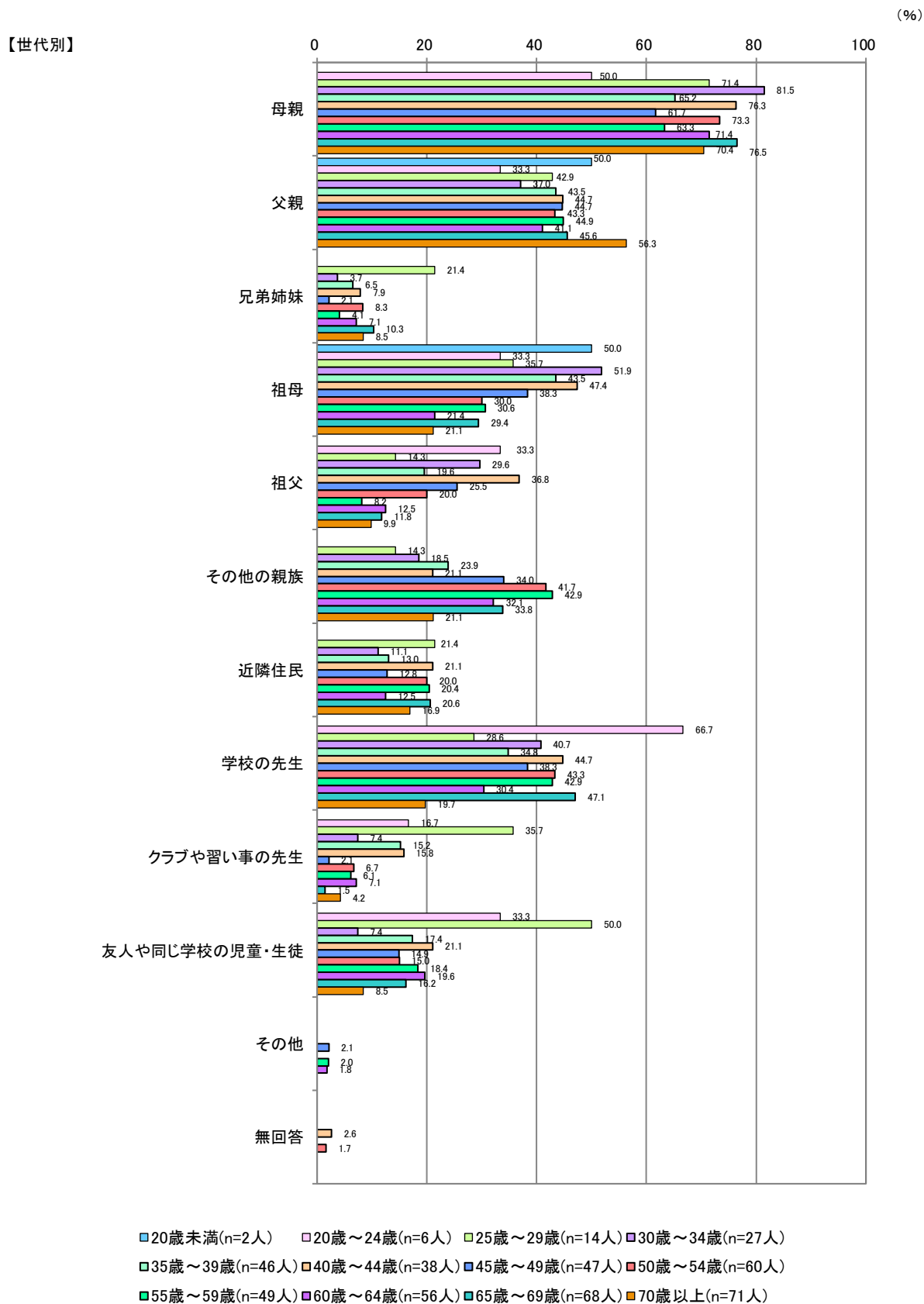
【性別】

(%)





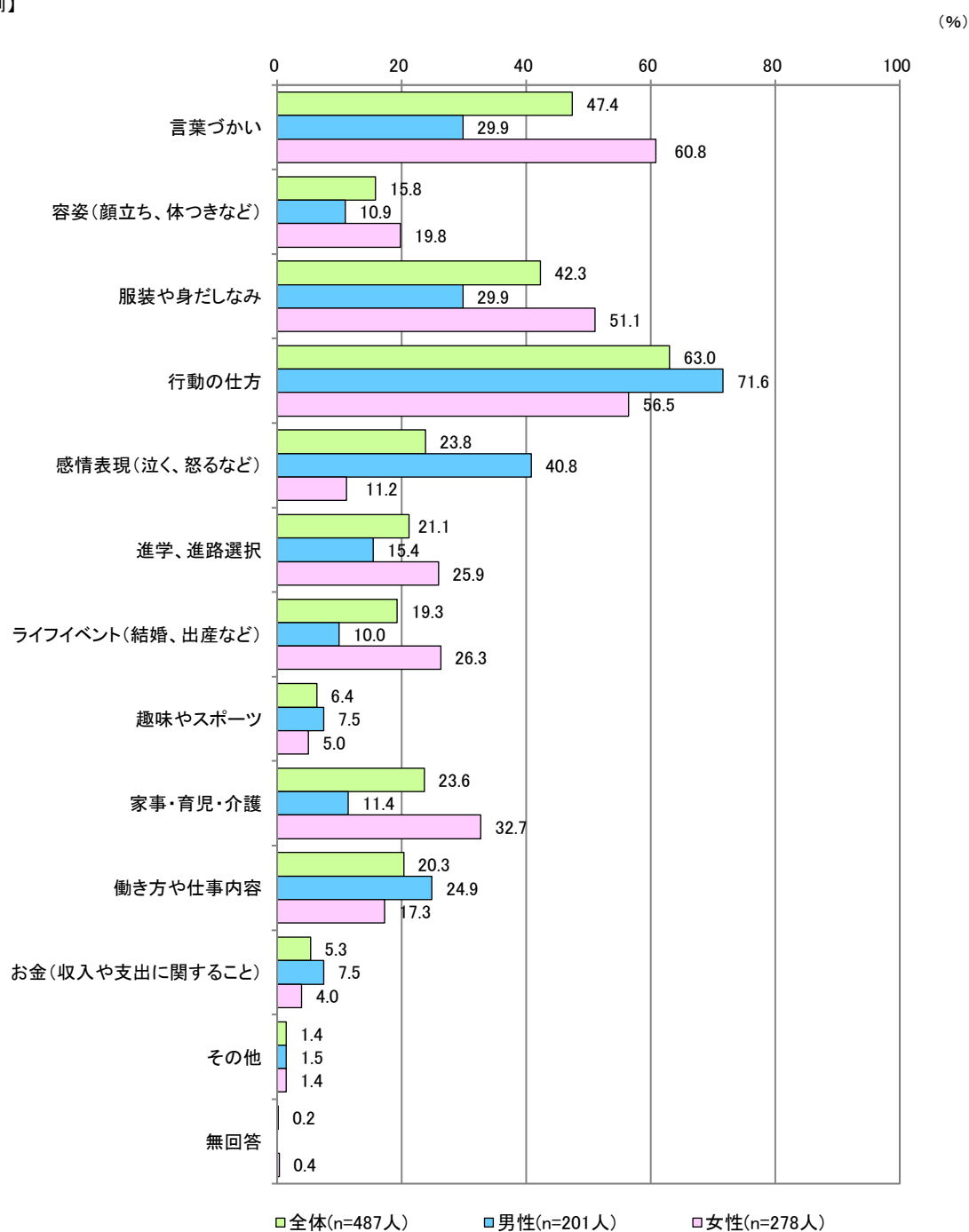
- ・世代別でみると、20 歳未満、20 歳～24 歳を除く世代では、「母親」が最も多くなっている。25 歳～29 歳では、「母親」の次に、「友人や同じ学校の児童・生徒」、「父親」の順となっている。



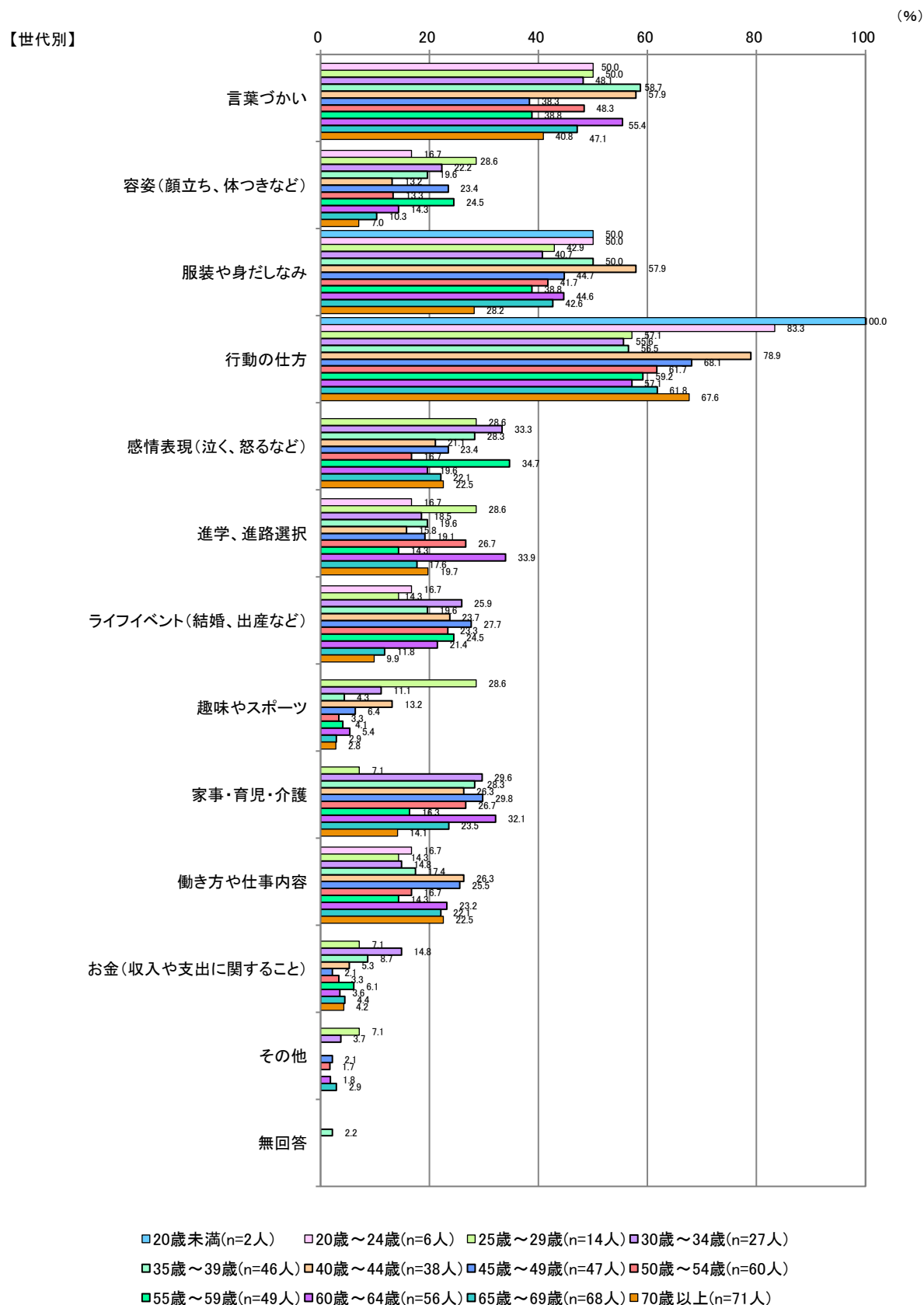
問 10 それは、どのような内容に関することですか。(〇はいくつでも)

- ・性別でみると、男性では、「行動の仕方」(71.6%)が約7割と最も多い。一方、女性では、「言葉づかい」(60.8%)が約6割と最も多くなっている。男性は次に、「感情表現(泣く、怒るなど)」(40.8%)、「言葉づかい」(29.9%)、「服装や身だしなみ」(29.9%)と続いている。一方、女性では次に、「行動の仕方」(56.5%)、「服装や身だしなみ」(51.1%)と続いている。

【性別】



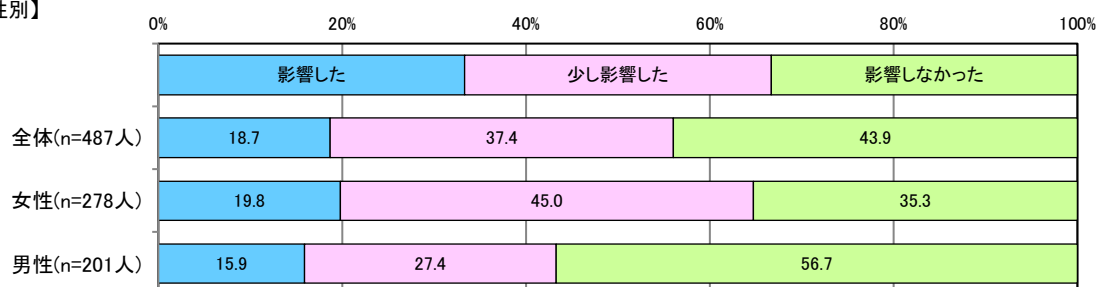
- ・世代別でみると、35 歳～39 歳を除く、いずれの世代も「行動の仕方」が最も多くなっている。



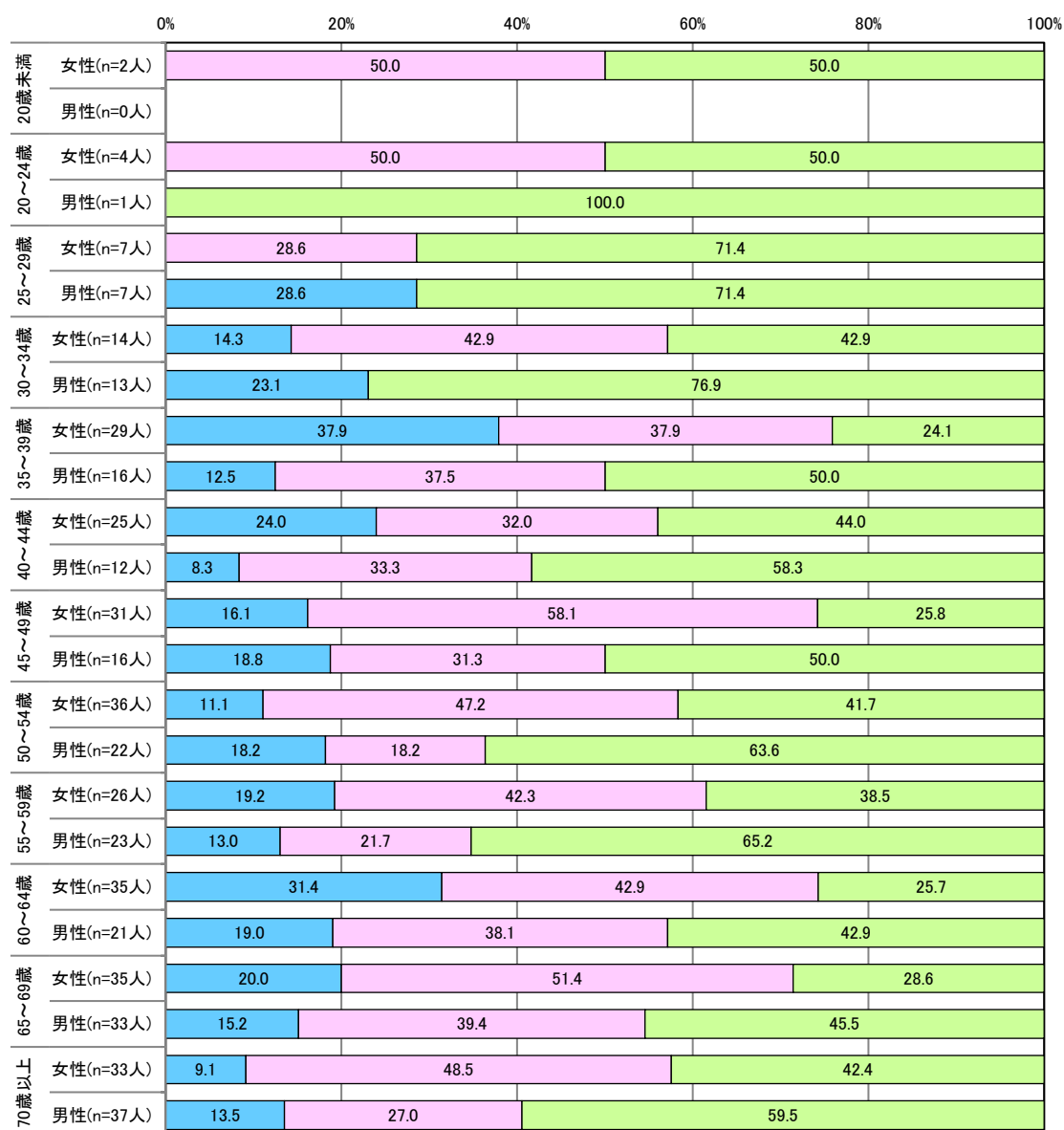
問 11 子ども時代に「女らしさ・男らしさ」を言われたことについて、あなたの生き方に影響したと思いますか。(〇は1つ)

- ・性別でみると、女性では、「少し影響した」(45.0%)が約5割と最も多い。一方、男性では、「影響しなかった」(56.7%)が約6割と最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、35歳～39歳の女性、45歳～49歳の女性、55歳～69歳の女性で「影響した」、「少し影響した」の回答割合の合計が6割以上となっている。

【性別】

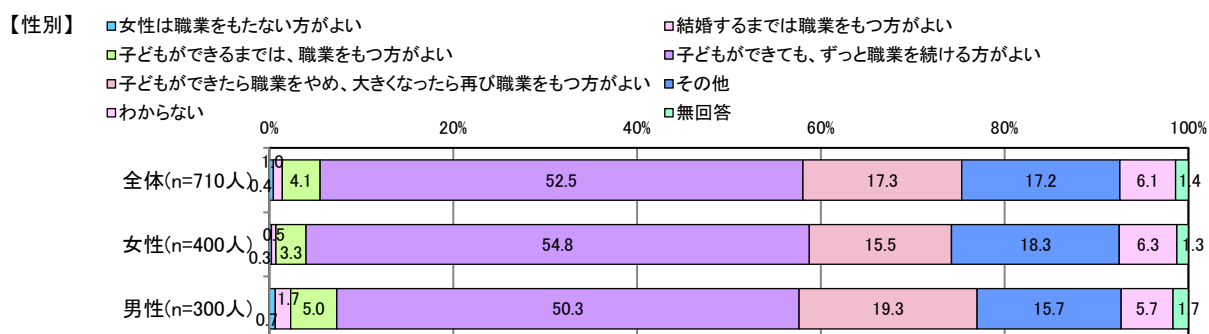


【世代別性別】

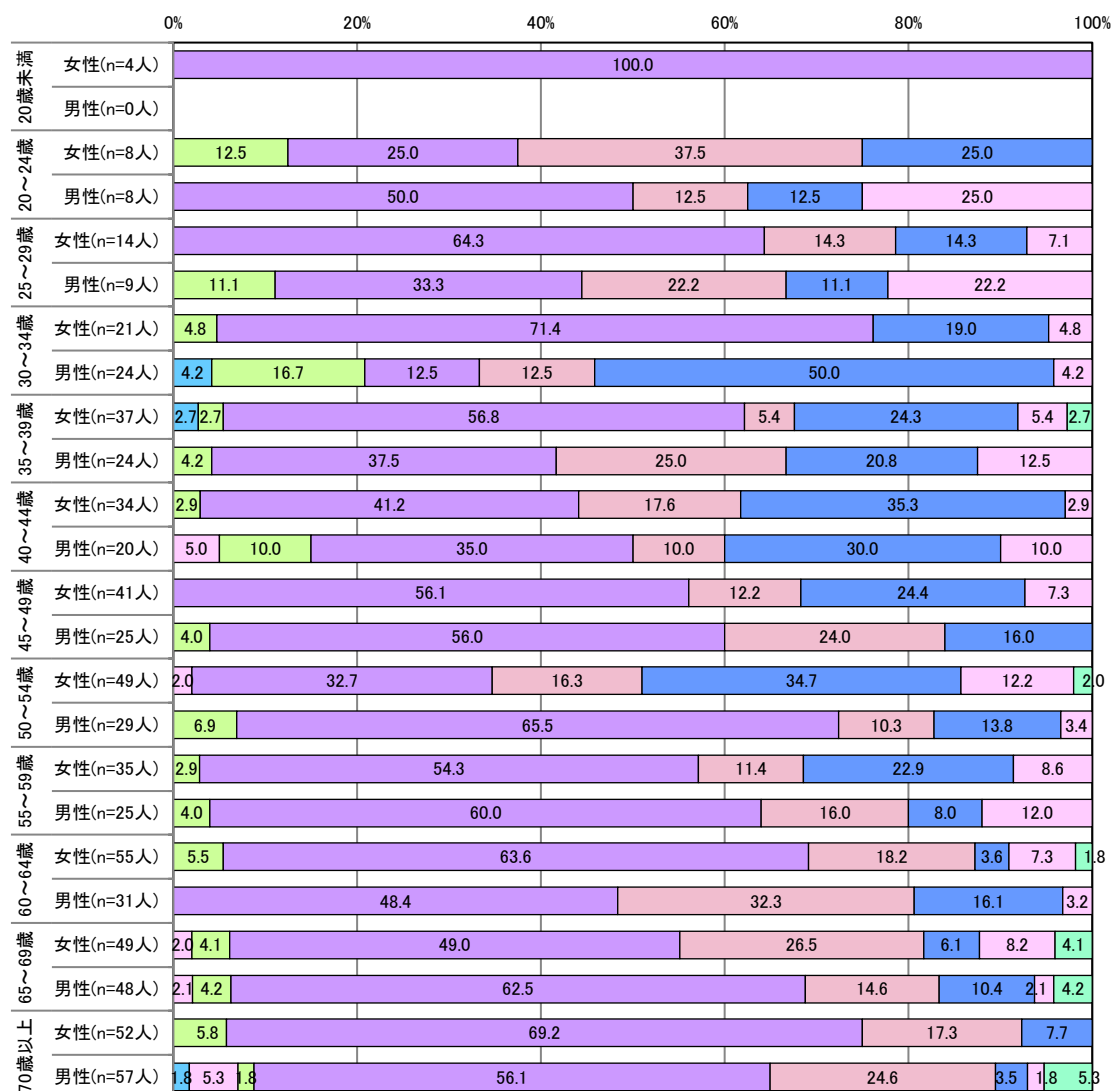


問 12 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうお考えですか。（○は1つ）

- ・性別でみると、男女ともに、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という回答が最も多く、次いで、男性は「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」となっている。
- ・世代別性別でみると、20 歳～24 歳の女性、30 歳～34 歳の男性、50 歳～54 歳の女性を除く世代では、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という回答が一番多くなっている。



【世代別性別】



---

## 職場における「女性活躍と就労」に関することについて

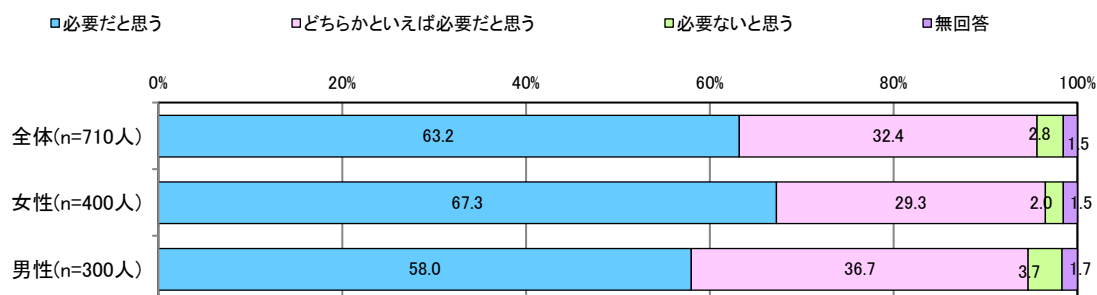
---



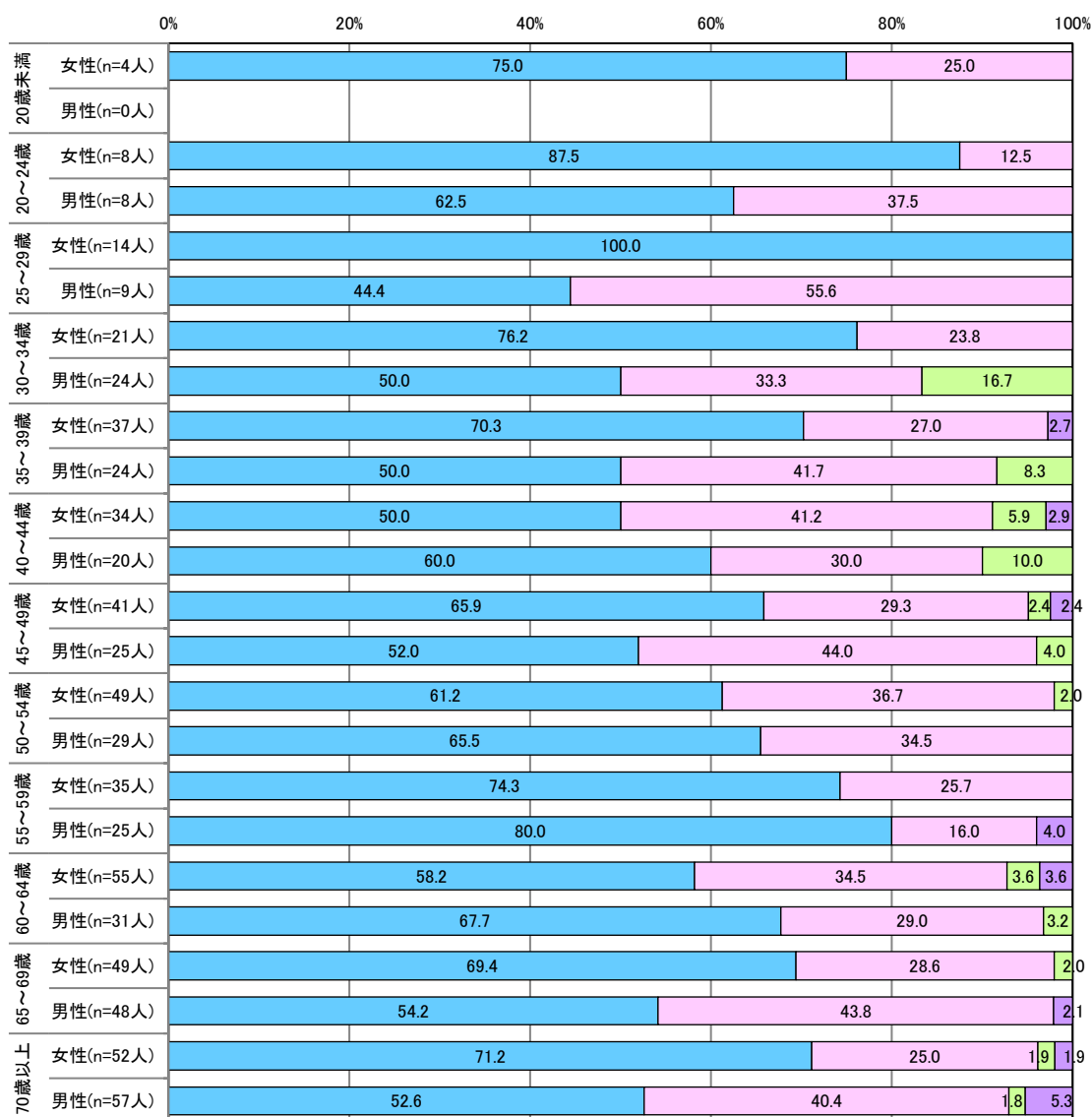
問 13 方針決定の場への女性の参画や女性の職域拡大等、女性活躍の必要性について、あなたはどうお考えですか。（〇は1つ）

- ・性別でみると、男女ともに、「必要だと思う」という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、25 歳～29 歳の男性を除き、いずれの世代でも「必要だと思う」が最も多くなっている。

【性別】



【世代別性別】

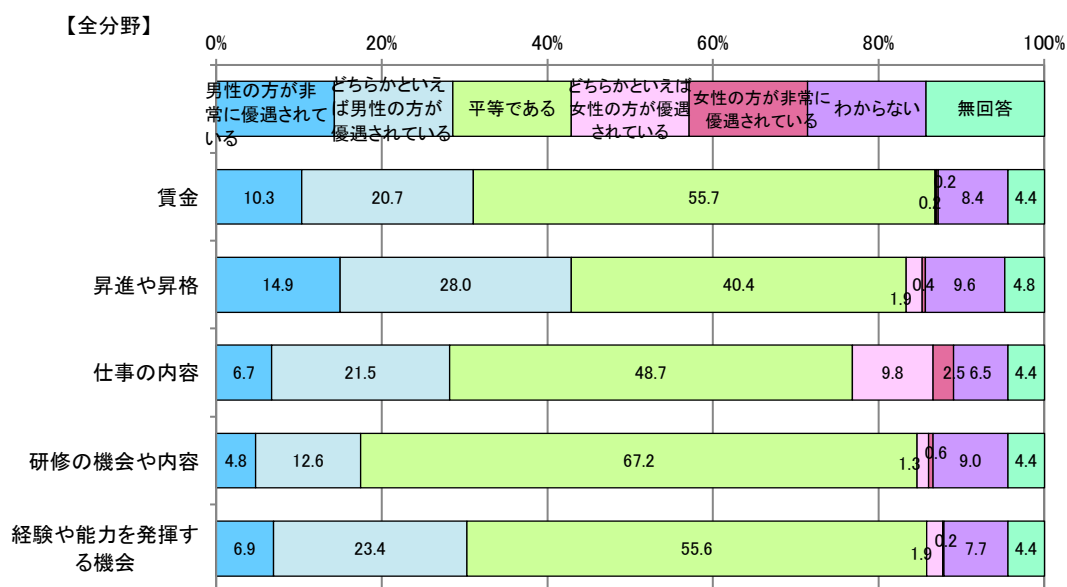




**現在、職業に就いていらっしゃる方におたずねします。**

問 14 あなたの職場では次のことがらについて、男女は平等になっていると思いますか（次にあげるそれぞれの面で性別によって差があると思いますか）。（それぞれ〇は1つ）

- ・「平等である」という回答が最も多くなっている。
- ・「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答割合の合計でみると、「昇進や昇格」が約4割（42.9%）で、最も多くなっている。次いで、「賃金」（31.0%）、「経験や能力を発揮する機会」（30.3%）、「仕事の内容」（28.2%）、「研修の機会や内容」（17.4%）の順が続いている。一方、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」という回答の割合は、「仕事の内容」が約1割（9.8%）となっている。それ以外の分野では、2割未満となっている。

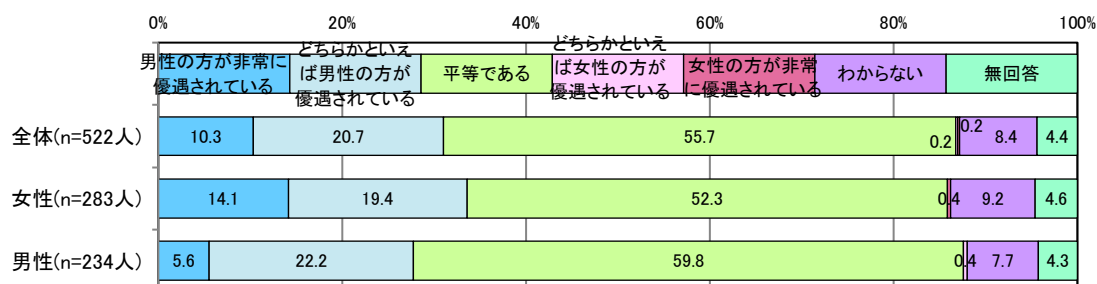


（全体 n=522 人）

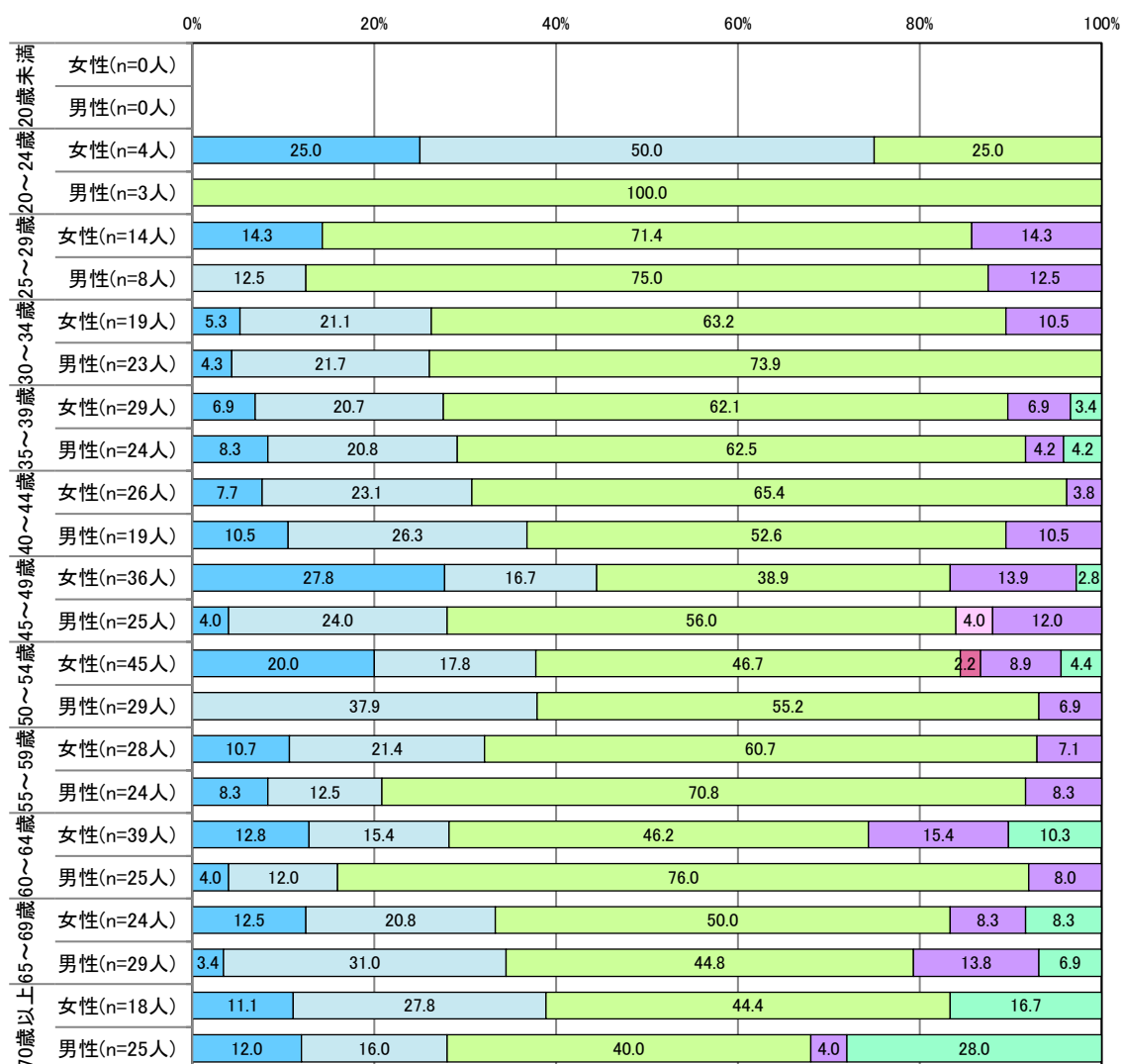
## 1. 賃金

- ・性別でみると、男女ともに、「平等である」という回答が最も多く、女性は 52.3%、男性は 59.8%となっている。
- ・「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答割合の合計では、女性は 33.5%、男性は 27.8%となっている。
- ・世代別性別でみると、20 歳～24 歳の女性を除き、いずれも「平等である」という回答の割合が最も多くなっている。

### 【性別】



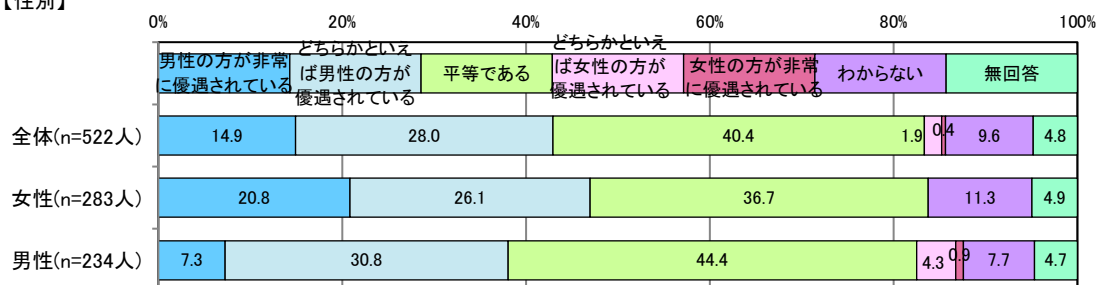
### 【世代別性別】



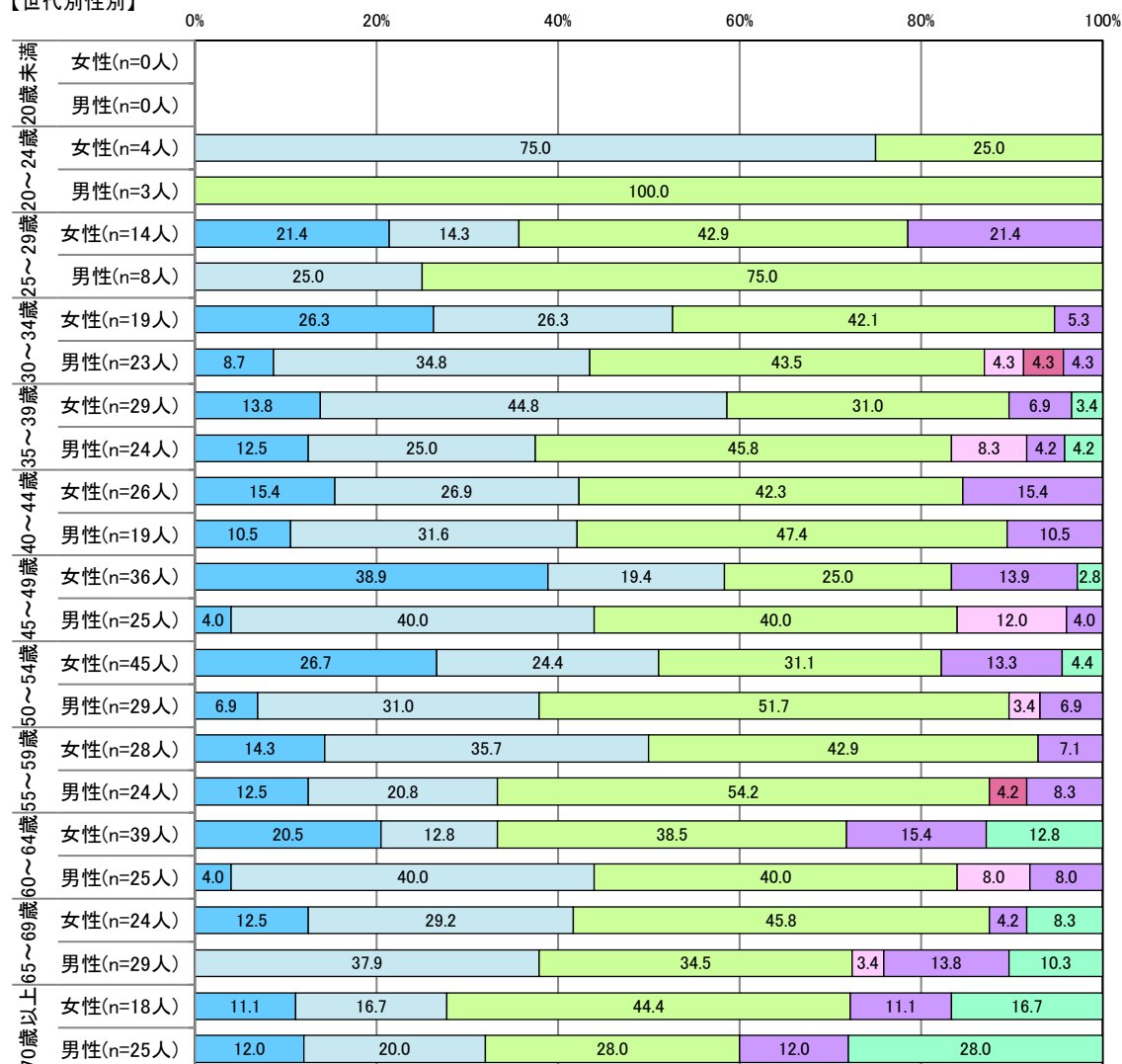
## 2. 昇進や昇格

- ・性別でみると、男女とも、「平等である」という回答が最も多く、女性は 36.7%、男性は 44.4%となっている。
- ・「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答割合の合計では、女性は 46.9%、男性は 38.1%となっている。
- ・世代別性別でみると、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の回答割合の合計が5割以上となる世代は、20 歳～24 歳の女性、30 歳～39 歳の女性、45 歳～59 歳の女性となっている。一方、20 歳～29 歳の男性、50 歳～54 歳の男性では、「平等である」が5割以上と、最も多くなっている。

【性別】

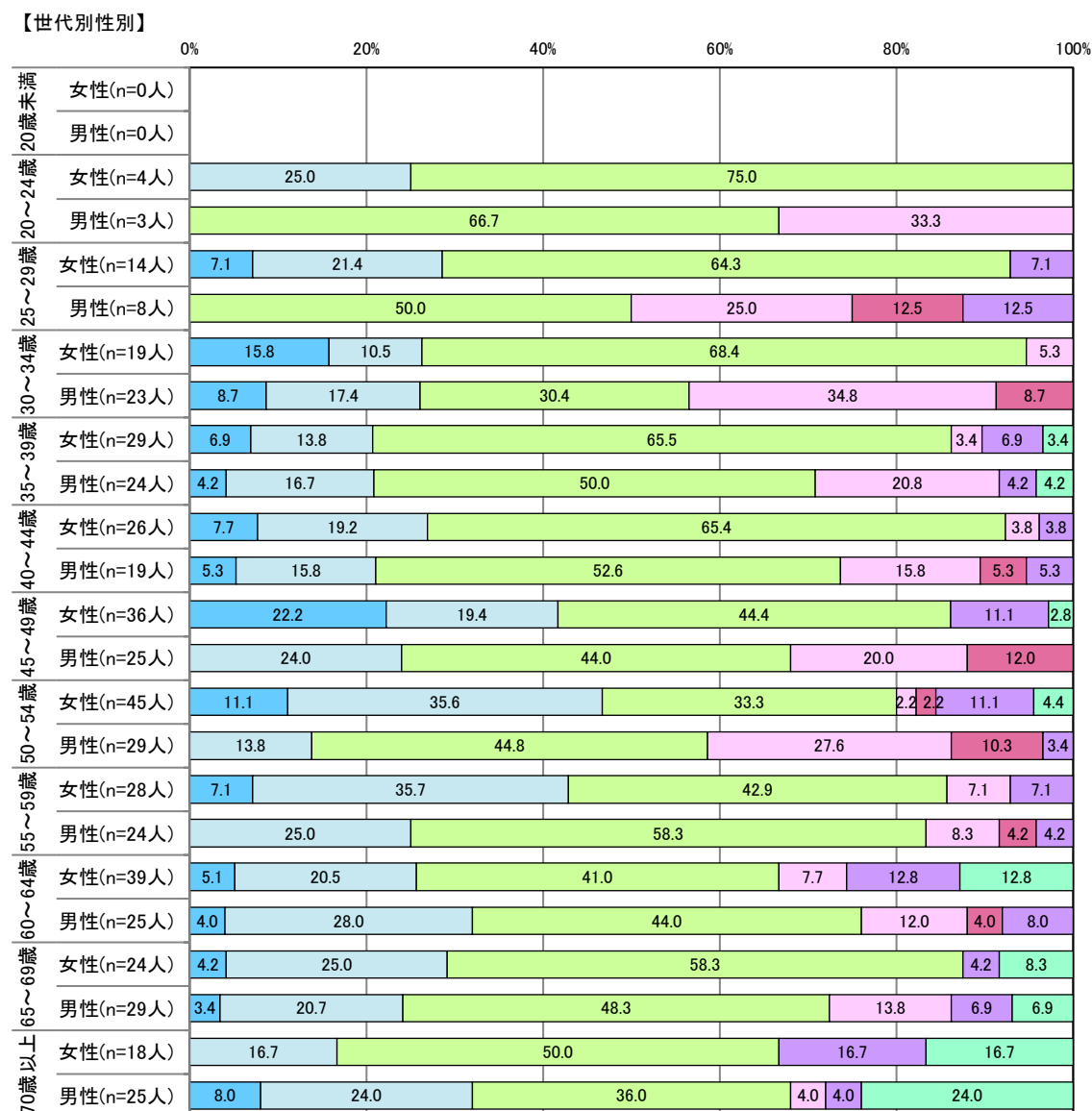
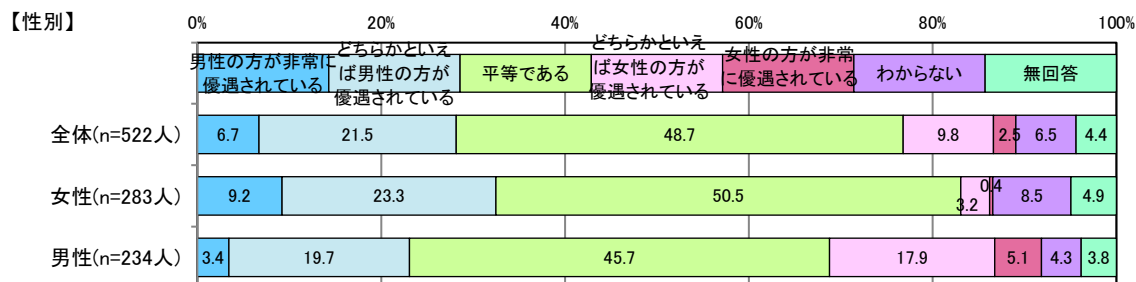


【世代別性別】



### 3. 仕事の内容

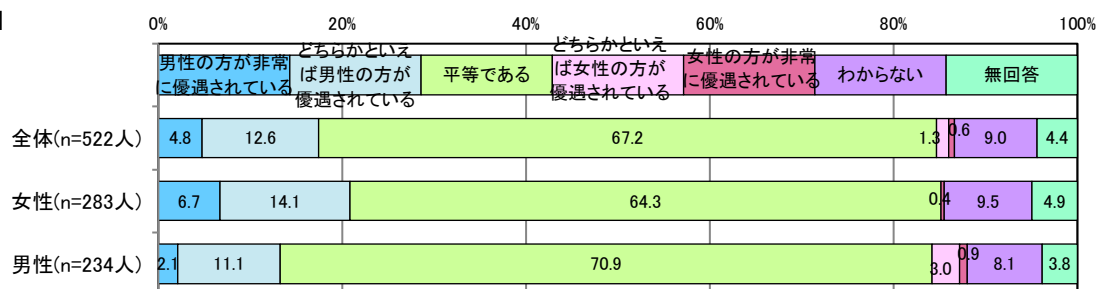
- ・性別でみると、男女とも「平等である」という回答が最も多く、女性が 50.5%、男性が 45.7%となっている。
- ・「どちらかといえば女性の方が優遇されている」という回答は、女性が 3.2%、男性が 17.9%で、男女間で感じ方に差が生じている。
- ・世代別性別でみると、30 歳～34 歳の男性、50 歳～54 歳の女性を除く、いずれの世代も、「平等である」という回答が最も多くなっている。



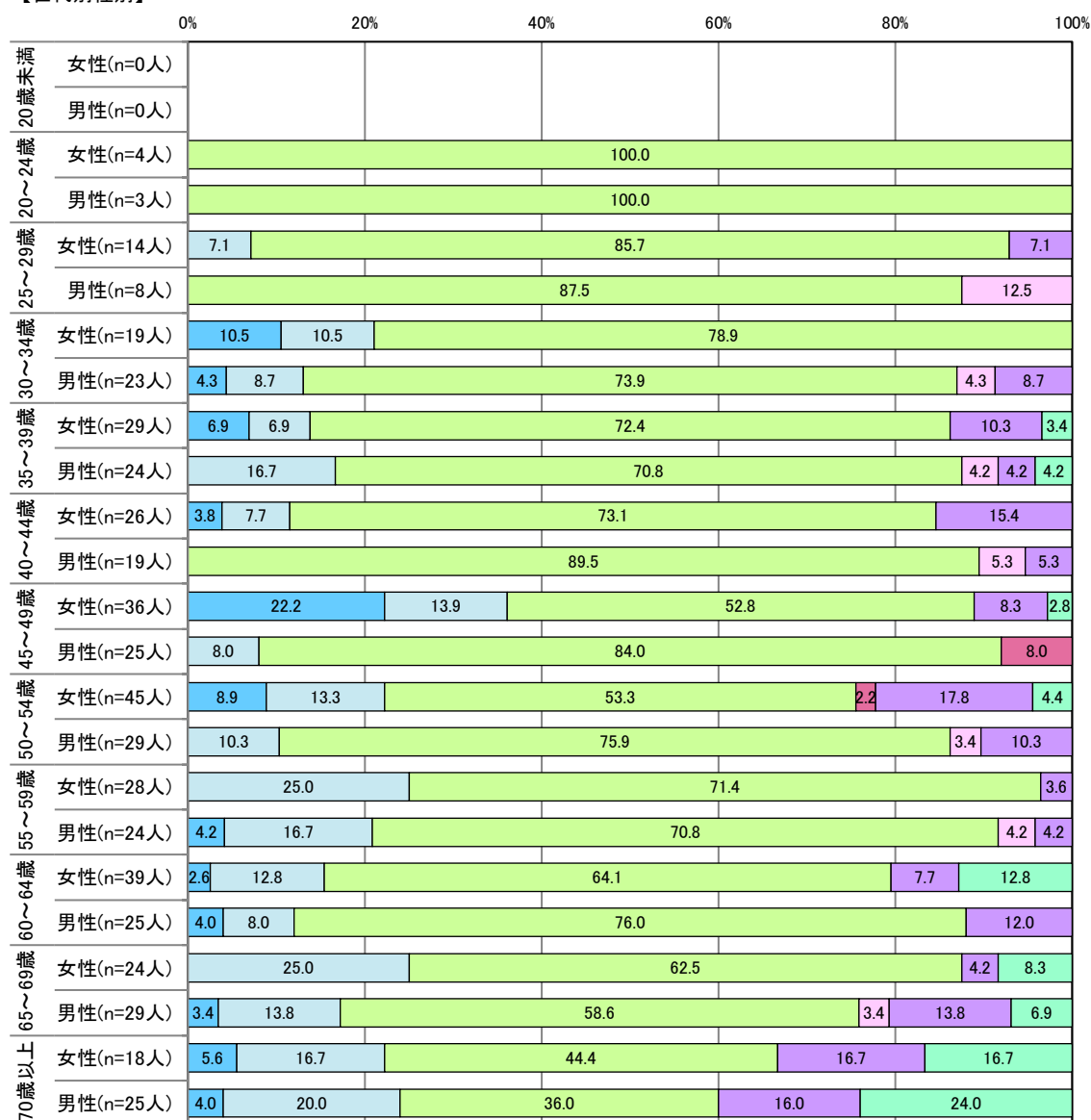
#### 4. 研修の機会や内容

- ・性別でみると、「平等である」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、女性が64.3%、男性が70.9%となっている。
- ・世代別性別でみると、いずれの世代においても「平等である」という回答が最も多くなっている。

【性別】



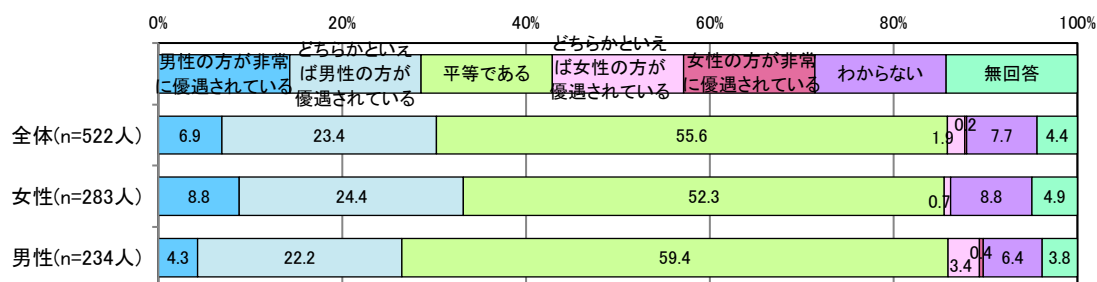
【世代別性別】



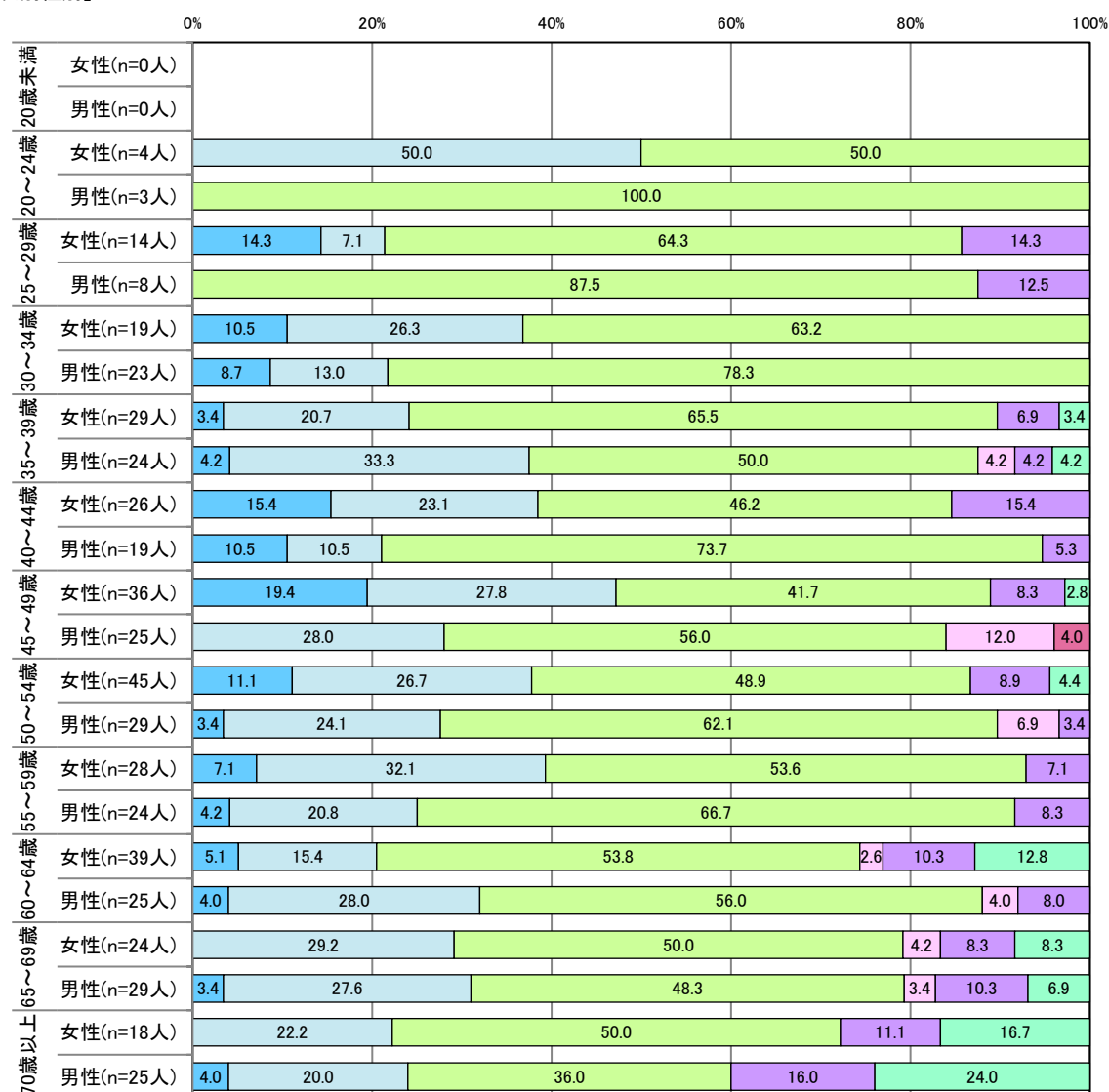
## 5. 経験や能力を発揮する機会

- ・性別でみると、「平等である」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、女性が52.3%、男性が59.4%となっている。
- ・世代別性別でみると、いずれの世代においても「平等である」という回答が最も多くなっている。

### 【性別】



### 【世代別性別】

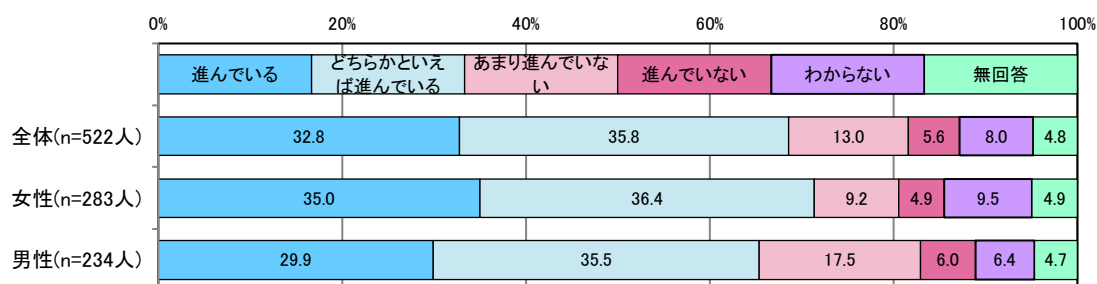


問 15 あなたの職場では女性の雇用や登用は進んでいると思いますか。

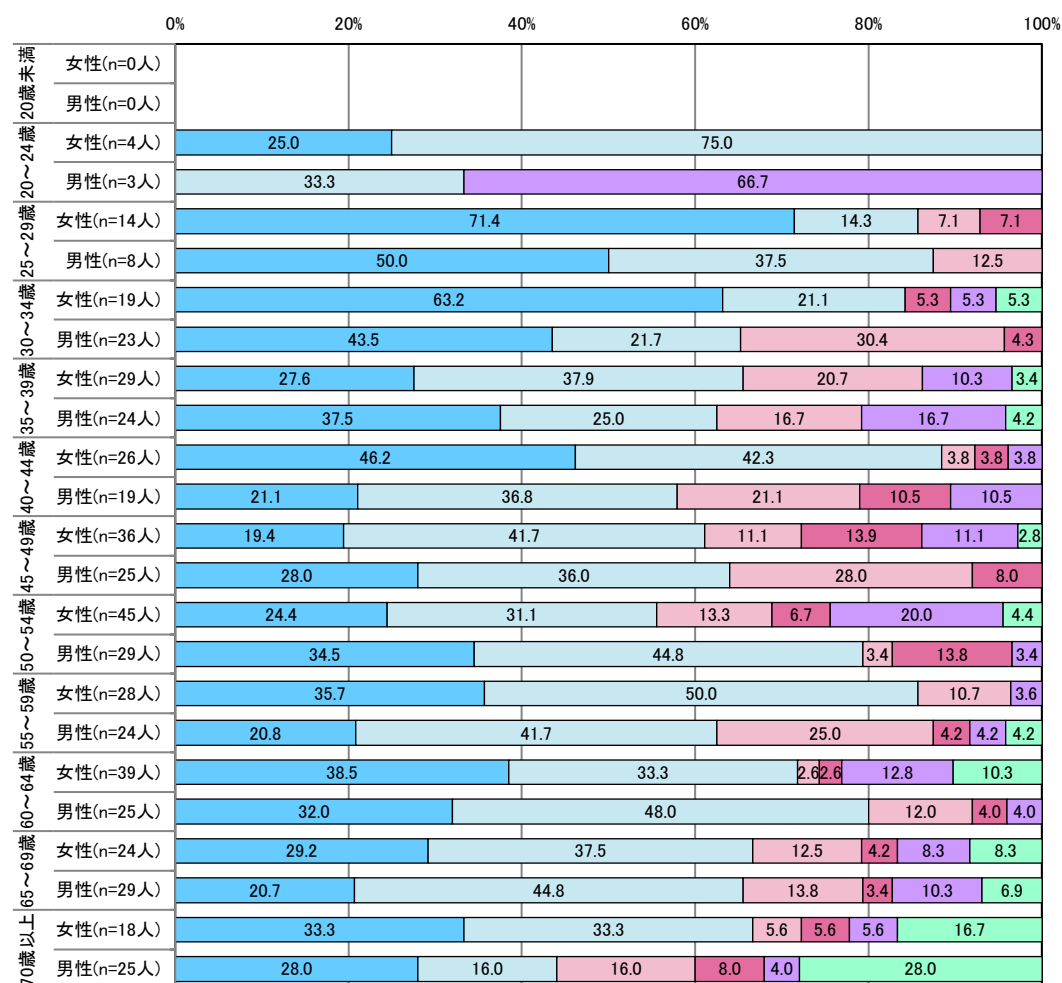
(○は 1 つ)

- ・性別でみると、男女ともに、「どちらかといえば進んでいる」という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、20 歳～24 歳の男性、40 歳～44 歳の男性、50 歳～54 歳の男性、70 歳以上の男性を除く、いずれの世代においても「進んでいる」、「どちらかといえば進んでいる」の回答割合の合計が 6 割以上となっている。

【性別】



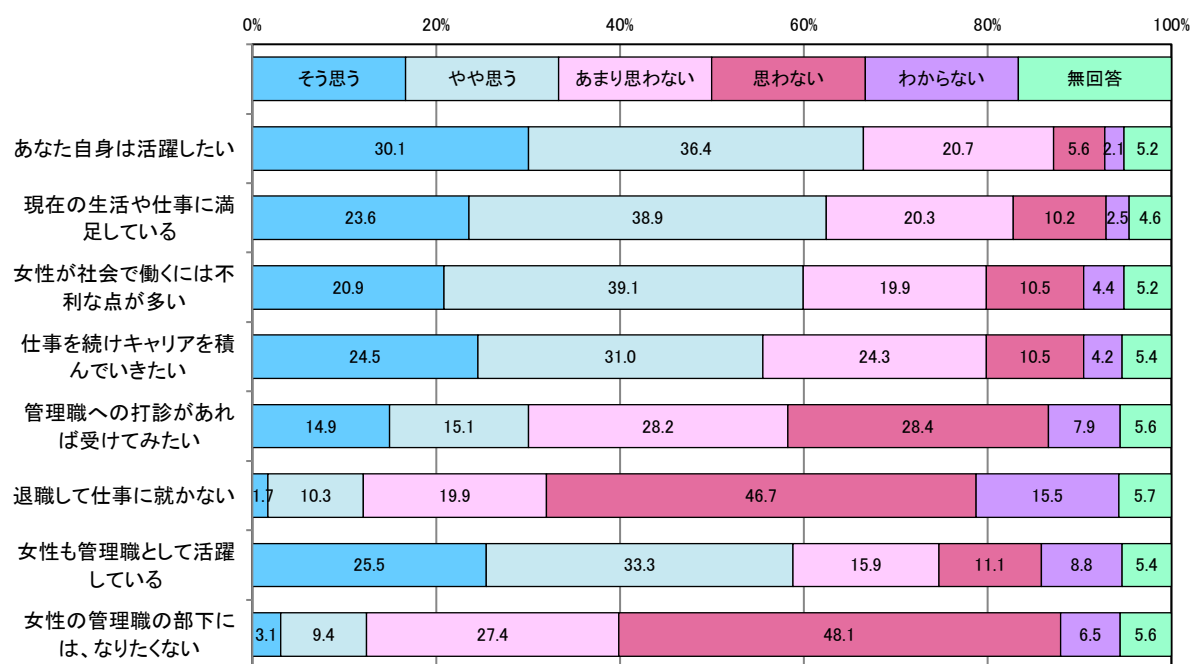
【世代別性別】



問 16 今の職場について、あなたのお考えに近い番号をお選びください。（それぞれ○は1つ）

- ・「そう思う」という回答でみると、「あなた自身は活躍したい」（30.1%）が3割で最も多くなっている。次いで、「女性も管理職として活躍している」（25.5%）、「仕事を続けキャリアを積んでいきたい」（24.5%）、「現在の生活や仕事に満足している」（23.6%）、「女性が社会で働くには不利な点が多い」（20.9%）の順に続いている。
- ・「思わない」という回答の割合は、「女性の管理職の部下には、なりたくない」（48.1%）が約5割と最も多くなっている。次いで、「退職して仕事に就かない」（46.7%）、「管理職への打診があれば受けてみたい」（28.4%）となっている。

【全分野】



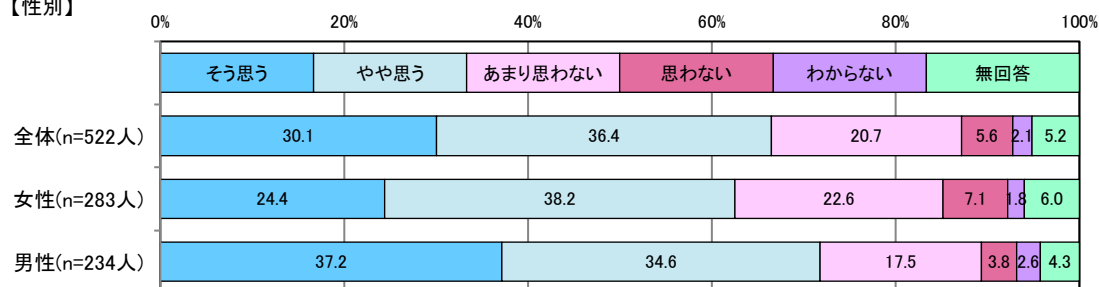
（全体 n=522 人）



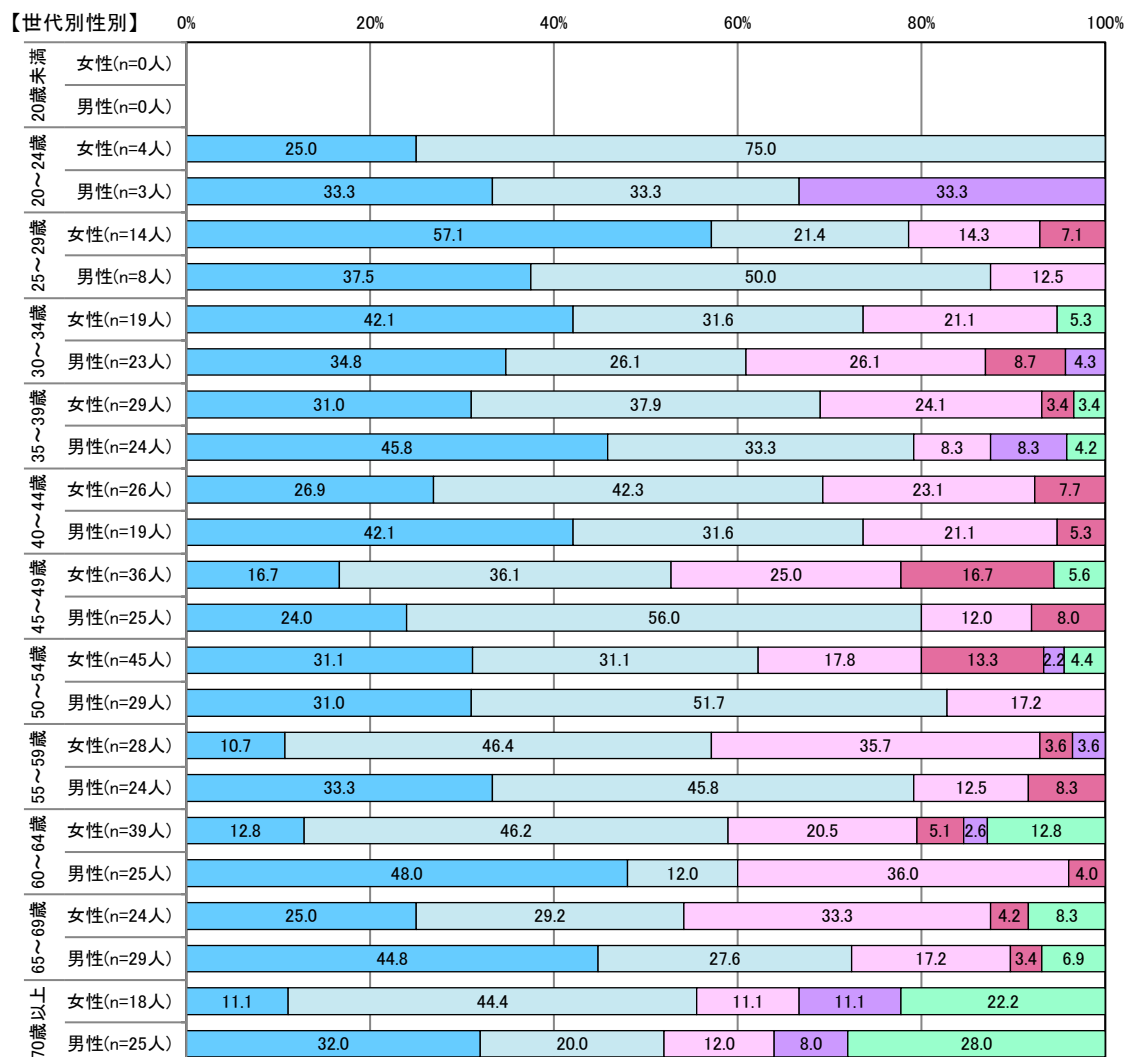
## 1. あなた自身は活躍したい

- ・全体でみると、「やや思う」という回答が最も多く、約4割（36.4%）となっている。
- ・性別でみると、女性は「やや思う」が約4割（38.2%）と最も多くなっている。一方、男性は、「そう思う」が約4割（37.2%）と最も多い。男女ともに、「そう思う」、「やや思う」の回答割合の合計は、6割を超えている。
- ・世代別性別でみると、「そう思う」、「やや思う」という回答割合の合計では、20歳～24歳の女性、25歳～29歳の男性、45歳～54歳の男性の世代で8割以上となる。
- ・配偶者の有無別でみると、いずれも「そう思う」、「やや思う」の回答割合の合計が6割を超えている。

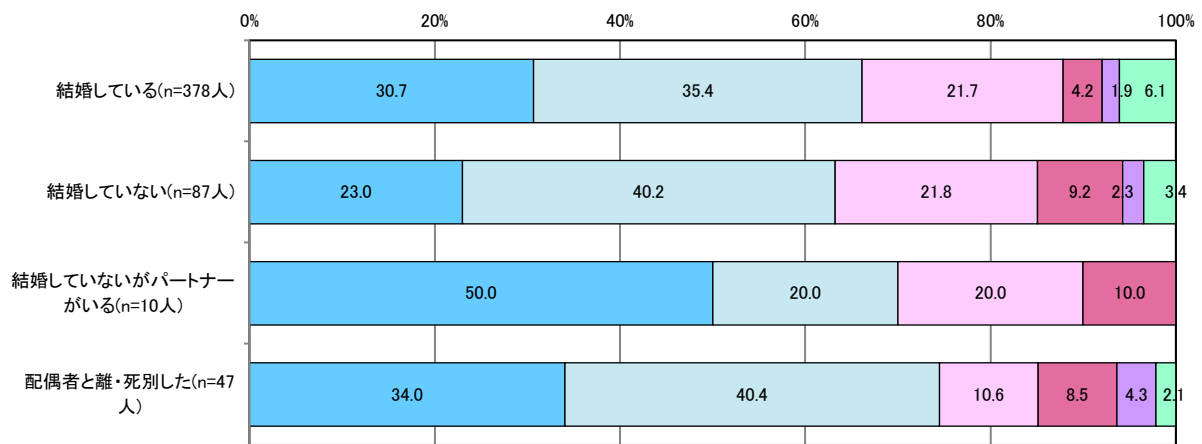
【性別】



【世代別性別】



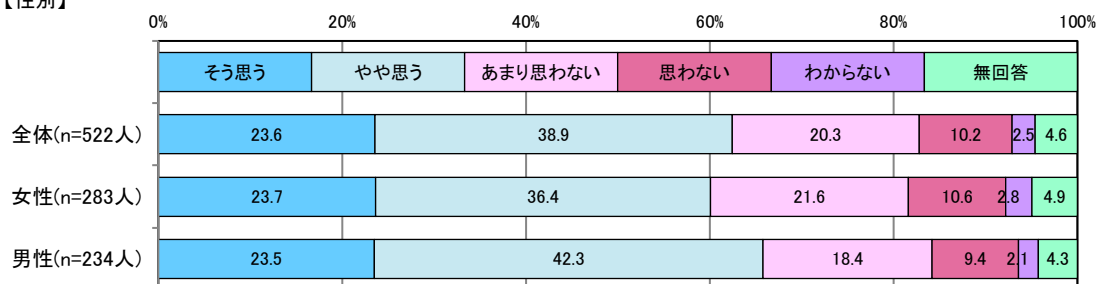
【配偶者の有無別】



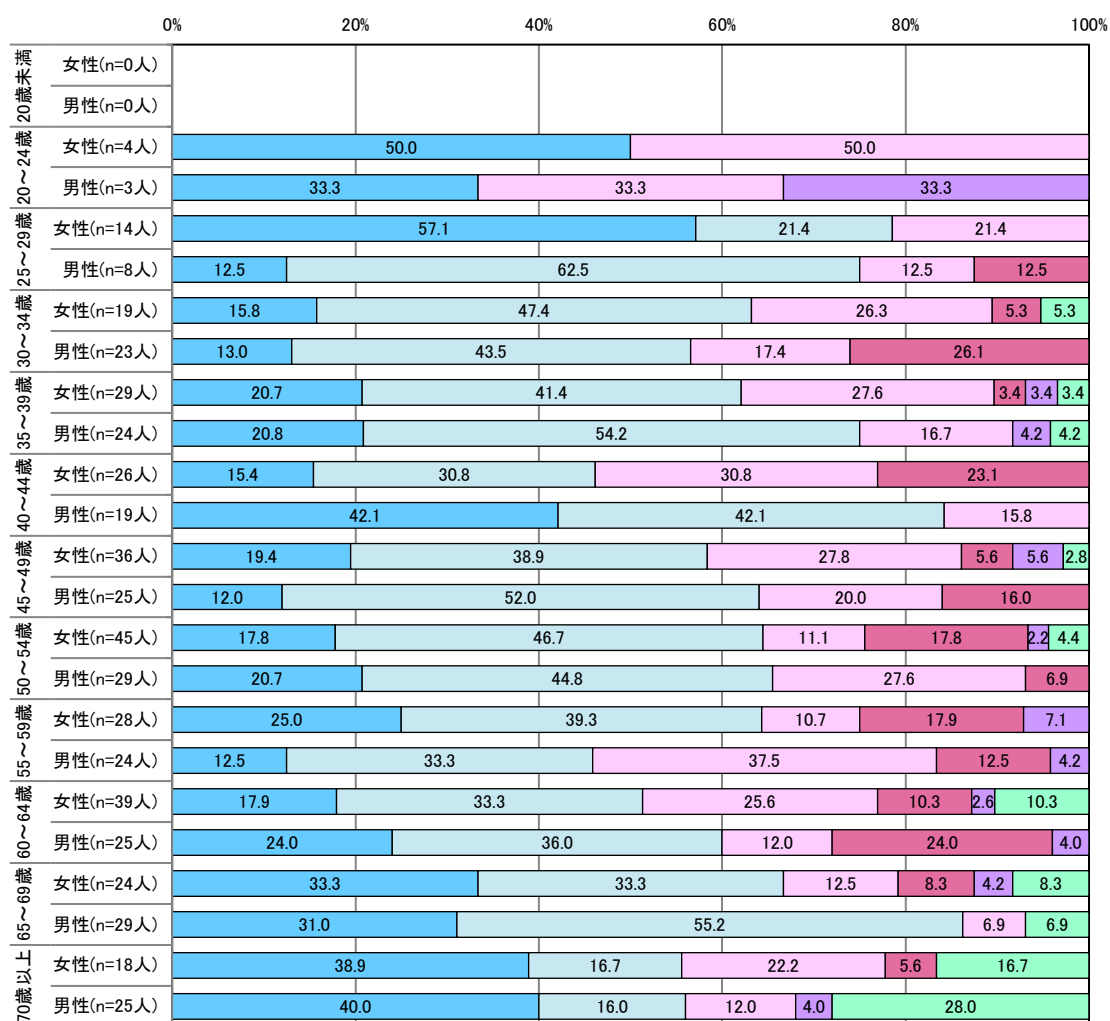
## 2. 現在の生活や仕事に満足している

- ・全体でみると、「やや思う」という回答が最も多く、38.9%となっている。
- ・性別でみると、男女とも「やや思う」が約4割と最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、25歳～29歳の男女、35歳～44歳の男性、65歳～69歳の男性の世代で、「そう思う」、「やや思う」の回答割合の合計が7割を超えている。
- ・配偶者の有無別でみると、「結婚している」、「結婚していないがパートナーがいる」で、「そう思う」、「やや思う」の回答割合の合計が6割を超えている。

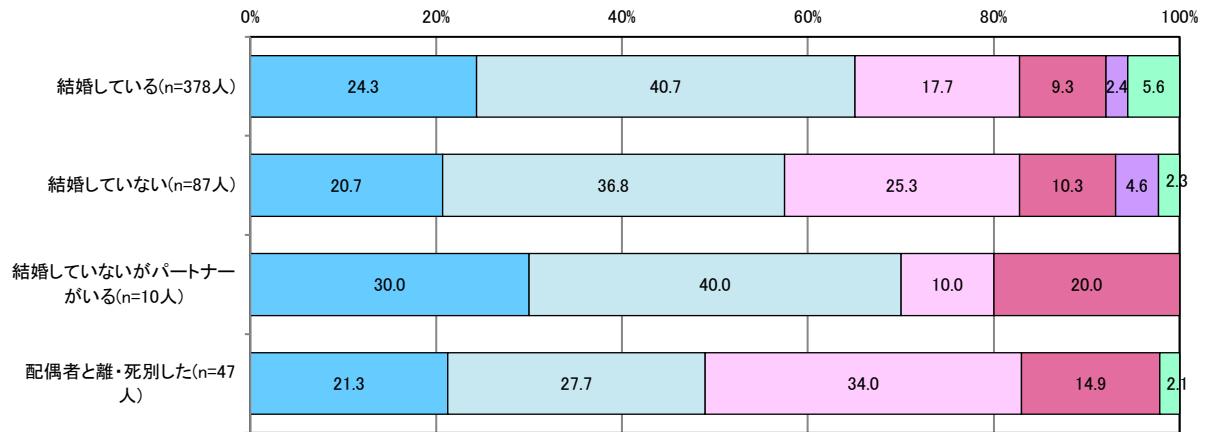
【性別】



【世代別性別】

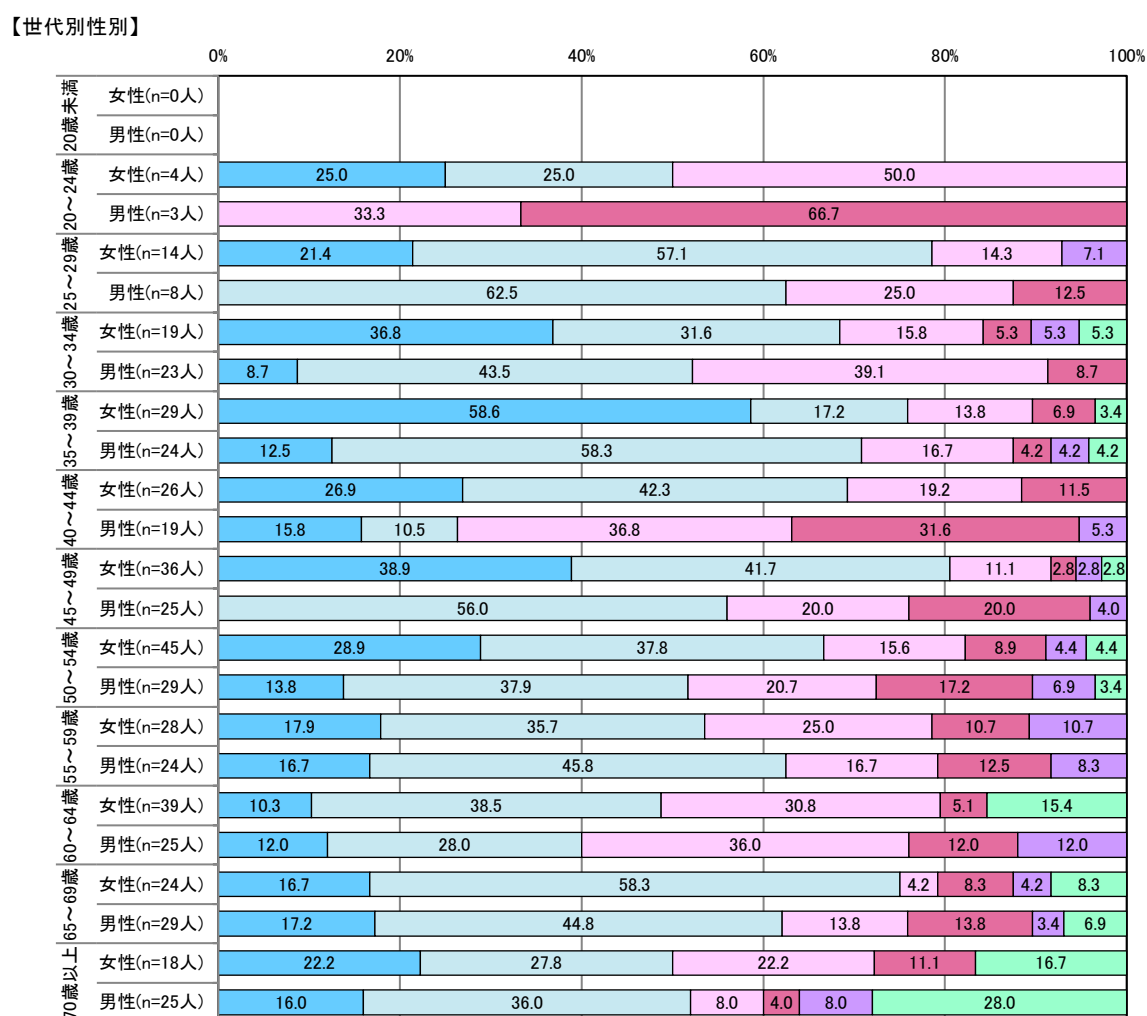
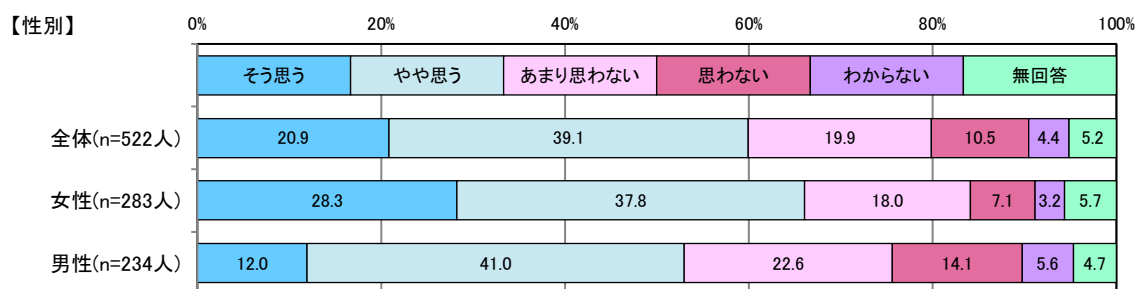


【配偶者の有無別】

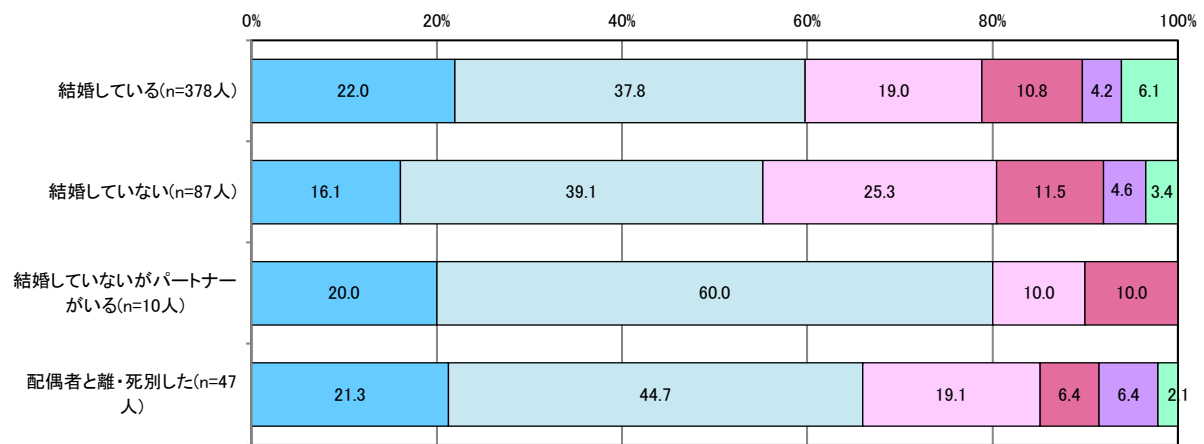


### 3. 女性が社会で働くには不利な点が多い

- ・全体でみると、「やや思う」が39.1%と最も多くなっている。
- ・性別でみると、男女とも「やや思う」が約4割と最も多い。「そう思う」、「やや思う」の回答割合の合計では、女性（66.1%）が男性（53.0%）よりもやや多くなる。
- ・世代別性別では、25歳～29歳の女性、35歳～39歳の男女、45歳～49歳の女性、65歳～69歳の女性の世代で、「そう思う」、「やや思う」の回答割合の合計が、7割以上となっている。
- ・配偶者の有無別でみると、「そう思う」、「やや思う」の回答割合の合計は、「結婚していないがパートナーがいる」、「配偶者と離・死別した」で、6割以上となっている。



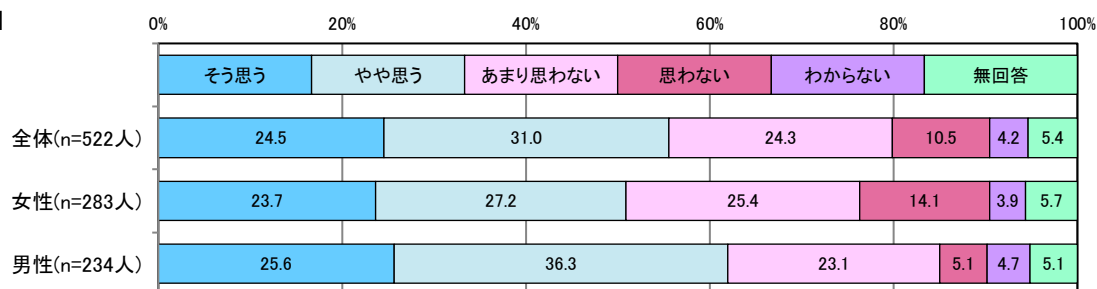
【配偶者の有無別】



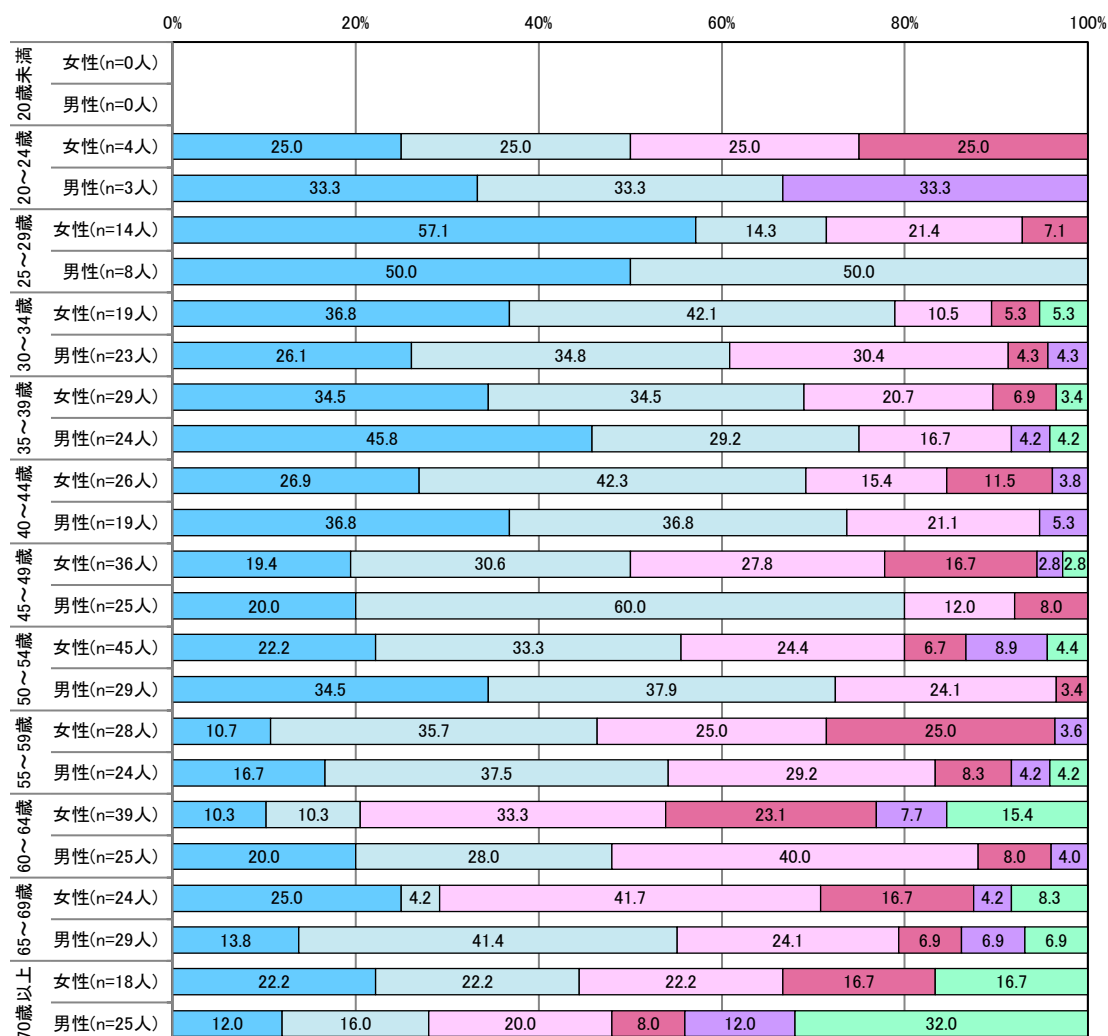
#### 4. 仕事を続けキャリアを積んでいきたい

- ・全体でみると、「やや思う」という回答が 31.0%で最も多く、次いで「そう思う」が 24.5%となっている。
- ・性別でみると、男女とも「やや思う」が約3割と最も多い。一方、女性では「あまり思わない」(25.4%)が、男性では「そう思う」(25.6%)が続いている。
- ・世代別性別でみると、20 歳～24 歳の男性、25 歳～44 歳の男女、45 歳～54 歳の男性の世代で、「そう思う」、「やや思う」という回答割合の合計が6割を超えている。
- ・配偶者の有無別でみると、「結婚していないがパートナーがいる」で、「そう思う」、「やや思う」という回答割合の合計が、7割以上となっている。

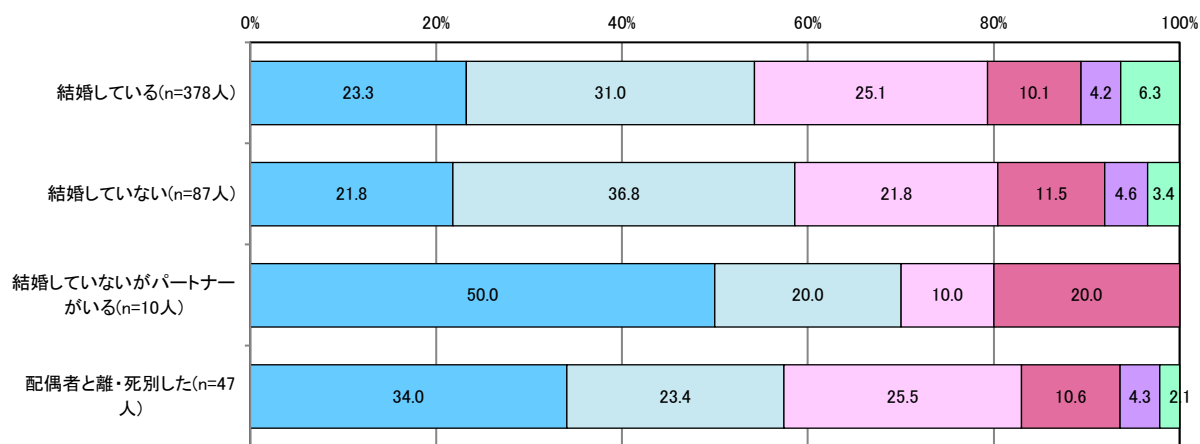
【性別】



【世代別性別】



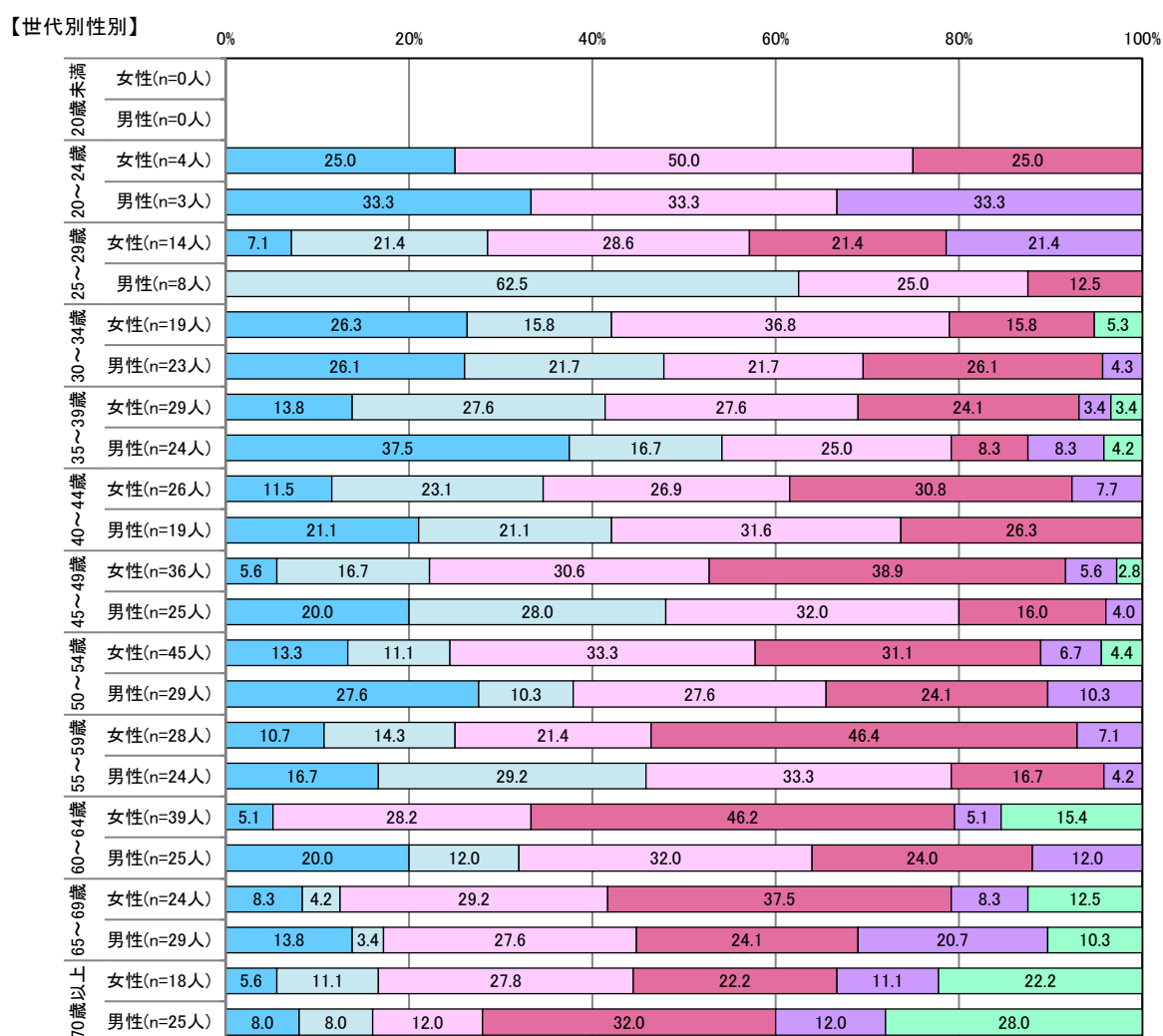
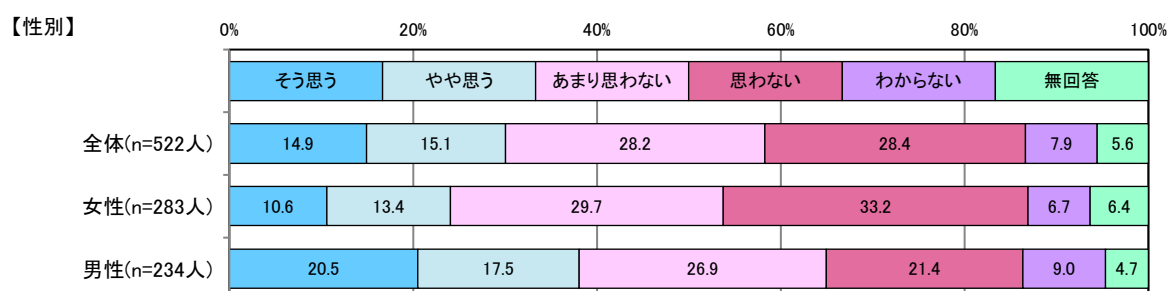
【配偶者の有無別】

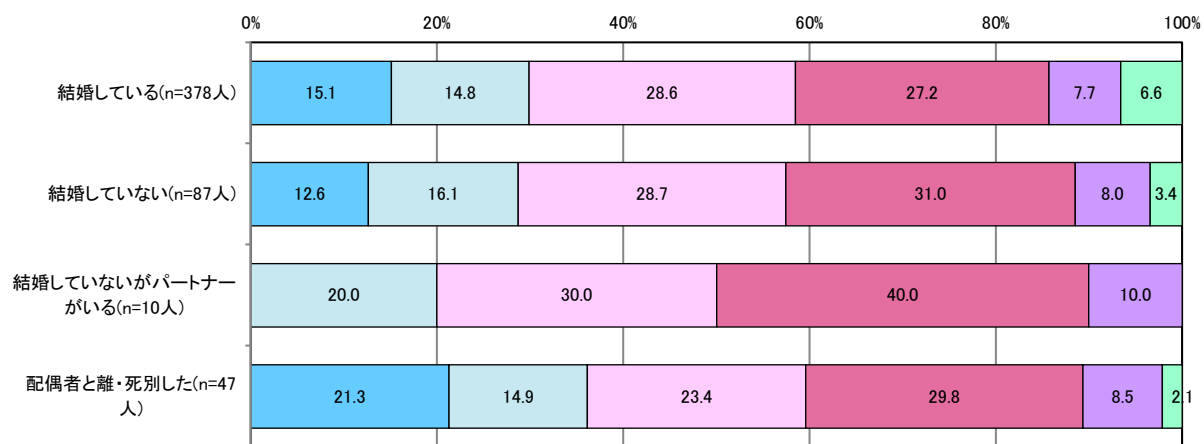




## 5. 管理職への打診があれば受けてみたい

- ・全体でみると、「思わない」という回答が28.4%で最も多くなっている。
- ・性別でみると、「思わない」、「あまり思わない」の回答割合の合計では、女性は62.9%、男性は48.3%となっている。
- ・世代別性別でみると、25歳～29歳の男性の世代で、「そう思う」、「やや思う」の回答割合の合計が6割以上となっている。一方、20歳～39歳の男性、45歳～49歳の男性、70歳以上の男性を除く、いずれの世代においても、「思わない」、「あまり思わない」の回答割合の合計が、5割以上となっている。
- ・配偶者の有無別でみると、いずれも「思わない」、「あまり思わない」という回答割合の合計が5割を超えている。

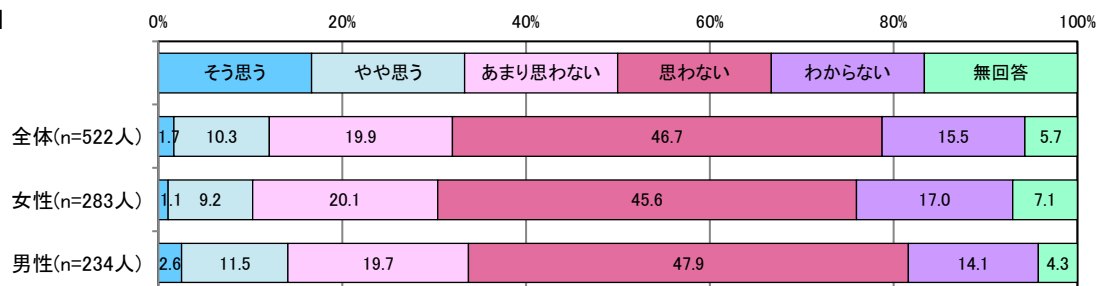




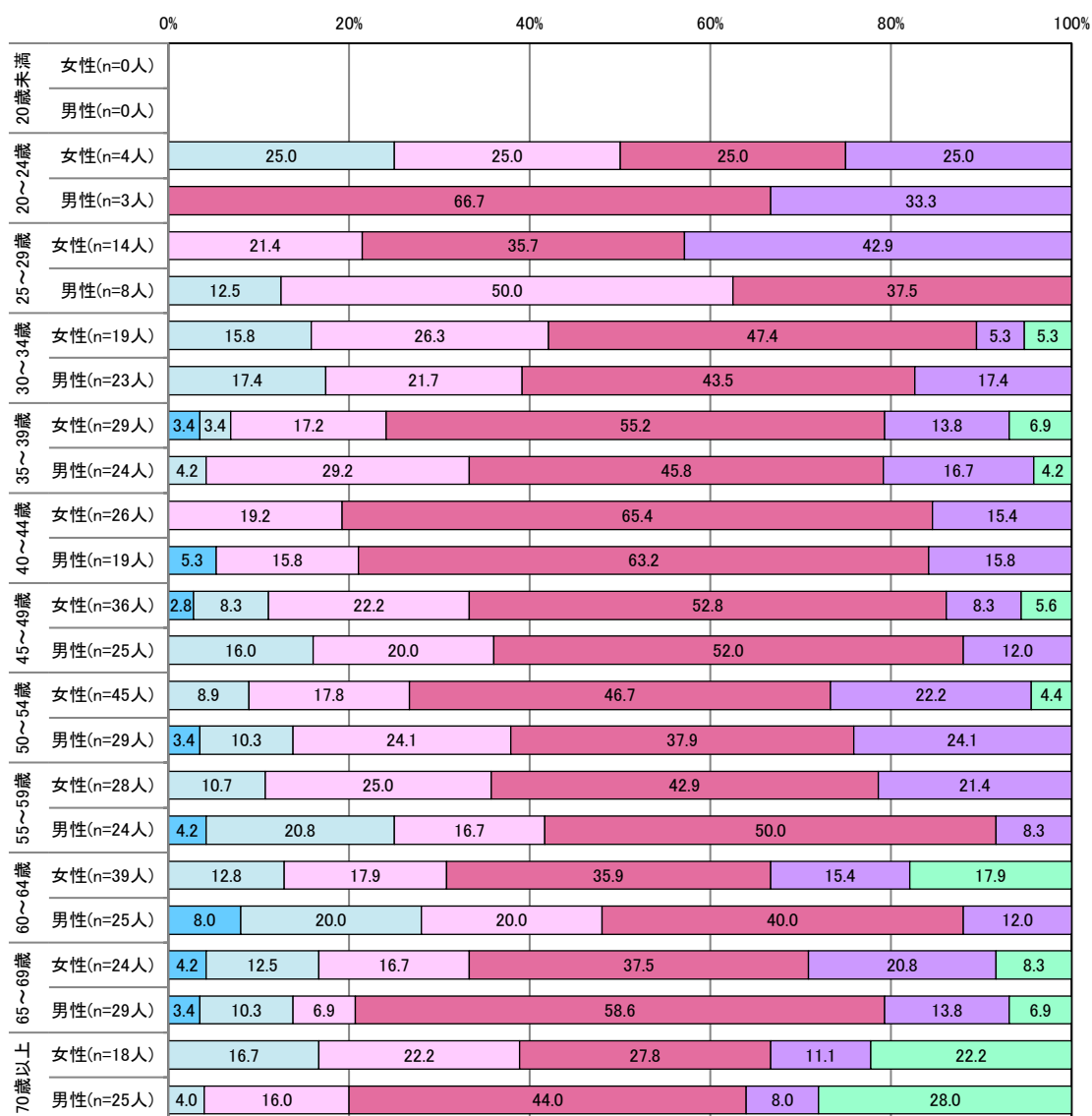
## 6. 退職して仕事に就かない

- ・全体でみると、「思わない」という回答が46.7%と約5割となっている。
- ・性別でみると、男女とも「思わない」が約5割と最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、いずれの世代においても「思わない」、「あまり思わない」の回答割合の合計が5割以上となっている。
- ・配偶者の有無別でみると、いずれも「思わない」、「あまり思わない」の回答割合の合計が6割以上となっている

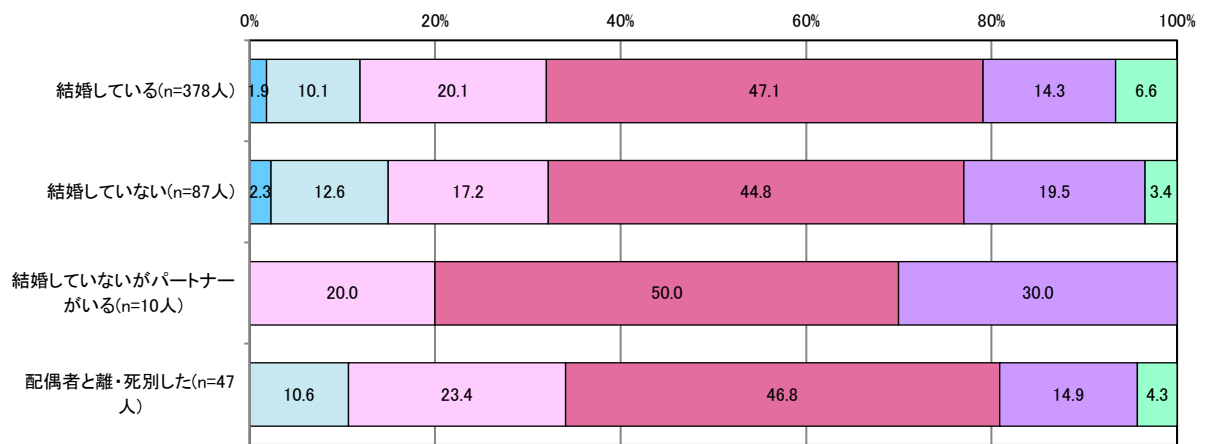
【性別】



【世代別性別】

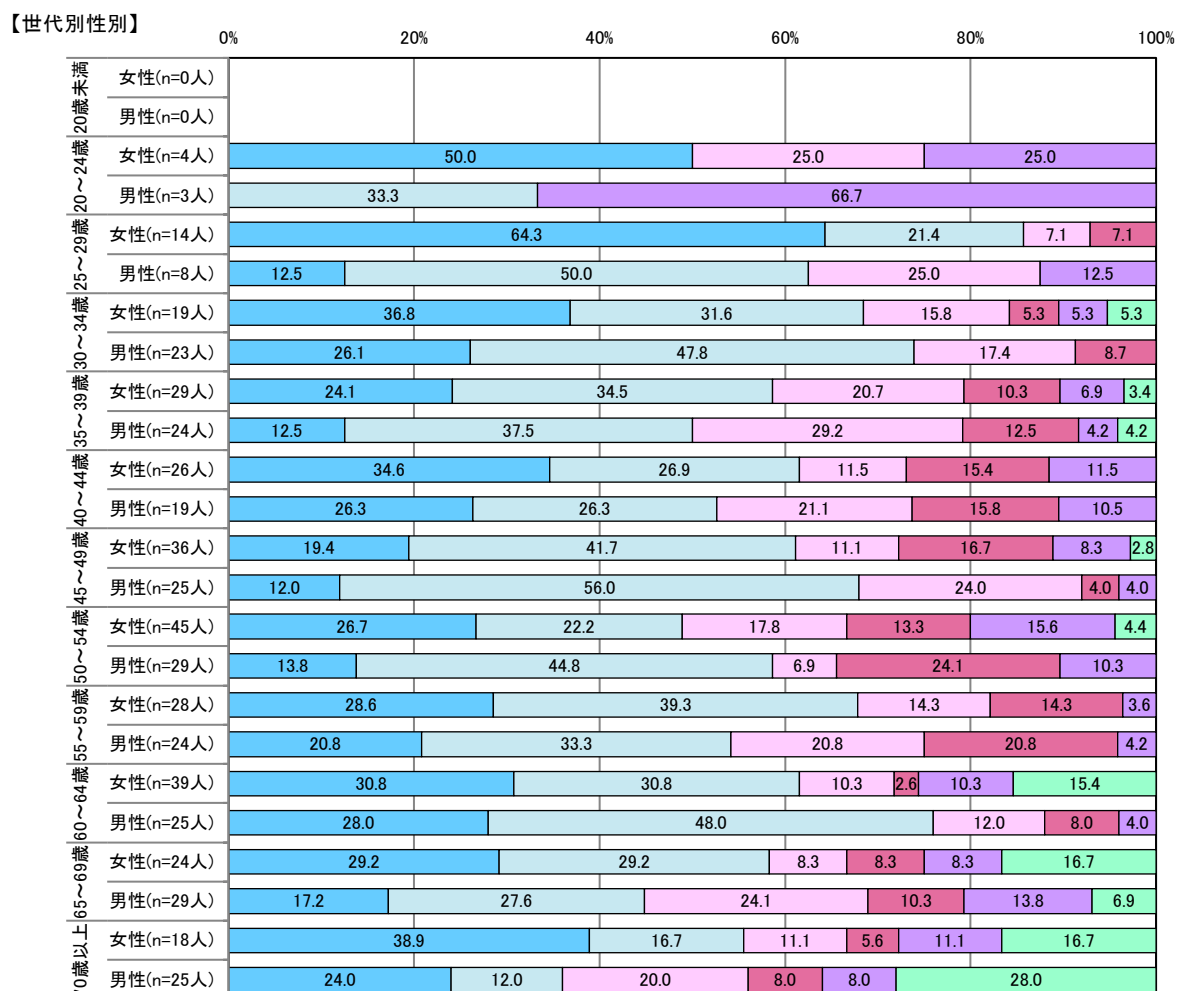
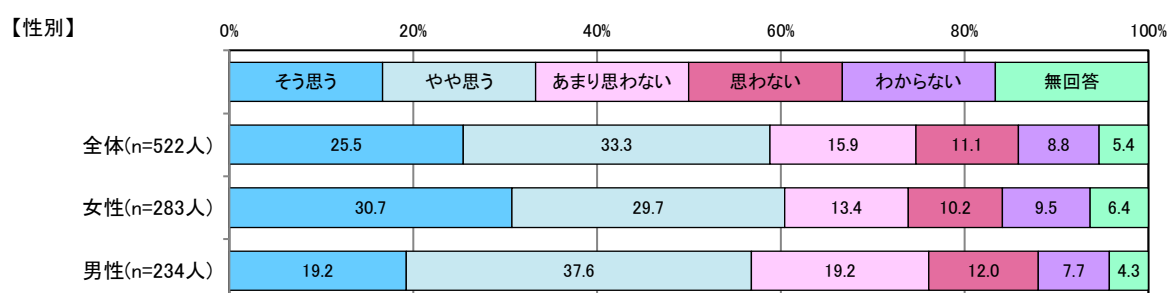


【配偶者の有無別】

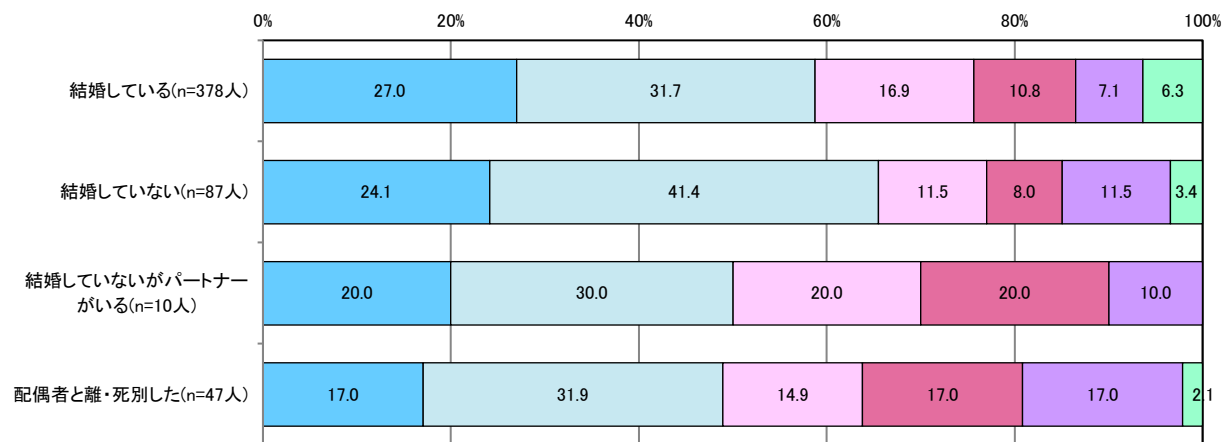


## 7. 女性も管理職として活躍している

- ・全体でみると、「やや思う」という回答が 33.3%と最も多く、次いで「そう思う」が 25.5%と続いている。
- ・性別でみると、女性は「そう思う」が約3割(30.7%)と最も多い。一方、男性は、「やや思う」が約4割(37.6%)と最も多くなっている。男女ともに「そう思う」、「やや思う」という回答割合の合計が、約6割となっている。
- ・世代別性別でみると、25歳～34歳の男女、40歳～44歳の女性、45歳～49歳の男女、55歳～59歳の女性、60歳～64歳の男女で、「そう思う」、「やや思う」という回答割合の合計が、6割を超えている。一方、35歳～39歳の男性、55歳～59歳の男性の世代で、「思わない」、「あまり思わない」という回答割合の合計が4割以上となっている。
- ・配偶者の有無別でみると、「配偶者と離・死別した」を除いて、「そう思う」、「やや思う」という回答割合の合計が5割を超えている。



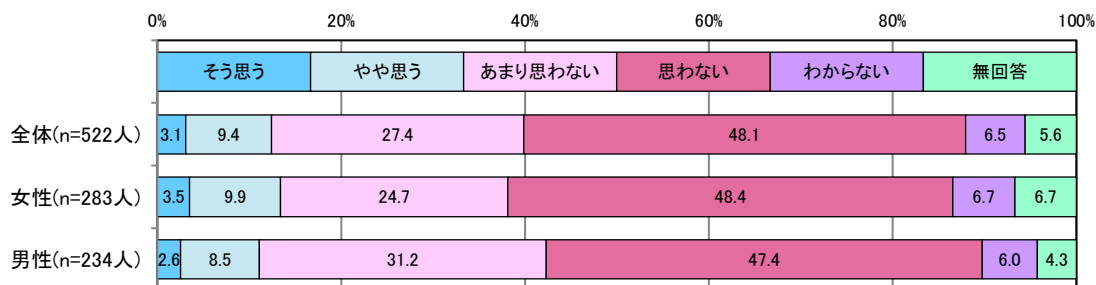
【配偶者の有無別】



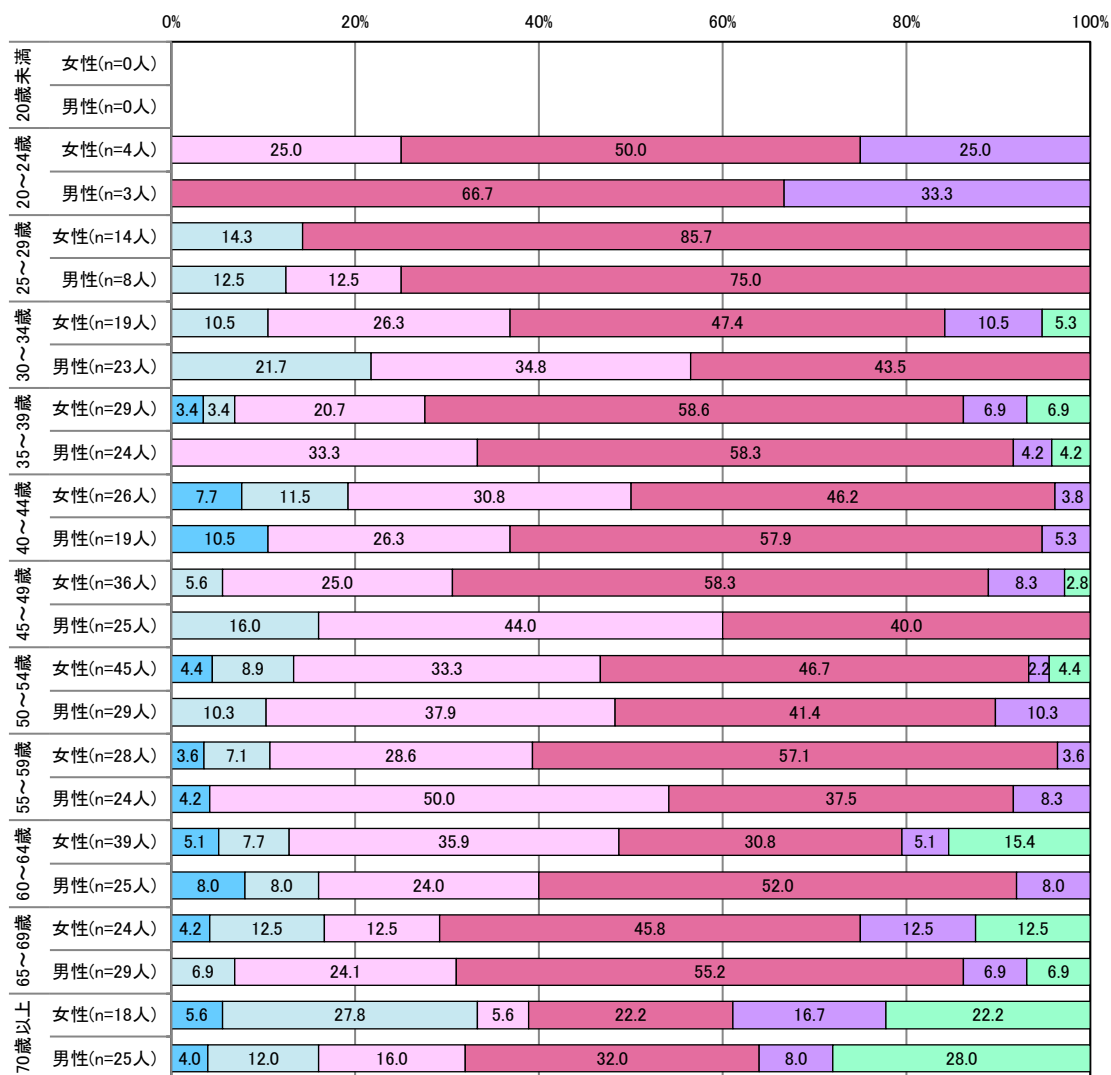
## 8. 女性の管理職の部下には、なりたくない

- ・全体でみると、「思わない」という回答が48.1%と約5割となっている。
- ・性別でみると、男女とも「思わない」が約5割と最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、70歳以上の男女の世代を除き、いずれの世代でも、「思わない」、「あまり思わない」という回答割合の合計が5割以上となっている。
- ・配偶者の有無別でみると、いずれも「思わない」、「あまり思わない」という回答割合の合計が6割以上となっている。

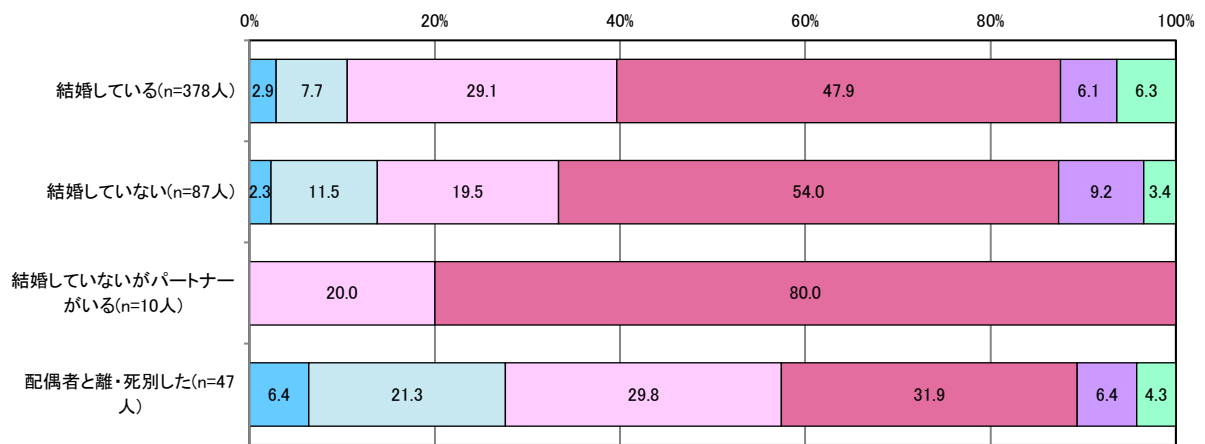
### 【性別】



### 【世代別性別】



【配偶者の有無別】

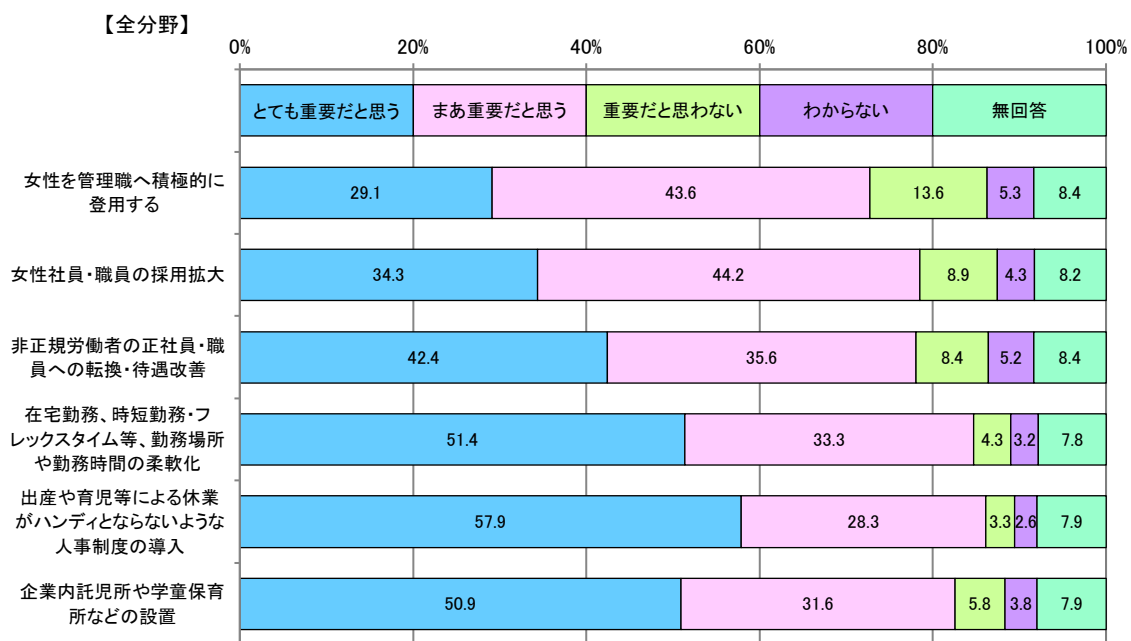




**現在、職業に就いていらっしゃる方または職業経験のある方におたずねします。**

問 17 女性が活躍するために企業が取り組むべきことはなんだと思いますか。  
(それぞれ○は1つ)

- ・「とても重要だと思う」という回答でみると、「出産や育児等による休業がハンディとならないような人事制度の導入」(57.9%)が約6割と最も多くなっている。次いで、「在宅勤務、時短勤務・フレックスタイム等、勤務場所や勤務時間の柔軟化」(51.4%)、「企業内託児所や学童保育所などの設置」(50.9%)、「非正規労働者の正社員・職員への転換・待遇改善」(42.4%)と続いている。一方、「まあ重要だと思う」という回答は、「女性社員・職員の採用拡大」(44.2%)、「女性を管理職へ積極的に登用する」(43.6%)で、約4割となっている。

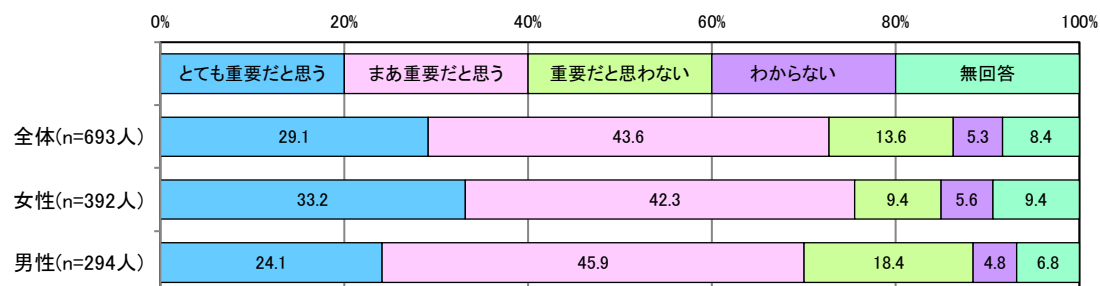


(全体 n=693 人)

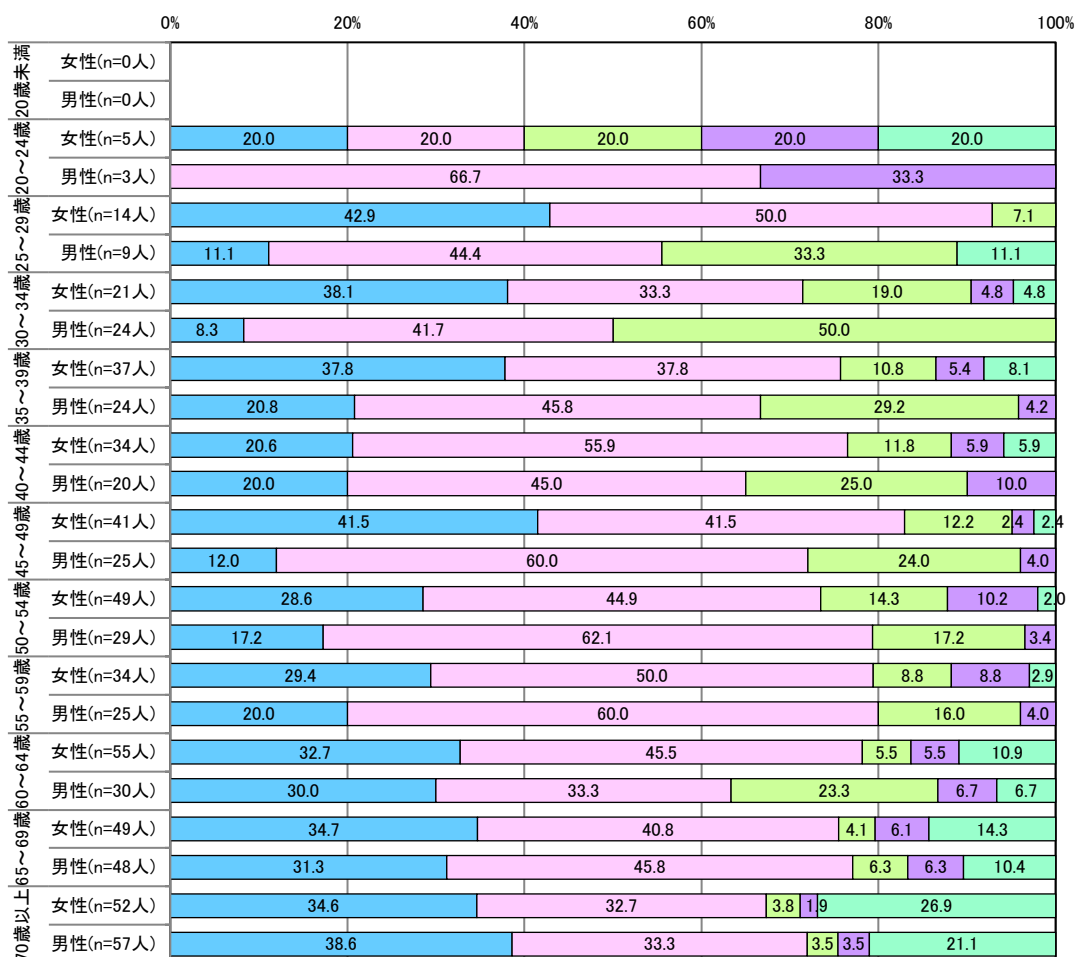
## 1. 女性を管理職へ積極的に登用する

- ・性別でみると、男女とも「まあ重要だと思う」という回答が最も多くなっている。回答割合は、女性が42.3%、男性が45.9%となっている。
- ・世代別性別でみると、「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が、25歳～29歳の女性、45歳～49歳の女性、55歳～59歳の男性の世代では8割以上と、他の世代に比べて多くなっている。

【性別】

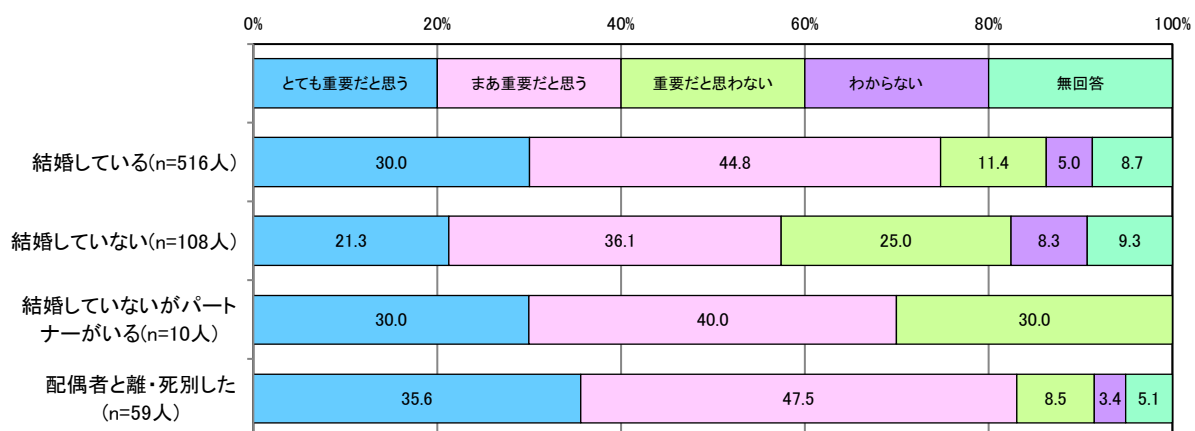


【世代別性別】



- ・配偶者の有無別でみると、「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が、「結婚していない」を除いて、いずれもで7割以上となっている。

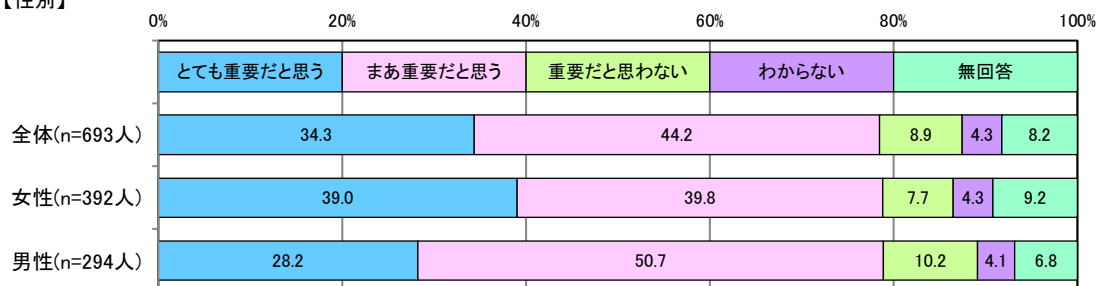
【配偶者の有無別】



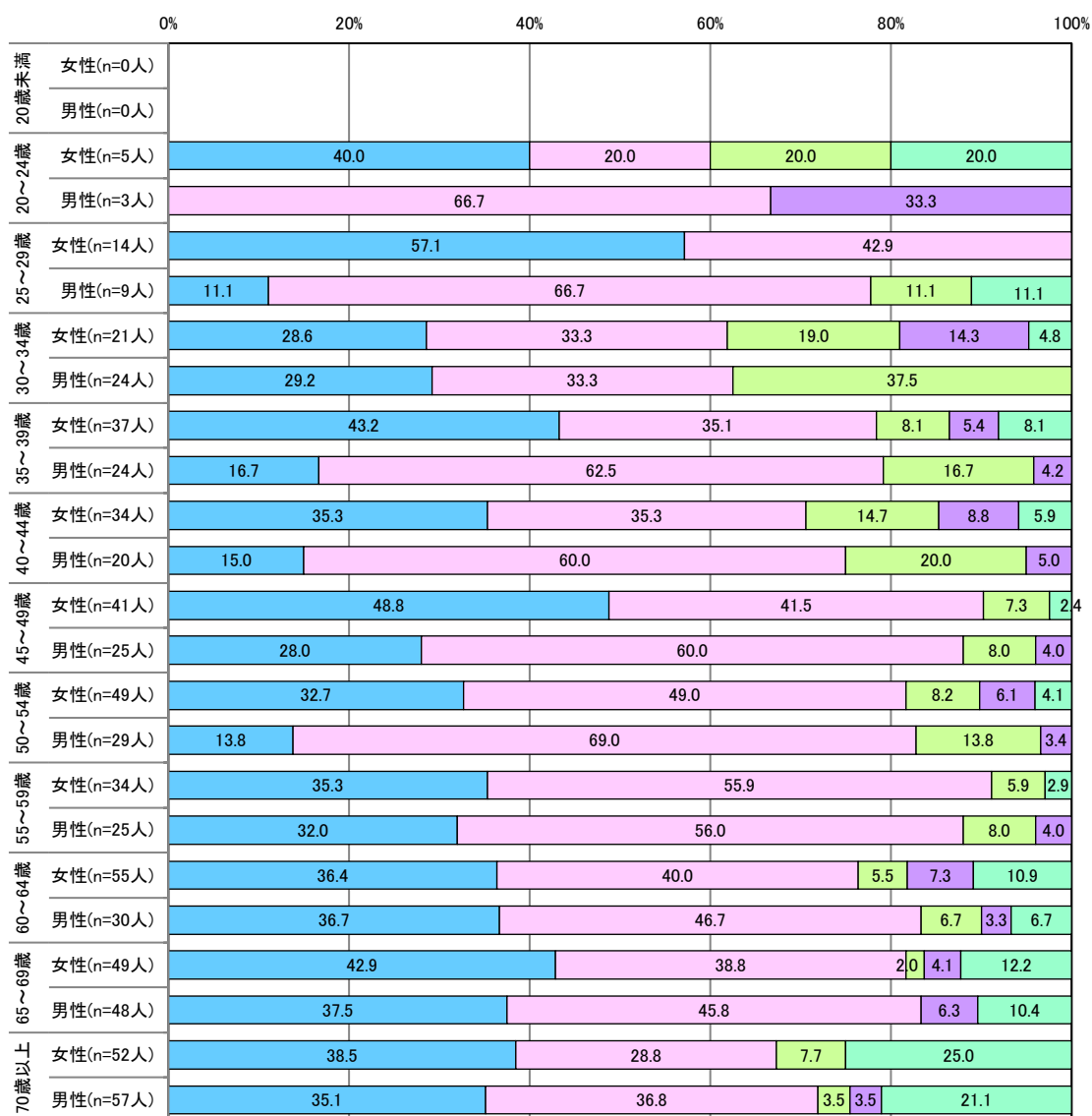
## 2. 女性社員・職員の採用拡大

- ・性別でみると、男女ともに、「まあ重要だと思う」という回答が最も多くなっている。回答割合は、女性が39.8%、男性が50.7%となっている。
- ・世代別性別でみると、25歳～29歳の女性、45歳～59歳の男女、60歳～64歳の男性、65歳～69歳の男女の世代で、「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が、8割を超えている。

【性別】

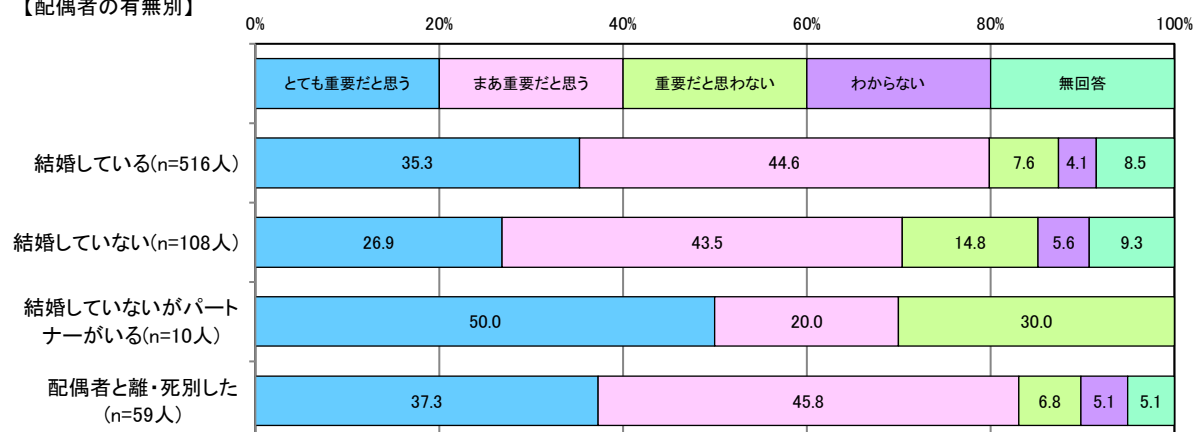


【世代別性別】



- ・配偶者の有無別でみると、「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が、いずれも7割以上となっている。

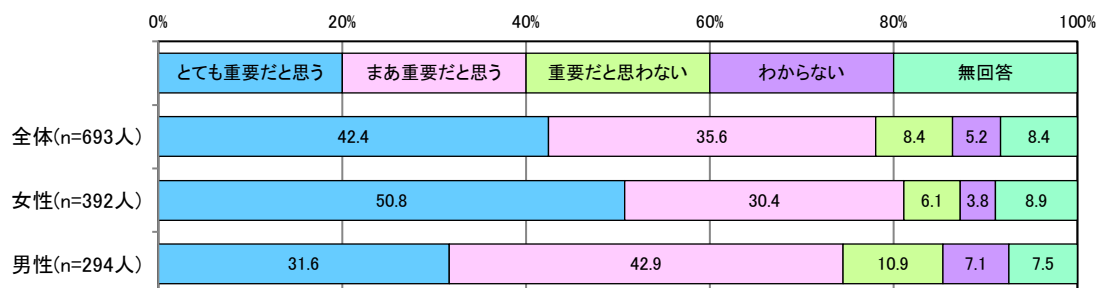
【配偶者の有無別】



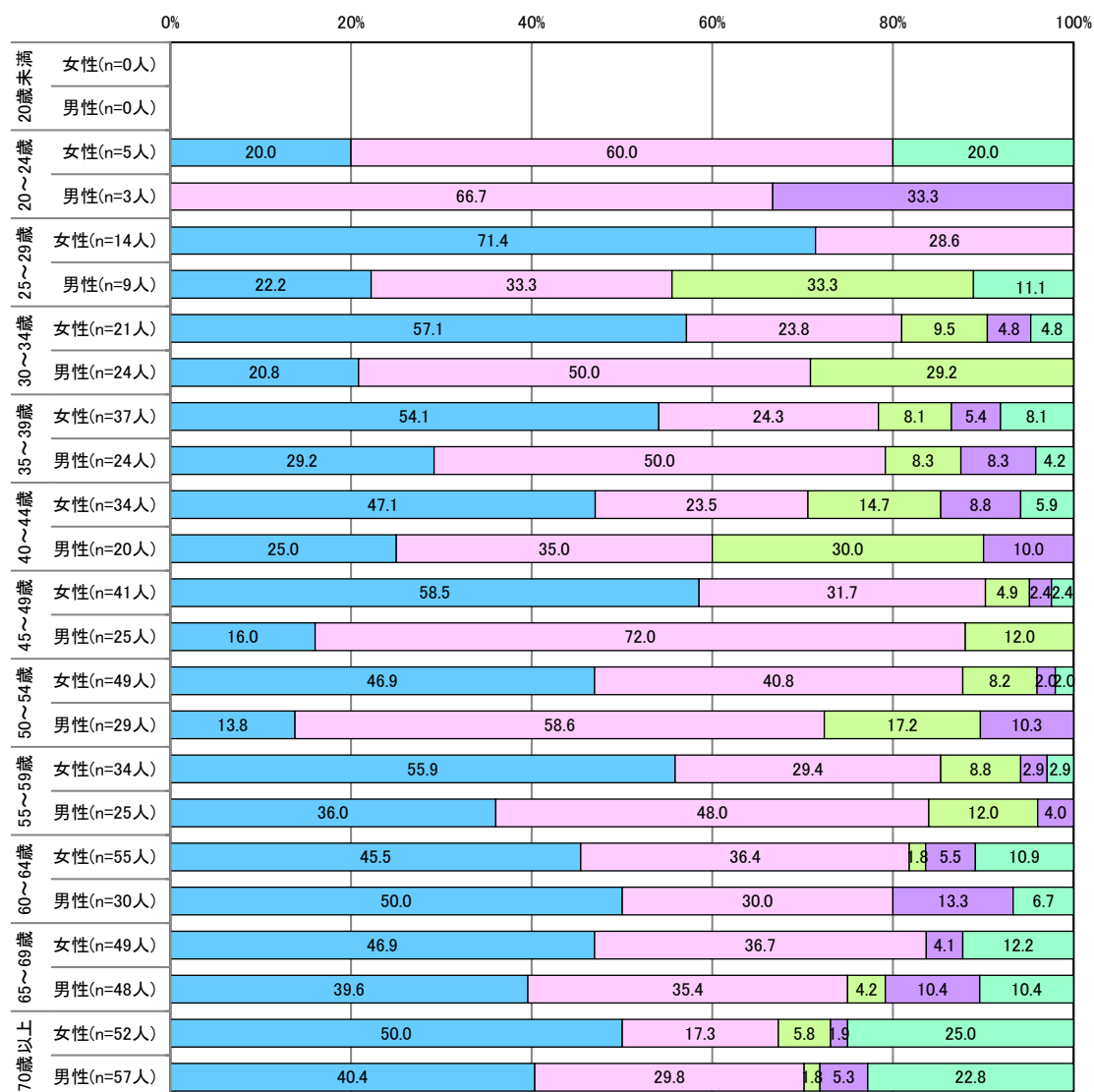
### 3. 非正規労働者の正社員・職員への転換・待遇改善

- ・性別でみると、女性は「とても重要だと思う」が約5割(50.8%)と最も多い。一方、男性は、「まあ重要だと思う」が約4割(42.9%)と最も多くなっている。男女ともに、「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」の回答割合の合計は、7割を超えている。
- ・世代別性別でみると、25歳～29歳の男女を除く、いずれの世代においても、「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が、6割を超えている。

【性別】

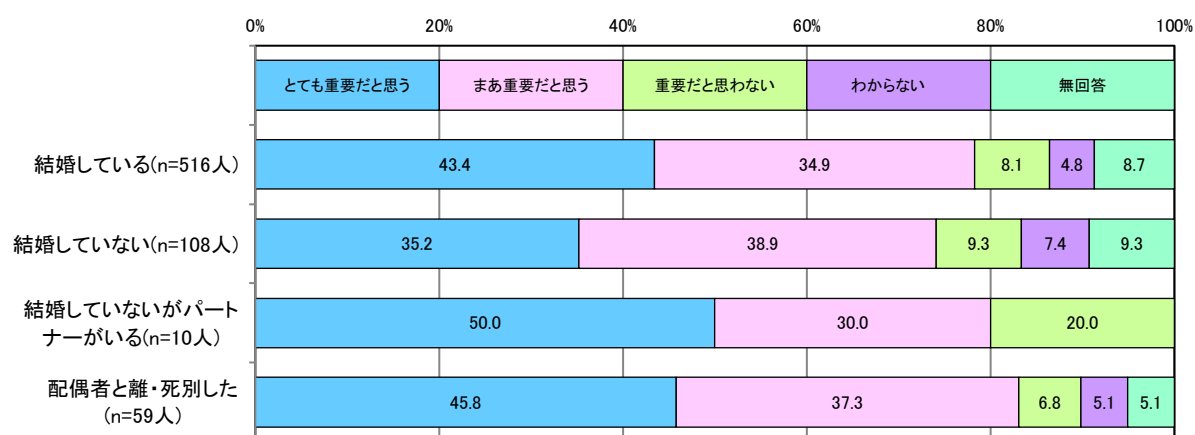


【世代別性別】



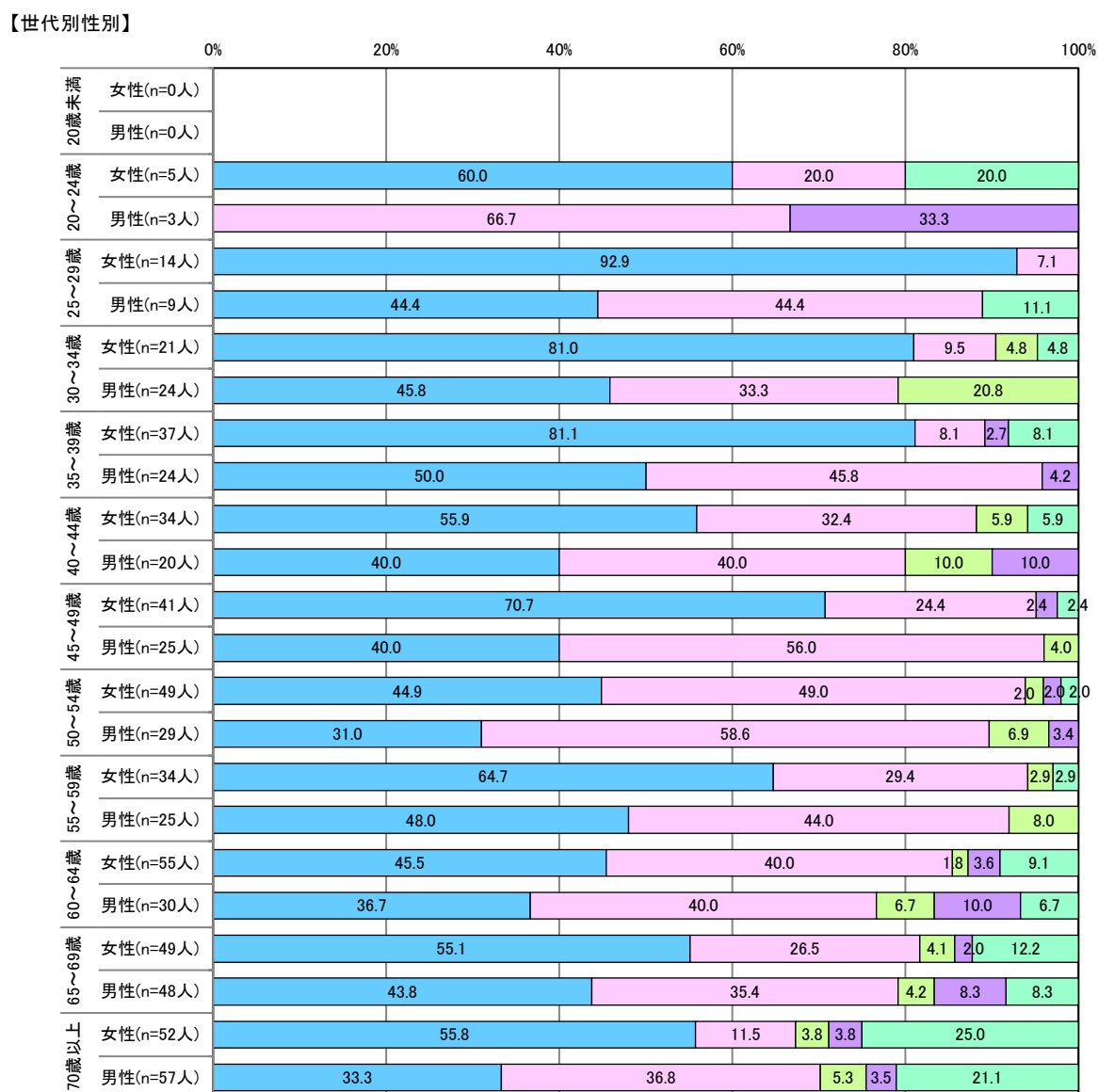
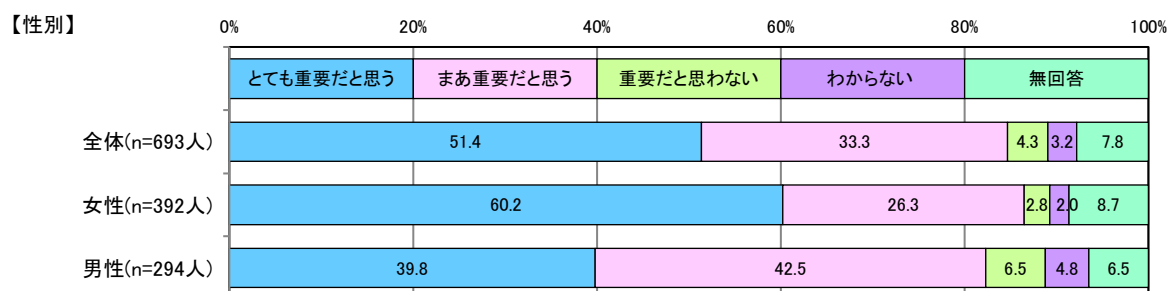
- ・配偶者の有無別でみると、いずれも「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が、いずれも7割以上となっている。

【配偶者の有無別】



#### 4. 在宅勤務、時短勤務・フレックスタイム等、勤務場所や勤務時間の柔軟化

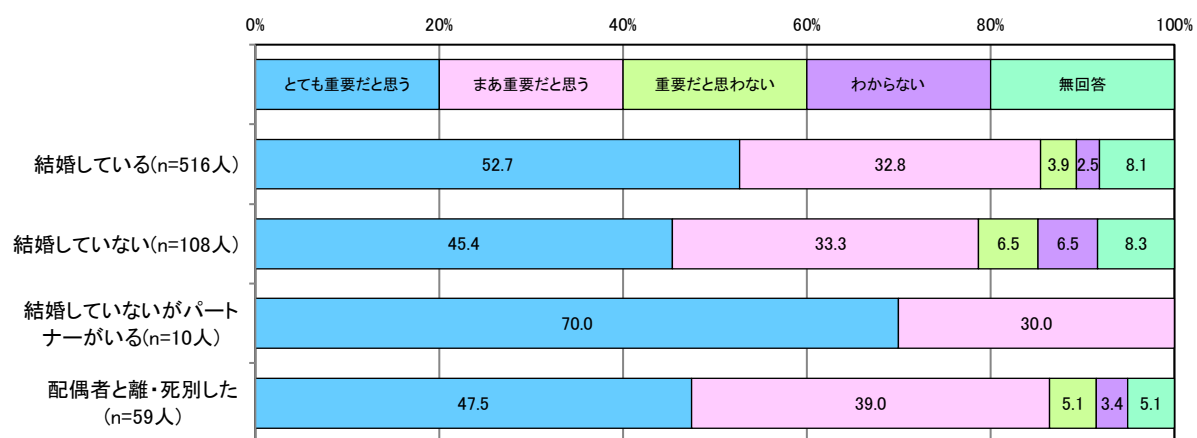
- ・性別でみると、女性は「とても重要だと思う」が約6割(60.2%)と最も多い。一方、男性は、「まあ重要だと思う」が約4割(42.5%)と最も多くなっている。男女ともに、「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」の回答割合の合計は、8割を超えている。
- ・世代別性別でみると、20歳～24歳の男性、70歳以上の女性を除き、いずれの世代でも「とても重要だと思う」と「まあ重要だと思う」の回答割合の合計が7割を超えている。





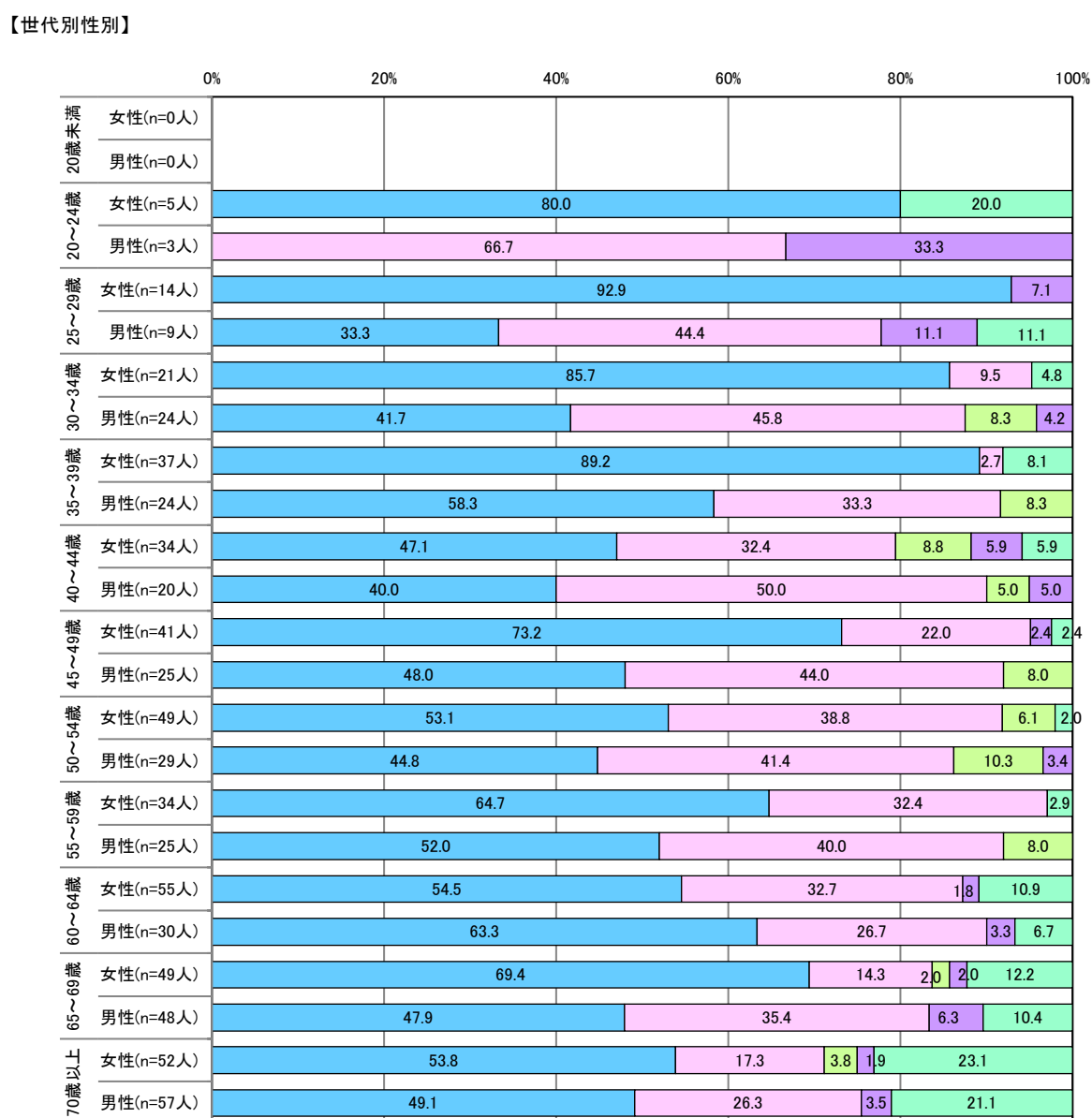
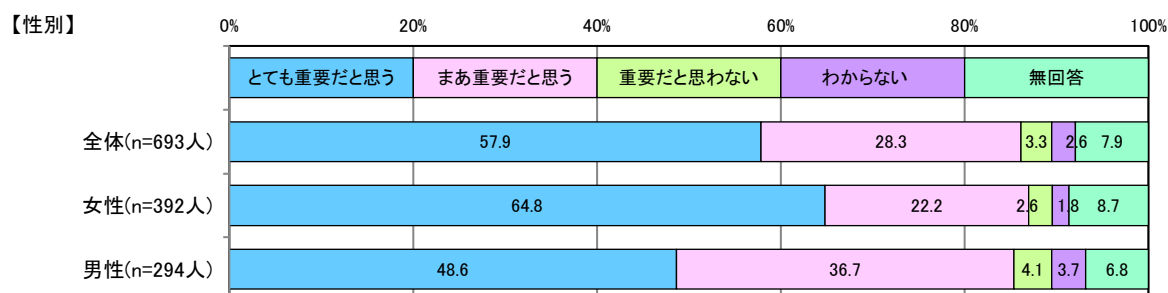
- ・配偶者の有無別でみると、「とても重要だと思う」と「まあ重要だと思う」の回答割合の合計が、いずれも7割以上となっている。

【配偶者の有無別】

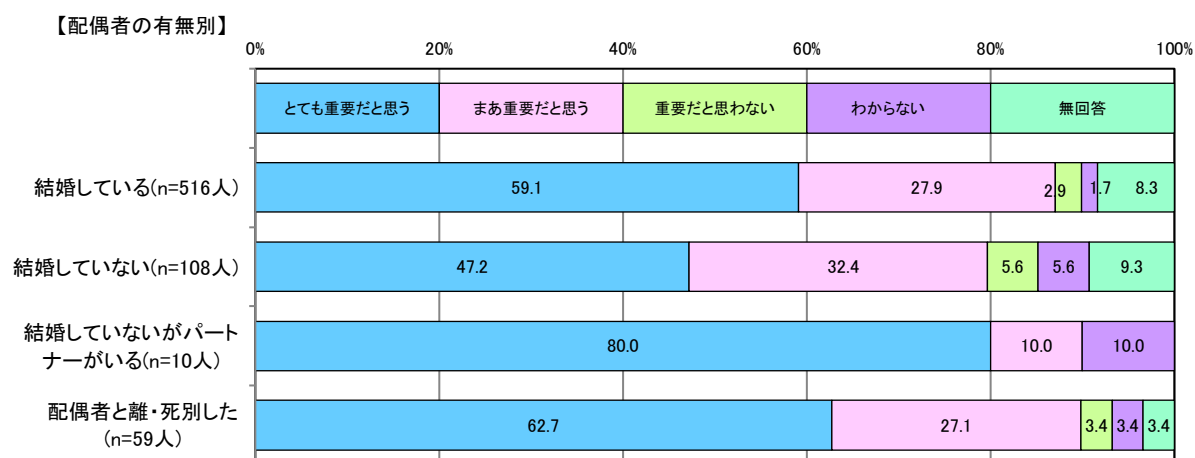


## 5. 出産や育児等による休業がハンディとならないような人事制度の導入

- ・性別でみると、「とても重要だと思う」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、女性が64.8%、男性が48.6%となっている。
- ・世代別性別でみると、20歳～29歳の男性、40歳～44歳の女性、70歳以上の男女を除き、いずれの世代でも「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が8割以上となっている。

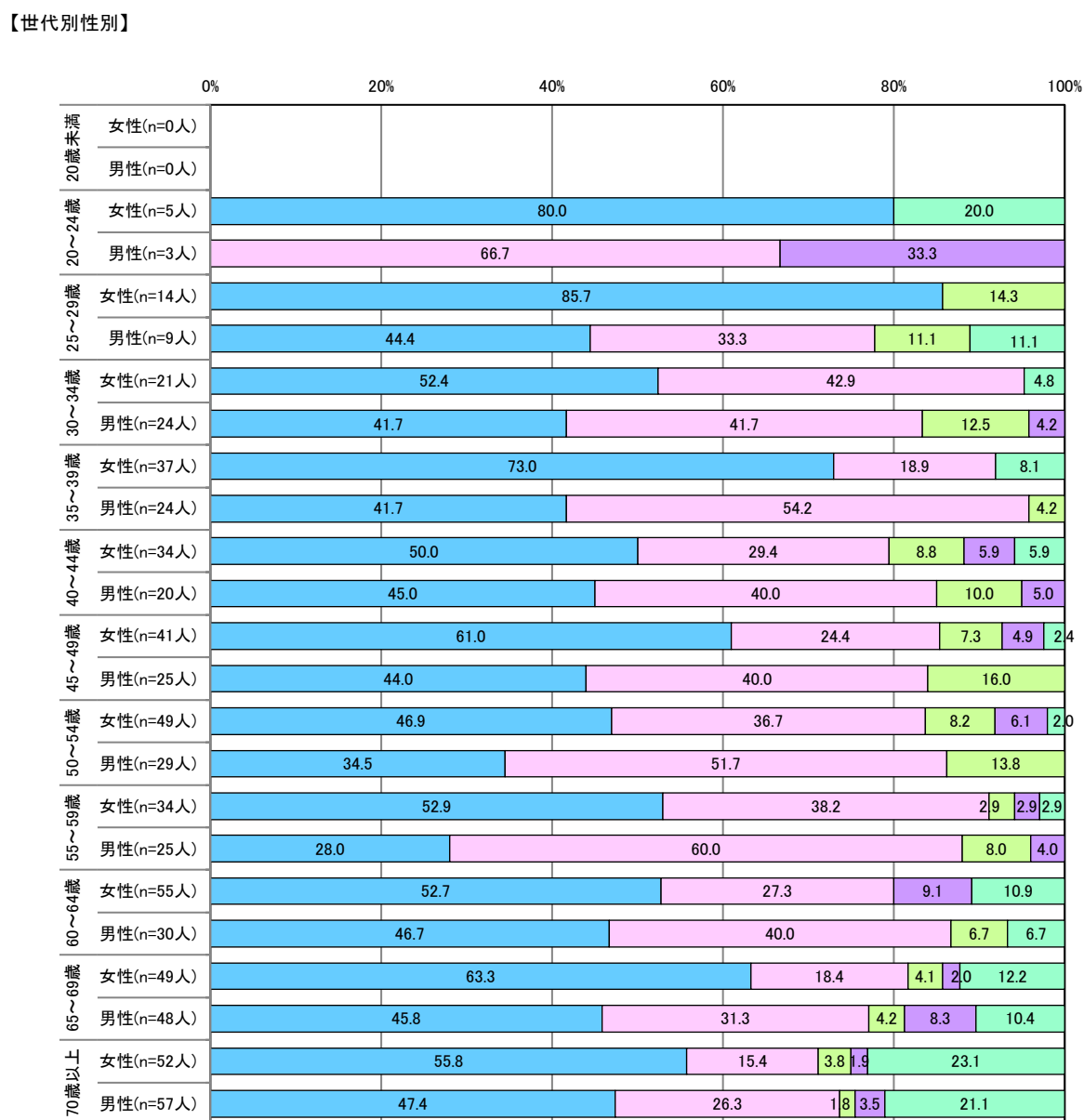
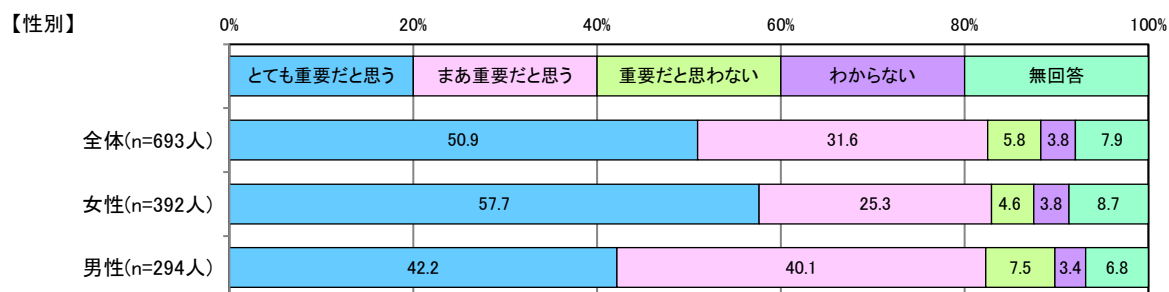


- ・配偶者の有無別でみると、「結婚していない」を除き、いずれも「とても重要だと思う」と「まあ重要だと思う」の回答割合の合計が8割以上となっている。



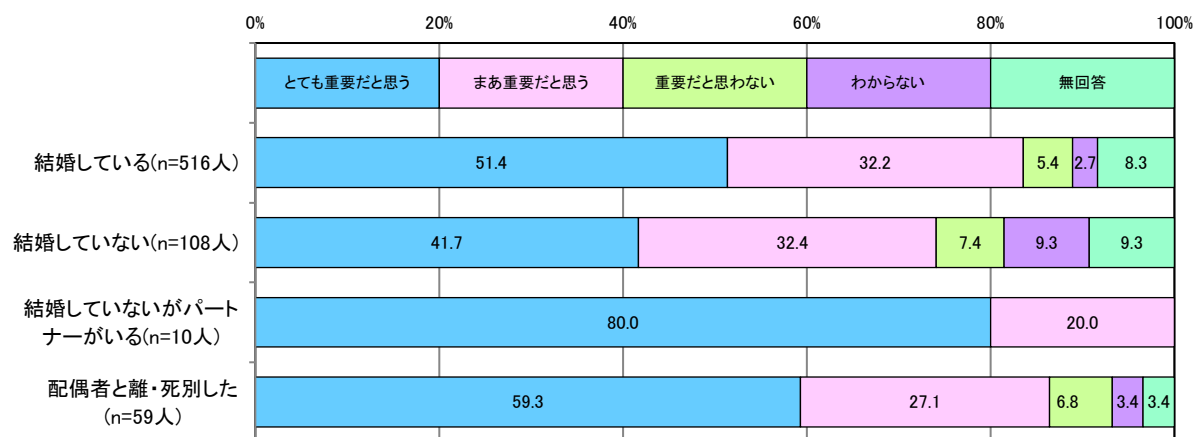
## 6. 企業内託児所や学童保育所などの設置

- ・性別でみると、「とても重要だと思う」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、女性が57.7%、男性が42.2%となっている。
- ・世代別性別でみると、20歳～24歳の男性を除き、いずれの世代においても「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が7割以上となっている。



- ・配偶者の有無別でみると、「とても重要だと思う」と「まあ重要だと思う」の回答割合の合計が、いずれも7割以上となっている。

【配偶者の有無別】

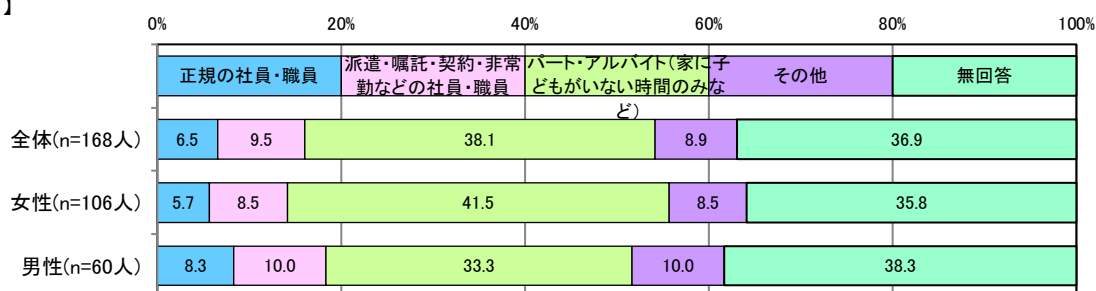


## 離職されている方におたずねします。

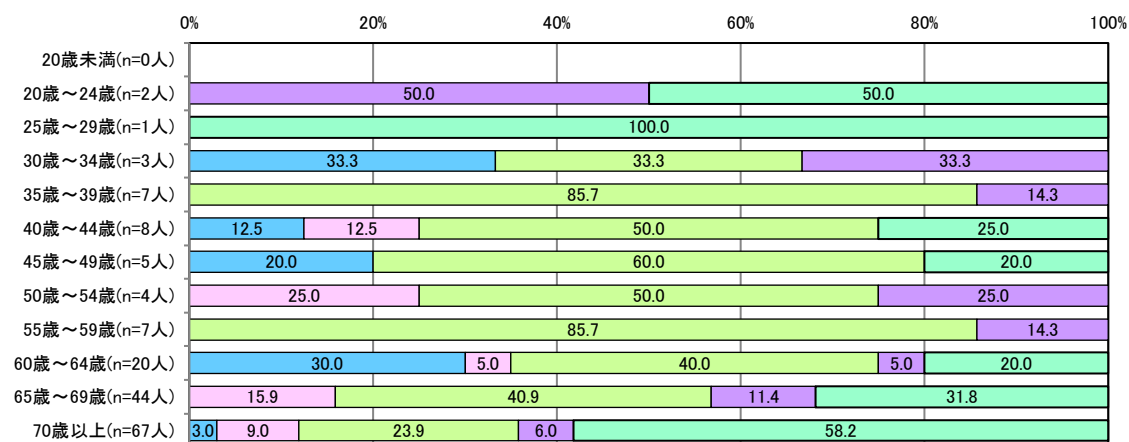
問 18 再就職される場合の雇用形態について希望されるものをお選びください。（〇は1つ）

- ・全体でみると、「パート・アルバイト（家に子どもがいない時間のみなど）」（38.1%）という回答が約4割と最も多く、次いで、「派遣・嘱託・契約・非常勤などの社員・職員」（9.5%）となっている。
- ・性別でみると、男女ともに「パート・アルバイト（家に子どもがいない時間のみなど）」が最も多くなっている。
- ・世代別でみると、30歳～34歳、60歳～64歳では、「正規の社員・職員」という回答が3割以上となっている。
- ・配偶者の有無別でみると、「正規の社員・職員」という回答が、「配偶者と離・死別した」では18.2%と約2割となっている。

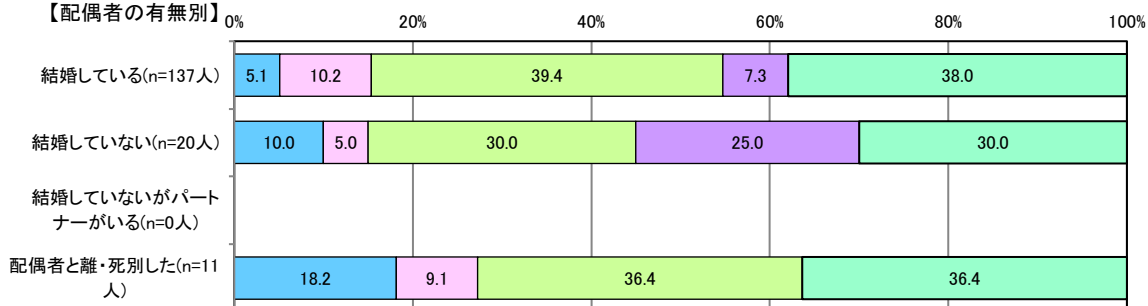
### 【性別】



### 【世代別】

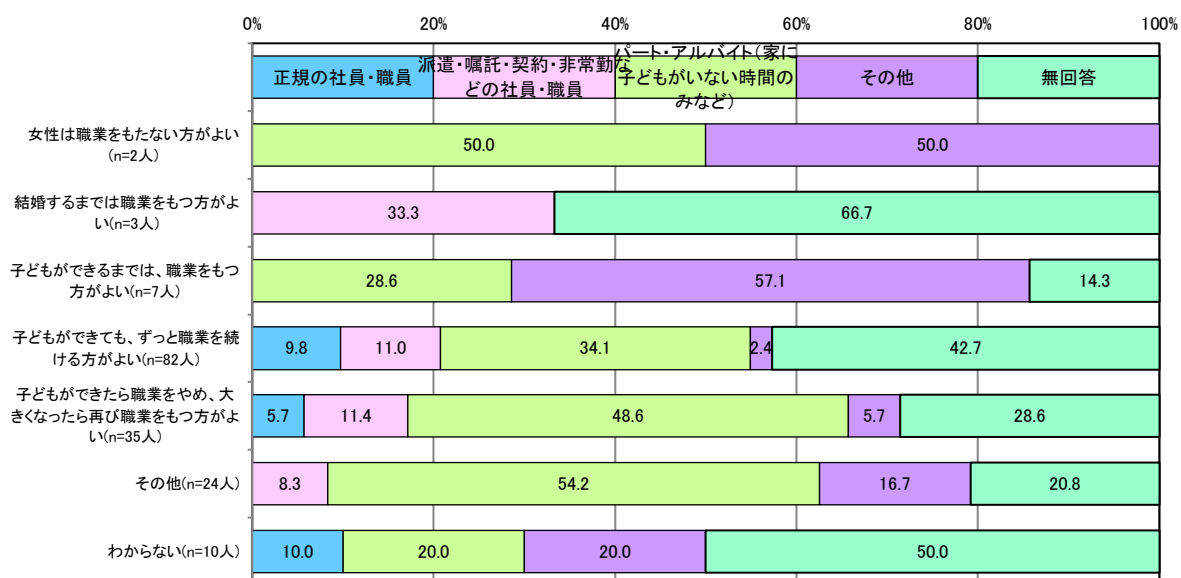


### 【配偶者の有無別】



- ・女性が職業を持つことについてみると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」では、「正規の社員・職員」という回答が 9.8%となっている。一方、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」では、「正規の社員・職員」という回答は 5.7%となっている。

【女性が職業を持つことについて】

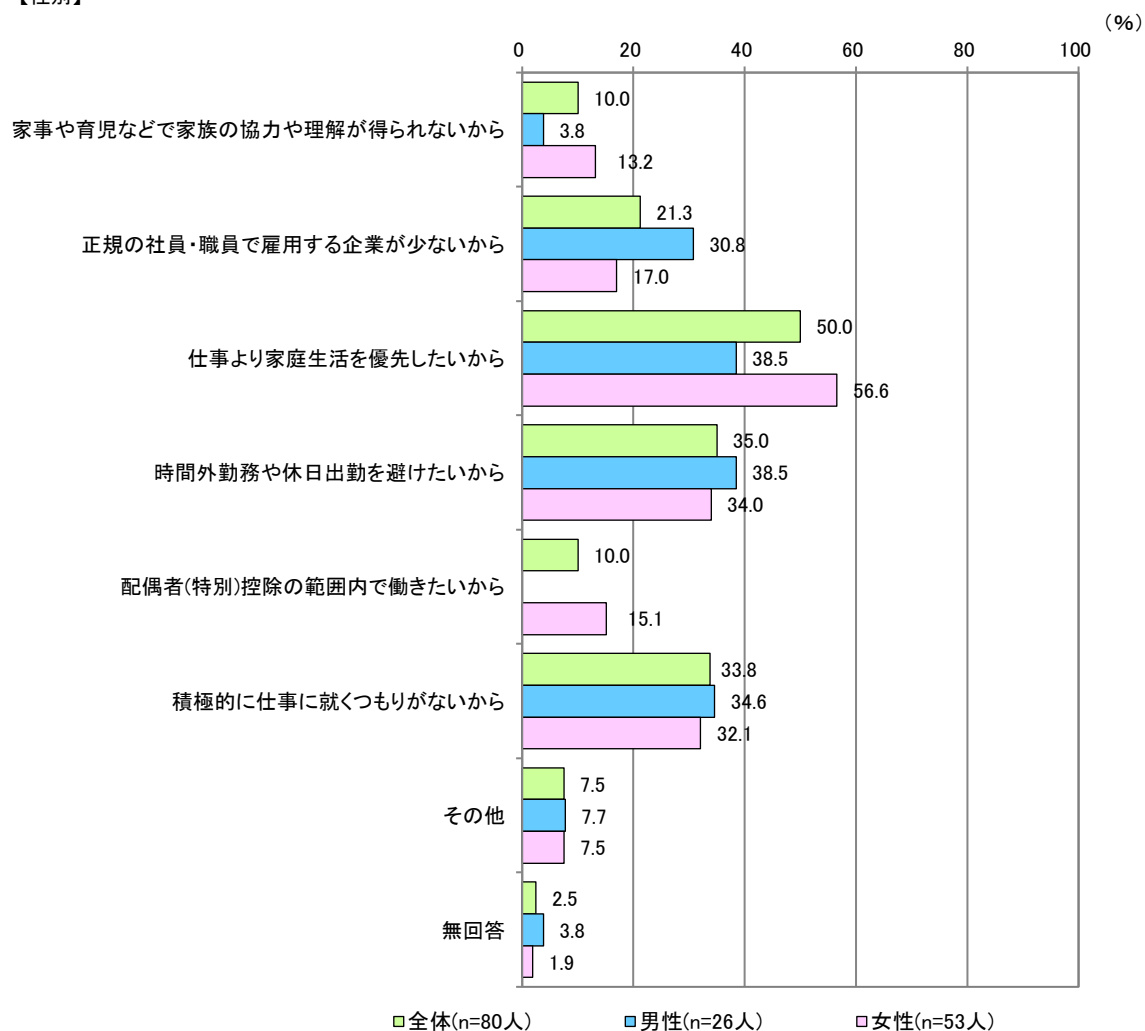


問 18 で「2. 派遣・嘱託などの社員・職員」または「3. パート・アルバイト」を選ばれた方にお  
たずねします。

問 19 その理由を次の中から、あなたのお考えに近いものをお選びください。（○は3つまで）

- ・全体でみると、「仕事より家庭生活を優先したいから」（50.0％）が最も多い回答となっ  
ている。次いで、「時間外勤務や休日出勤を避けたいから」（35.0％）、「積極的に仕事に就く  
つもりがないから」（33.8％）、「正規の社員・職員で雇用する企業が少ないから」  
（21.3％）、の順で続いている。
- ・性別でみると、女性は、「仕事より家庭生活を優先したいから」が最も多く、約6割とな  
っている。一方、男性は、「時間外勤務や休日出勤を避けたいから」、「仕事より家庭生活  
を優先したいから」が同率で最も多く、約4割となっている。
- ・年代別でみると、30歳～34歳、45歳～49歳を除く、いずれの世代も「仕事より家庭生活  
を優先したいから」という回答が多い傾向となっている。

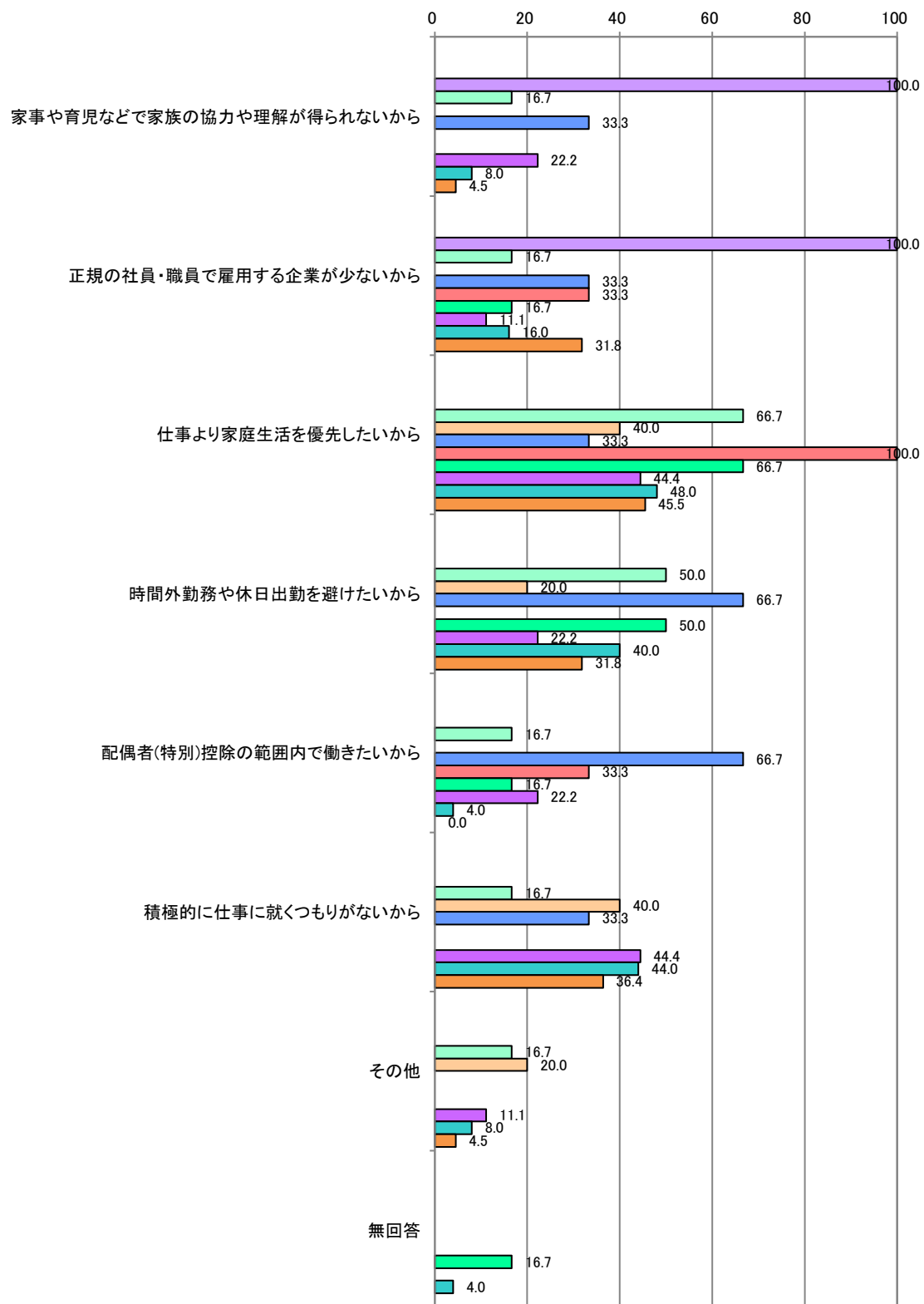
【性別】





【年代別】

(%)



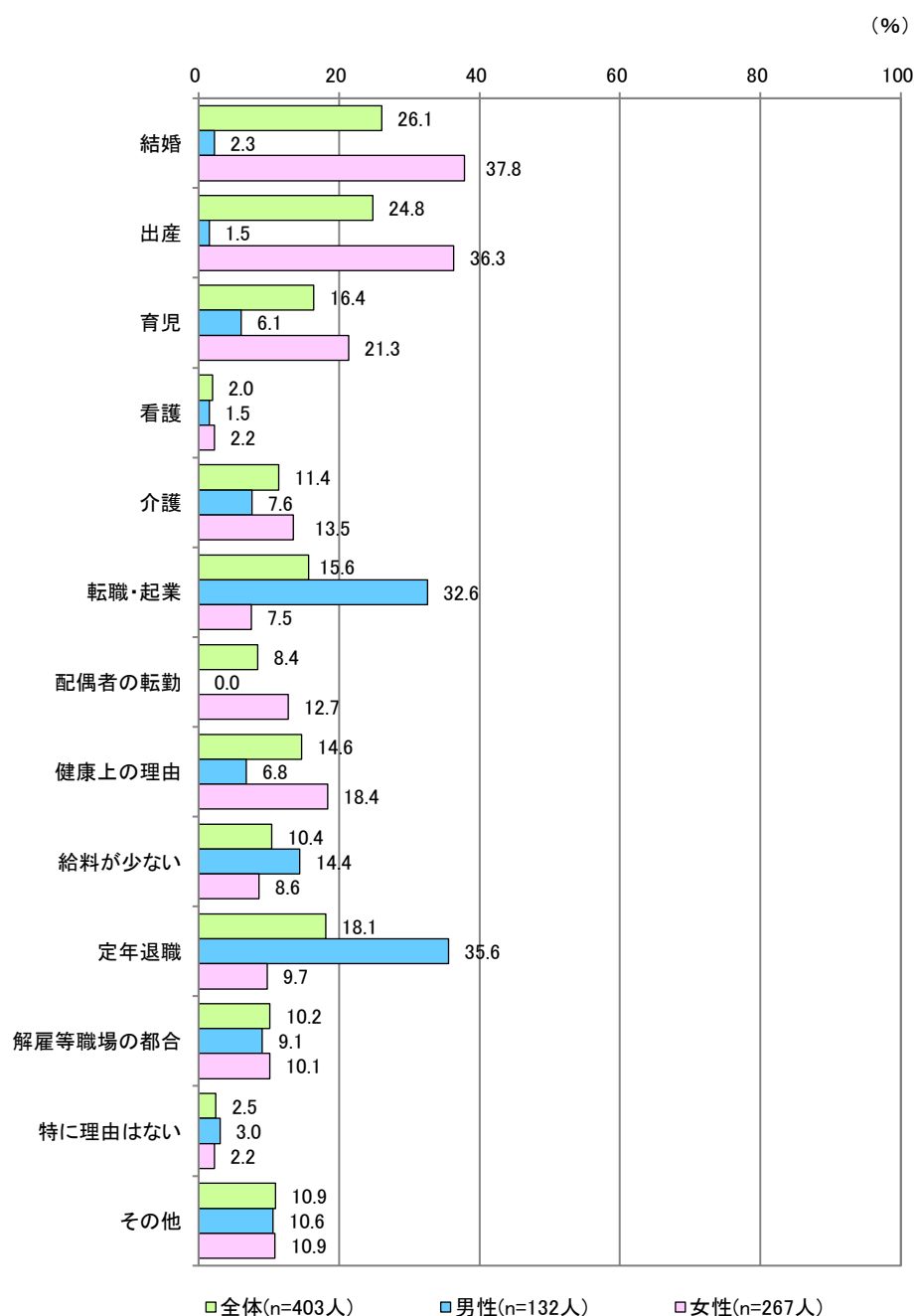
■ 20歳未満(n=0人)   ■ 20歳～24歳(n=0人)   ■ 25歳～29歳(n=0人)   ■ 30歳～34歳(n=1人)  
 ■ 35歳～39歳(n=6人)   ■ 40歳～44歳(n=5人)   ■ 45歳～49歳(n=3人)   ■ 50歳～54歳(n=3人)  
 ■ 55歳～59歳(n=6人)   ■ 60歳～64歳(n=9人)   ■ 65歳～69歳(n=25人)   ■ 70歳以上(n=22人)

## 離職経験のある方におたずねします。

問 20 離職の原因（理由）としてあてはまるものをお選びください。（〇は3つまで）

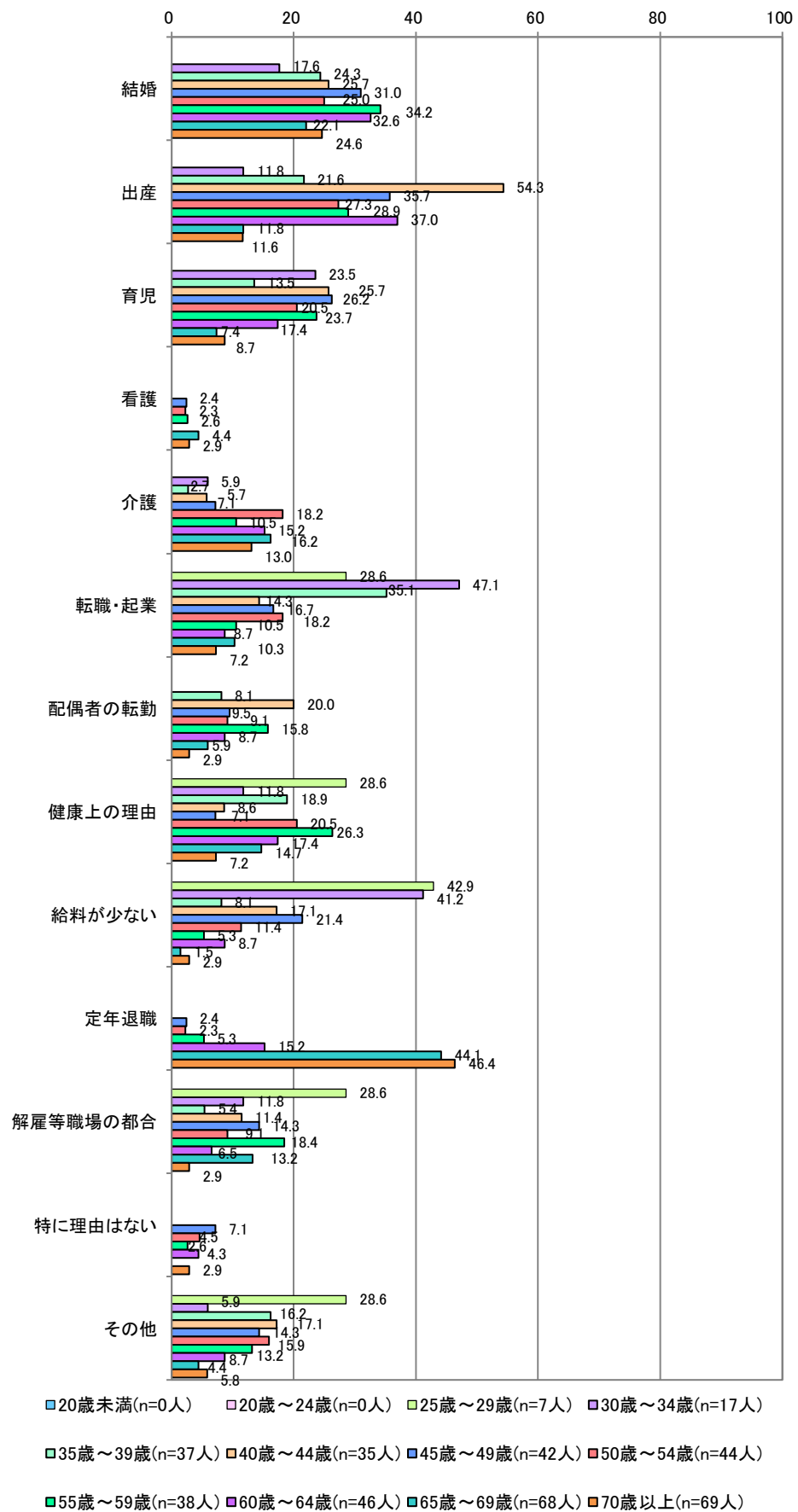
- ・全体でみると、「結婚」（26.1％）が最も多い回答となっている。次いで、「出産」（24.8％）、「定年退職」（18.1％）、「育児」（16.4％）の順が続いている。
- ・性別でみると、男性は、「定年退職」（35.6％）が最も多い。次いで、「転職・起業」（32.6％）、「給料が少ない」（14.4％）、「解雇等職場の都合」（9.1％）の順となっている。女性には、「結婚」（37.8％）、「出産」（36.3％）、「育児」（21.3％）の順となっている。（※無回答は、離職経験のない方として集計している）。

【性別】



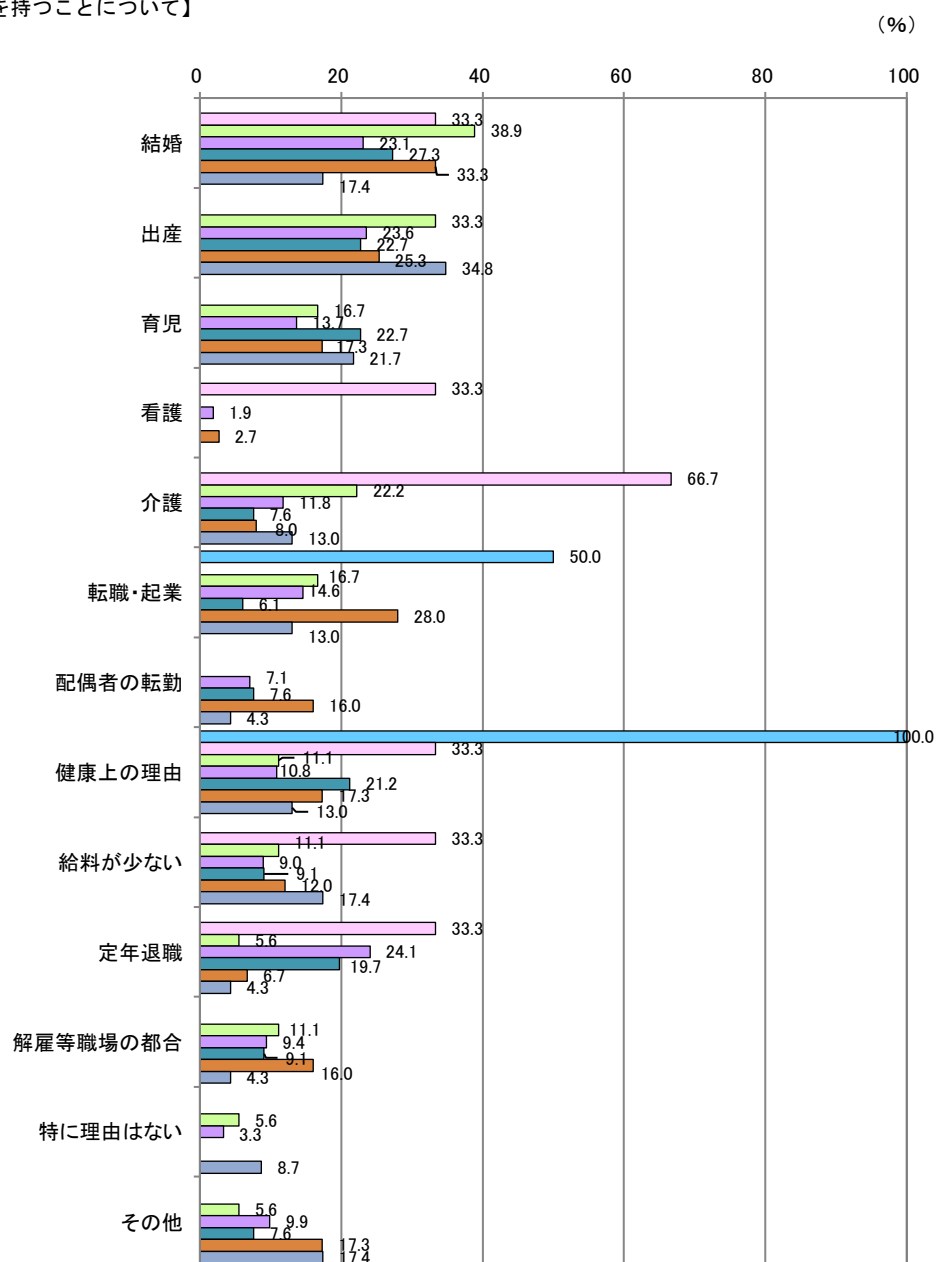
【年代別】

(%)



- ・女性が職業を持つことについてみると、「出産」という回答では、「子どもができるまでは、職業をもつ方がよい」は 33.3%、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」は 23.6%、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」は 22.7%となっている。

【女性が職業を持つことについて】

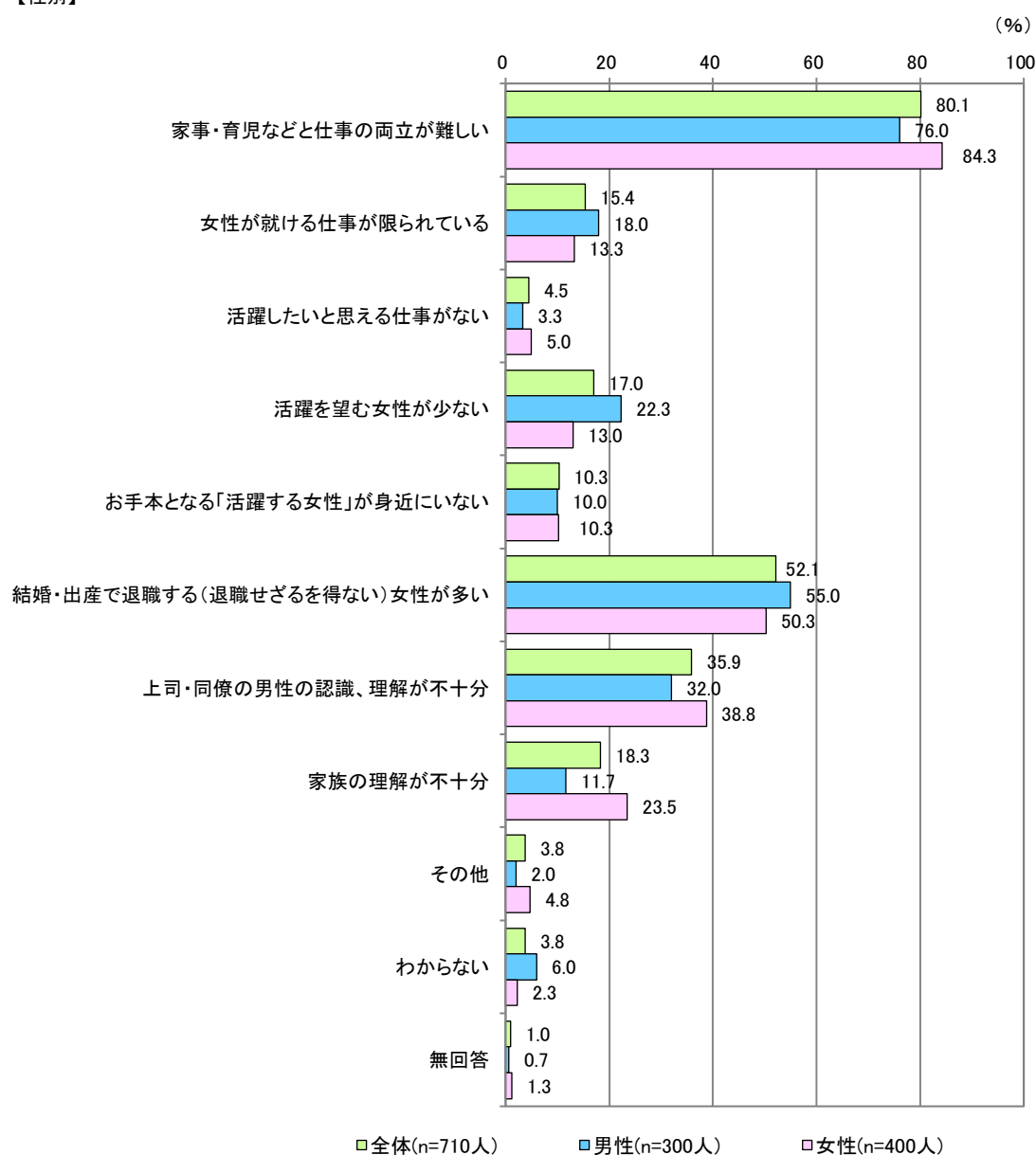


- 女性に職業をもたない方がよい(n=2人)
- 結婚するまでは職業をもつ方がよい(n=3人)
- 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい(n=18人)
- 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい(n=212人)
- 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい(n=66人)
- その他(n=75人)
- わからない(n=23人)

問 21 女性の活躍を進めるうえでどのような問題があると思いますか。（〇は3つまで）

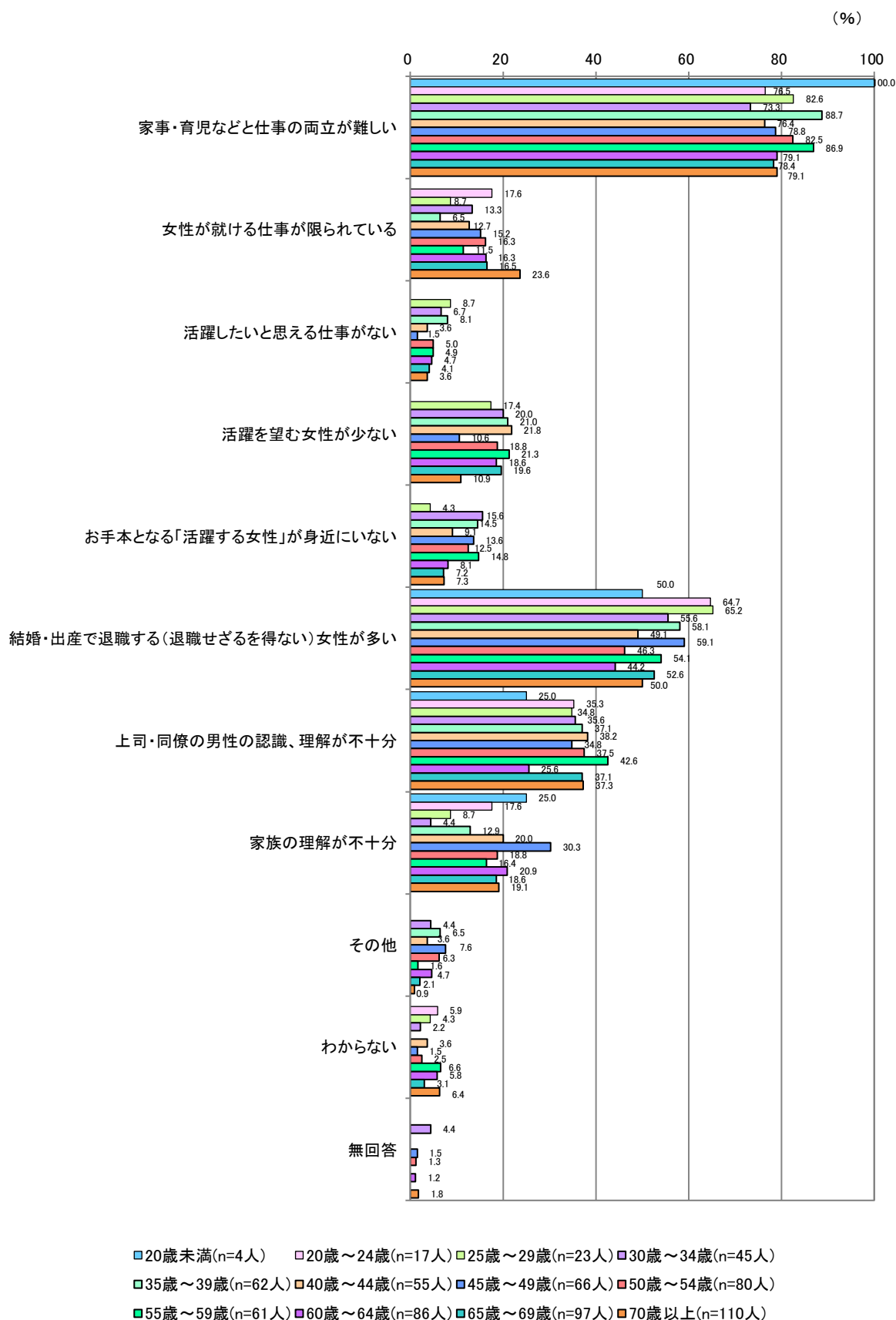
- ・全体でみると、「家事・育児などと仕事の両立が難しい」（80.1％）が最も多い回答となっている。次いで、「結婚・出産で退職する（退職せざるを得ない）女性が多い」（52.1％）、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」（35.9％）の順で続いている。
- ・性別でみると、男性は、「家事・育児などと仕事の両立が難しい」（76.0％）、「結婚・出産で退職する（退職せざるを得ない）女性が多い」（55.0％）、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」（32.0％）、「活躍を望む女性が少ない」（22.3％）、「女性が就ける仕事に限られている」（18.0％）の順となっている。女性も、「家事・育児などと仕事の両立が難しい」（84.3％）、「結婚・出産で退職する（退職せざるを得ない）女性が多い」（50.3％）、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」（38.8％）、「家族の理解が不十分」（23.5％）の順となっている。

【性別】



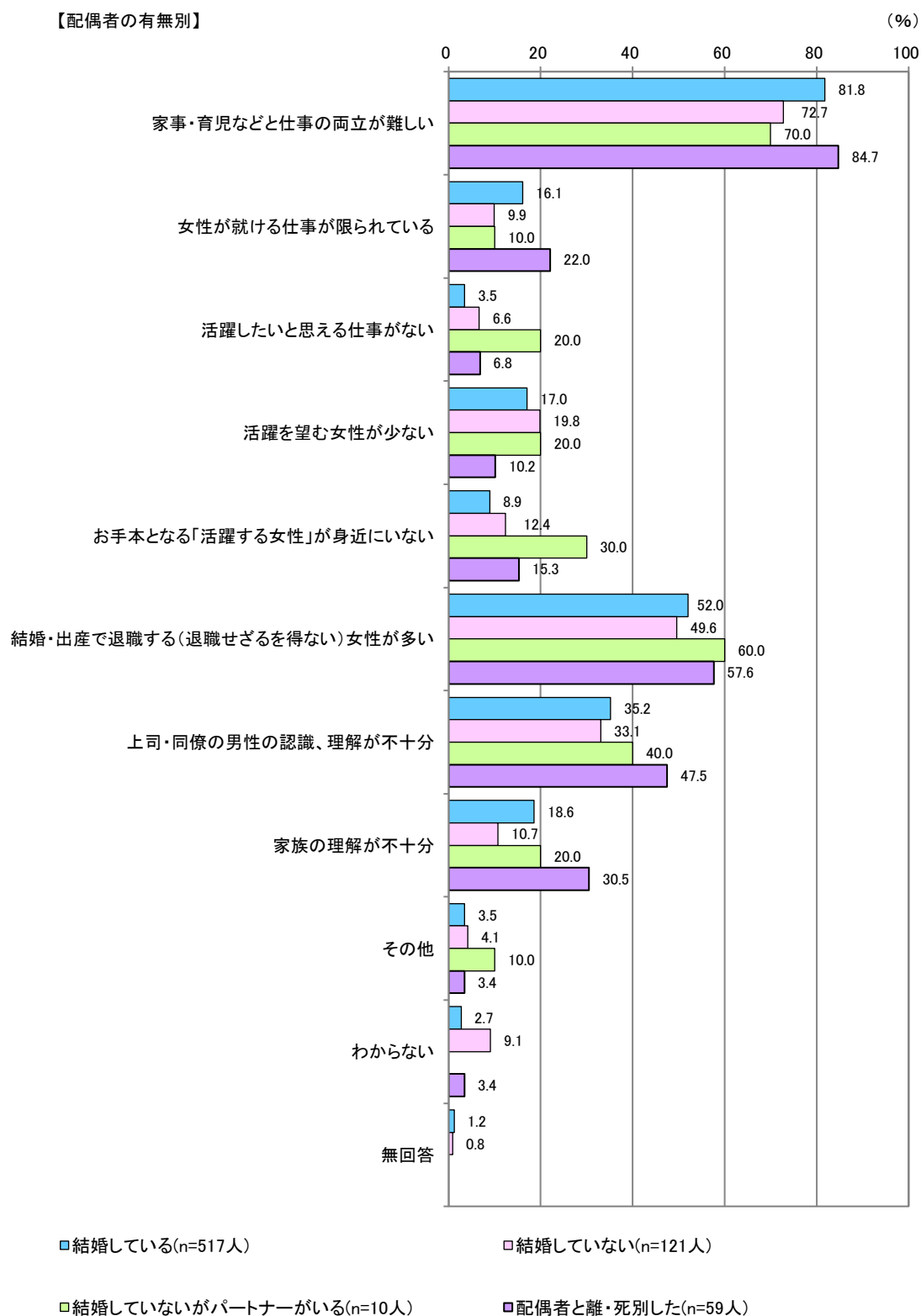
- ・年代別でみると、いずれの年代も「家事・育児などと仕事の両立が難しい」という回答が最も多くなっている。次いで、「結婚・出産で退職する（退職せざるを得ない）女性が多い」、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」と続いている。

【年代別】



・配偶者の有無別でみると、いずれも「家事・育児などと仕事の両立が難しい」が7割以上となり、最も多くなっている。次いで、「結婚・出産で退職する（退職せざるを得ない）女性が多い」、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」と続いている。

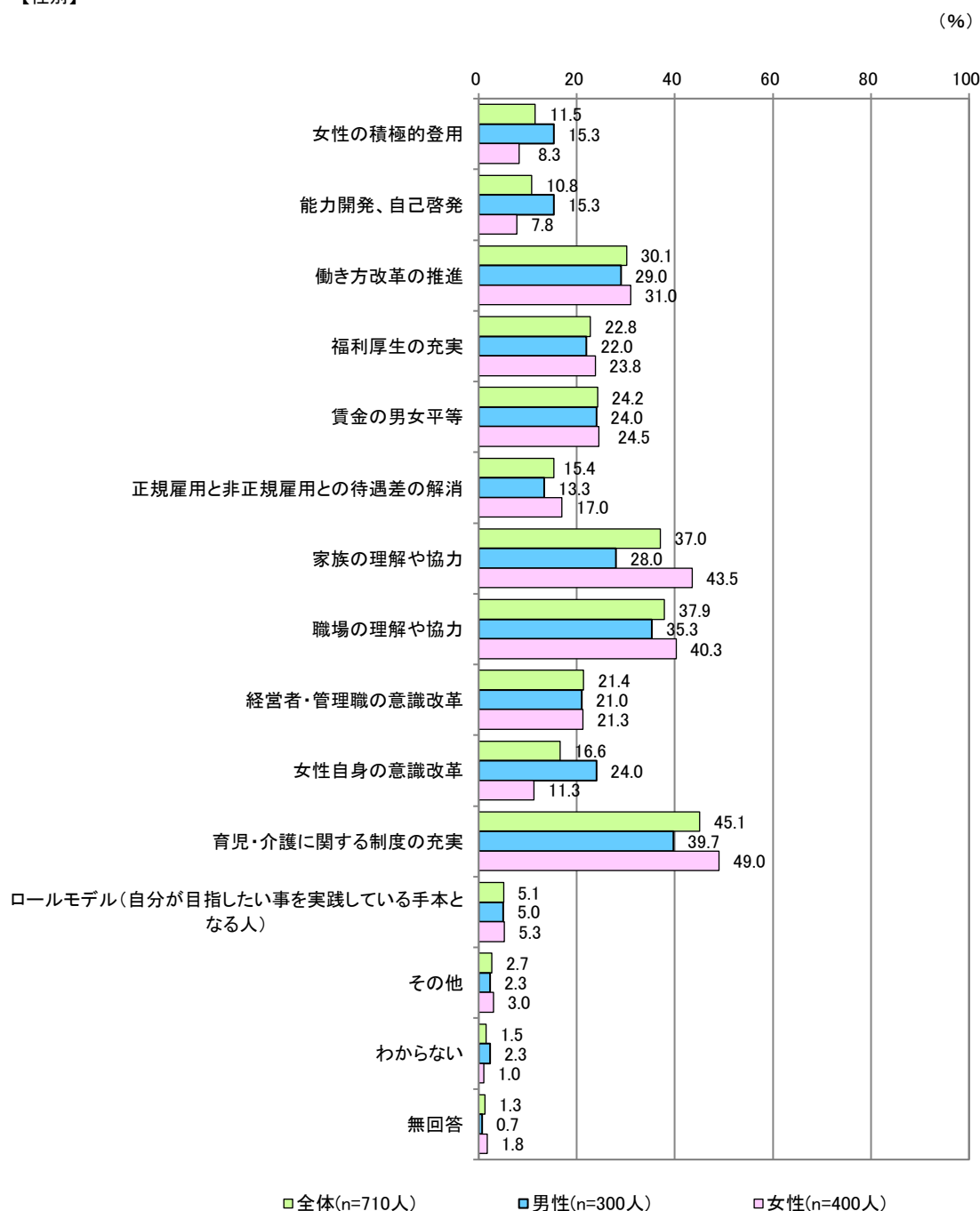
【配偶者の有無別】



問 22 女性が意欲をもって働き続けるためには、何が必要だと思いますか。（〇は3つまで）

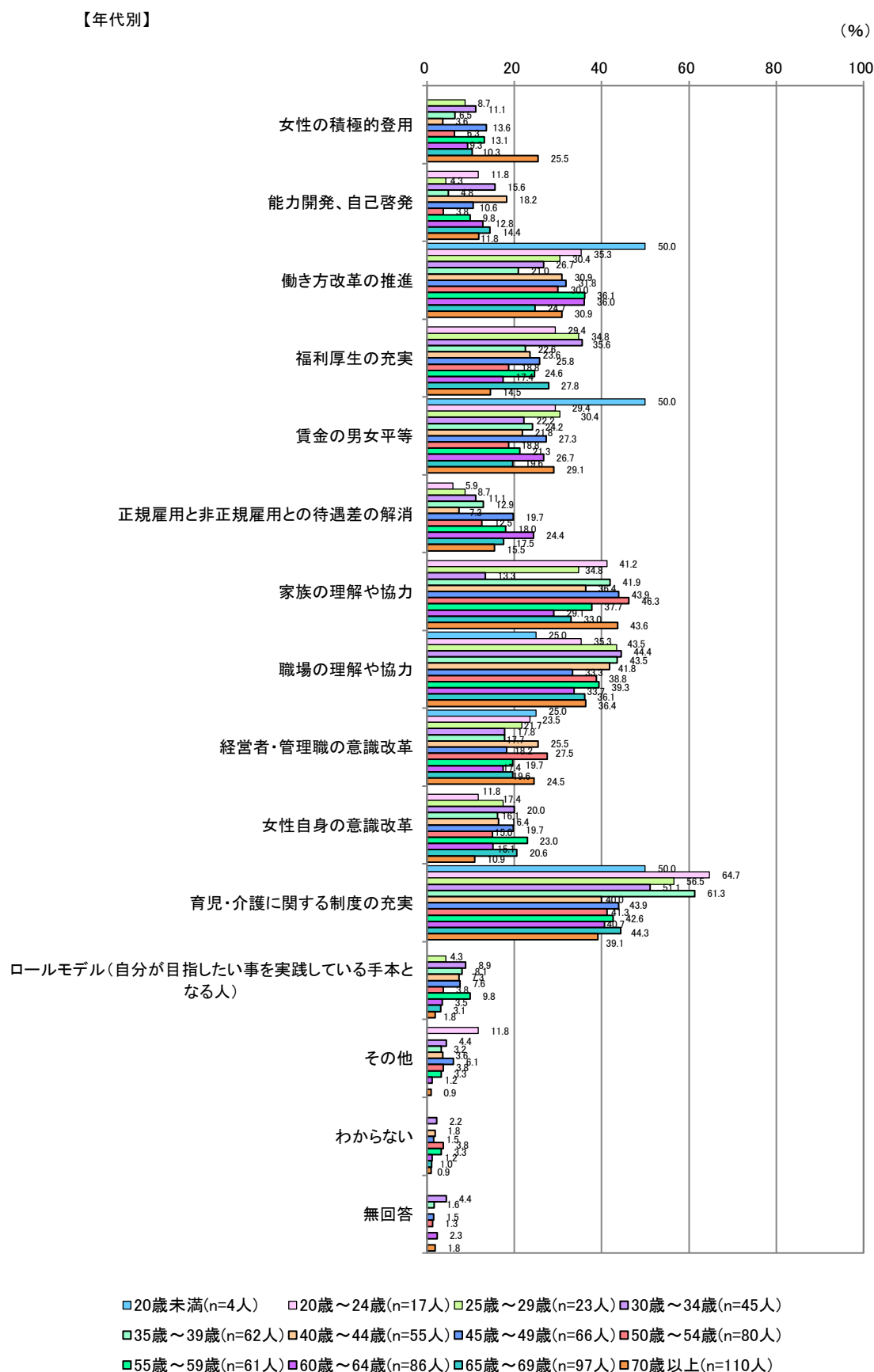
- ・全体でみると、「育児・介護に関する制度の充実」（45.1%）が最も多い回答となっている。次いで、「職場の理解や協力」（37.9%）、「家族の理解や協力」（37.0%）、「働き方改革の推進」（30.1%）の順で続いている。
- ・性別でみると、男女とも、「育児・介護に関する制度の充実」が最も多くなっている。次いで、男性では、「職場の理解や協力」（35.3%）と「働き方改革の推進」（29.0%）が続いている。一方、女性では、「家族の理解や協力」（43.5%）「職場の理解や協力」（40.3%）と続いている。

【性別】

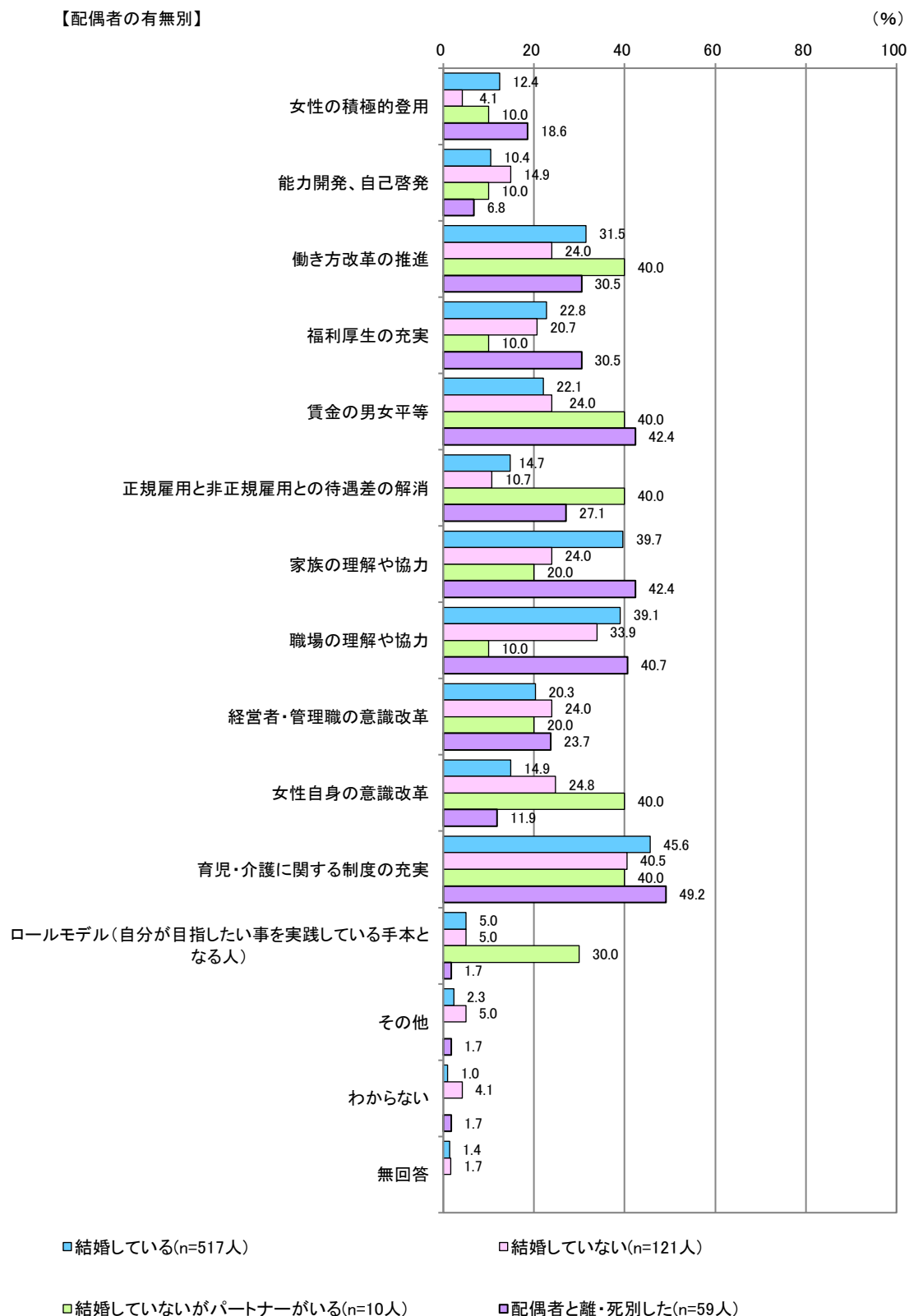




- ・年代別でみると、50 歳～54 歳、70 歳以上を除き、いずれの年代でも、「育児・介護に関する制度の充実」が最も多くなっている。一方、50 歳～54 歳、70 歳以上では、「家族の理解や協力」が最も多くなっている。



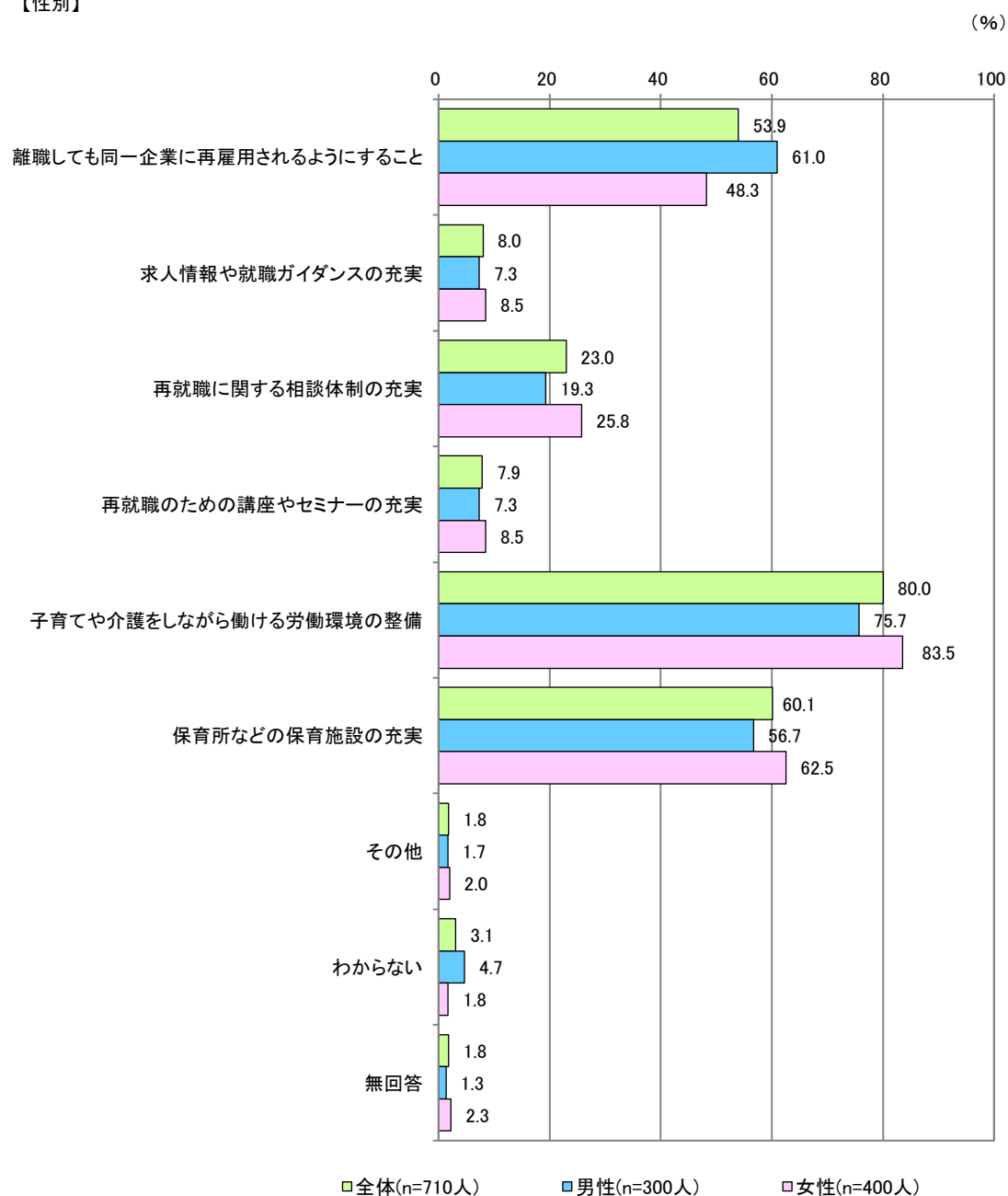
・配偶者の有無別でみると、「結婚している」、「結婚していない」、「配偶者と離・死別した」では、「育児・介護に関する制度の充実」が最も多くなっている。一方で、「結婚していないがパートナーがいる」では、「育児・介護に関する制度の充実」、「働き方改革の推進」、「賃金の男女平等」、「正規雇用と非正規雇用との待遇差の解消」、「女性自身の意識改革」が同率で最も多くなっている。



問 23 出産・育児などで離職した女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要だと思いますか。（〇は3つまで）

- ・全体でみると、「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」（80.0％）が最も多い回答となっている。次いで、「保育所などの保育施設の充実」（60.1％）、「離職しても同一企業に再雇用されるようにすること」（53.9％）の順で続いている。
- ・性別でみると、男女とも、「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」が最も多くなっている。次いで、男性は「離職しても同一企業に再雇用されるようにすること」、「保育所などの保育施設の充実」、女性は「保育所などの保育施設の充実」、「離職しても同一企業に再雇用されるようにすること」と続いている。

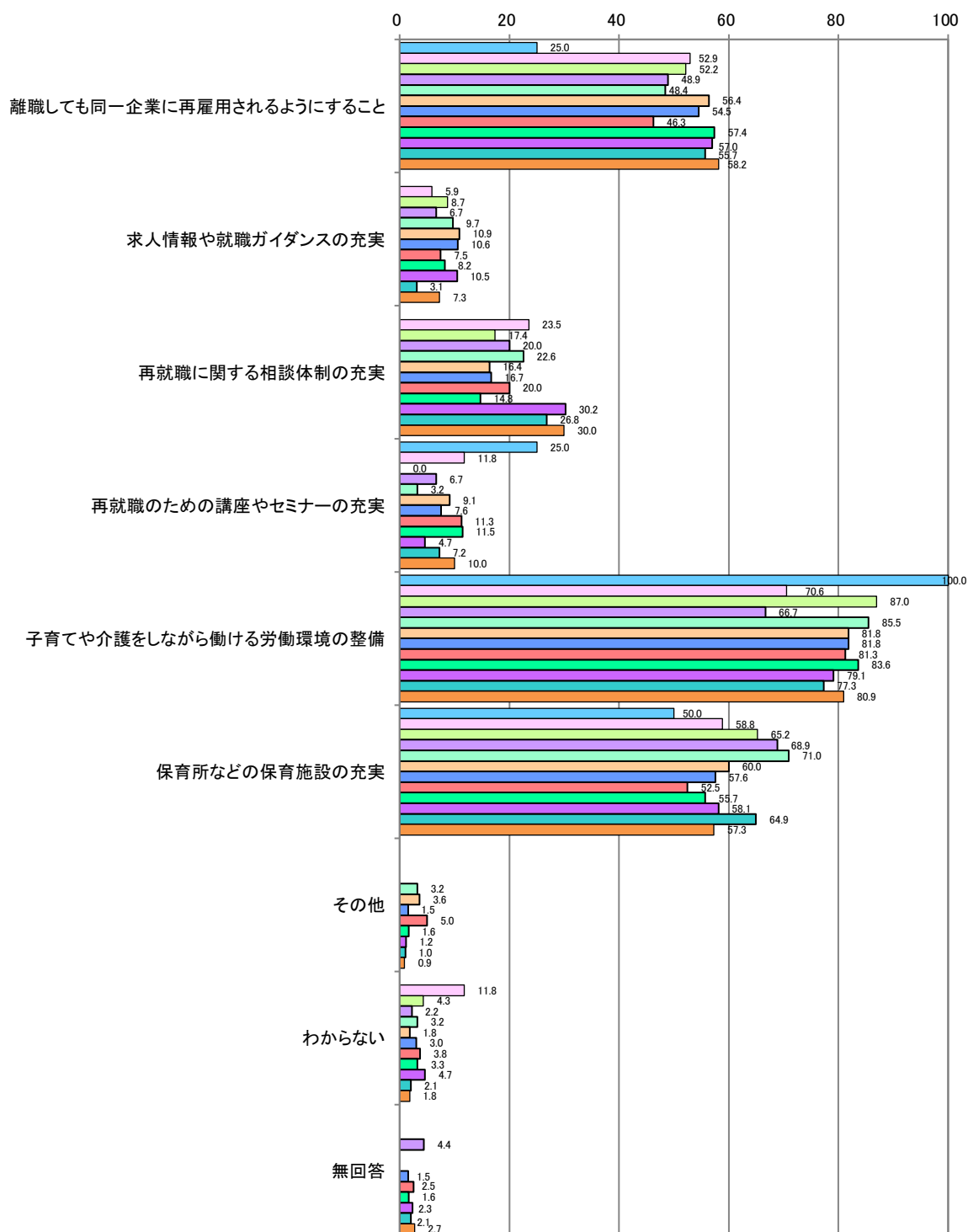
【性別】



- ・年代別でみると、いずれの年代でも、上位3項目は一致している。「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」という回答では、30歳～34歳を除く、いずれの年代でも回答割合が7割を超えている。

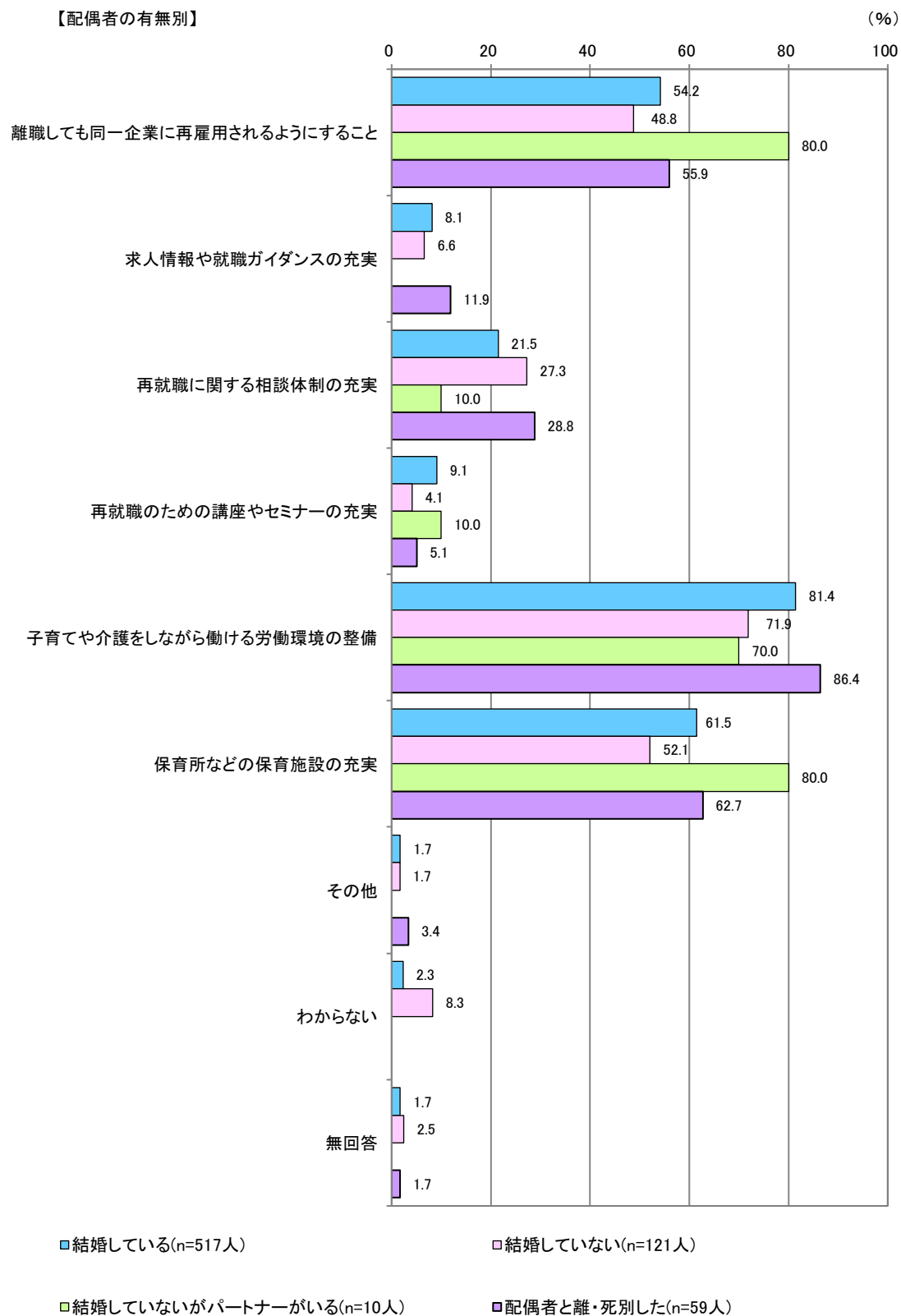
【年代別】

(%)



■20歳未満(n=4人) ■20歳～24歳(n=17人) ■25歳～29歳(n=23人) ■30歳～34歳(n=45人)  
 ■35歳～39歳(n=62人) ■40歳～44歳(n=55人) ■45歳～49歳(n=66人) ■50歳～54歳(n=80人)  
 ■55歳～59歳(n=61人) ■60歳～64歳(n=86人) ■65歳～69歳(n=97人) ■70歳以上(n=110人)

- ・配偶者の有無別でみると、「結婚していないがパートナーがいる」を除く、いずれも「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」が7割以上と、最も多くなっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「離職しても同一企業に再雇用されるようにすること」、「保育所などの保育施設の充実」が同率で最も多くなっている。



---

## 仕事と生活の調和に関するについて

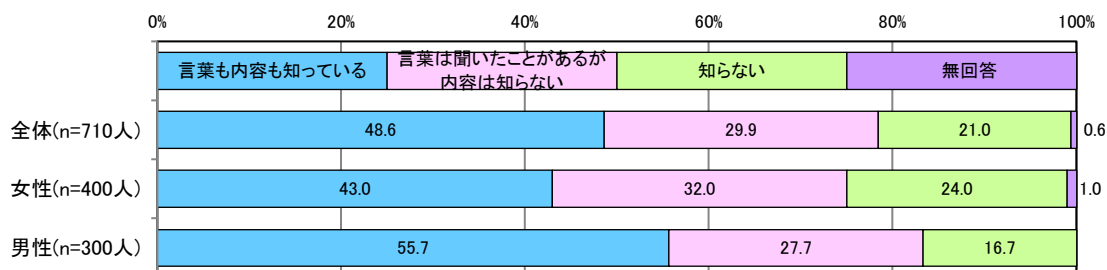
---



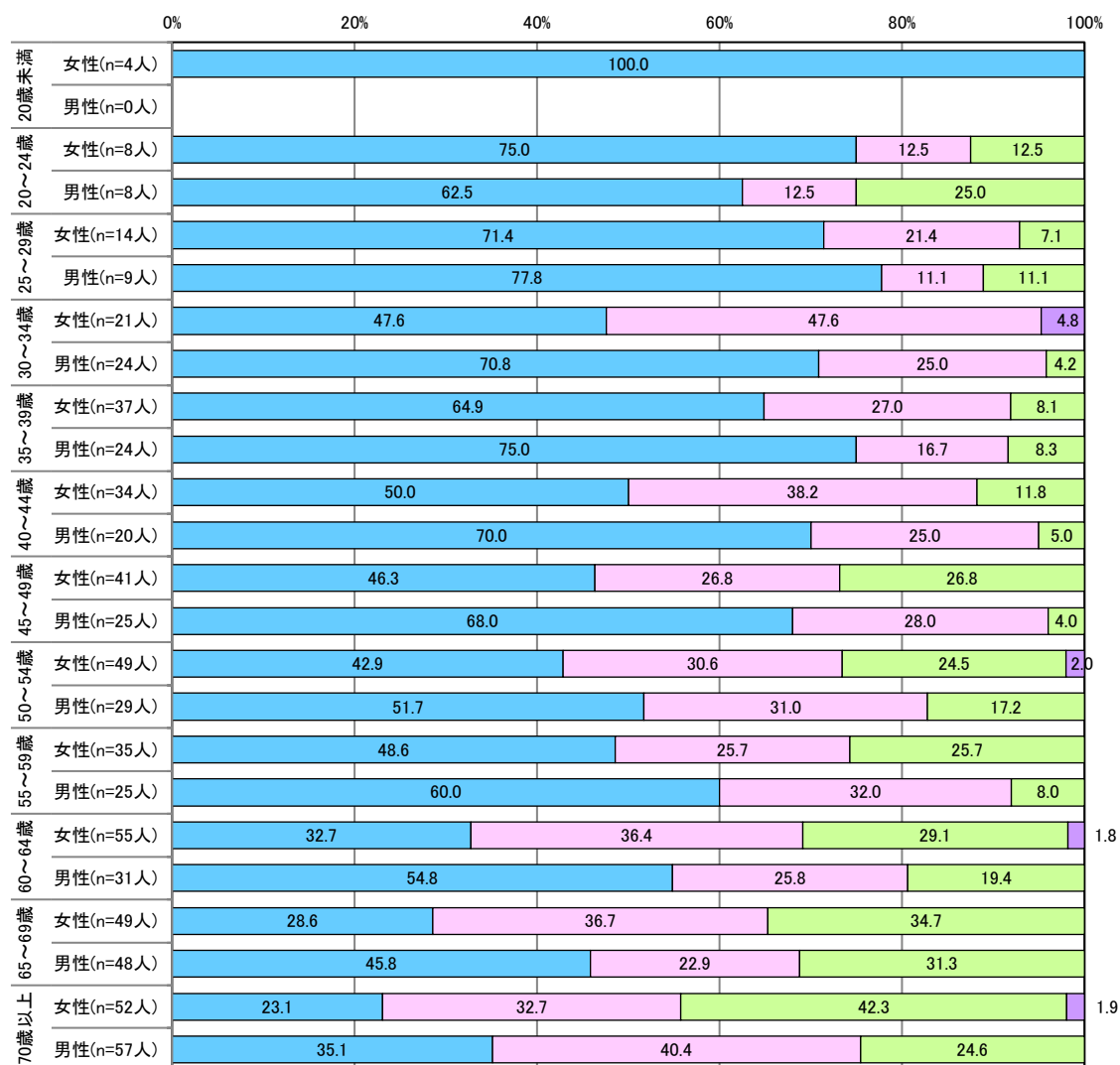
問 24 あなたは、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉をご存知ですか。（○は 1 つ）

- ・性別でみると、男女ともに、「言葉も内容も知っている」という回答が最も多く、女性（43.0%）、男性（55.7%）となっている。
- ・世代別性別でみると、「言葉も内容も知っている」という回答割合が5割以上は、20歳未満の女性、20歳～29歳の男女、30歳～34歳の男性、35歳～44歳の男女、45歳～64歳男性となっている。

【性別】



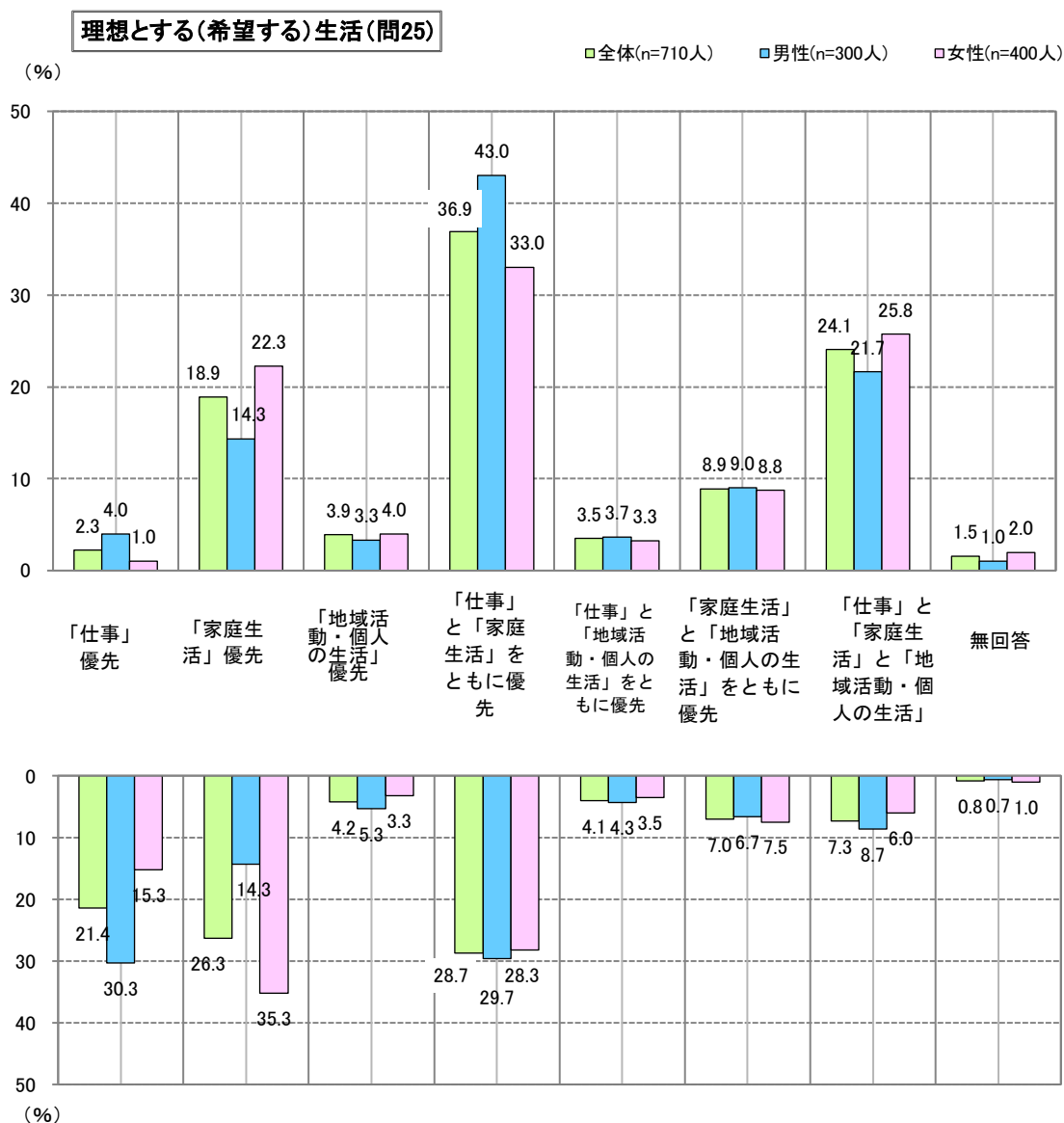
【世代別性別】





## 問 25 理想とする（希望する）生活

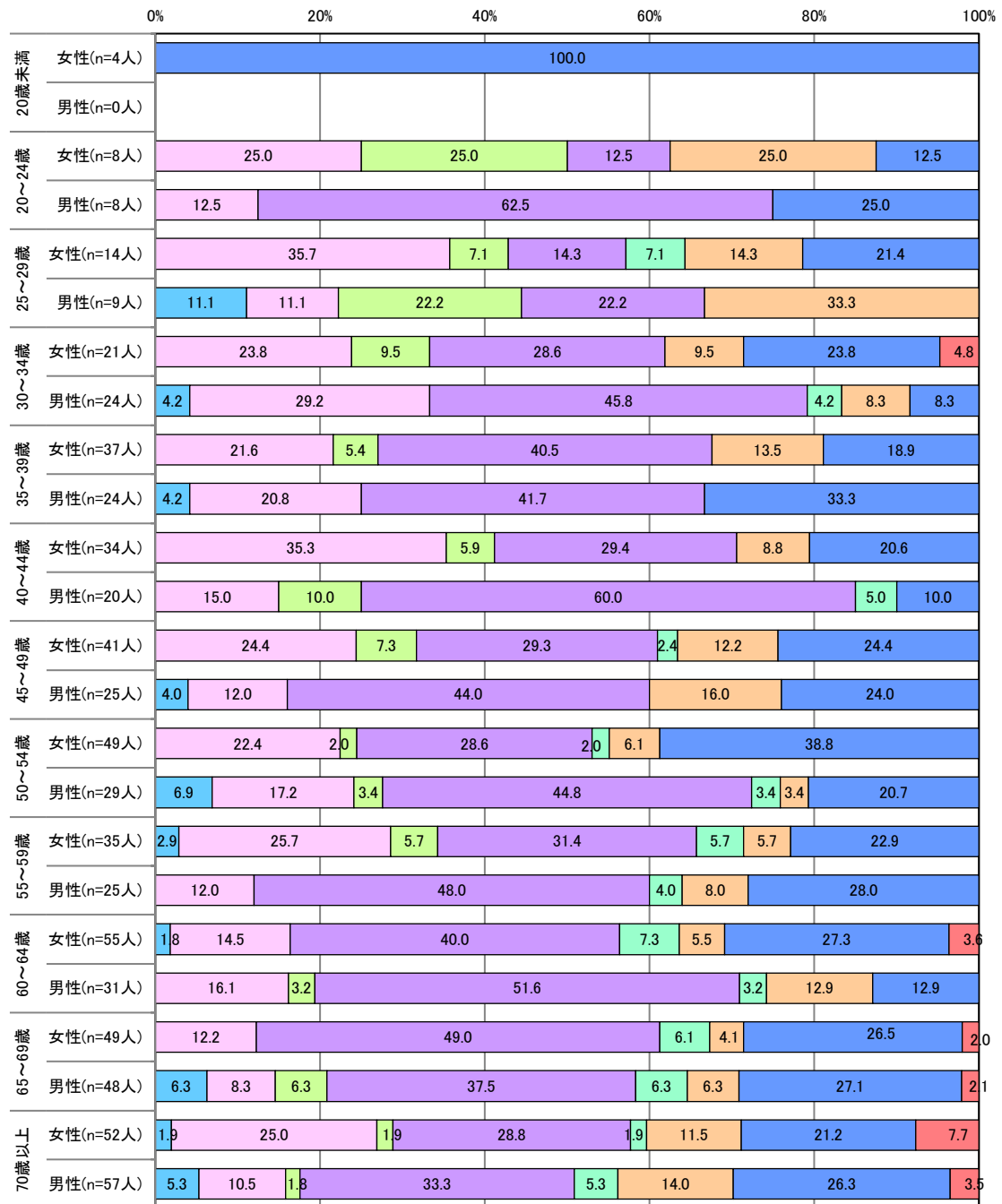
- ・性別でみると、男女ともに、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」という回答が最も多くなっている。次いで、「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」、「『家庭生活』優先」と続いている。
- ・世代別性別でみると、20 歳～24 歳の男性、40 歳～44 歳の男性の世代で、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」という回答が6割を超えている。一方、25 歳～29 歳の女性、40 歳～44 歳の女性では、「『家庭生活』優先」という回答が3割を超え、最も多くなっている。



## 現実（現状）の生活（問26）

- 「仕事」優先
- 「地域活動・個人の生活」優先
- 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 「家庭生活」優先
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 無回答

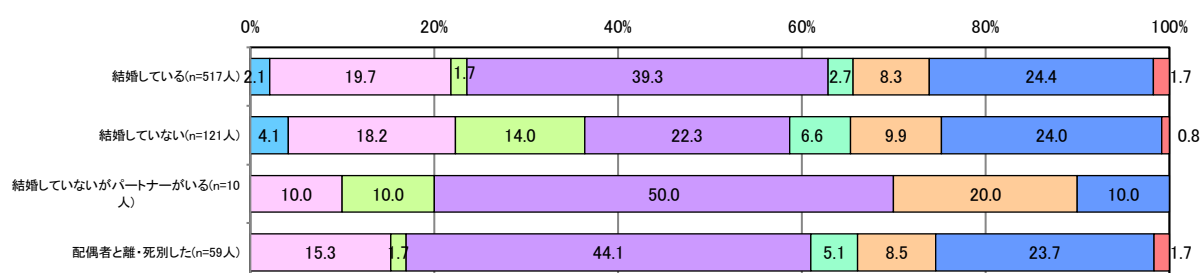
【世代別性別】



- ・配偶者の有無別でみると、「結婚していない」を除き、いずれも「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が最も多い回答となっている。一方、「結婚していない」では、「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」が多くなっている。
- ・子の有無別でみると、いずれも「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が最も多い回答となっている。次いで、「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」、「『家庭生活』優先」となっている。

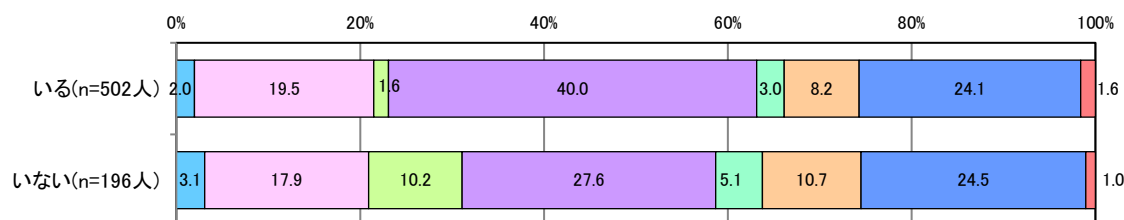
#### 【配偶者の有無別】

- 「仕事」優先
- 「家庭生活」優先
- 「地域活動・個人の生活」優先
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 無回答



#### 【子の有無別】

- 「仕事」優先
- 「家庭生活」優先
- 「地域活動・個人の生活」優先
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 無回答

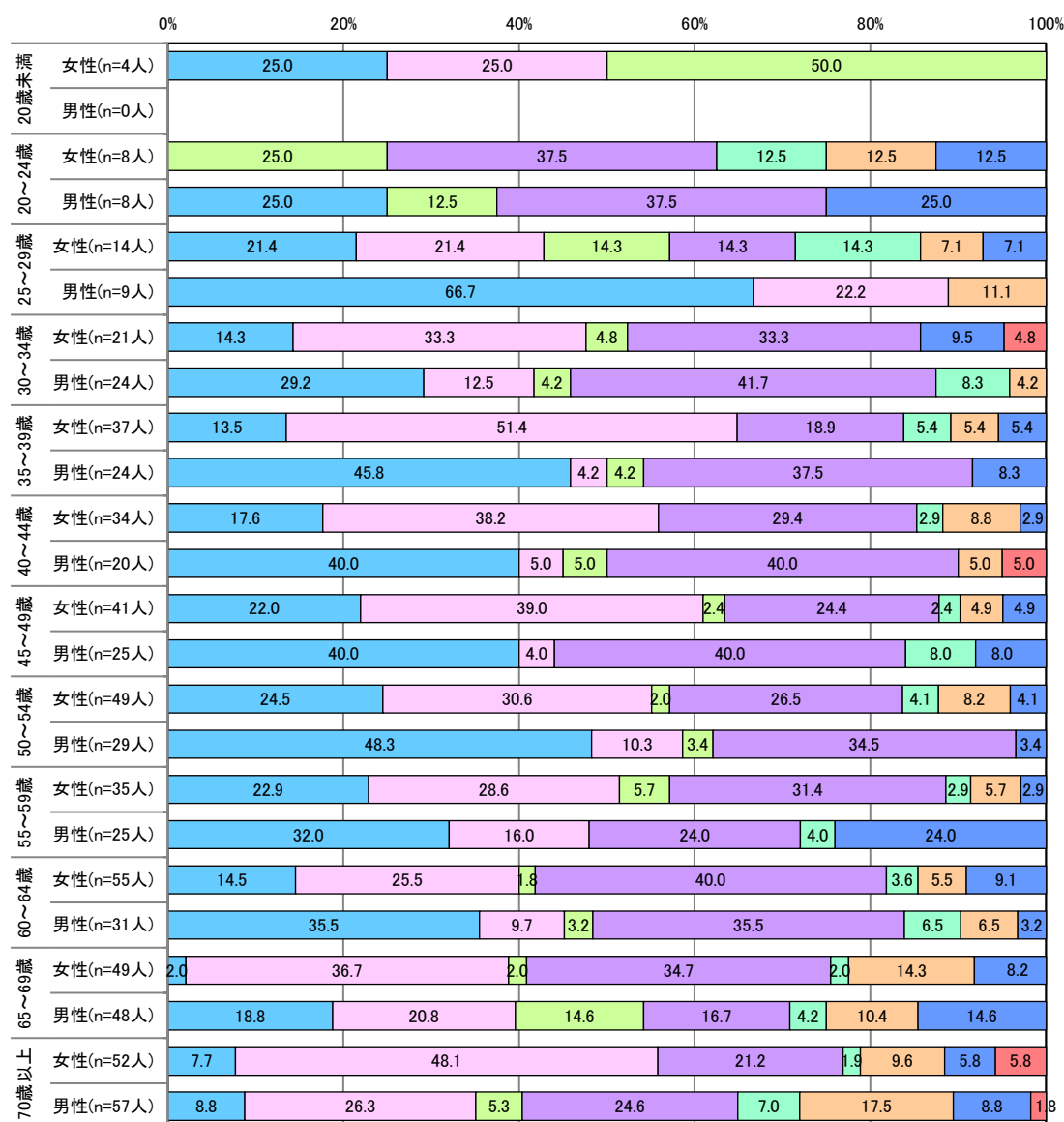


## 問 26 現実（現状）の生活

- ・性別でみると、男性は、「『仕事』優先」が約3割(30.3%)と最も多い。次いで、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」、「『家庭生活』優先」と続いている。一方、女性は「『家庭生活』優先」が約4割(35.3%)と最も多くなっている。次いで、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」、「『仕事』優先」と続いている。
- ・世代別性別でみると、25歳～29歳の男性、35歳～54歳の男性では、「『仕事』優先」という回答が4割を超えている。一方、35歳～39歳の女性、70歳以上の女性で「『家庭生活』優先」という回答が4割以上となっている。
- ・「『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」という回答は、70歳以上の男性で約2割となっている。

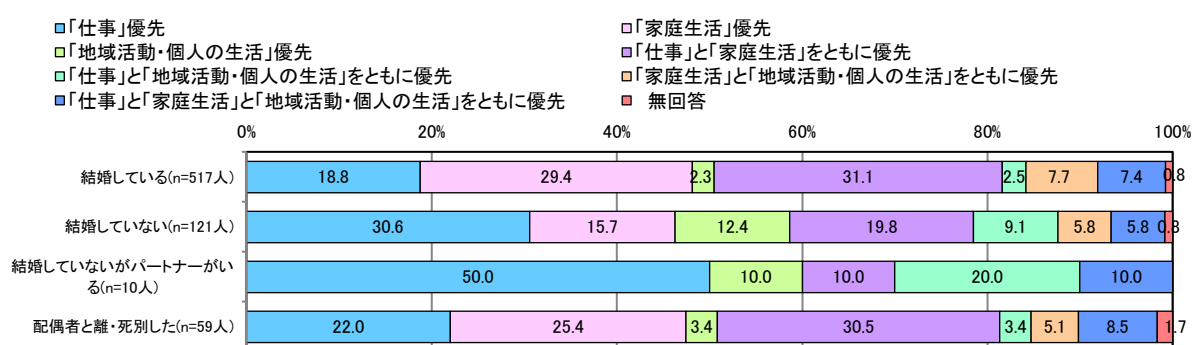
### 【世代別性別】

- 「仕事」優先
- 「家庭生活」優先
- 「地域活動・個人の生活」優先
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 無回答

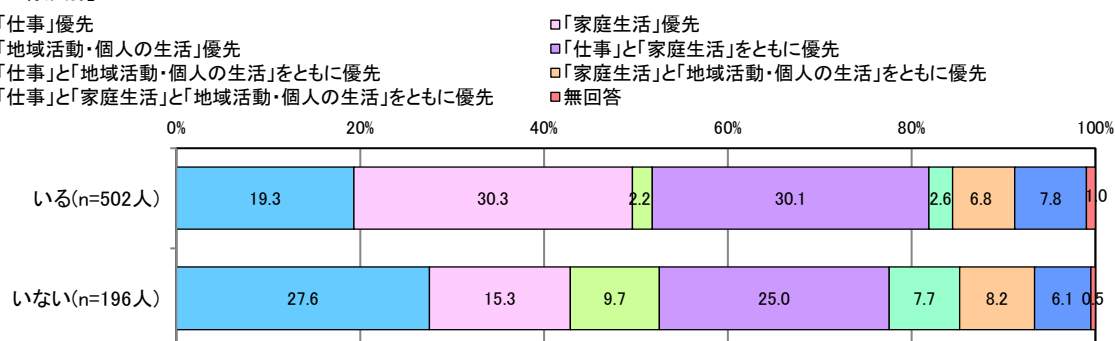


- ・配偶者の有無別でみると、「結婚している」では、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(31.1%)が最も多い回答となっており、次いで「『家庭生活』優先」(29.4%)、「『仕事』優先」(18.8%)となっている。「結婚していない」では、「『仕事』優先」(30.6%)が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(19.8%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「『仕事』優先」(50.0%)が最も多い回答となっている。「配偶者と離・死別した」では、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(30.5%)が最も多い回答となっており、次いで、「『家庭生活』優先」(25.4%)となっている。
- ・子の有無別でみると、「いる」では、「『家庭生活』優先」(30.3%)が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(30.1%)、「『仕事』優先」(19.3%)となっている。「いない」では、「『仕事』優先」(27.6%)が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(25.0%)、「『家庭生活』優先」(15.3%)となっている。

#### 【配偶者の有無別】



#### 【子の有無別】

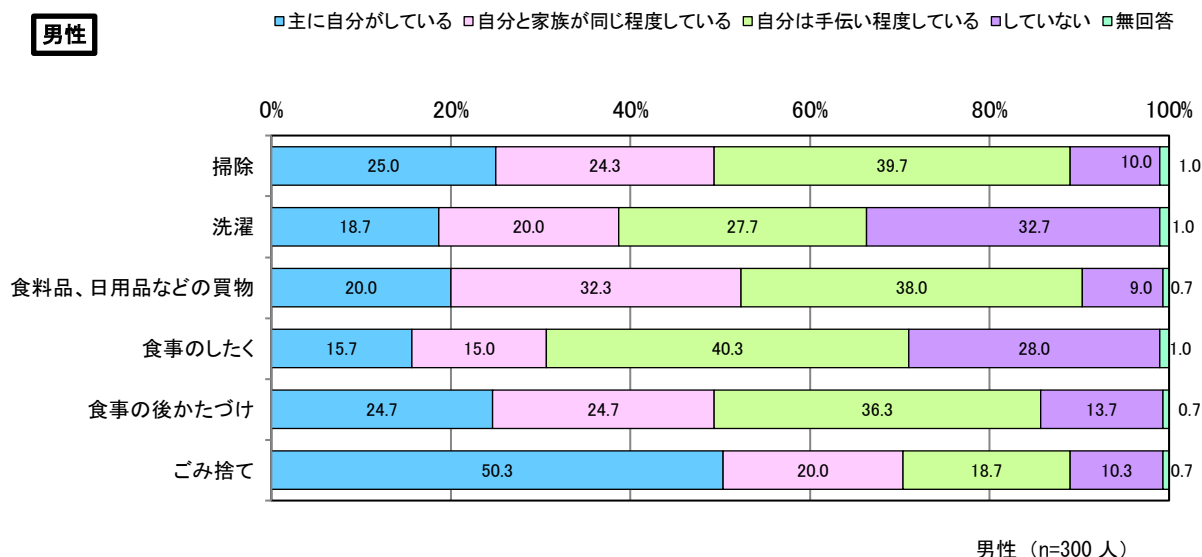


問 27 あなたは次にあげる家事をしていますか。（それぞれ○は1つ）

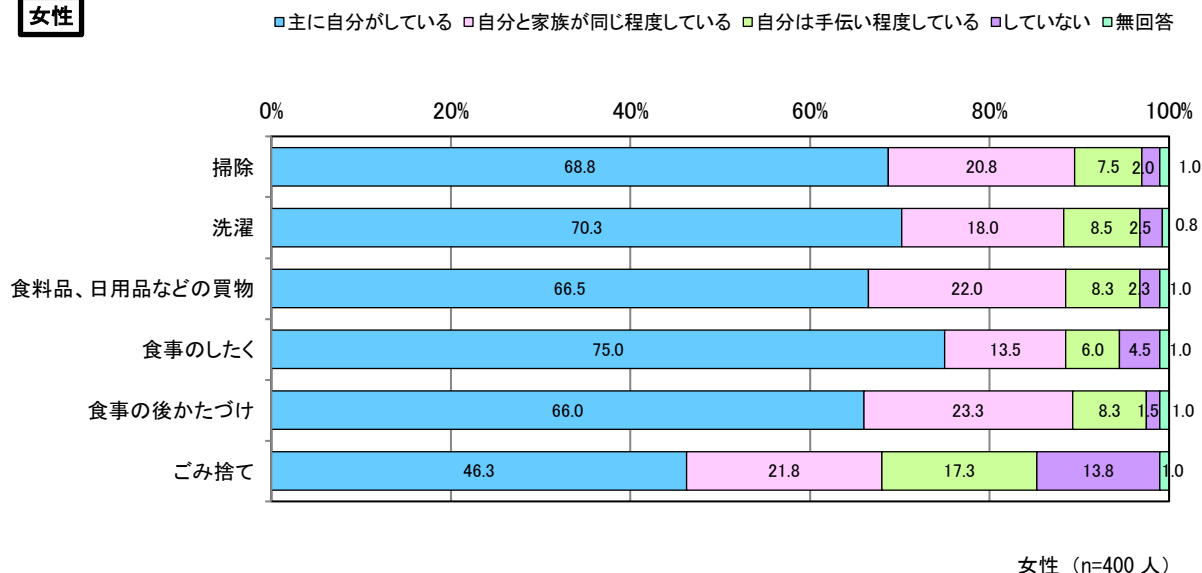
- ・全分野では、男性は、「主に自分がしている」という回答は、「ごみ捨て」が最も多く、約5割（50.3%）となっている。次いで、「掃除」（25.0%）、「食事の後かたづけ」（24.7%）と続いている。
- ・女性は、「主に自分がしている」という回答は、「食事のしたく」が最も多く、約8割（75.0%）となっている。次いで、「洗濯」（70.3%）、「掃除」（68.8%）となっている。

【性別】

**男性**



**女性**

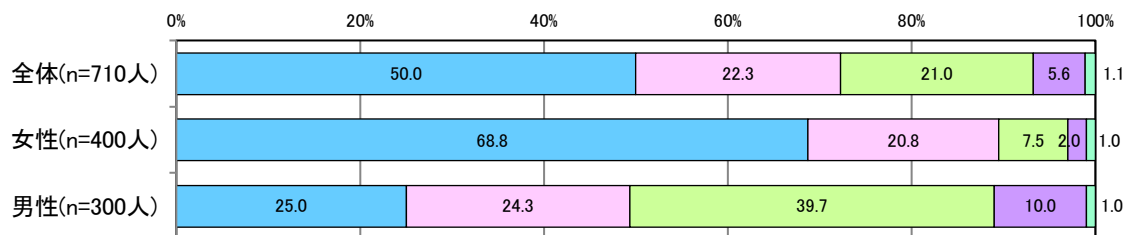


## 1. 掃除

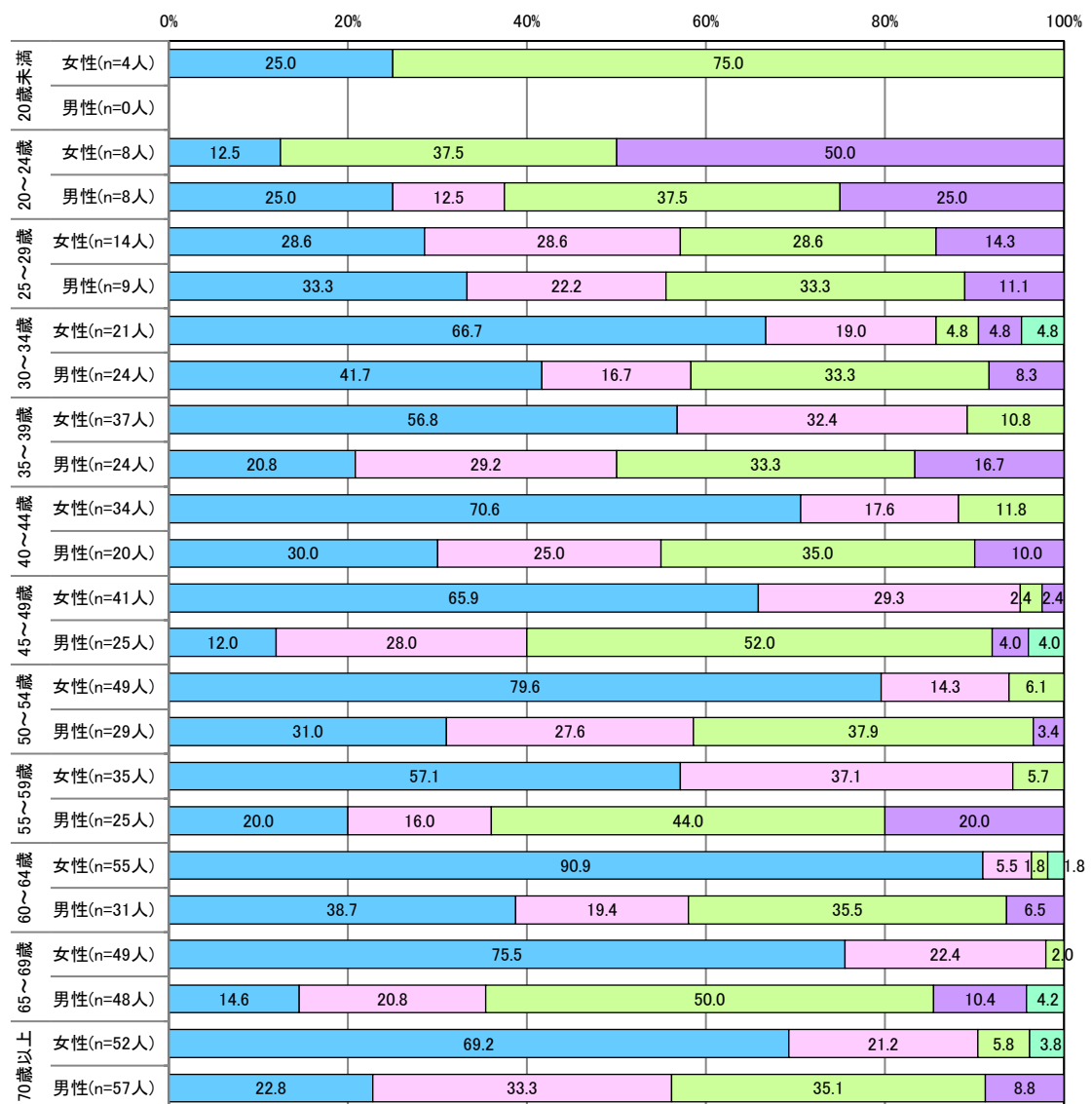
- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(68.8%)という回答が最も多く、男性は「自分は手伝い程度している」(39.7%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、「していない」という回答が2割以上となる世代は、20歳～24歳の男女、55歳～59歳の男性となっている。

### 【性別】

■主に自分がしている ■自分と家族が同じ程度している ■自分は手伝い程度している ■していない ■無回答

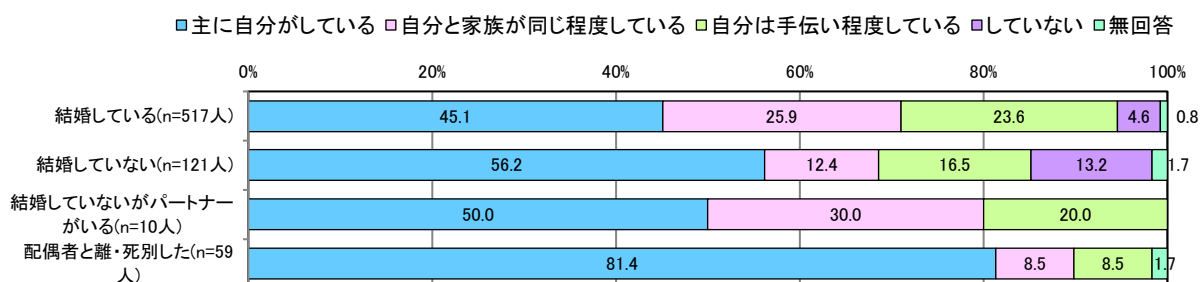


### 【世代別性別】

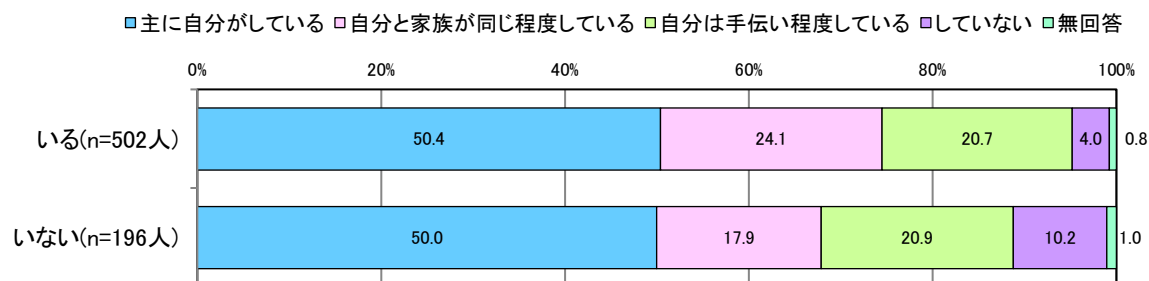


- ・配偶者の有無別でみると、いずれも「主に自分がしている」という回答が最も多くなっている。次いで「結婚していない」を除く、いずれも「自分と家族が同じ程度している」、「自分は手伝い程度している」と続いている。「結婚していない」では、次いで「自分は手伝い程度している」(16.5%)、「していない」(13.2%)となっている。
- ・子の有無別でみると、「いる」では、「主に自分がしている」(50.4%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(24.1%)と「自分は手伝い程度している」(20.7%)となっている。「いない」では、「主に自分がしている」(50.0%)という回答が最も多く、次いで「自分は手伝い程度している」(20.9%)、「自分と家族が同じ程度している」(17.9%)となっている。

#### 【配偶者の有無別】



#### 【子の有無別】



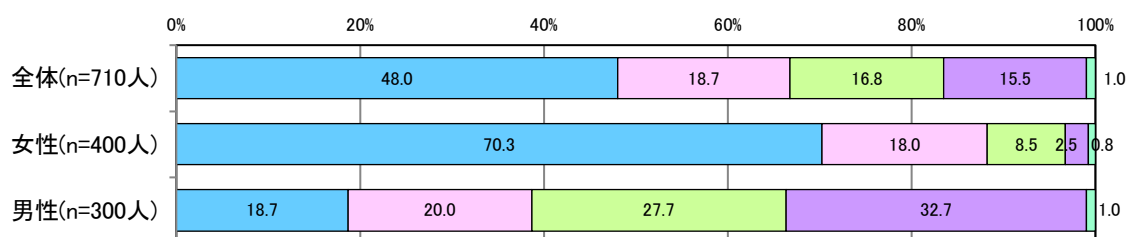


## 2. 洗濯

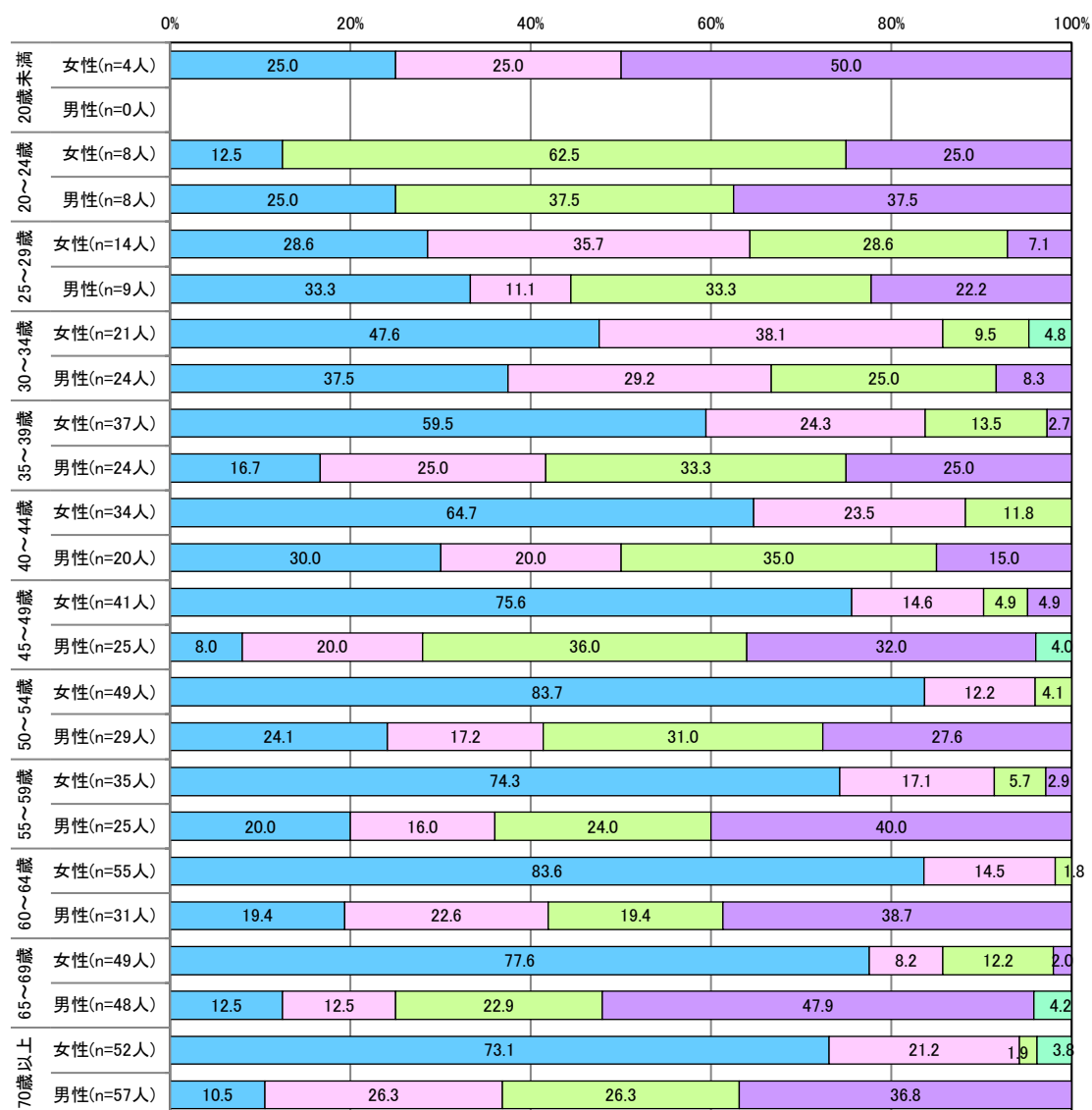
- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(70.3%)という回答が最も多く、男性は「していない」(32.7%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、20歳未満の女性、55歳～59歳の男性、65歳～69歳の男性では、「していない」という回答割合が4割以上となっている。

### 【性別】

■主に自分がしている □自分と家族が同じ程度している ■自分は手伝い程度している ■していない ■無回答



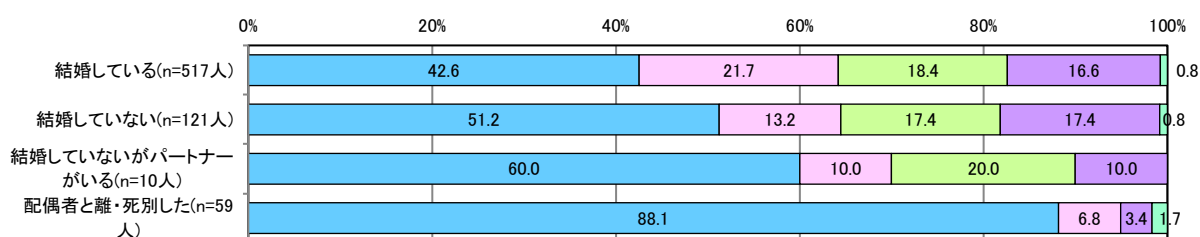
### 【世代別性別】



- ・配偶者の有無でみると、いずれも「主に自分がしている」という回答が最も多くなっている。次いで「結婚している」は、「自分と家族が同じ程度している」(21.7%)、「自分は手伝い程度している」(18.4%)と続いている。「結婚していない」では、次いで「自分は手伝い程度している」(17.4%)、「していない」(17.4%)と同率になっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、次いで「自分は手伝い程度している」(20.0%)、「自分と家族が同じ程度している」(10.0%)と「していない」(10.0%)で同率となっている。「配偶者と離・死別した」では、次いで「自分と家族が同じ程度している」(6.8%)、「していない」(3.4%)となっている。
- ・子の有無別でみると、「いる」では、「主に自分がしている」(48.4%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(19.7%)、「自分は手伝い程度している」(16.1%)、「していない」(14.9%)となっている。「いない」では、「主に自分がしている」(47.4%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(17.3%)、「自分は手伝い程度している」(17.3%)、「していない」(17.3%)となっている。

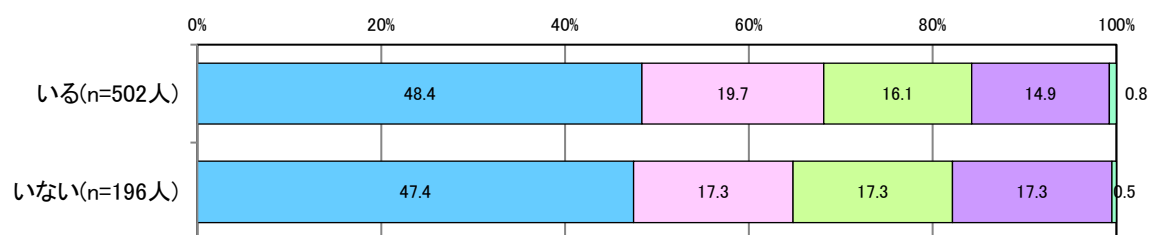
#### 【配偶者の有無別】

■主に自分がしている ■自分と家族が同じ程度している ■自分は手伝い程度している ■していない ■無回答



#### 【子の有無別】

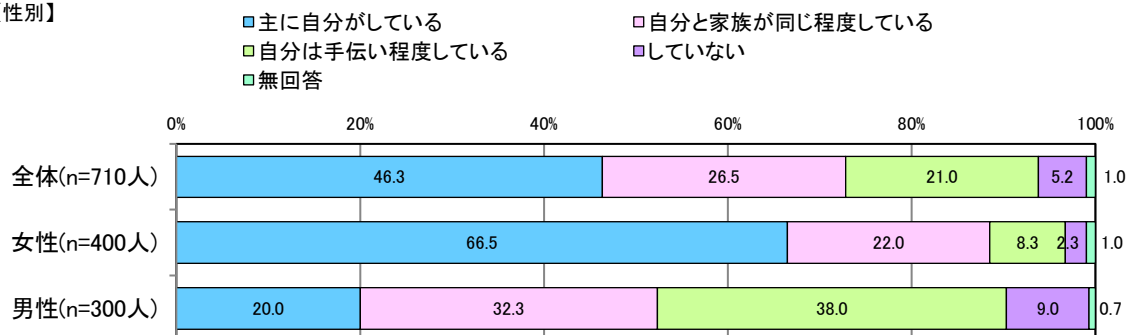
■主に自分がしている ■自分と家族が同じ程度している ■自分は手伝い程度している ■していない ■無回答



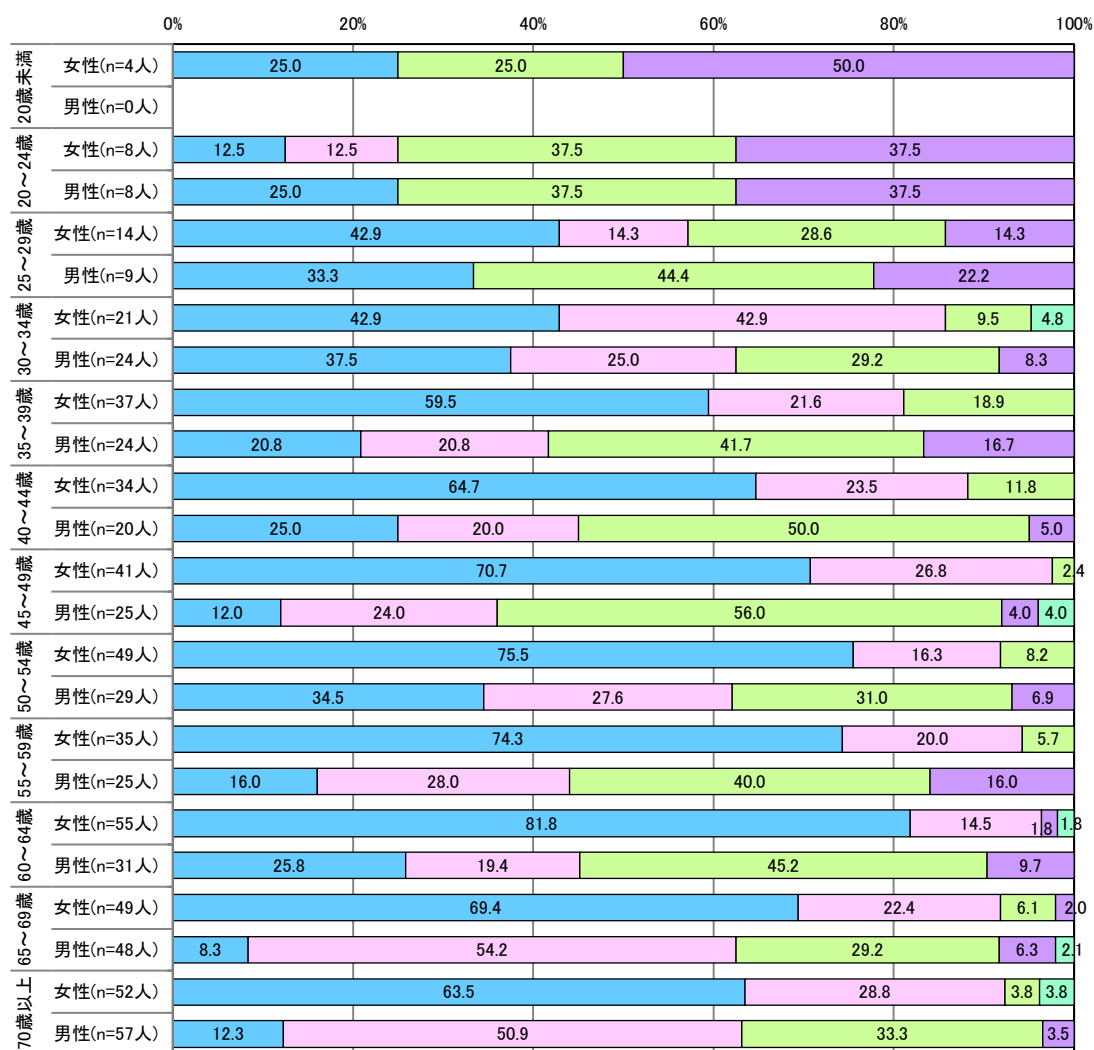
### 3. 食料品、日用品などの買物

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(66.5%)という回答が最も多く、男性は「自分は手伝い程度している」(38.0%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、40歳～49歳の男性では、「自分は手伝い程度している」という回答が5割以上となっている。一方、35歳以上の女性では、「主に自分がしている」という回答が最も多く、5割以上となっている。

【性別】

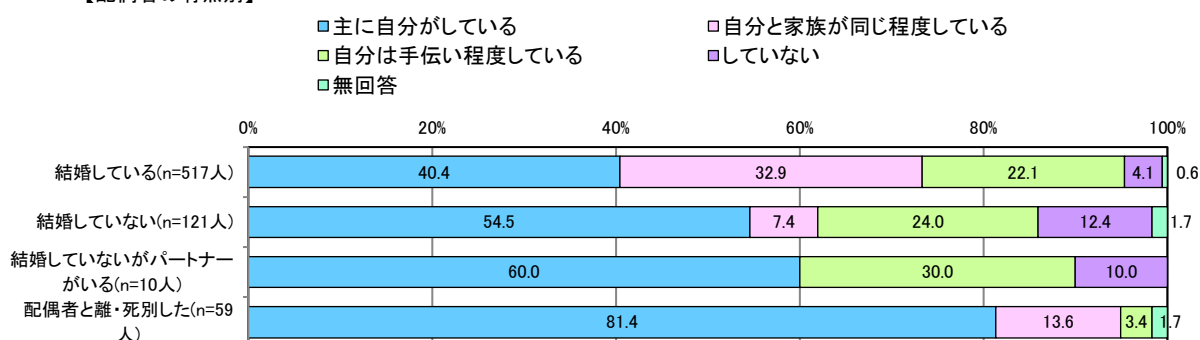


【世代別性別】

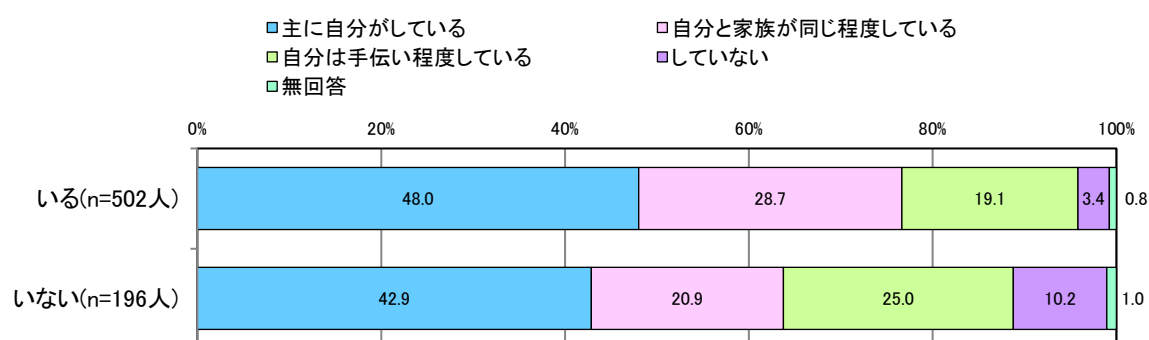


- ・配偶者の有無別でみると、「結婚している」では、「主に自分がしている」(40.4%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(32.9%)、「自分は手伝い程度している」(22.1%)となっている。「結婚していない」では、「主に自分がしている」(54.5%)という回答が最も多く、次いで「自分は手伝い程度している」(24.0%)、「していない」(12.4%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「主に自分がしている」(60.0%)が最も多くなっている。次いで「自分は手伝い程度している」(30.0%)、「していない」(10.0%)となっている。「配偶者と離・死別した」では、「主に自分がしている」(81.4%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(13.6%)、「自分は手伝い程度している」(3.4%)となっている。
- ・子の有無別でみると、「いる」では、「主に自分がしている」(48.0%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(28.7%)、「自分は手伝い程度している」(19.1%)となっている。「いない」では、「主に自分がしている」(42.9%)という回答が最も多く、次いで「自分は手伝い程度している」(25.0%)「自分と家族が同じ程度している」(20.9%)となっている。

【配偶者の有無別】

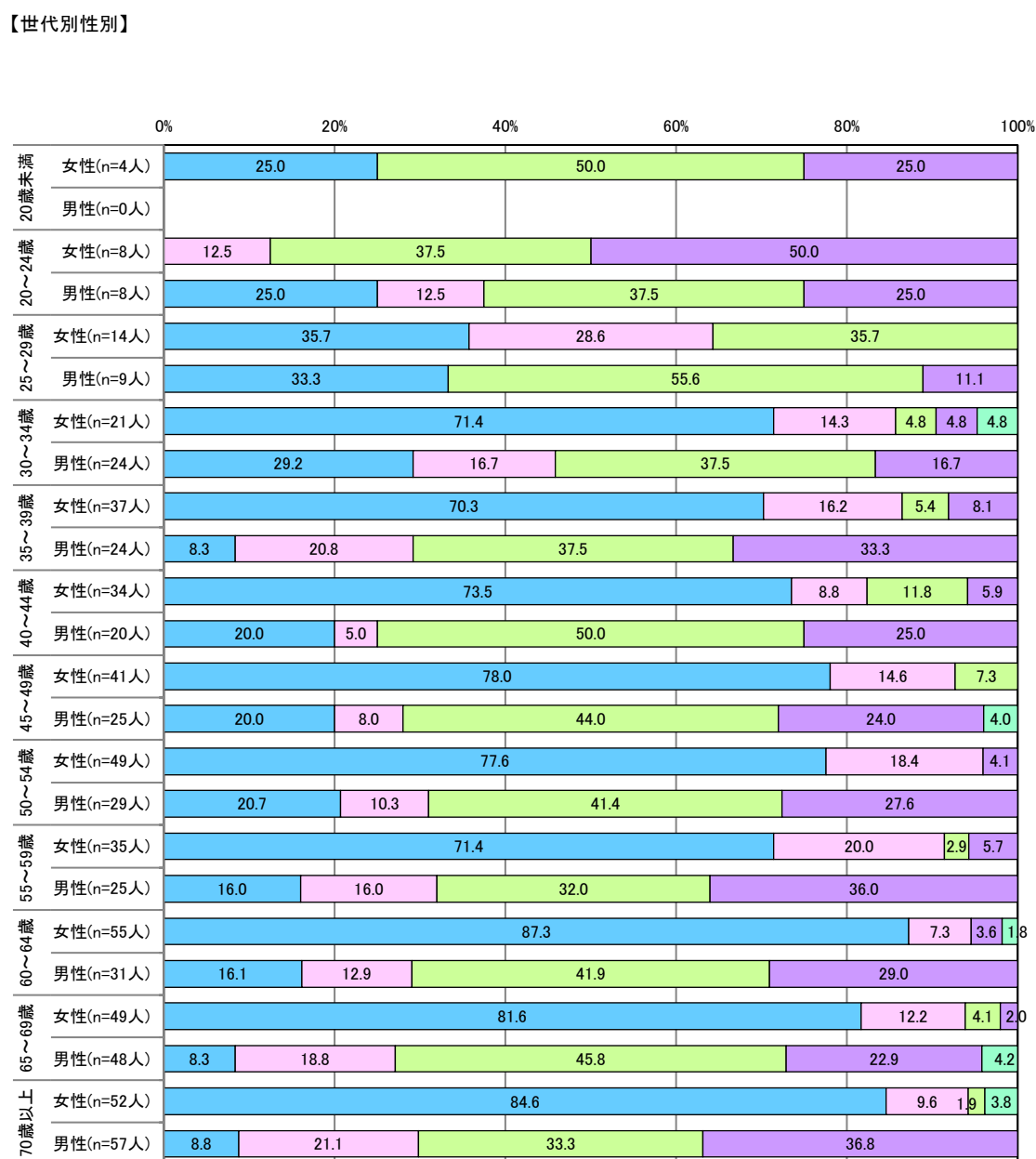
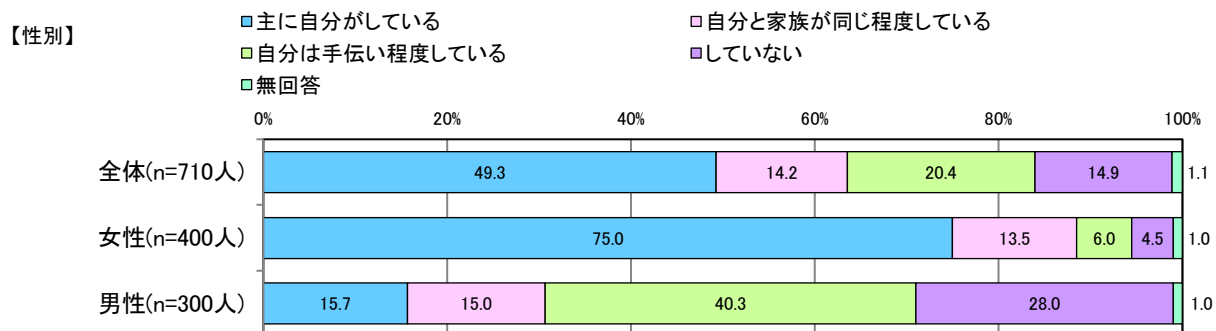


【子の有無別】



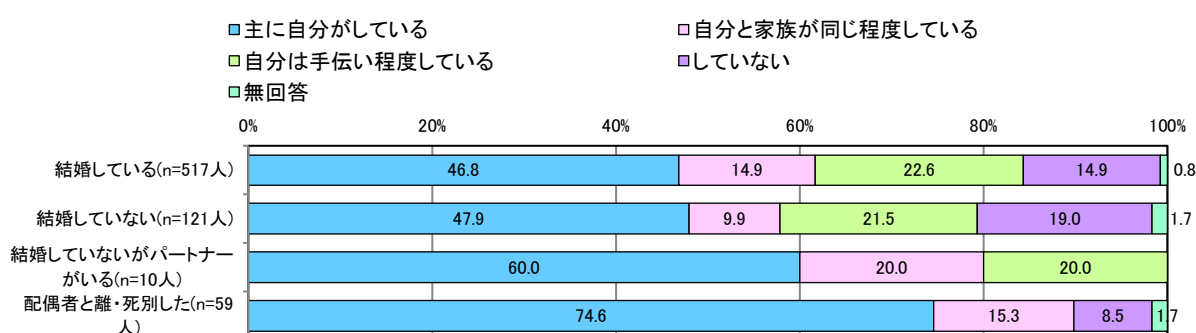
#### 4. 食事のしたく

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(75.0%)という回答が最も多く、男性は「自分は手伝い程度している」(40.3%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、20歳～24歳の女性、35歳～39歳の男性、55歳～59歳の男性、70歳以上の男性で、「していない」という回答が、3割以上となっている。

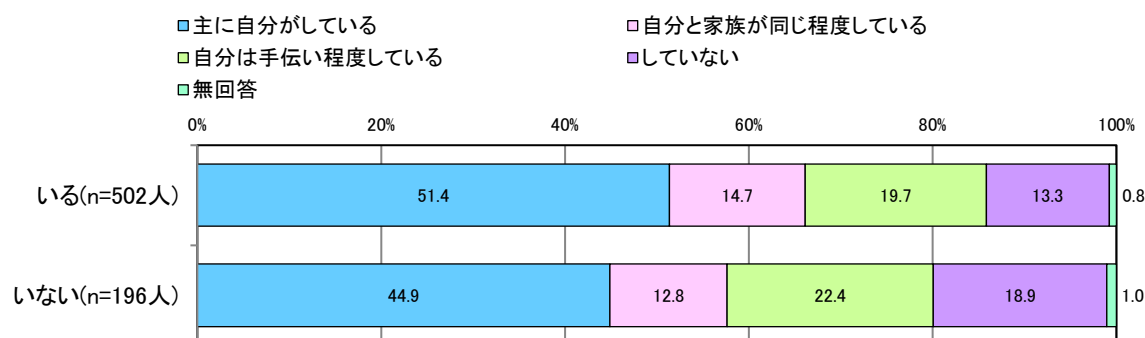


- ・配偶者の有無別でみると、「結婚している」では、「主に自分がしている」(46.8%)という回答が最も多く、次いで「自分は手伝い程度している」(22.6%)となっている。「結婚していない」では、「主に自分がしている」(47.9%)という回答が最も多く、次いで、「自分は手伝い程度している」(21.5%)、「していない」(19.0%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」、「配偶者と離・死別した」では、「主に自分がしている」が6割を超え、最も多くなっている。
- ・子の有無別でみると、「いる」では、「主に自分がしている」(51.4%)という回答が最も多く、次いで「自分は手伝い程度している」(19.7%)、「自分と家族が同じ程度している」(14.7%)となっている。「いない」では、「主に自分がしている」(44.9%)という回答が最も多く、次いで、「自分は手伝い程度している」(22.4%)、「していない」(18.9%)となっている。

#### 【配偶者の有無別】



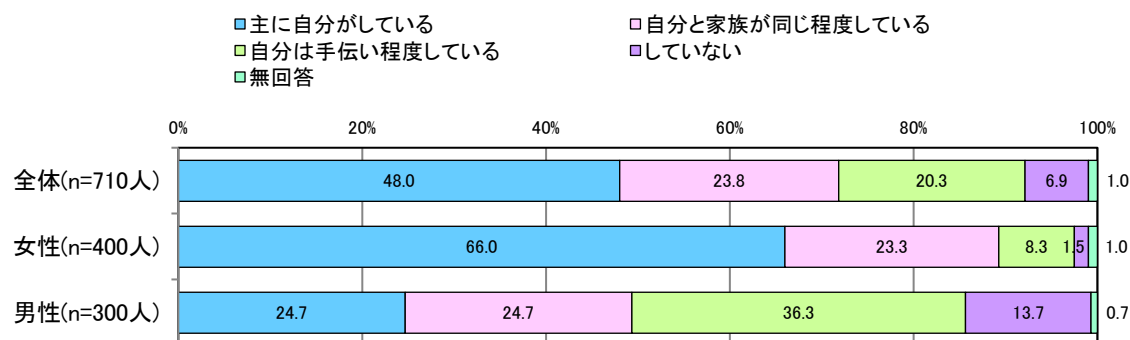
#### 【子の有無別】



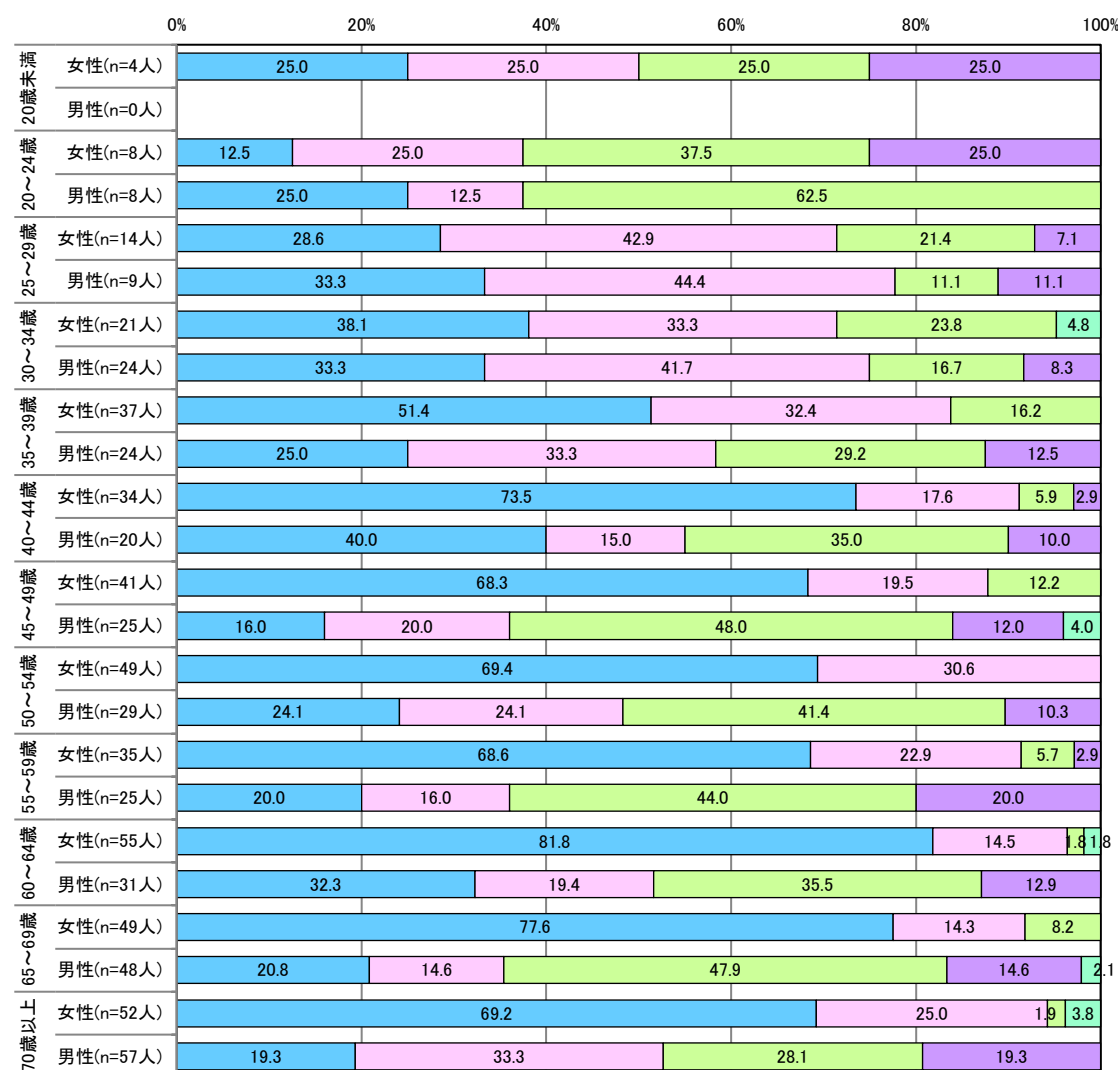
## 5. 食事の後かたづけ

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(66.0%)という回答が最も多く、男性は「自分は手伝い程度している」(36.3%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、20歳未満の女性、20歳～24歳の女性、55歳～59歳の男性で「していない」という回答が2割以上となっている。

【性別】

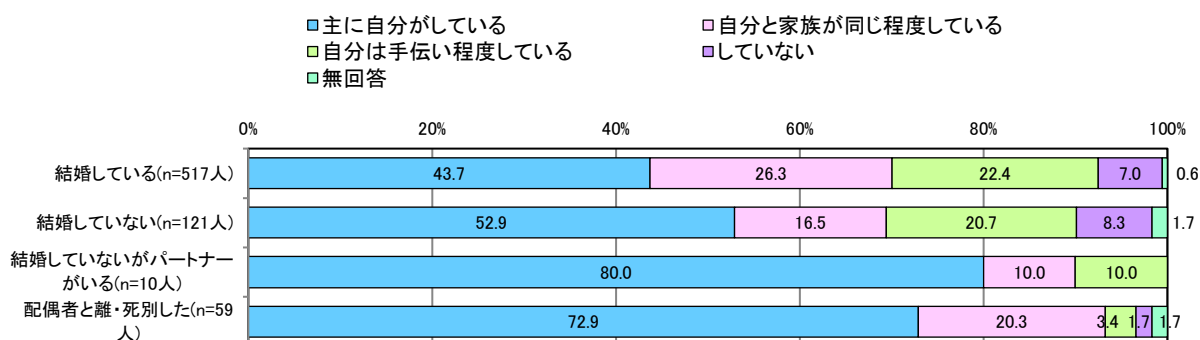


【世代別性別】

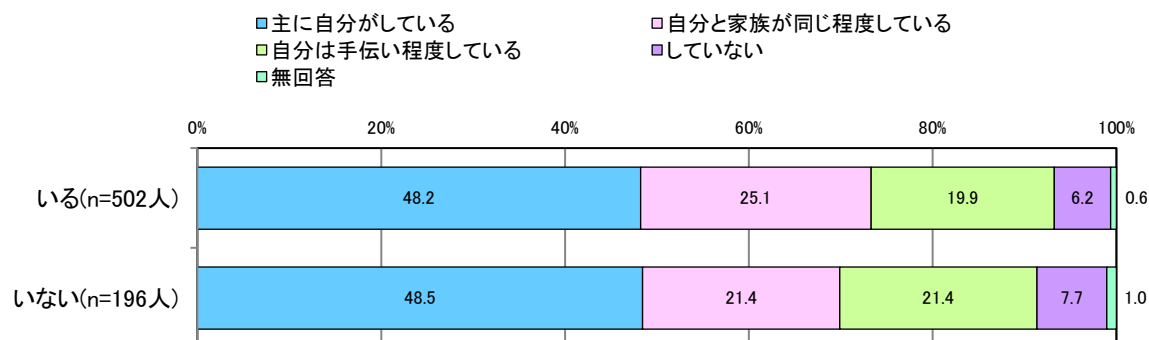


- ・配偶者の有無別でみると、「結婚している」では、「主に自分がしている」(43.7%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(26.3%)、「自分は手伝い程度している」(22.4%)となっている。「結婚していない」では、「主に自分がしている」(52.9%)という回答が最も多く、次いで、「自分は手伝い程度している」(20.7%)、「自分と家族が同じ程度している」(16.5%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「主に自分がしている」(80.0%)と最も多くなっている。次いで、「自分は手伝い程度している」(10.0%)と「自分と家族が同じ程度している」(10.0%)が同率で続いている。「配偶者と離・死別した」では、「主に自分がしている」が約7割と最も多くなっている。次いで、「自分と家族が同じ程度している」(20.3%)となっている。
- ・子の有無別でみると、「いる」では、「主に自分がしている」(48.2%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(25.1%)、「自分は手伝い程度している」(19.9%)となっている。「いない」では、「主に自分がしている」(48.5%)という回答が最も多く、次いで、「自分と家族が同じ程度している」(21.4%)、「自分は手伝い程度している」(21.4%)、「していない」(7.7%)となっている。

#### 【配偶者の有無別】



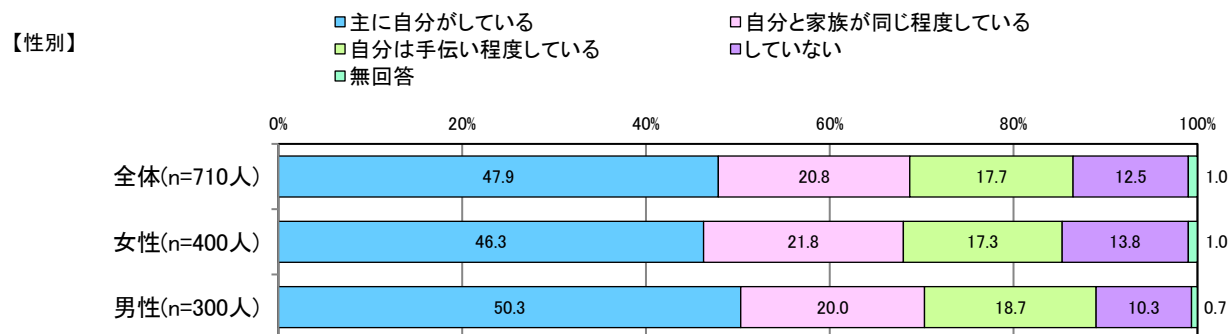
#### 【子の有無別】



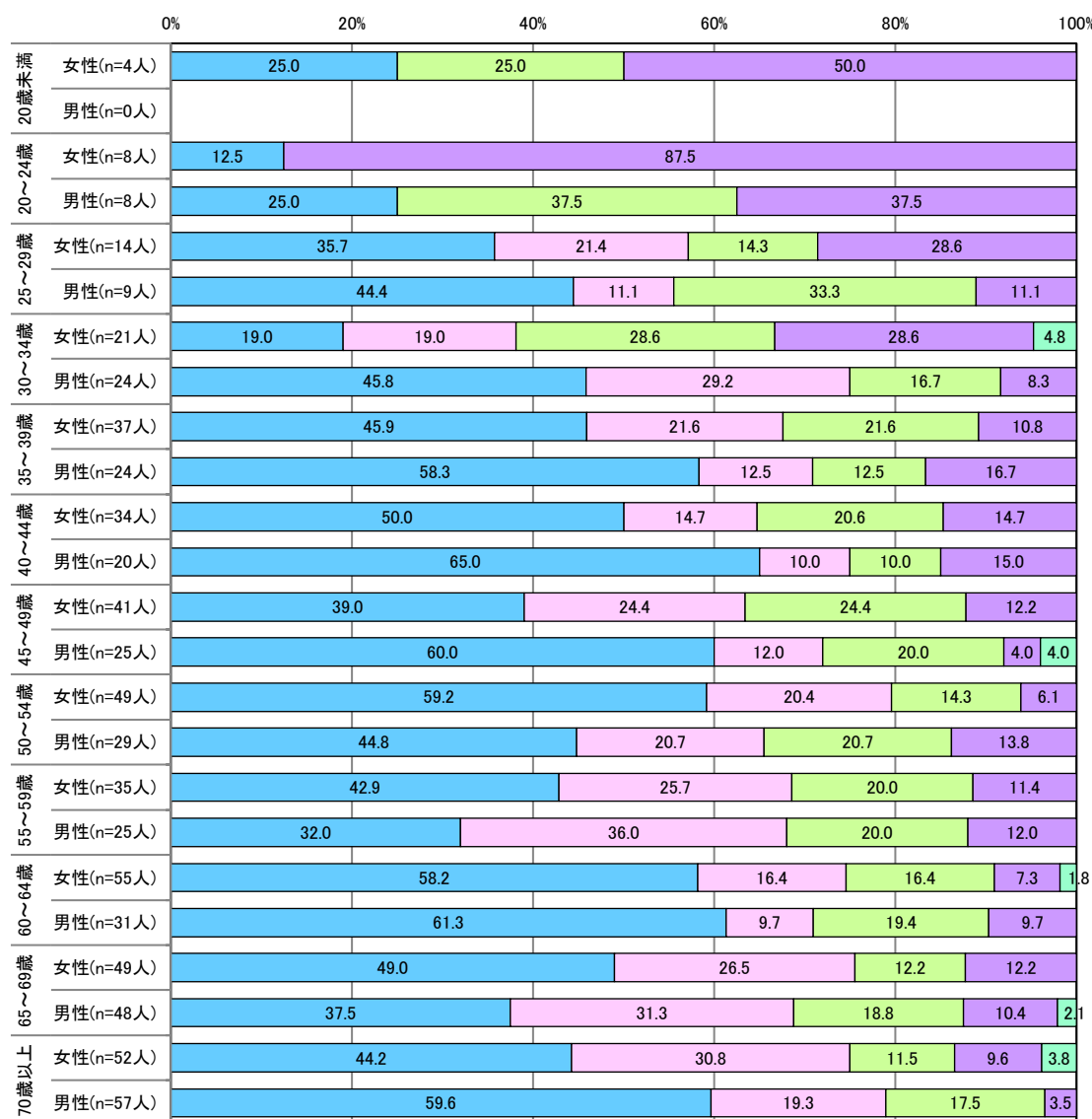


## 6. ごみ捨て

- ・性別でみると、男女ともに「主に自分がしている」という回答が最も多く、女性は46.3%、男性は50.3%となっている。
- ・世代別性別でみると、20歳未満の女性、20歳～24歳の男女、30歳～34歳の女性では、「主に自分がしている」という回答が3割未満と、他よりも少ない傾向にある。

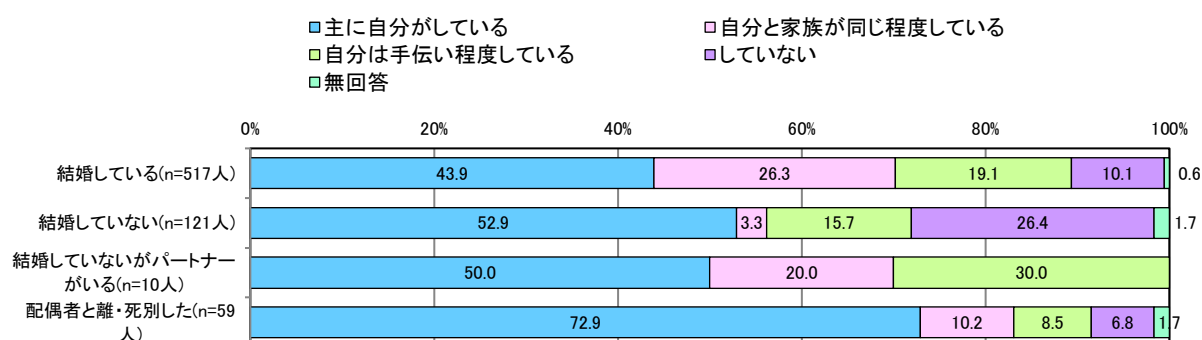


### 【世代別性別】

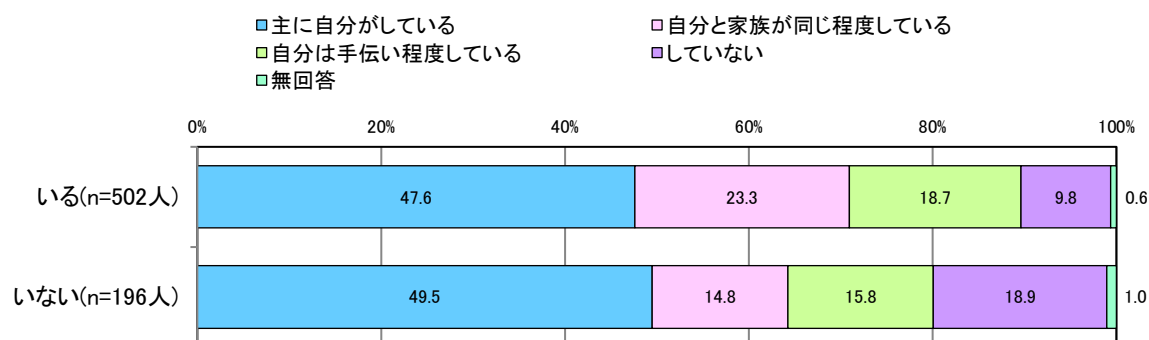


- ・配偶者の有無別でみると、「結婚している」では、「主に自分がしている」(43.9%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(26.3%)、「自分は手伝い程度している」(19.1%)となっている。「結婚していない」では、「主に自分がしている」(52.9%)、が最も多くなっている。次いで、「していない」(26.4%)、「自分は手伝い程度している」(15.7%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「主に自分がしている」(50.0%)と回答が最も多くなっている。一方で、「配偶者と離・死別した」では、「主に自分がしている」が約7割と回答が最も多くなっている。
- ・子の有無別でみると、「いる」では、「主に自分がしている」(47.6%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(23.3%)、「自分は手伝い程度している」(18.7%)となっている。「いない」では、「主に自分がしている」(49.5%)という回答が最も多く、次いで「していない」(18.9%)、「自分は手伝い程度している」(15.8%)、「自分と家族が同じ程度している」(14.8%)となっている。

#### 【配偶者の有無別】



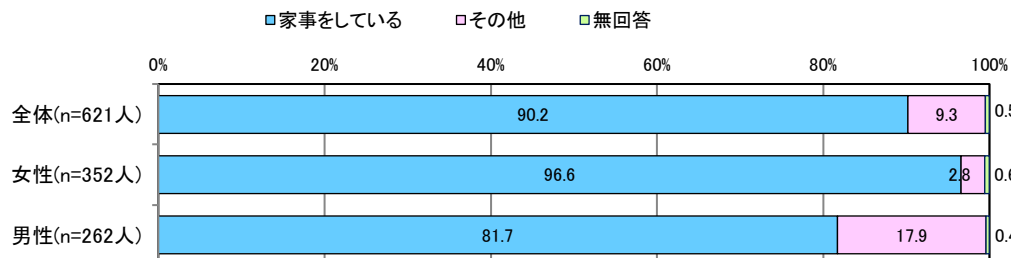
#### 【子の有無別】



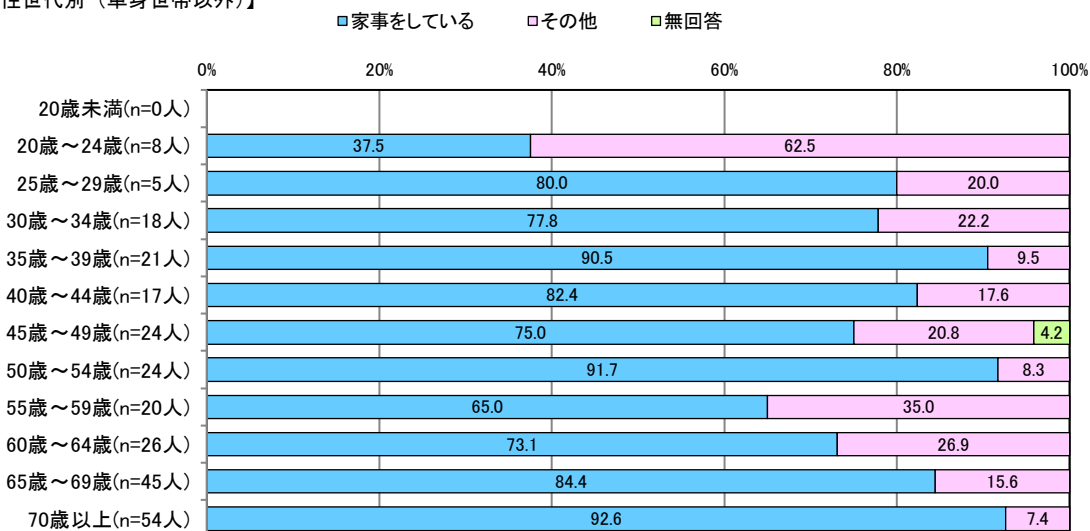
## <家事への参画度>

- ・問 27 の 1 ～ 6 の家事について、いずれか 1 つでも「主に自分がしている」、「自分と家族が同じ程度している」と回答した方を「家事をしている」とすると、全体の 90.2%がいずれかの「家事をしている」となっている。
- ・性別でみると、女性は 96.6%、男性は 81.7%が「家事をしている」となっており、女性は男性よりも「家事をしている」の回答割合が約 1 割高くなっている。

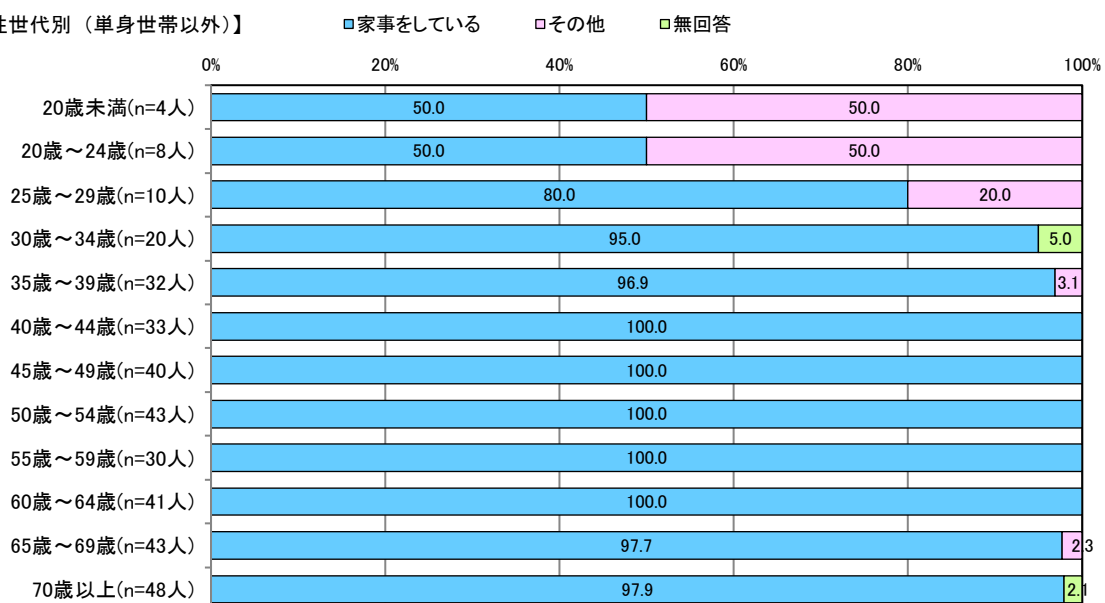
### 【性別】



### 【男性世代別（単身世帯以外）】



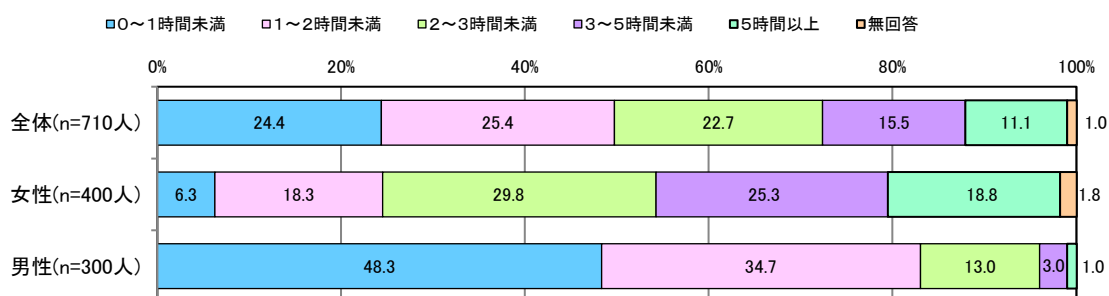
### 【女性世代別（単身世帯以外）】



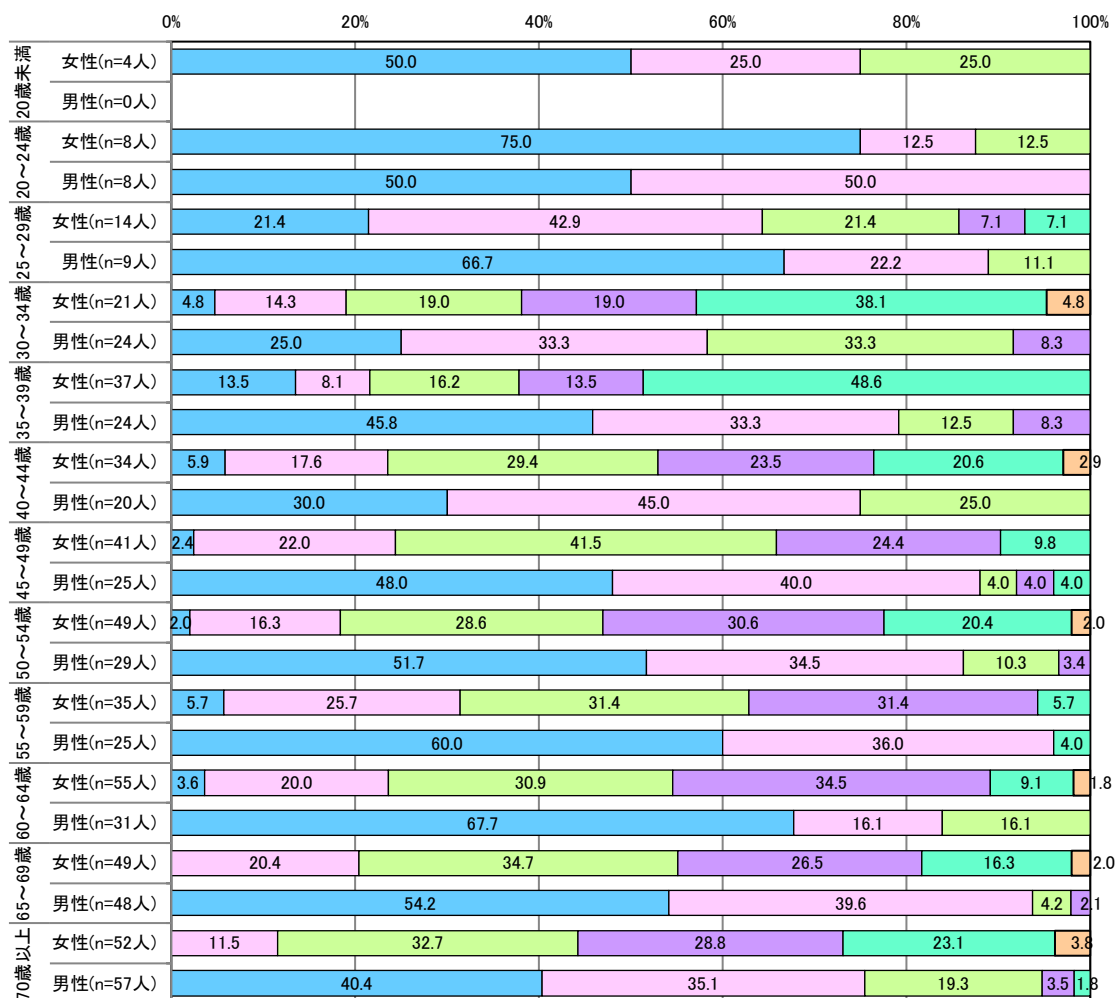
問 28 あなたの平日の1日あたりの家事従事時間（家事・育児・介護）はどの程度ですか。  
（○は1つ）

- ・性別でみると、女性の「0～1時間未満」という回答は6.3%となっている。一方、男性は「0～1時間未満」（48.3%）という回答が最も多くなっており、男女で大きな差がある。
- ・世代別性別でみると、20歳未満の女性、20歳～24歳の男女、25歳～29歳の男性、35歳～39歳の男性、45歳以上の男性の世代で「0～1時間未満」という回答が4割を超えている。

【性別】

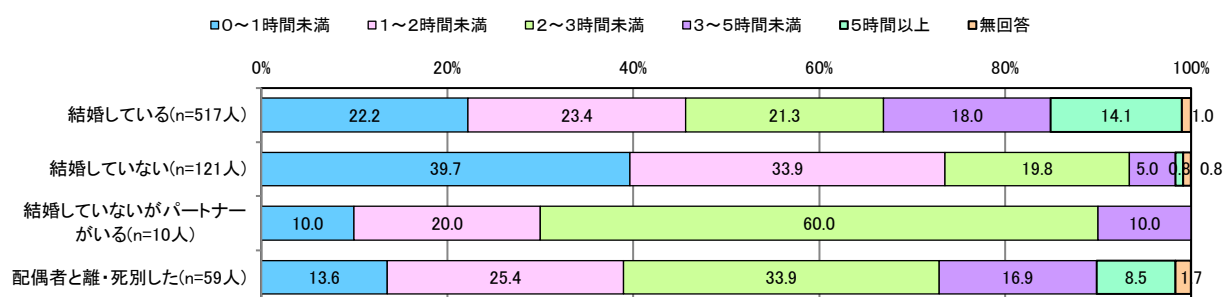


【世代別性別】

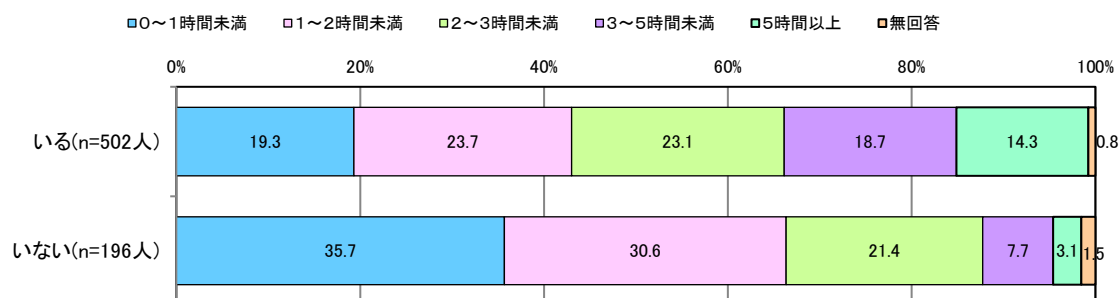


- ・配偶者の有無別でみると、「結婚している」では、「1～2時間未満」(23.4%)という回答が最も多く、次いで「0～1時間未満」(22.2%)、「2～3時間未満」(21.3%)となっている。「結婚していない」では、「0～1時間未満」(39.7%)という回答が最も多く、次いで、「1～2時間未満」(33.9%)、「2～3時間未満」(19.8%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「2～3時間未満」(60.0%)で最も多くなっている。「配偶者と離・死別した」では、「2～3時間未満」(33.9%)という回答が最も多く、次いで、「1～2時間未満」(25.4%)、「3～5時間未満」(16.9%)となっている。
- ・子の有無別でみると、「いる」では、「1～2時間未満」(23.7%)という回答が最も多く、次いで、「2～3時間未満」(23.1%)、「0～1時間未満」(19.3%)、「3～5時間未満」(18.7%)となっている。「いない」では、「0～1時間未満」(35.7%)という回答が最も多く、次いで、「1～2時間未満」(30.6%)、「2～3時間未満」(21.4%)となっている。

#### 【配偶者の有無別】



#### 【子の有無別】

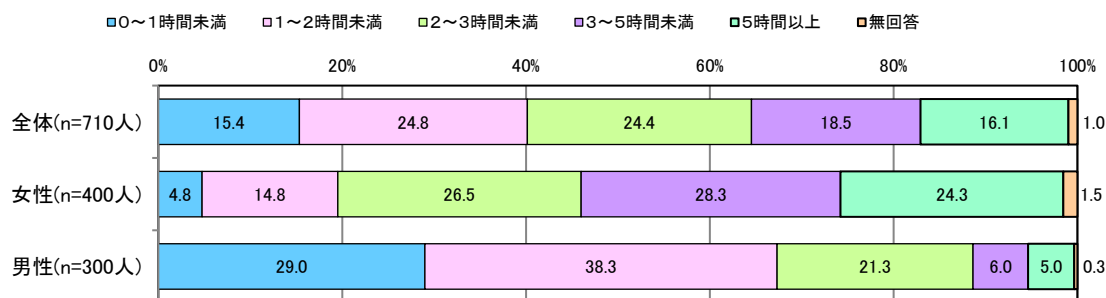


問 29 あなたの休日の1日あたりの家事従事時間（家事・育児・介護）はどの程度ですか。

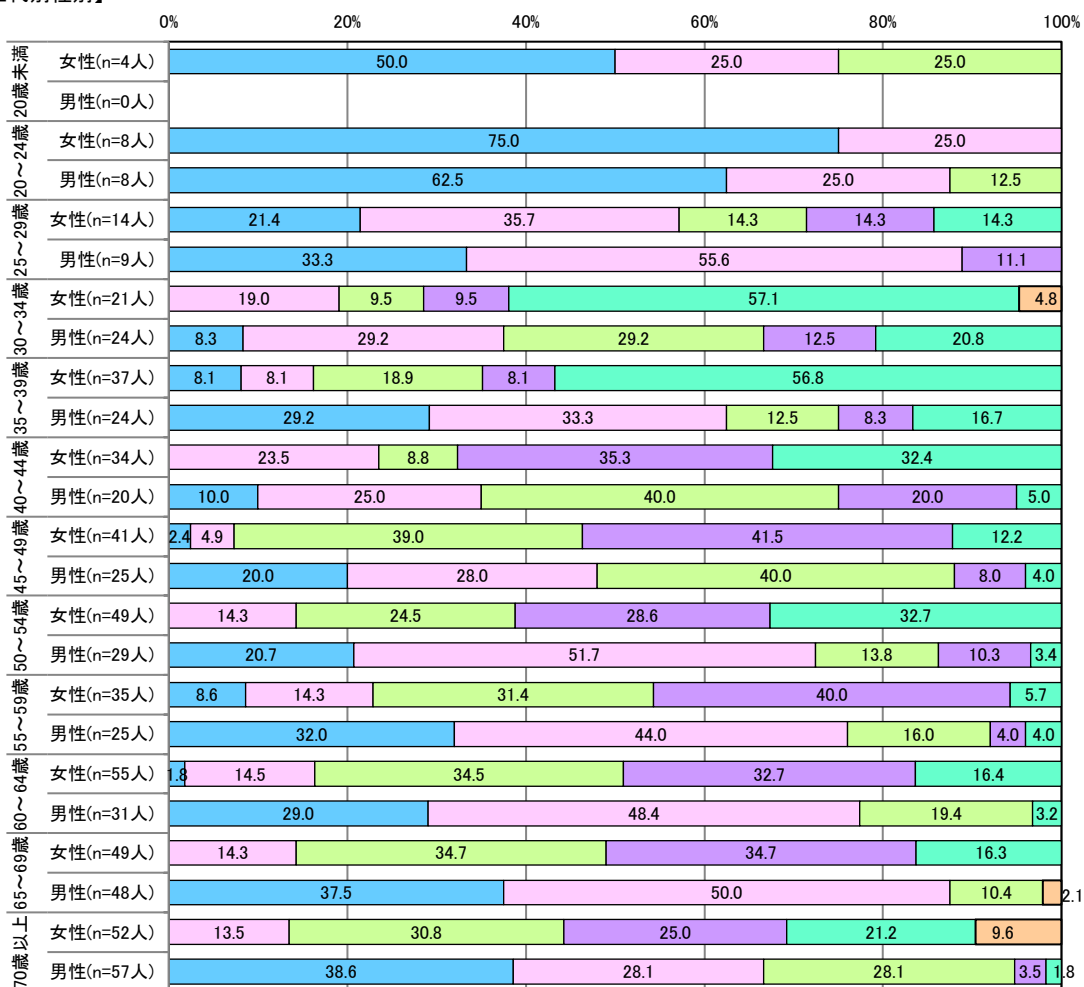
（○は1つ）

- ・性別でみると、女性は「3～5時間未満」（28.3%）で最も多く、次いで、「2～3時間未満」（26.5%）、「5時間以上」（24.3%）となっている。男性は「1～2時間未満」（38.3%）という回答が最も多く、次に「0～1時間未満」（29.0%）となっている。
- ・世代別性別でみると、20歳未満の女性、20歳～24歳の男女で、「0～1時間未満」という回答が5割を超えている。

【性別】

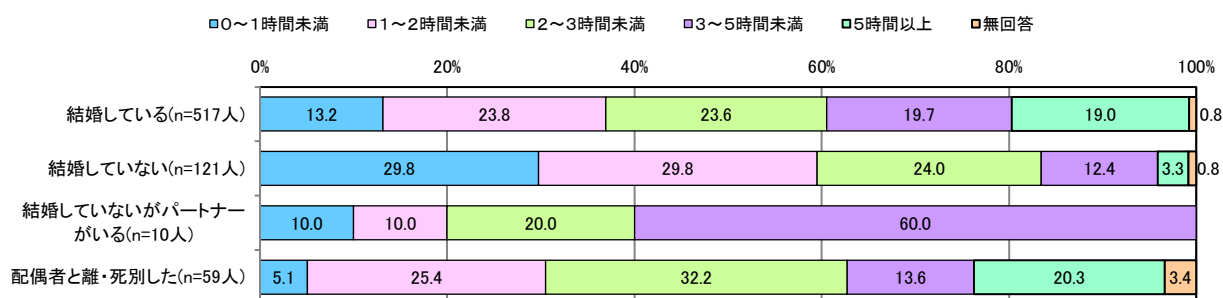


【世代別性別】

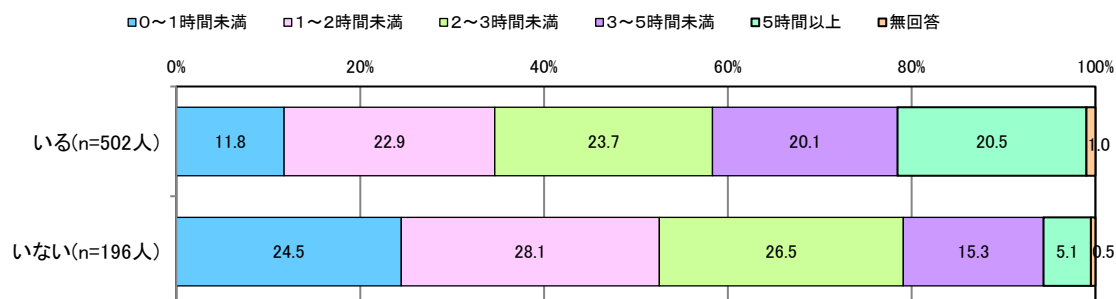


- ・配偶者の有無別でみると、「結婚している」では、「1～2時間未満」(23.8%)が最も多く、次いで、「2～3時間未満」(23.6%)、「3～5時間未満」(19.7%)となっている。「結婚していない」では、「0～1時間未満」(29.8%)、「1～2時間未満」(29.8%)という回答が同率で最も多く、次いで、「2～3時間未満」(24.0%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「3～5時間未満」(60.0%)という回答が最も多くなっている。「配偶者と離・死別した」では、「2～3時間未満」(32.2%)という回答が最も多く、次いで「1～2時間未満」(25.4%)となっている。
- ・子の有無別でみると、「いる」では、「2～3時間未満」(23.7%)という回答が最も多く、次いで、「1～2時間未満」(22.9%)、「5時間以上」(20.5%)、「3～5時間未満」(20.1%)となっている。「いない」では、「1～2時間未満」(28.1%)という回答が最も多く、次いで、「2～3時間未満」(26.5%)、「0～1時間未満」(24.5%)となっている。

#### 【配偶者の有無別】



#### 【子の有無別】

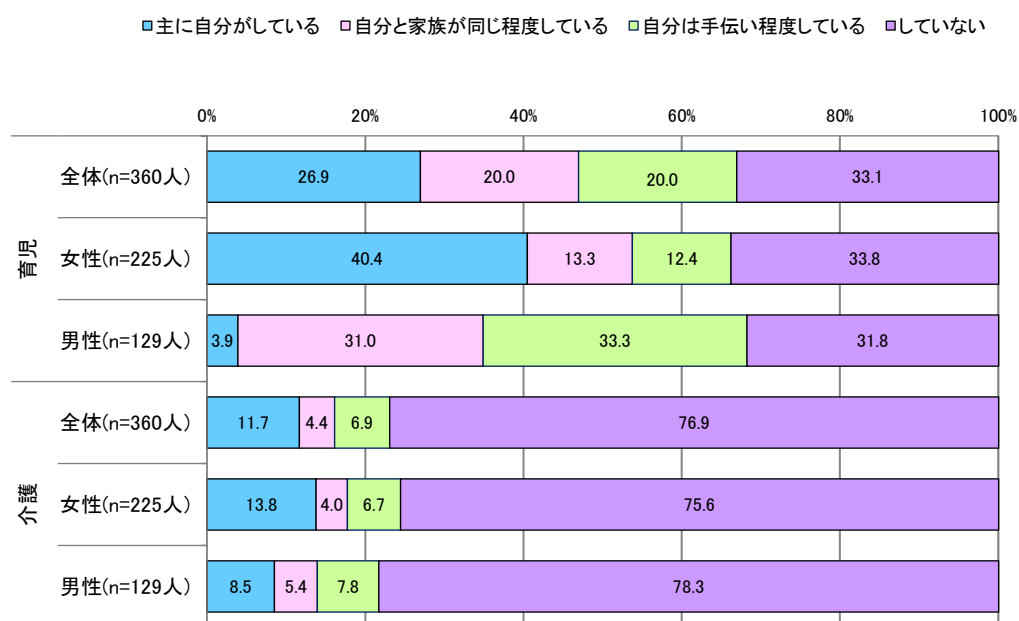


身近に育児または介護の対象者がいる方におたずねします。

問 30 あなたは育児または介護をどの程度していますか。（それぞれ○は1つ）

- ・育児では、「主に自分がしている」という女性の回答が約4割（40.4%）で、男性の3.9%と比べ大きな差がある。
  - ・介護では、男女ともに、「していない」が約8割と最も多くなっている。次いで、「自分が主にしている」、「自分は手伝い程度している」、「自分と家族が同じ程度している」となっている。
- （※無回答は、育児、介護の必要な家族がいない方として集計している）。

【全分野】

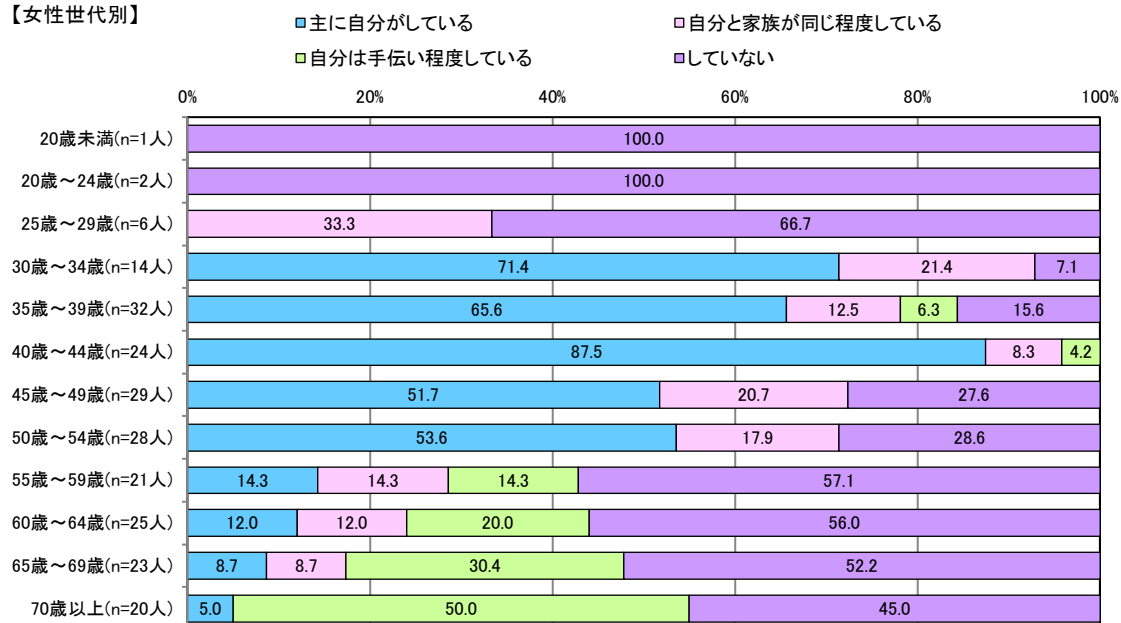




## 1. 育児（お孫さんを含む）

- ・女性では30歳～34歳、40歳～44歳で、「主に自分がしている」という回答割合が7割を超えている。一方、男性では「自分と家族が同じ程度している」という回答割合が、30歳～44歳で4割を超えている。

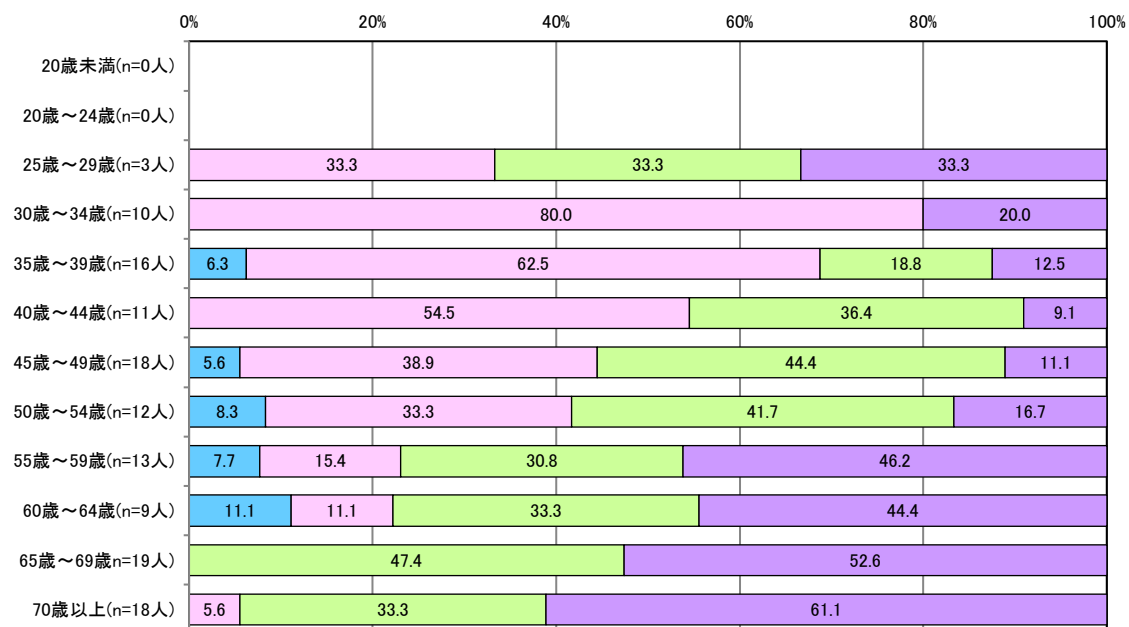
【女性世代別】



【男性世代別】

女性 (n=225人)

■主に自分がしている ■自分と家族が同じ程度している ■自分は手伝い程度している ■していない

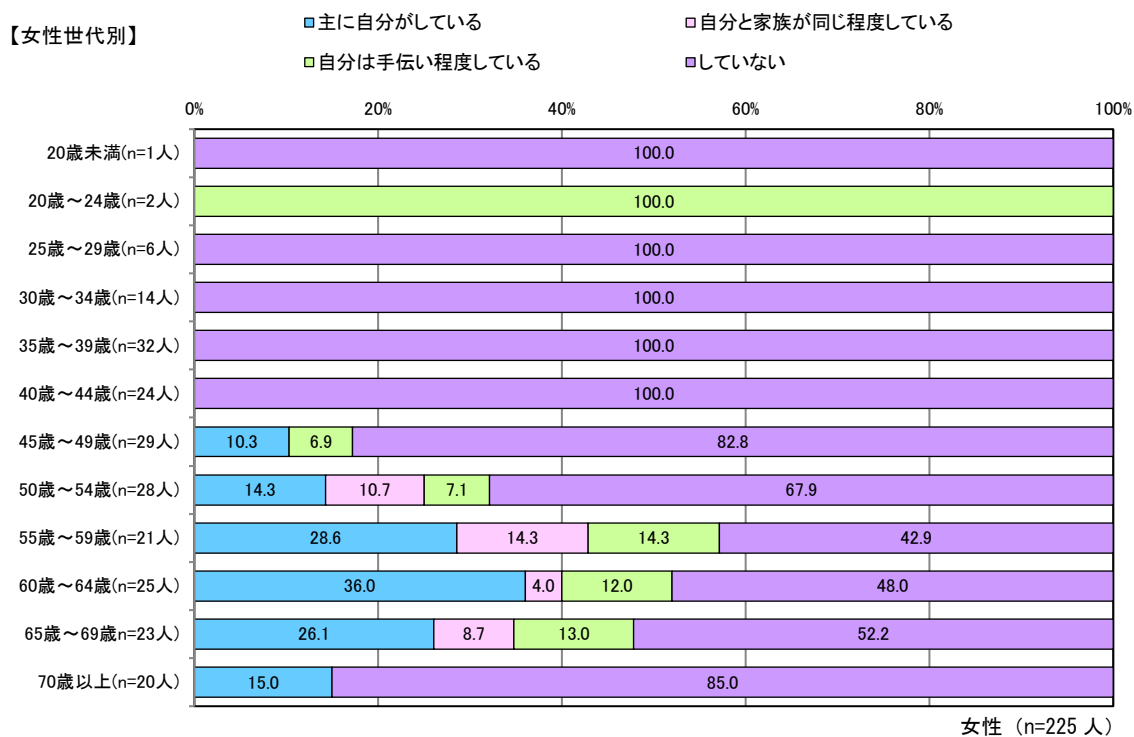


男性 (n=129人)

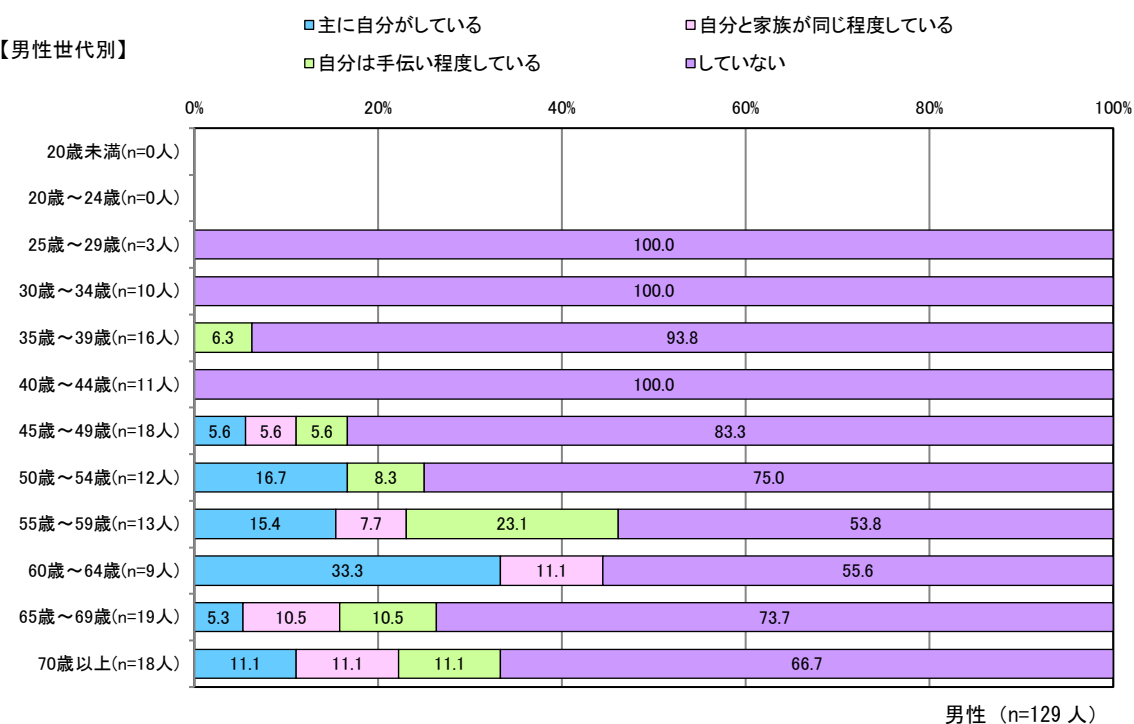
## 2. 介護

- 性別でみると、女性では、20歳～24歳を除き、いずれの世代でも介護に関わっている。男性では、25歳～34歳、40歳～44歳を除き、いずれの世代でも介護に関わっている。「主に自分がしている」という回答は、60歳～64歳の女性で約4割となっている。

【女性世代別】

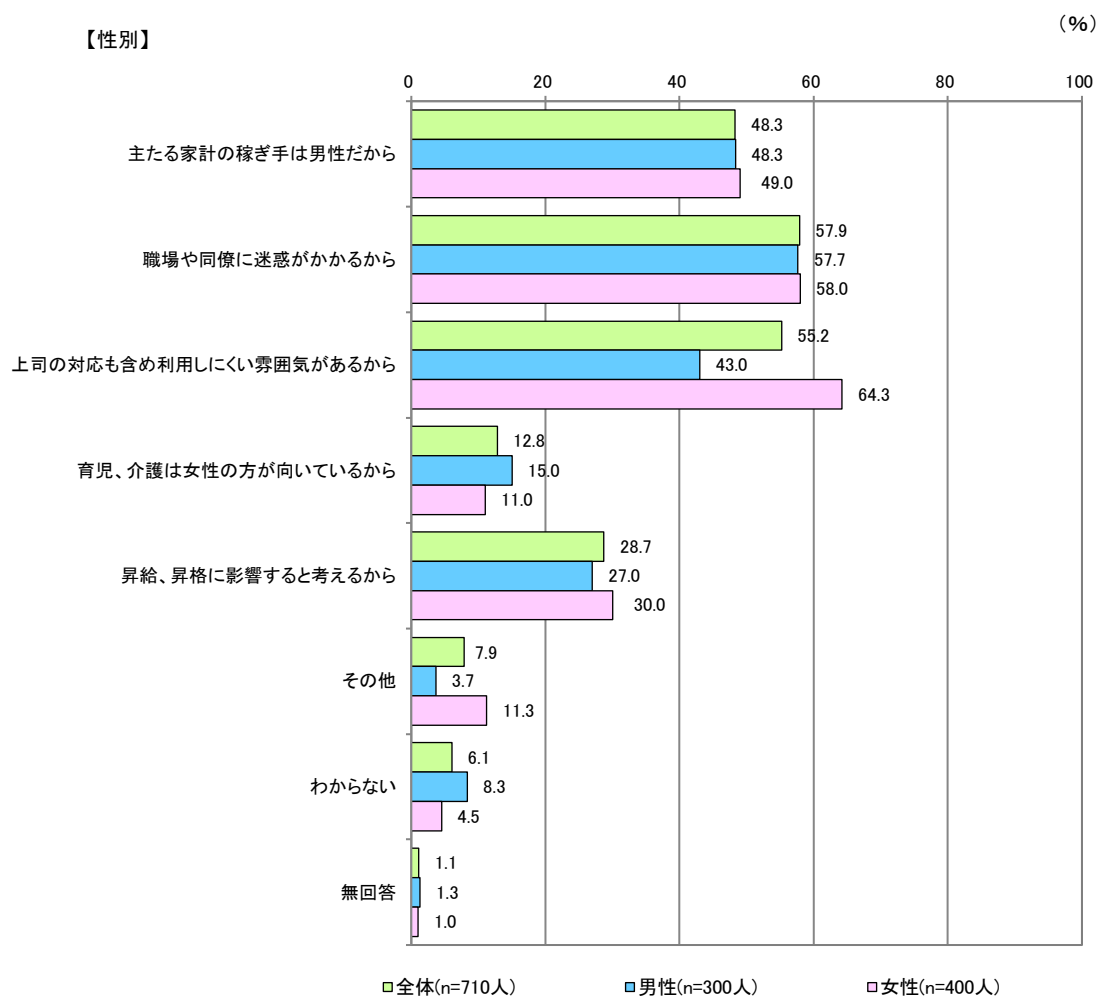


【男性世代別】



問 31 男性が「育児・介護休業制度」を利用することが進まないのは、どうしてだと思いますか。（〇は3つまで）

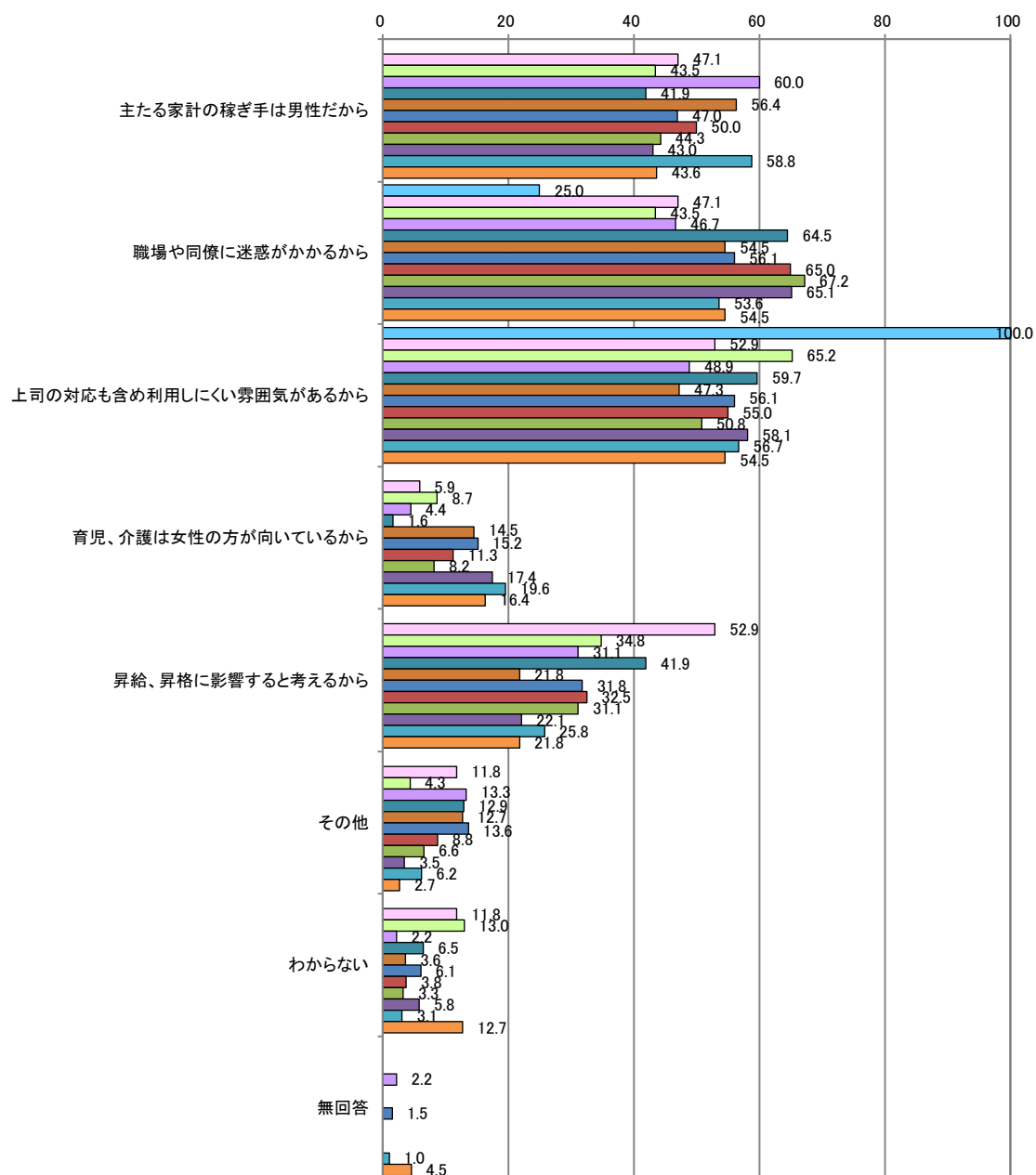
- ・全体でみると、最も回答が多いのは、「職場や同僚に迷惑がかかるから」（57.9％）で、約6割となっている。次いで、「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」（55.2％）、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」（48.3％）となっている。
- ・性別でみると、男性では「職場や同僚に迷惑がかかるから」（57.7％）、次いで「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」（48.3％）、「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」（43.0％）となっている。
- ・女性では、「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」（64.3％）が最も多くなっている。次いで、「職場や同僚に迷惑がかかるから」（58.0％）、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」（49.0％）となっている。



- ・年代別でみると、20 歳未満、20 歳～29 歳、45 歳～49 歳、70 歳以上で、「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」が、35 歳～39 歳、45 歳～64 歳、70 歳以上で「職場や同僚に迷惑がかかるから」が最も多くなっている。
- ・子の有無別でみると、いずれも「職場や同僚に迷惑がかかるから」が最も多くなっている。回答割合は、「いる」では 59.0%、「いない」では、55.1%となっている。

#### 【年代別】

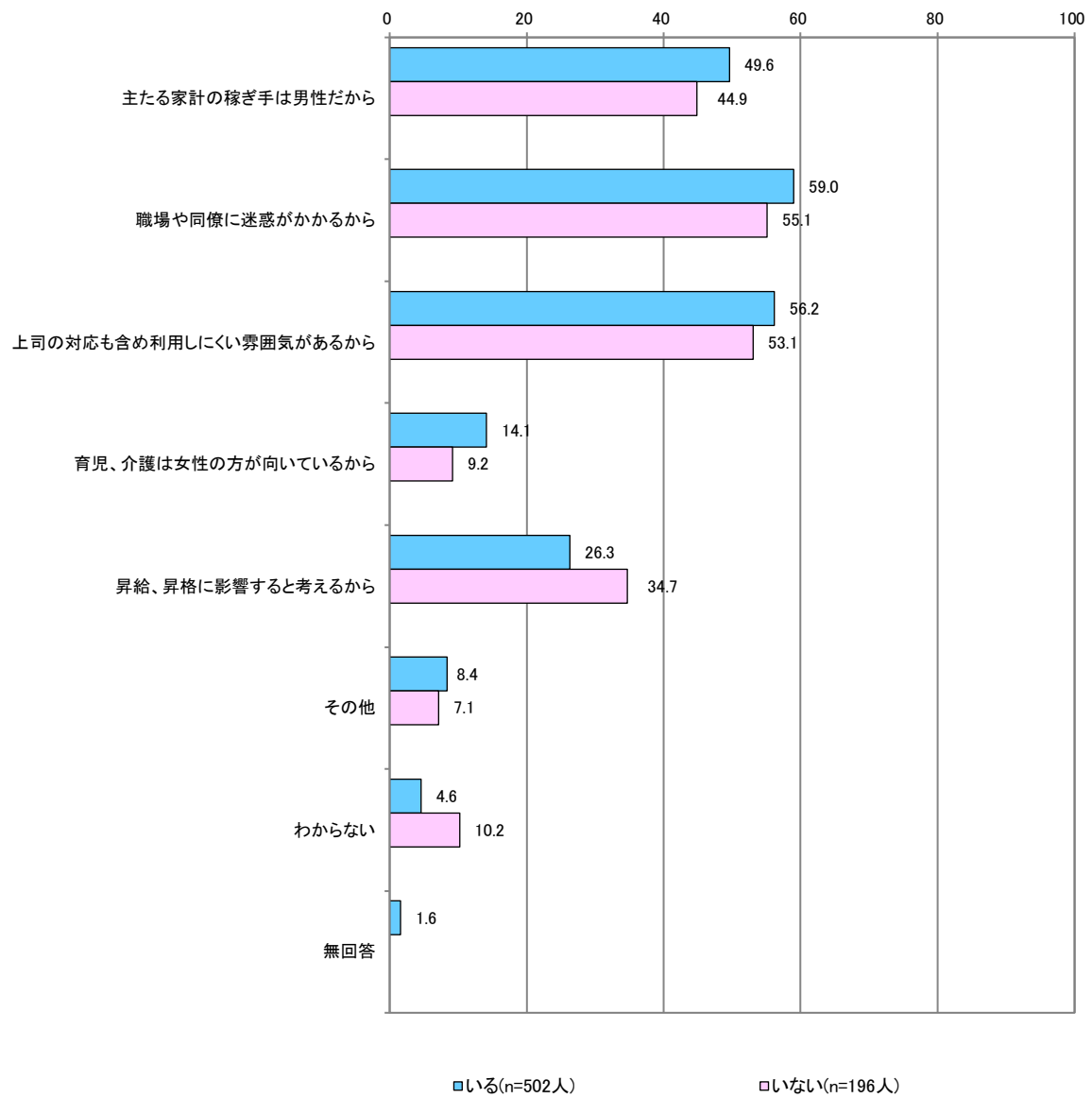
(%)



■ 20歳未満(n=4人)    ■ 20歳～24歳(n=17人)    ■ 25歳～29歳(n=23人)    ■ 30歳～34歳(n=45人)  
 ■ 35歳～39歳(n=62人)    ■ 40歳～44歳(n=55人)    ■ 45歳～49歳(n=66人)    ■ 50歳～54歳(n=80人)  
 ■ 55歳～59歳(n=61人)    ■ 60歳～64歳(n=86人)    ■ 65歳～69歳(n=97人)    ■ 70歳以上(n=110人)

【子の有無別】

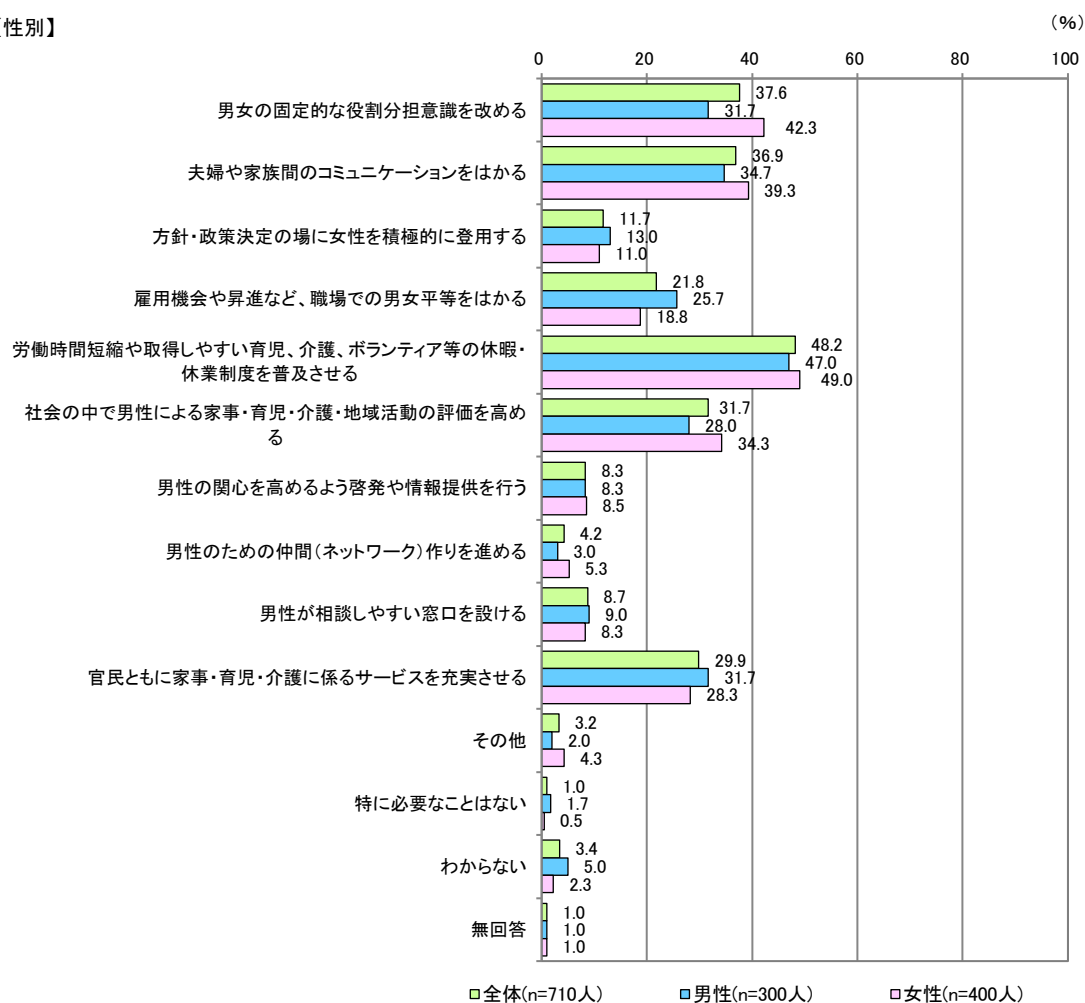
(%)



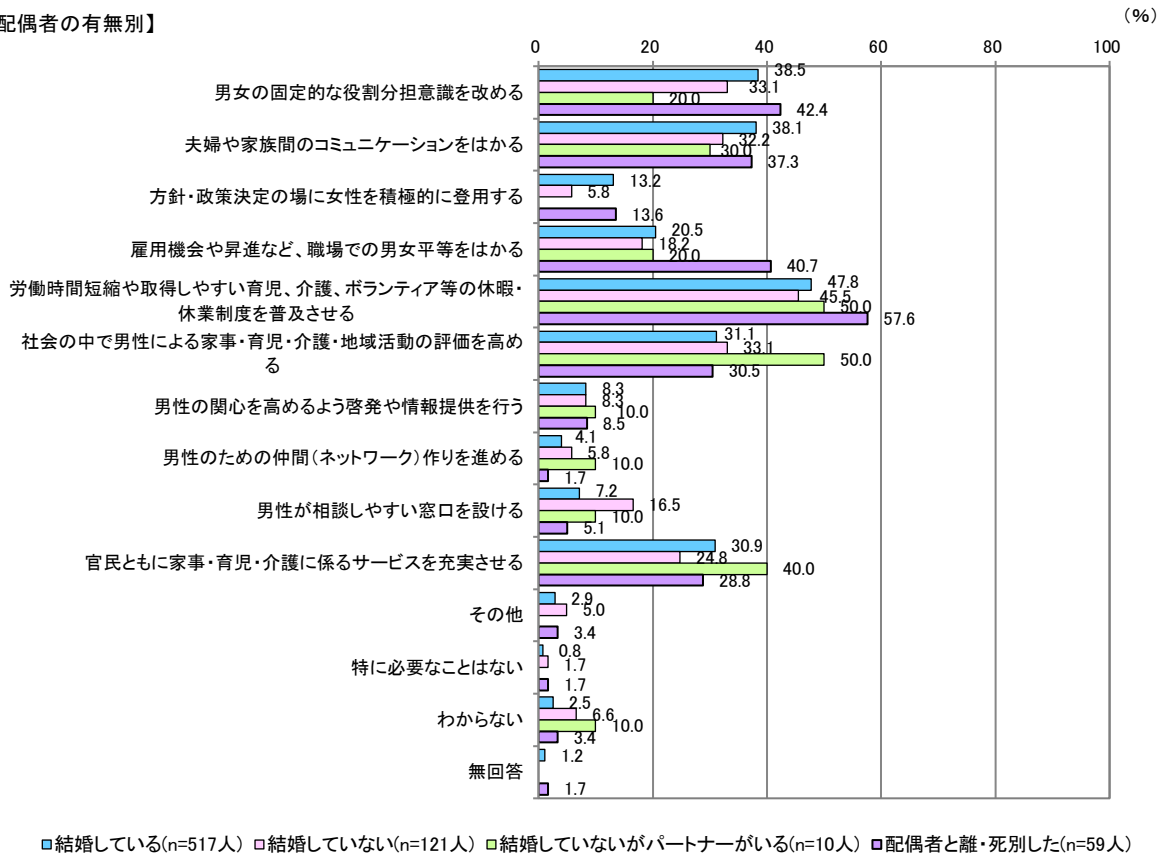
問 32 今後、女性と男性がともに仕事・家事・育児・介護・地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。（〇は3つまで）

- ・全体では、「労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」（48.2%）が最も多く、約5割となっている。次に、「男女の固定的な役割分担意識を改める」（37.6%）、「夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる」（36.9%）、「社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める」（31.7%）、「官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる」（29.9%）、「雇用機会や昇進など、職場での男女平等をはかる」（21.8%）と続いている。
- ・性別でみると、男女とも、上位3項目は同じ傾向となっている。「男女の固定的な役割分担意識を改める」については、女性は42.3%、男性は31.7%と、女性が男性よりも高い回答割合となっている。
- ・配偶者の有無別でみると、「労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」という回答が、いずれも最も多くなっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める」という回答が同率で最も多くなっている。
- ・子の有無別でみると、いずれも「労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」が最も多くなり、約5割となっている。

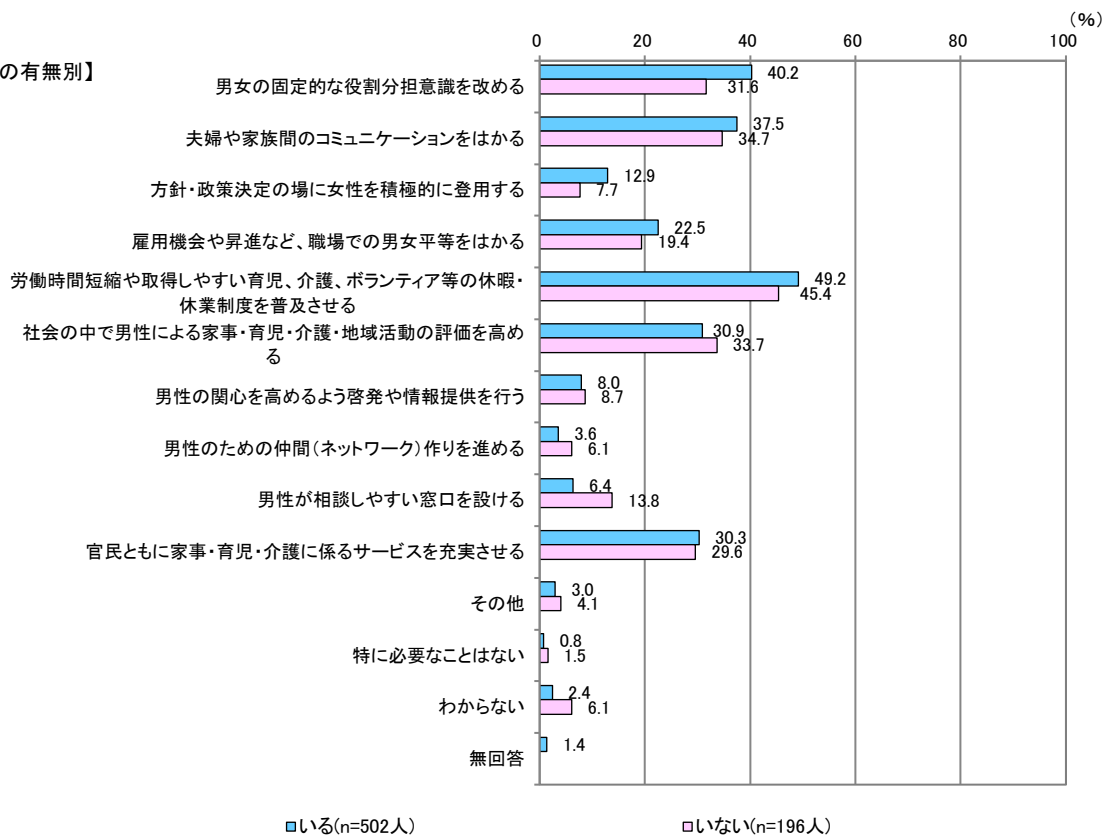
【性別】



【配偶者の有無別】



【子の有無別】



---

## 地域社会に関することについて

---

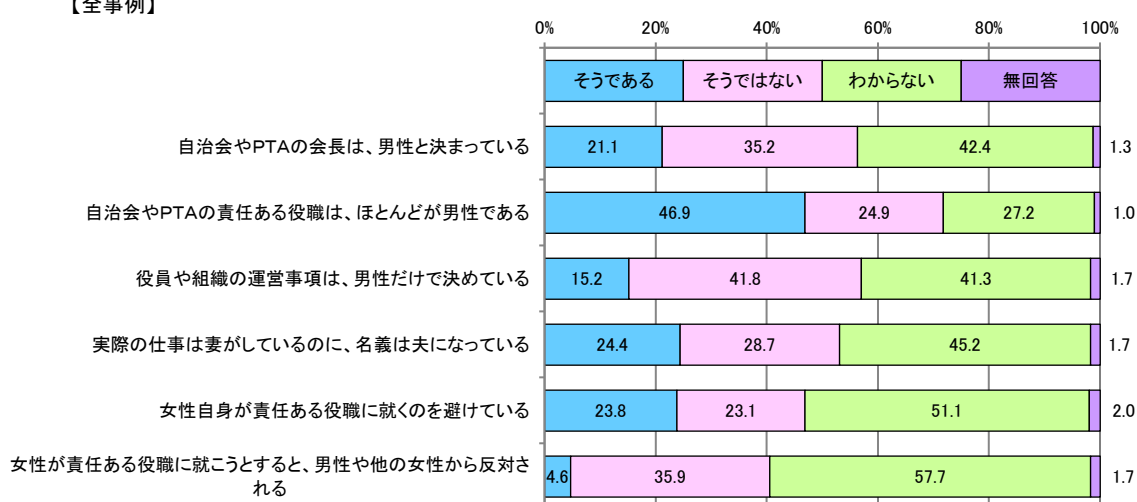




問 33 あなたが住んでいる地域では、自治会・P T A・そのほかの地域での活動において、次のような事例が見受けられますか。（それぞれ○は1つ）

- ・「そうである」という回答でみると、「自治会やP T Aの責任ある役職は、ほとんどが男性である」が最も多く、約5割（46.9%）となっている。次いで「実際の仕事は妻がしているのに、名義は夫になっている」（24.4%）、「女性自身が責任ある役職に就くのを避けている」（23.8%）、と続いている。
- ・一方、「そうではない」という回答は、「役員や組織の運営事項は、男性だけで決めている」（41.8%）が最も多く、約4割となっている。次いで、「女性が責任ある役職に就こうとすると、男性や他の女性から反対される」（35.9%）、「自治会やP T Aの会長は、男性と決まっている」（35.2%）と続いている。

【全事例】

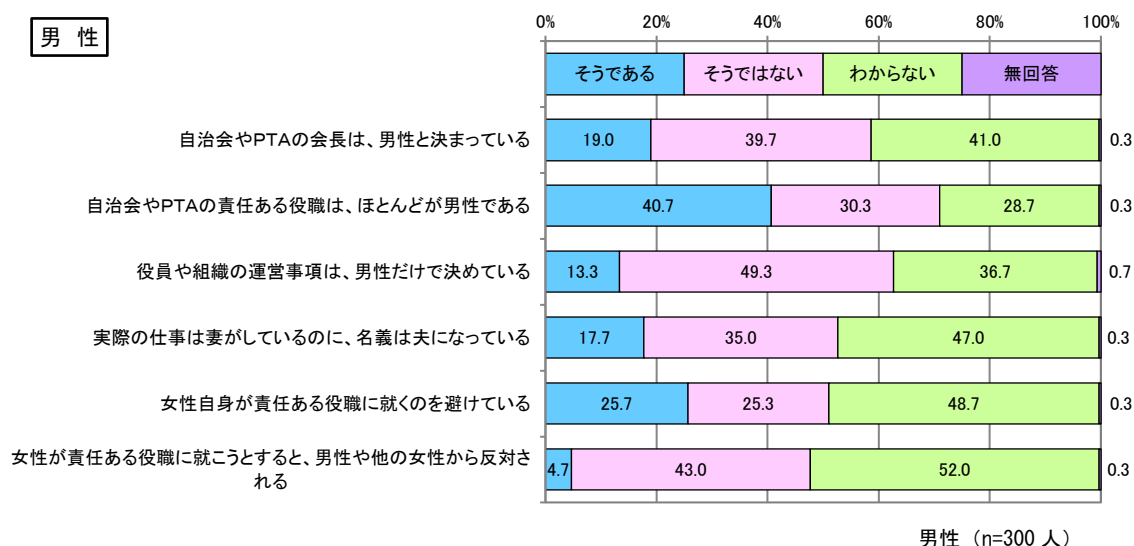


全体 (n=710 人)

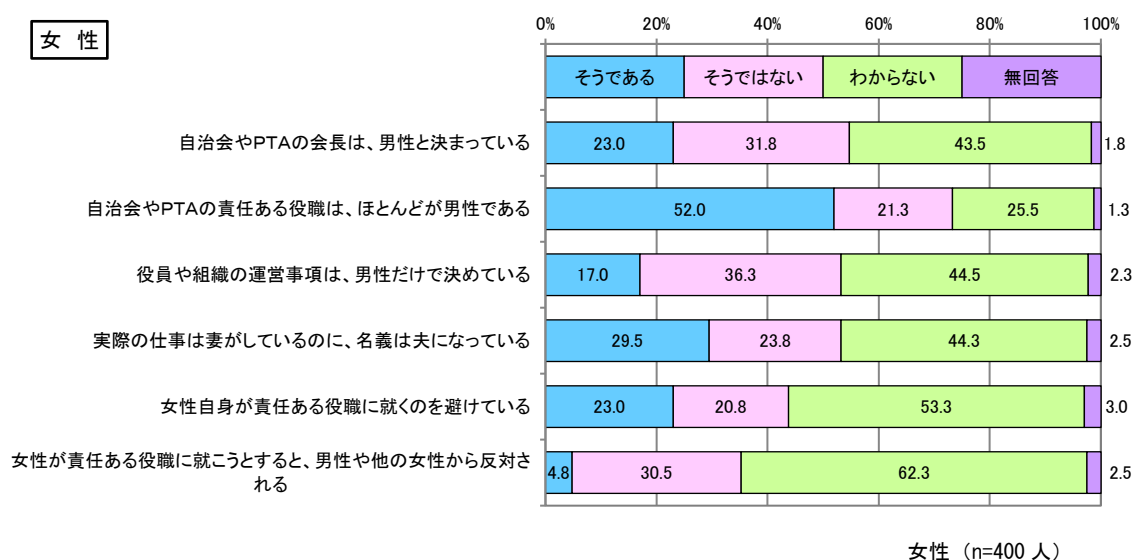
- ・性別でみると、男女ともいずれの事例においても同じような傾向になっているものの、「そうである」という回答でみると、「実際の仕事は妻がしているのに、名義は夫になっている」では、女性の回答割合 29.5%が男性の 17.7%よりも多くなっている。また、「そうではない」という回答でみると、「役員や組織の運営事項は、男性だけで決めている」では、男性の回答割合 49.3%が女性の回答割合 36.3%よりもやや多くなっている。

【性別】

男 性



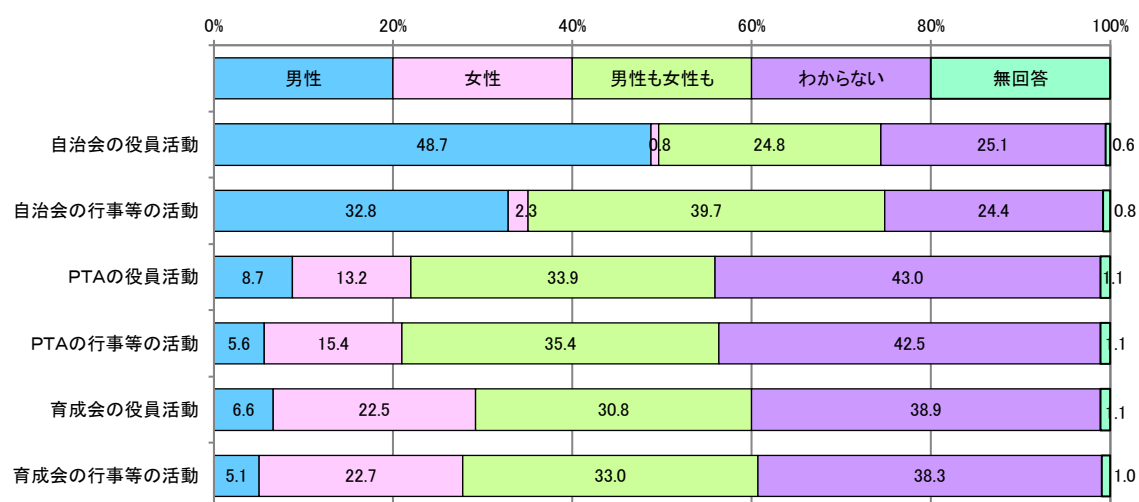
女 性



問 34 あなたが住んでいる地域では、次の 1 から 6 の活動について誰が中心となり取り組んでいますか。（それぞれ○は 1 つ）

- ・「女性」という回答は、「育成会の行事等の活動」（22.7%）が最も多く、約 2 割となっている。次いで、「育成会の役員活動」（22.5%）、「PTA の行事等の活動」（15.4%）と続いている。
- ・一方、「男性」という回答でみると、「自治会の役員活動」が最も多く、約 5 割（48.7%）となっている。次に、「自治会の行事等の活動」（32.8%）、「PTA の役員活動」（8.7%）と続いている。
- ・「男性も女性も」という回答でみると、「自治会の行事等の活動」（39.7%）が最も多く、約 4 割となっている。次に「PTA の行事等の活動」（35.4%）、「PTA の役員活動」（33.9%）、「育成会の行事等の活動」（33.0%）と続いている。

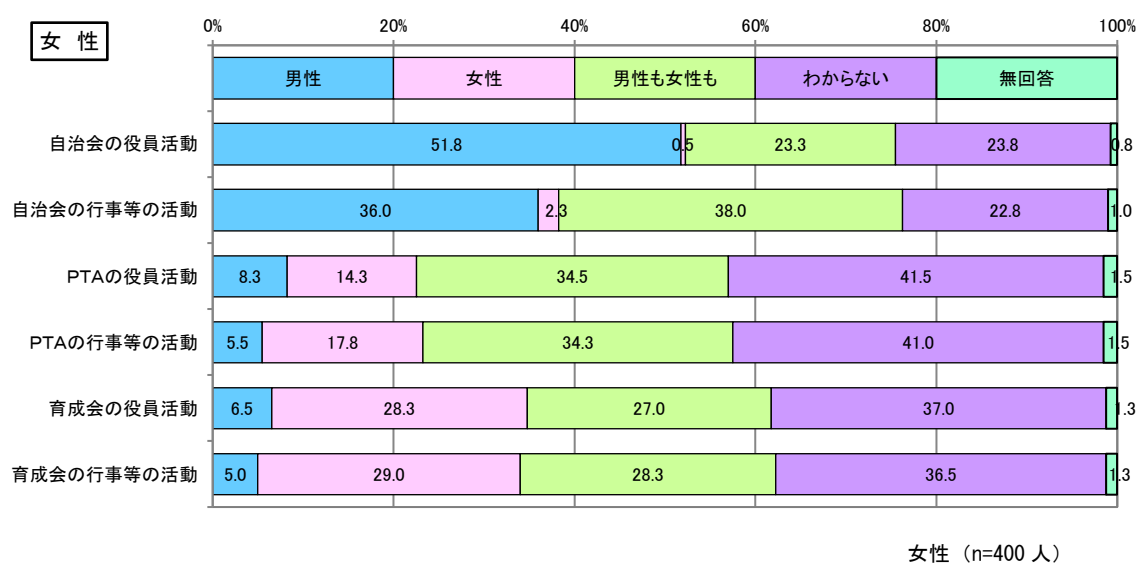
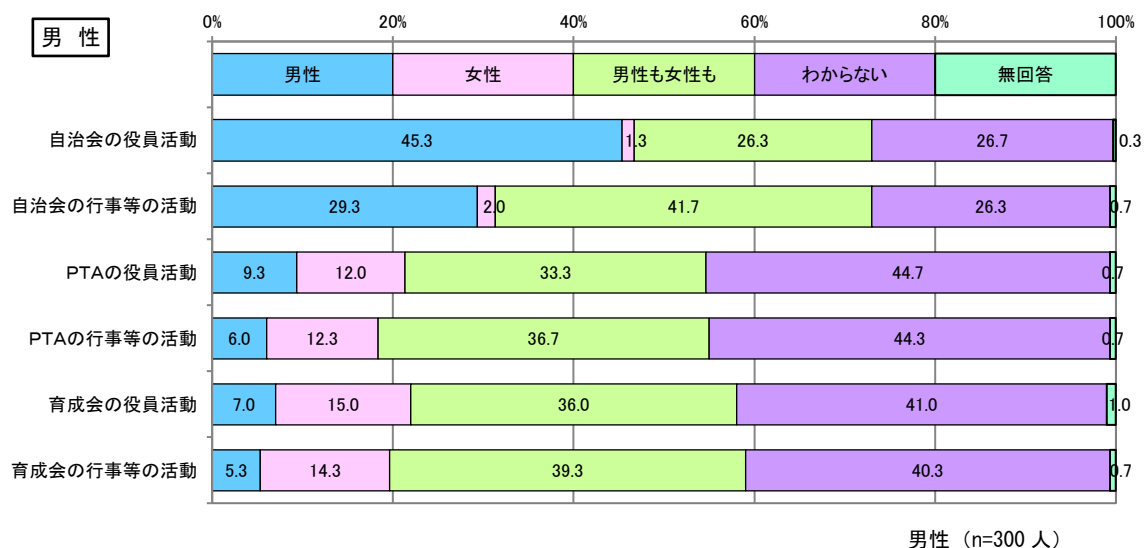
【全事例】



全体（n=710 人）

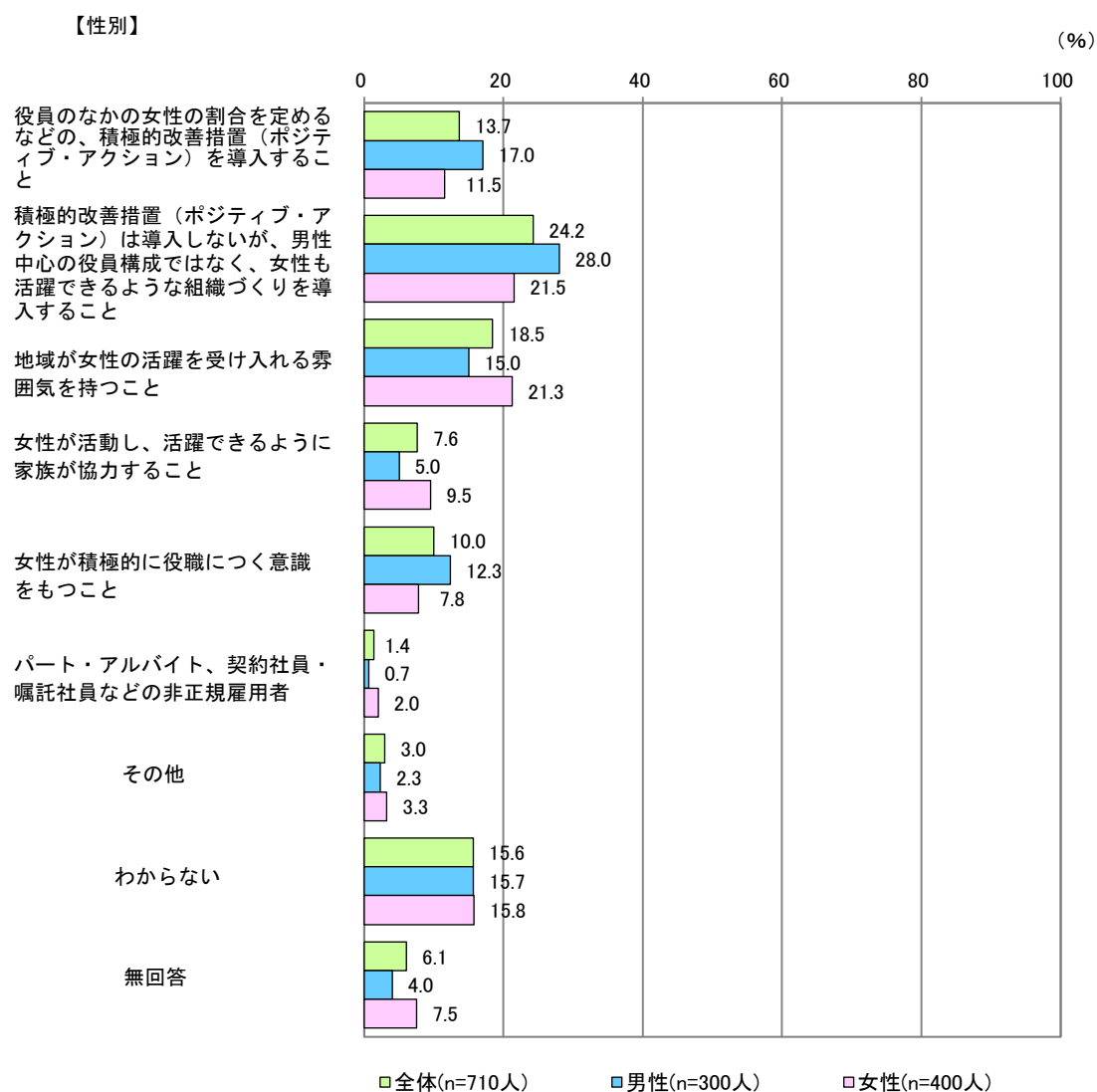
- ・性別でみると、男女ともいずれの事例においても同じような傾向になっているものの、「女性」という回答でみると、「育成会の役員活動」では、女性の回答割合 28.3%が男性の 15.0%よりも多くなっている。「育成会の行事等の活動」では、女性の回答割合 29.0%が男性の 14.3%よりも多くなっている。

#### 【性別】



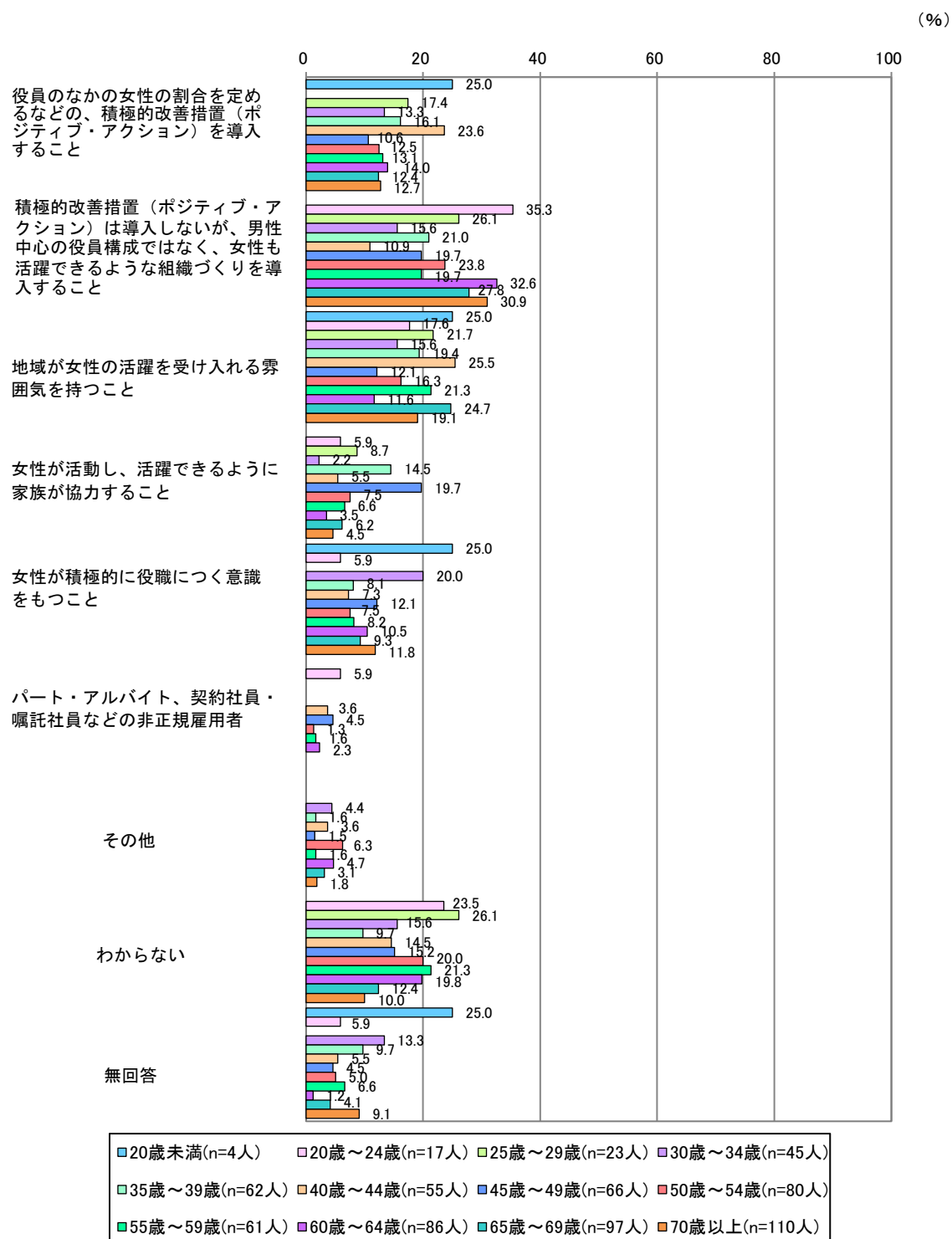
問 35 持続可能な地域づくりのためには、活動の企画立案・方針決定の場に、あらゆる世代の男女が、互いを尊重し、参画することが重要です。そのためには、女性も地域の重要な方針決定の場に出ていただく必要があります。あなたは、どうすればそれが可能になると思いますか。（〇は1つ）

- ・全体でみると、「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」（24.2%）が最も多くなっている。次に、「地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと」（18.5%）、「わからない」（15.6%）と続いている。
- ・性別でみると、男女とも、「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」が最も多くなっている。次いで、女性では、「地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと」（21.3%）、「わからない」（15.8%）、男性では、「役員のなかの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）を導入すること」（17.0%）、「わからない」（15.7%）となっている。



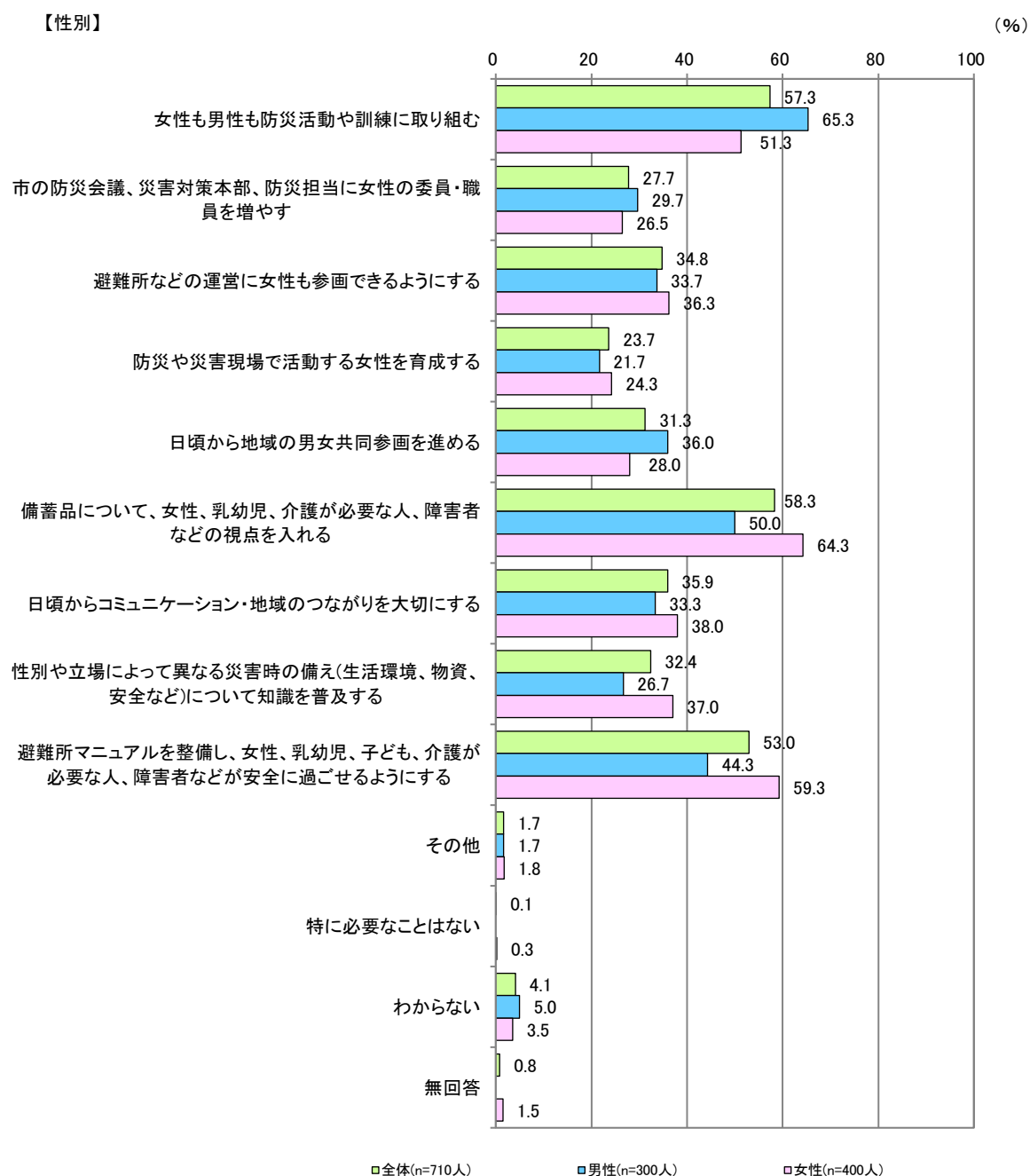
- ・年代別でみると20歳未満、30歳～34歳、40歳～44歳、55歳～59歳を除くいずれの世代においても、「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」が最も多くなっている。また、20歳未満、40歳～44歳、55歳～59歳では、「地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと」が最も多くなっている。

# 【年代別】



問 36 平時の防災体制や災害発生後の対応にも男女共同参画の視点が必要です。災害に備えるために、これからどのような施策が必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

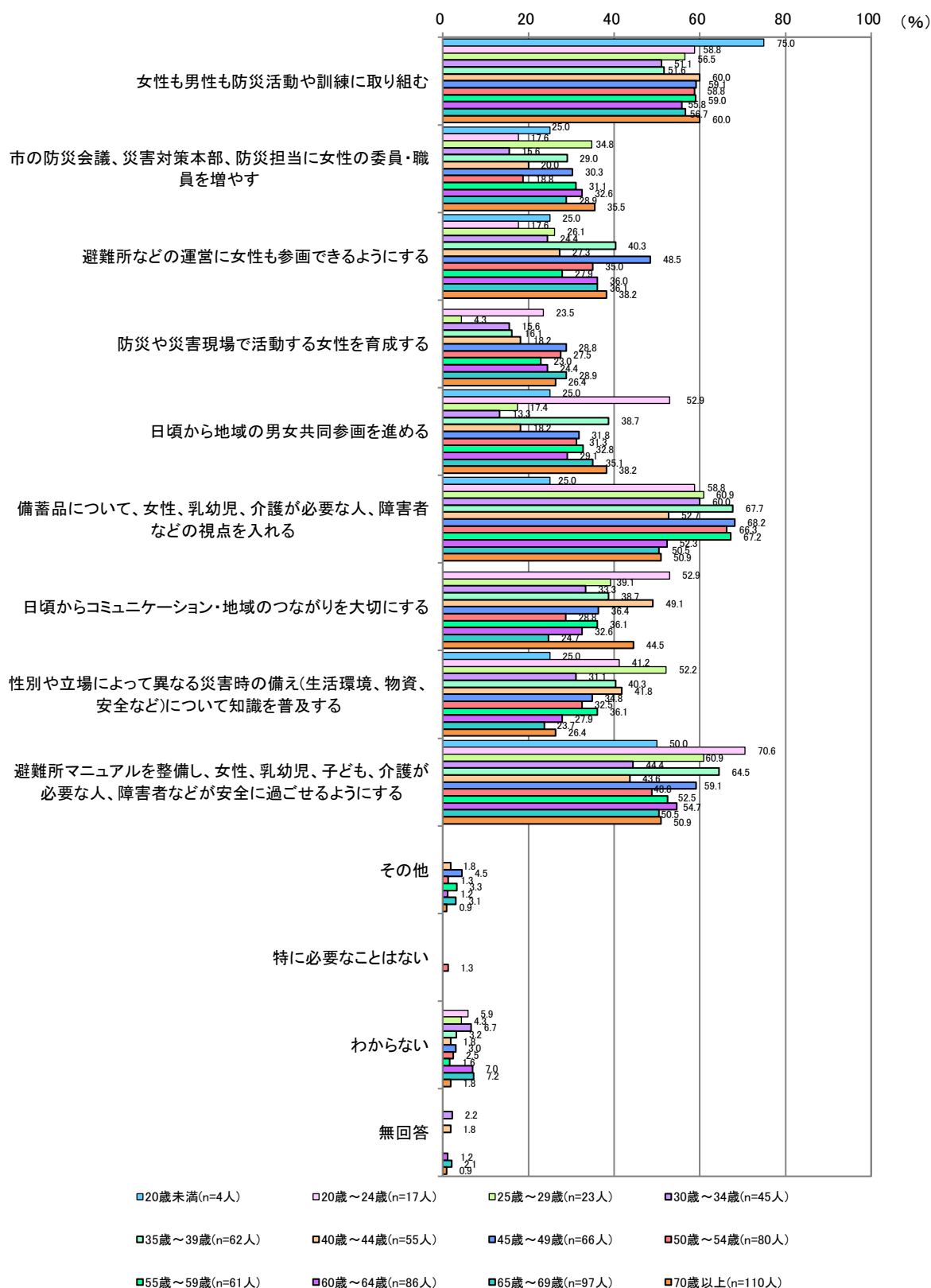
- ・全体でみると、「備蓄品について、女性、乳幼児、介護が必要な人、障害者などの視点を入れる」(58.3%) が約6割と最も多くなっている。次に、「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」(57.3%)、「避難所マニュアルを整備し、女性、乳幼児、子ども、介護が必要な人、障害者などが安全に過ごせるようにする」(53.0%)と続いている。
- ・性別でみると、男性は、「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」(65.3%) が最も多くなっている。一方、女性は、「備蓄品について、女性、乳幼児、介護が必要な人、障害者などの視点を入れる」(64.3%) が最も多くなっている。





- ・年代別でみると、20 歳未満、40 歳～44 歳、60 歳以上で「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」が最も多くなっている。25 歳～39 歳、45 歳～59 歳では、「備蓄品について、女性、乳幼児、介護が必要な人、障害者などの視点を入れる」が最も多くなっている。20 歳～24 歳で「避難所マニュアルを整備し、女性、乳幼児、子ども、介護が必要な人、障害者などが安全に過ごせるようにする」が最も多くなっている。

# 【年代別】



---

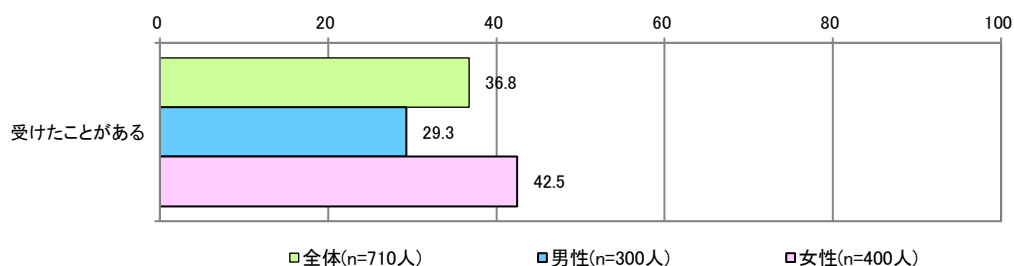
## 男女の人権に関することについて

---



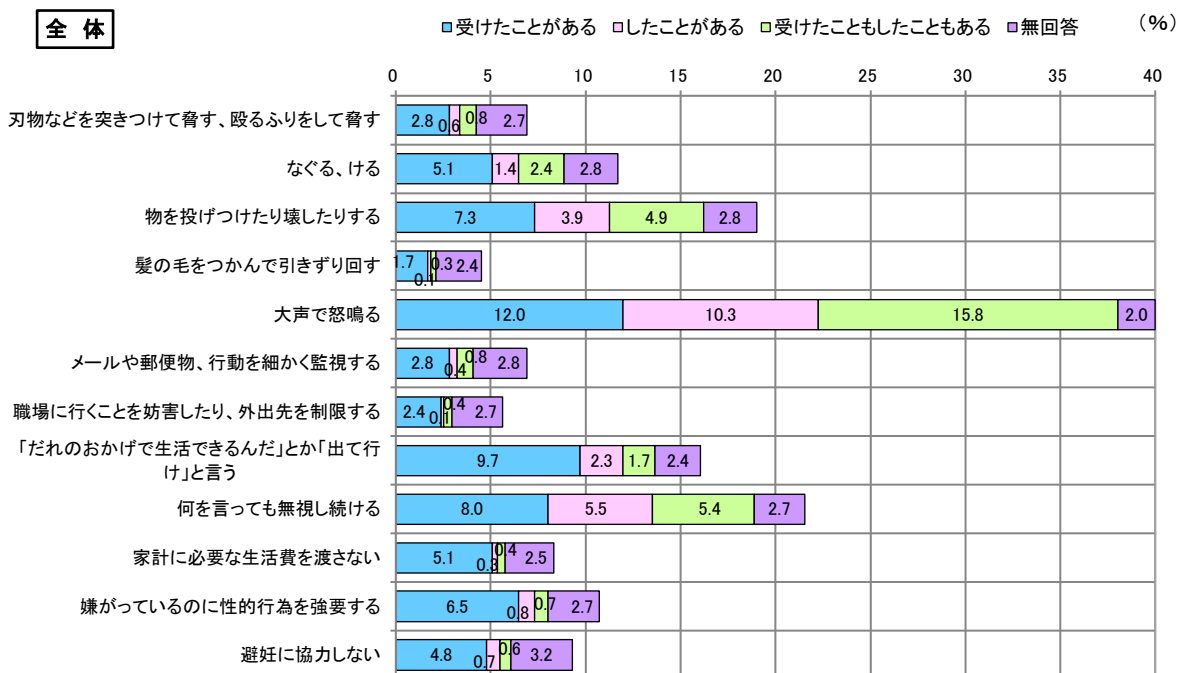
問 37 身近な人（夫・妻・恋人）からの暴力が、DV（ドメスティック・バイオレンス）として問題になっています。次にあげる行為は、DVにあたる行為です。  
あなたは、今までにこれらの行為を受けた又はしたことがありますか。（それぞれ○は1つ）

- ・いずれかを「受けたことがある」という回答は、全体では36.8となっている。
- ・性別でみると、女性では42.5%、男性では29.3%となっている。



- ・具体的な内容としては、全体でみると、「受けたことがある」という回答では、「大声で怒鳴る」(12.0%) が最も多くなっており、次いで『だれのおかげで生活できるんだ』とか『出て行け』と言う(9.7%)、「何を言っても無視し続ける」(8.0%)と続いている。「したことがある」という回答では、「大声で怒鳴る」(10.3%) が最も多くなっており、次いで、「何を言っても無視し続ける」(5.5%)、「物を投げつけたり壊したりする」(3.9%)と続いている。「受けたこともしたこともある」という回答では、「大声で怒鳴る」(15.8%) が最も多くなっており、次いで「何を言っても無視し続ける」(5.4%)、「物を投げつけたり壊したりする」(4.9%)と続いている。

### 全体

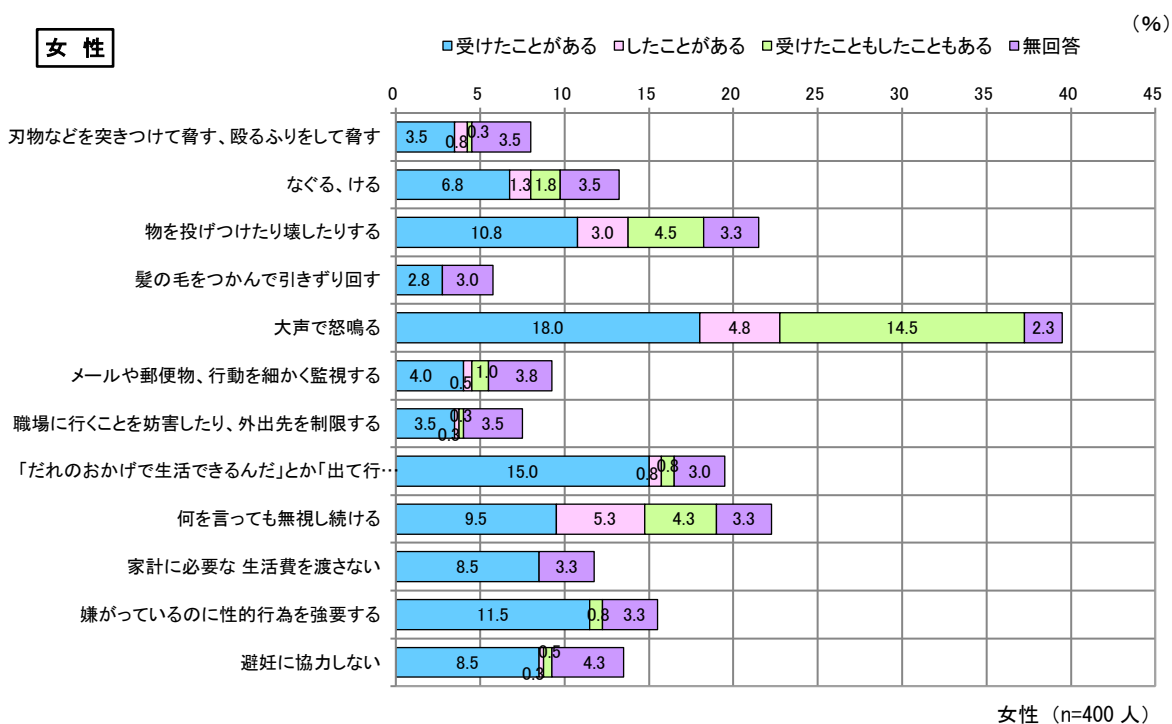
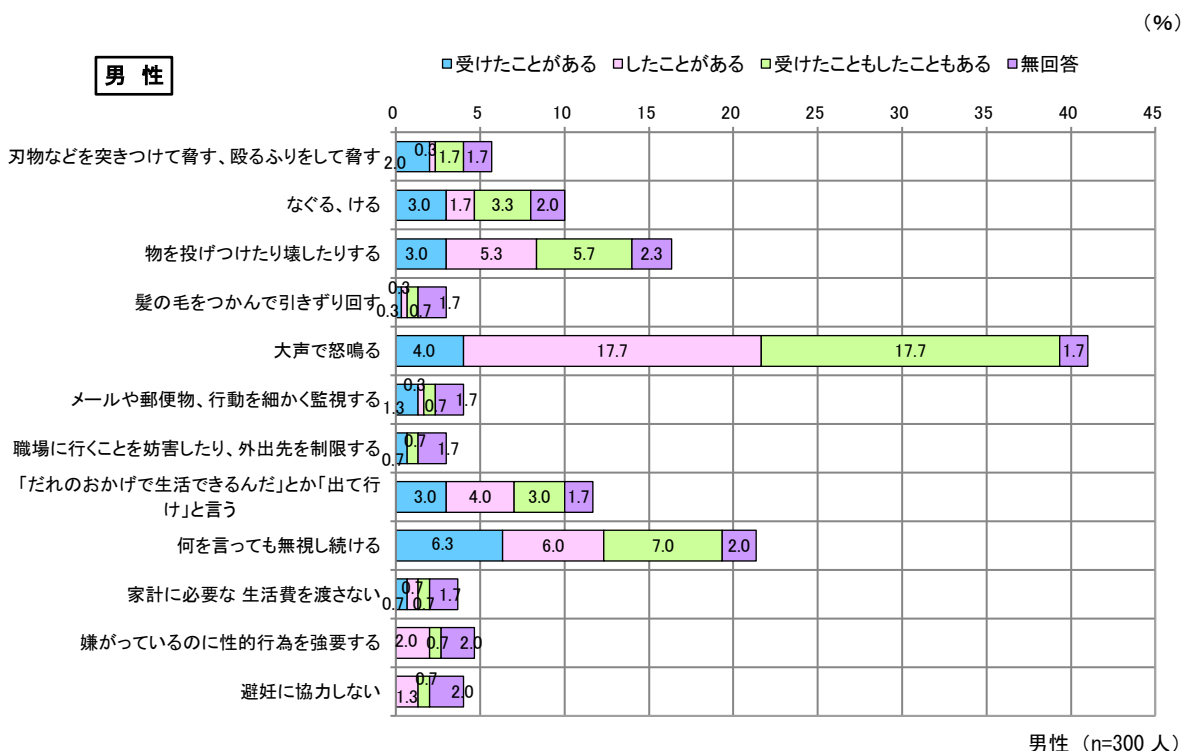


全体 (n=710 人)

※残りの回答は「受けたこともしたこともない」

- ・性別でみると、「受けたことがある」という回答については女性が多く、反対に「したことがある」という回答については、男性の回答が多くなっている。

【性別】

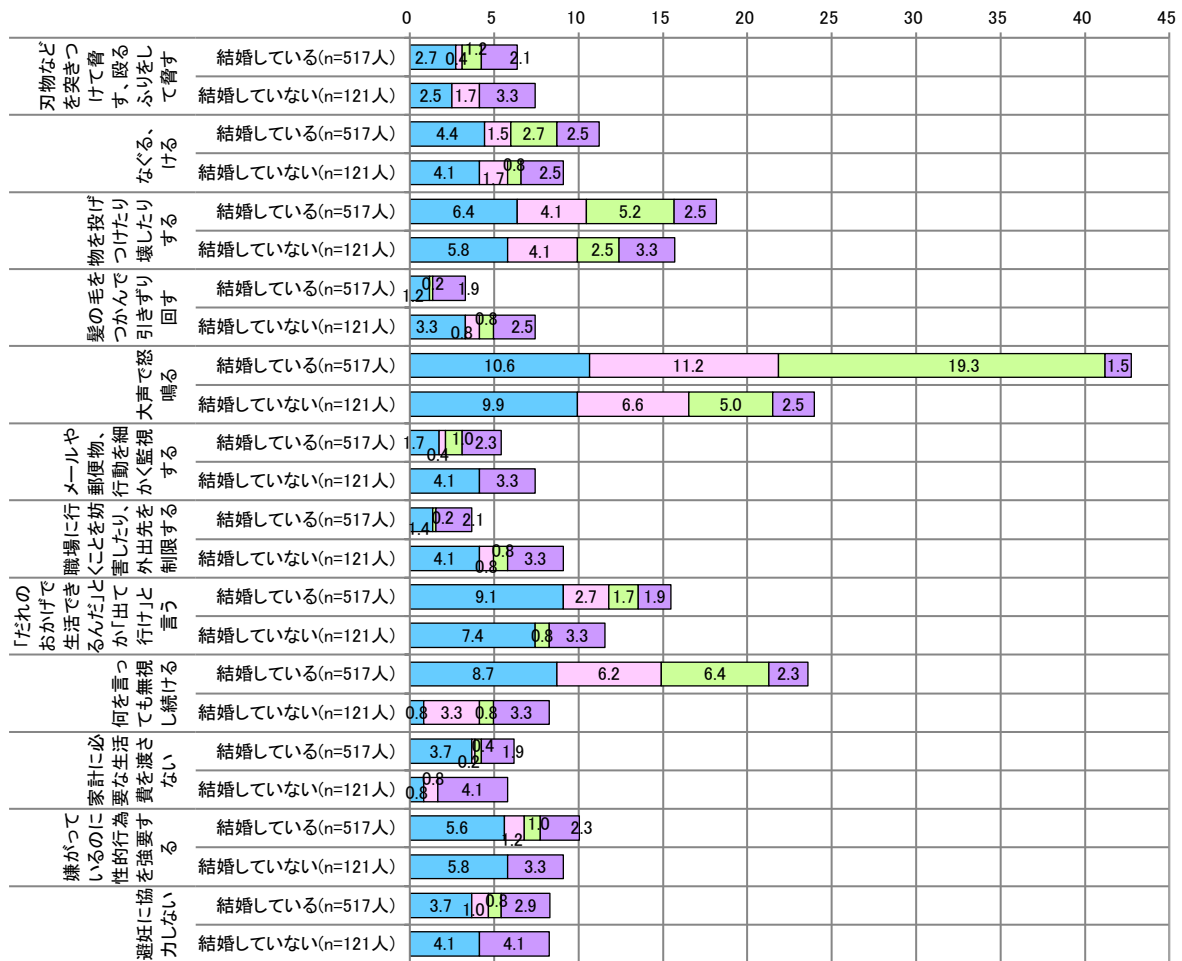


※残りの回答は「受けたこともしたこともない」

- ・婚姻の有無別にみると、「刃物などを突きつけて脅す、殴るふりをして脅す」、「なぐる、ける」、「物を投げつけたり壊したりする」、「大声で怒鳴る」、「『だれのおかげで生活できるんだ』とか『出て行け』と言う」、「何を言っても無視し続ける」、「家計に必要な生活費を渡さない」では、「結婚している」が「結婚していない」よりも回答割合が多くなっている。

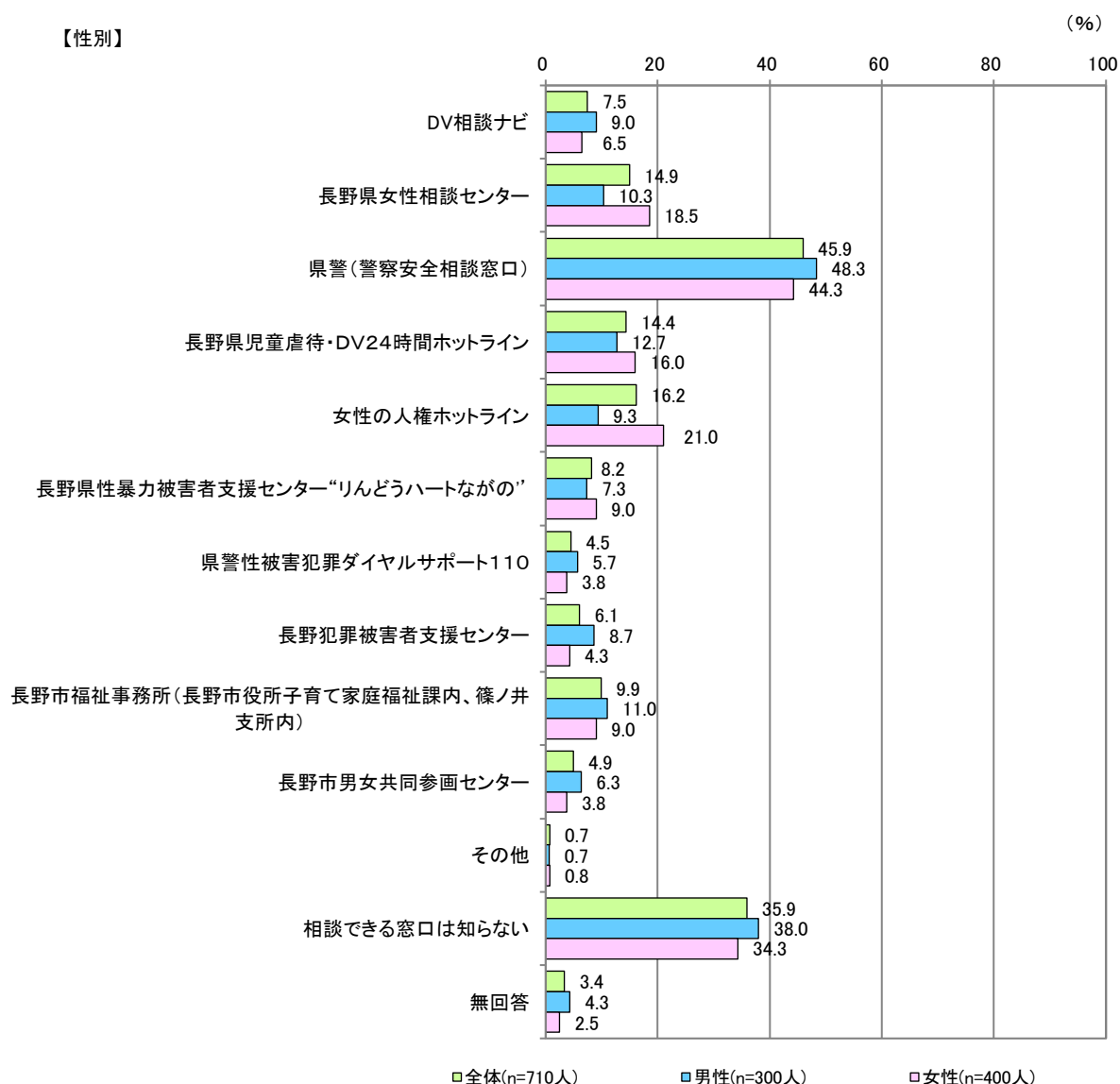
【婚姻の有無別】

■受けたことがある □したことがある ■受けたこともしたこともある ■無回答 (%)



問 38 あなたはDV（ドメスティック・バイオレンス）にあったとき、相談するところをご存知ですか。知っている相談窓口をお選びください。（〇はいくつでも）

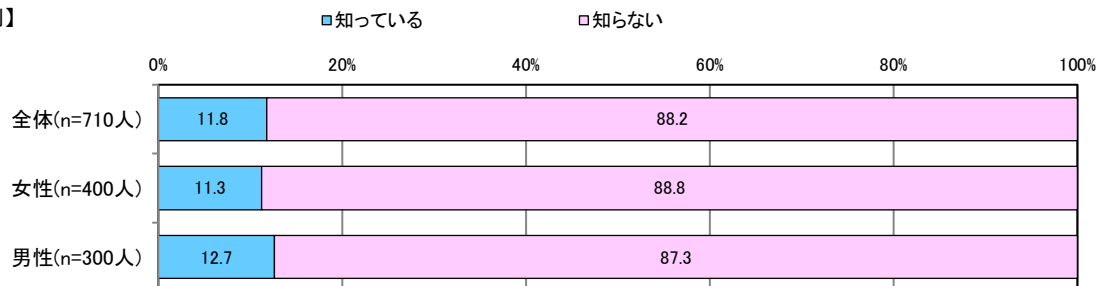
- ・全体でみると、最も回答が多かったのは「県警（警察安全相談窓口）」（45.9％）で、約5割となっている。次いで、「相談できる窓口は知らない」（35.9％）、「女性の人権ホットライン」（16.2％）、「長野県女性相談センター」（14.9％）、「長野県児童虐待・DV 24時間ホットライン」（14.4％）、「長野市福祉事務所」（9.9％）、「長野県性暴力被害者支援センター “りんどうハートながの”」（8.2％）と続いている。
- ・性別でみると、男性においては、「県警（警察安全相談窓口）」（48.3％）が約5割と最も多くなっている。次に、「相談できる窓口は知らない」（38.0％）、「長野県児童虐待・DV 24時間ホットライン」（12.7％）、「長野市福祉事務所」（11.0％）となっており、一方、女性においては、「県警（警察安全相談窓口）」（44.3％）が最も多く、次に、「相談できる窓口は知らない」（34.3％）、「女性の人権ホットライン」（21.0％）、「長野県女性相談センター」（18.5％）の順となっており、男女の認知度に差がある。



## <DV被害に対する市の対応窓口の認知度>

- ・問 38 において、「長野市福祉事務所」及び「長野市男女共同参画センター」のいずれかを「知っている」回答は、約1割（11.8%）となっている。
- ・性別でみると、「長野市福祉事務所」及び「長野市男女共同参画センター」のいずれかを「知っている」回答は、「男性」（12.7%）の方が「女性」（11.3%）よりやや多くなっている。
- ・世代別性別でみると、20歳～24歳の女性、70歳以上の男性の世代で、「知っている」回答割合が2割を超えている。

【性別】

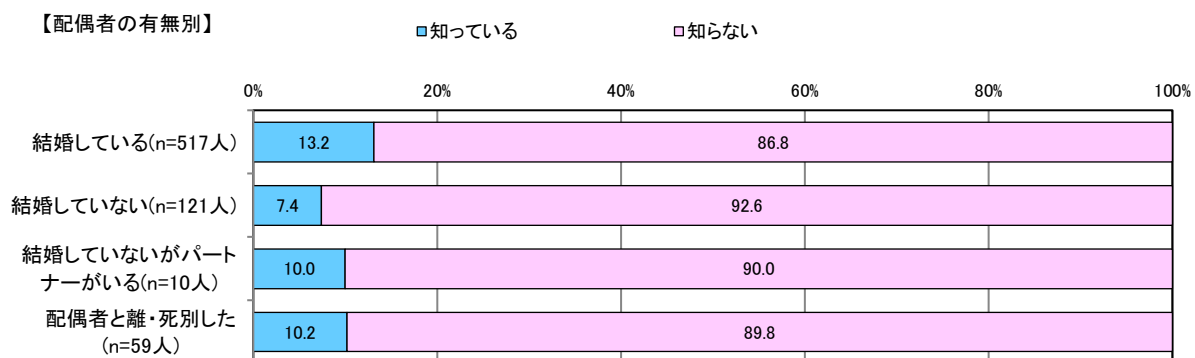


【世代別性別】





- ・配偶者の有無別でみると、いずれも「知っている」が2割未満であった。特に、「結婚していない」では、7.4%となっている。

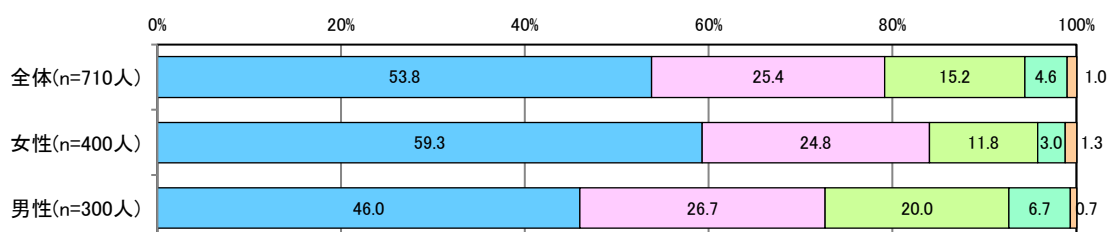


問 39 DV（ドメスティック・バイオレンス）についてあなたの考えに最も近いのはどれですか。（○は1つ）

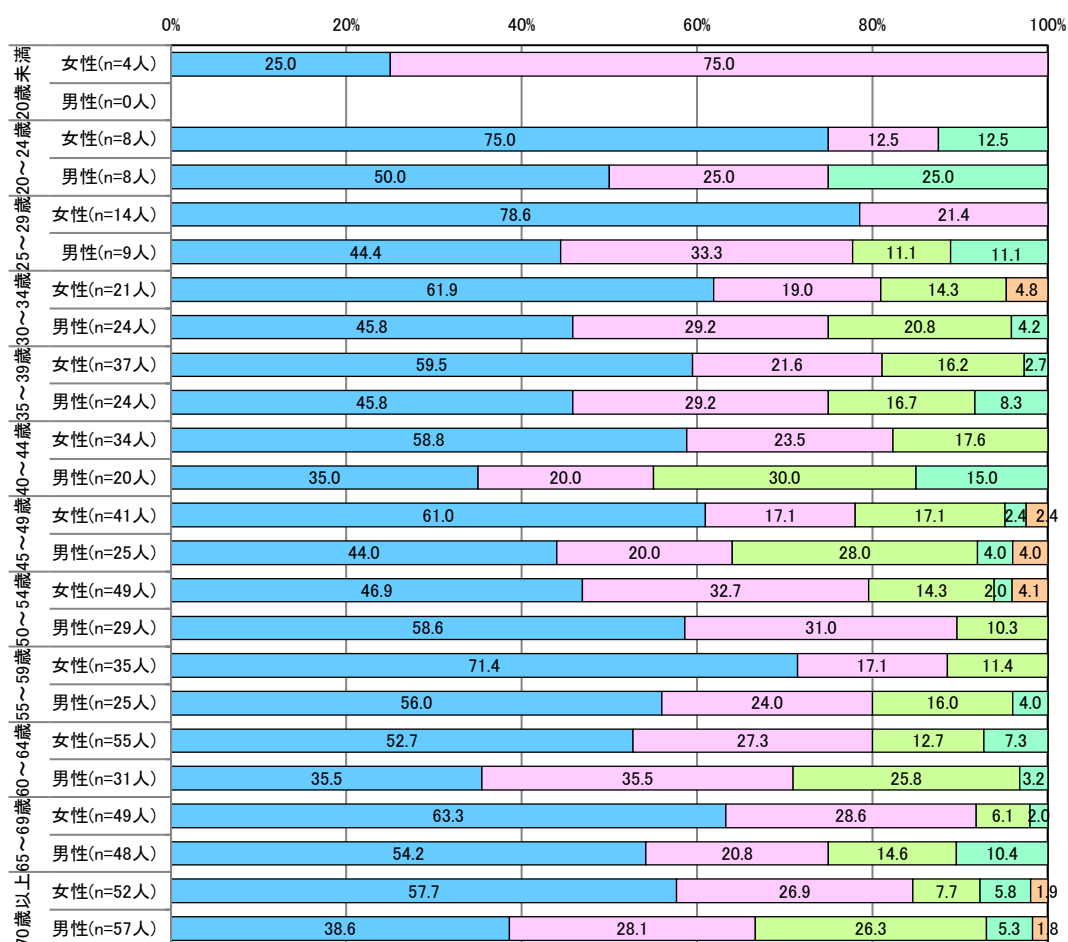
- ・全体でみると、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う」（53.8%）が最も多い回答となり、約5割となる。次いで、「どんな場合でも人権侵害にあたると思う」（25.4%）、「人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」（15.2%）と続いている。
- ・性別でみると、男女とも最も多い回答が、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う」となり、次に「どんな場合でも人権侵害にあたると思う」が2番目に多い回答となっている。
- ・世代別性別でみると、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う」という回答は、20歳未満の女性、40歳～44歳の男性、60歳～64歳の男性、70歳以上の男性を除く、いずれの世代でも4割以上と最も多い回答となっている。

【性別】

- ☐ どの場合でも重大な人権侵害にあたると思う  
☐ 人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う  
☐ わからない  
☐ どの場合でも人権侵害にあたると思う  
☐ 人権侵害にあたるとは思わない  
☐ 無回答

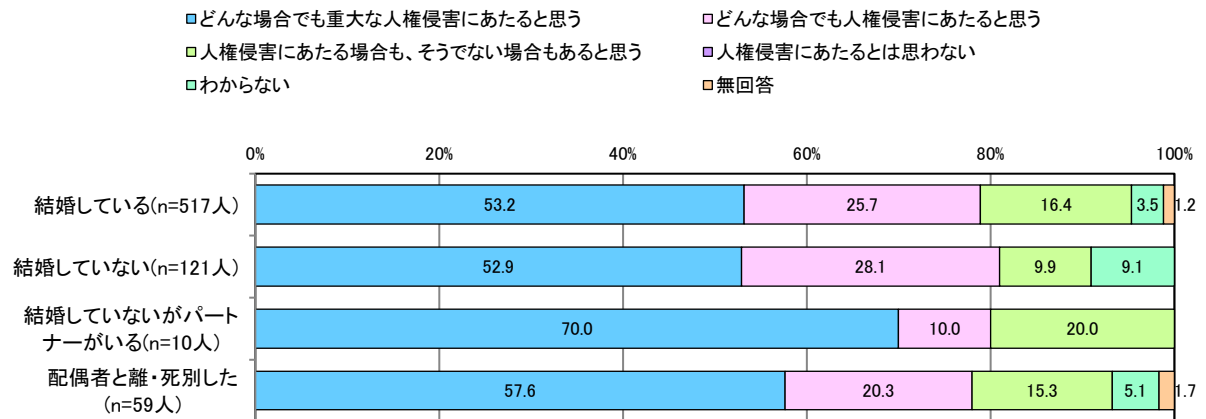


【世代別性別】



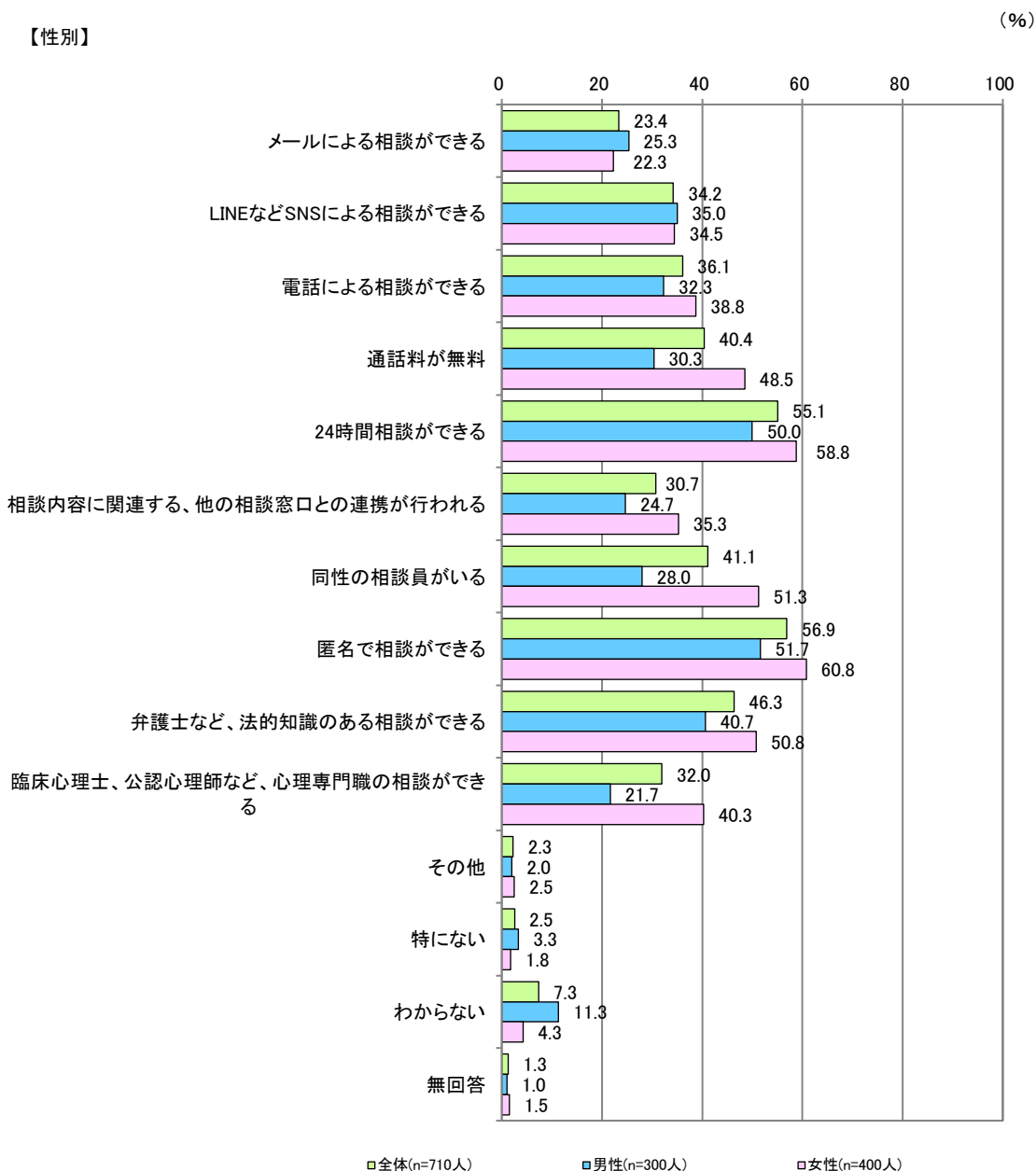
- ・配偶者の有無別でみると、いずれも、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う」が最も多く、5割以上となっている。

【配偶者の有無別】



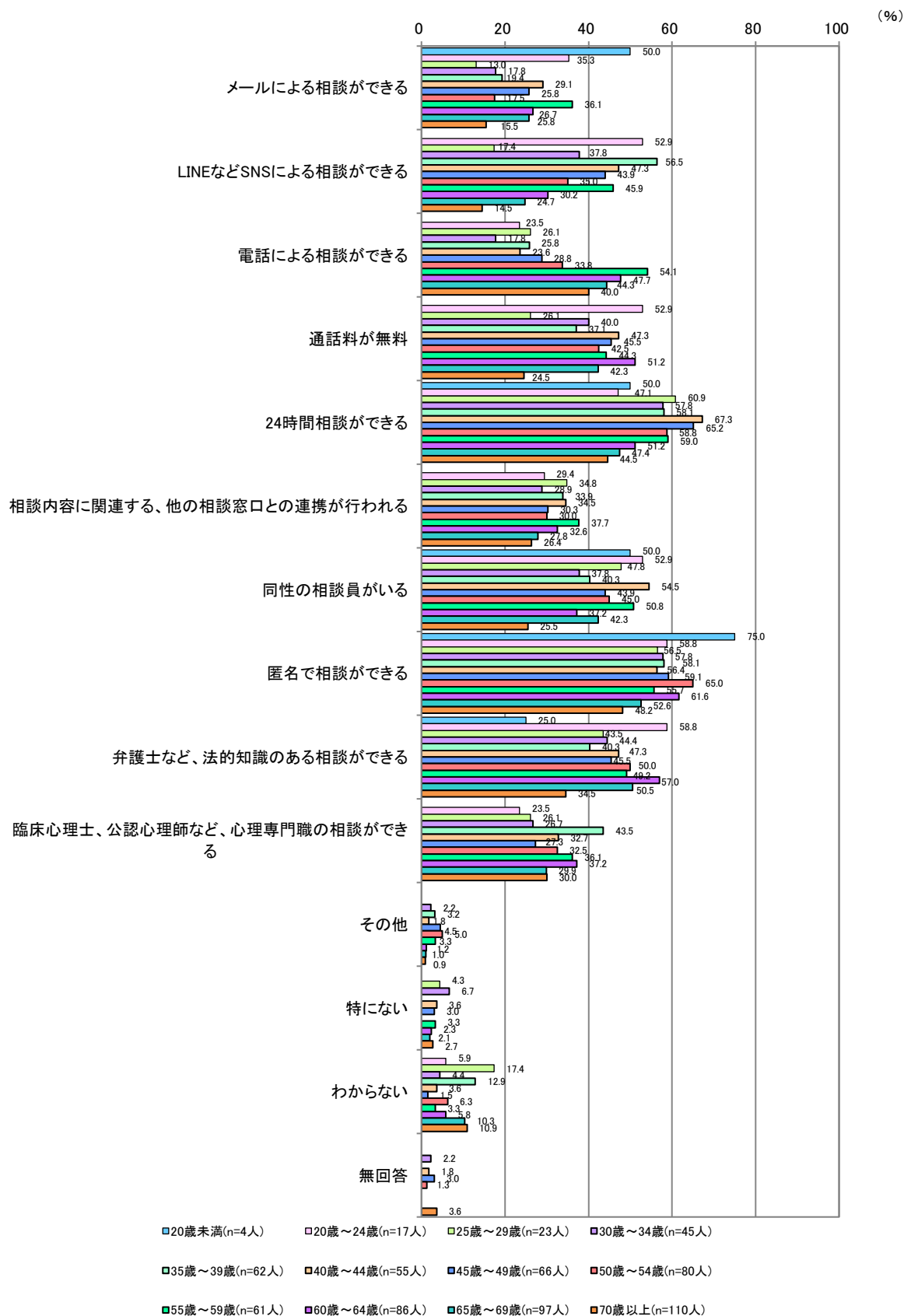
問 40 あなたは、暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいと思うことは何ですか。（〇はいくつでも）

- ・全体でみると、最も回答が多かったのは「匿名で相談ができる」(56.9%)で、約6割となっている。次いで、「24時間相談ができる」(55.1%)、「弁護士など、法的知識のある相談ができる」(46.3%)、「同性の相談員がいる」(41.1%)、「通話料が無料」(40.4%)、「電話による相談ができる」(36.1%)と続いている。
- ・性別でみると、男女ともに、「匿名で相談ができる」が最も多くなっている。次に、「24時間相談ができる」、「弁護士など、法的知識のある相談ができる」となっている。
- ・「同性の相談員がいる」という回答では、女性の回答割合が約5割と、男性よりも高くなっている。



- ・年代別でみると、25 歳～29 歳、40 歳～49 歳、55 歳～59 歳を除く世代で、「匿名で相談ができる」が最も多い回答となっている。25 歳～29 歳、40 歳～49 歳、55 歳～59 歳では、「24 時間相談ができる」が最も多くなっている。

# 【年代別】



---

## 「性」の多様性に関するについて

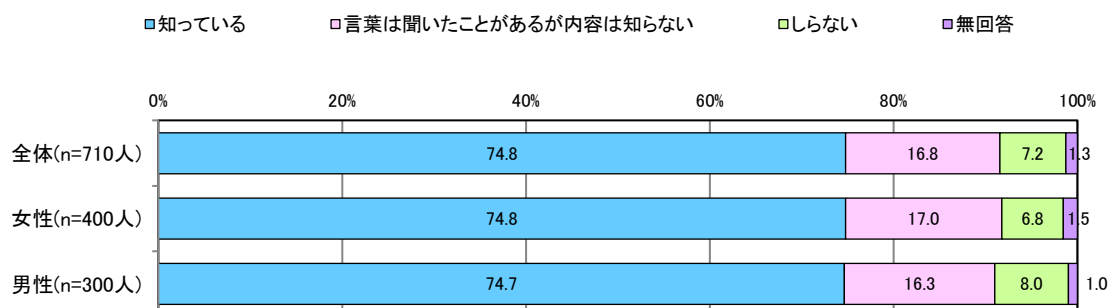
---



問 41 あなたは「性的マイノリティ(性的少数者)」または「LGBTQ」という言葉を(どちらか一方でも)知っているか、または聞いたことがありますか。

- ・全体でみると、「知っている」(74.8%)が最も多い回答となっており、約7割となる。次いで、「言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」(16.8%)、「知らない」(7.2%)と続いている。
- ・性別でみると、男女とも最も多い回答が、「知っている」となり、次に「言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」が2番目に多い回答になっている。
- ・世代別性別でみると、「知っている」という回答は、25歳～29歳の男性、60歳～64歳の女性を除き、いずれの世代でも6割以上と最も多い回答となっている。

【性別】



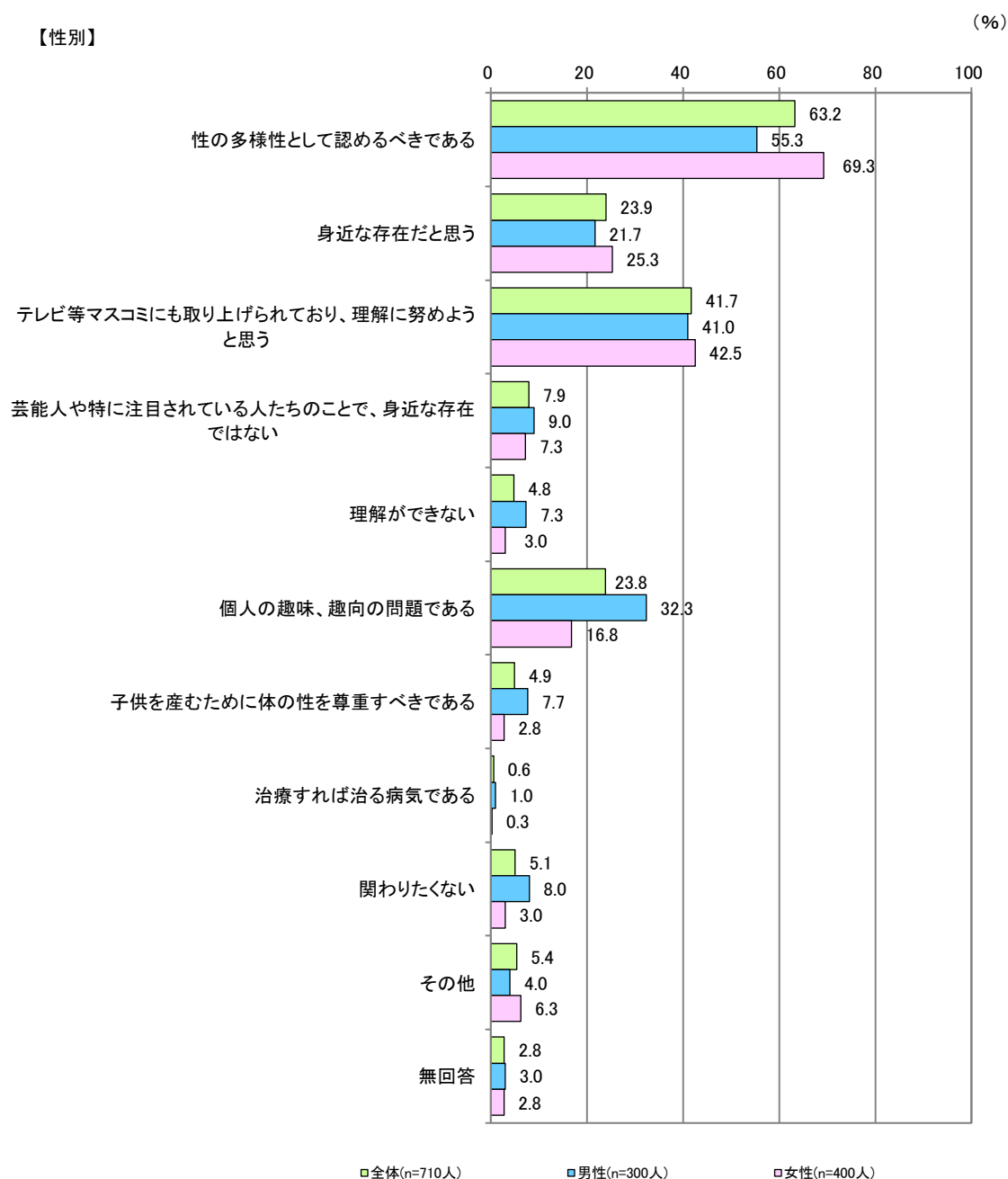
【世代別性別】





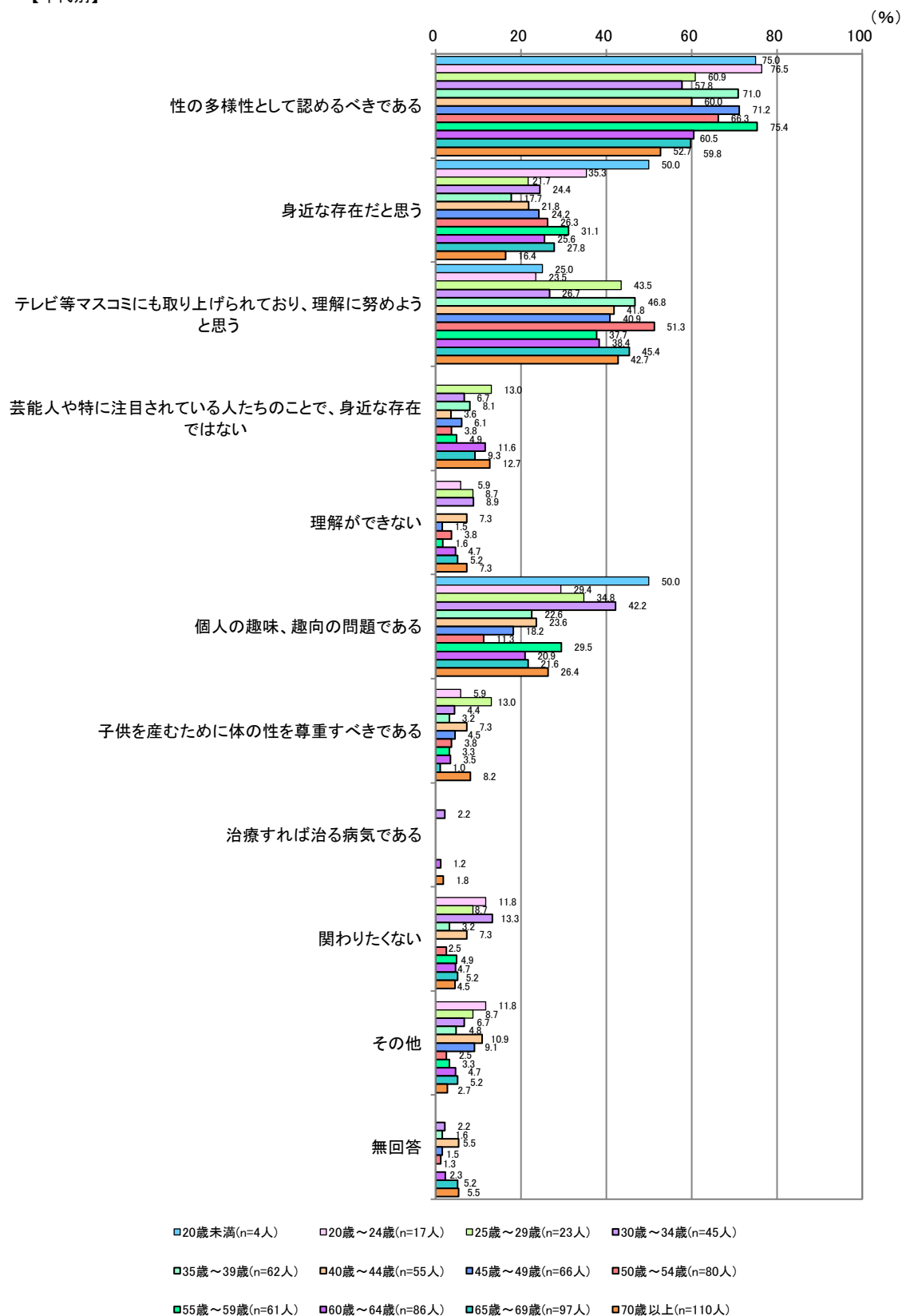
問 42 性的マイノリティ(性的少数者)についてどのような考えや、イメージをお持ちですか。あなたの考えに近いものをお選び下さい。(○は3つ)

- ・全体でみると、最も回答が多かったのは「性の多様性として認めるべきである」(63.2%)で、約6割となっている。次いで、「テレビ等マスコミにも取り上げられており、理解に努めようと思う」(41.7%)、「身近な存在だと思う」(23.9%)、「個人の趣味、趣向の問題である」(23.8%)と続いている。
- ・性別でみると、男女ともに「性の多様性として認めるべきである」が、最も多くなっている。次いで、女性は「テレビ等マスコミにも取り上げられており、理解に努めようと思う」、「身近な存在だと思う」と続いている。男性は「テレビ等マスコミにも取り上げられており、理解に努めようと思う」、「個人の趣味、趣向の問題である」と続いている。



- ・年代別でみると、いずれの年代でも、「性の多様性として認めるべきである」が最も多い回答となっている。

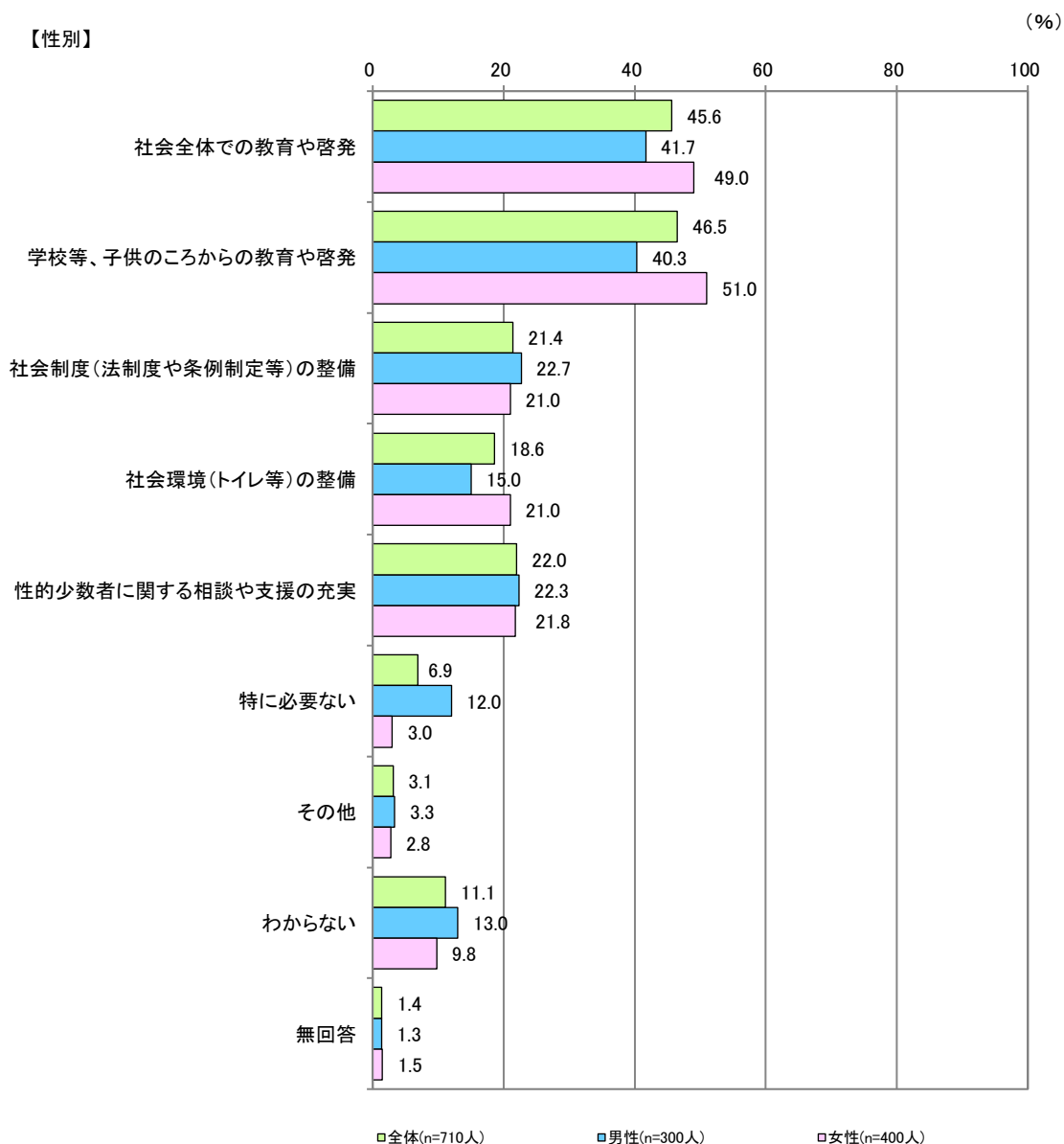
【年代別】



問 43 性的マイノリティ(性的少数者)の人権を守るためにどのようなことが必要だと思いますか。

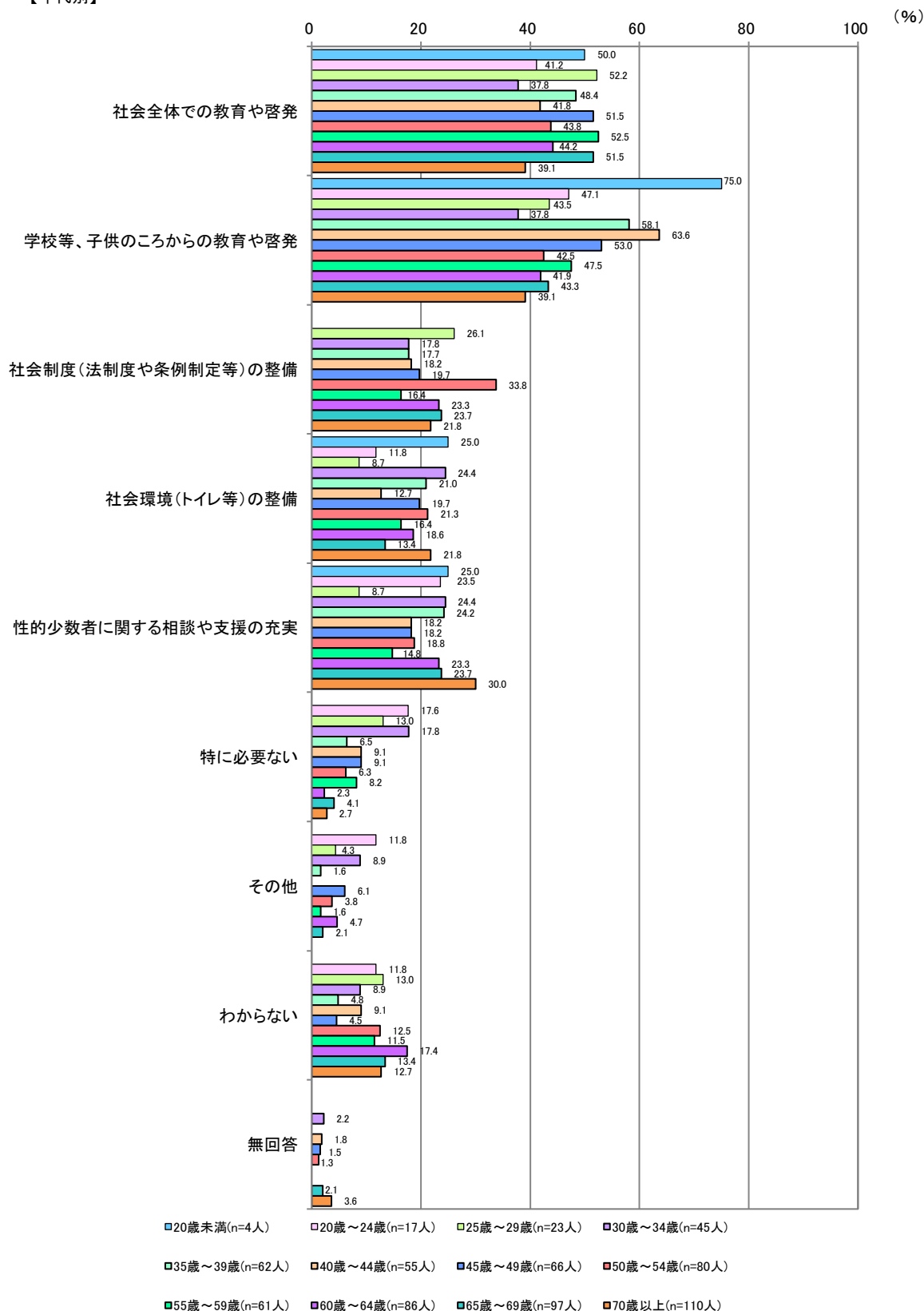
あなたの考えに近いものをお選びください。(○は2つ)

- ・全体でみると、最も回答が多かったのは「学校等、子供のころからの教育や啓発」(46.5%)で、約5割となっている。次いで、「社会全体での教育や啓発」(45.6%)、「性的少数者に関する相談や支援の充実」(22.0%)、「社会制度(法制度や条例制定等)の整備」(21.4%)、「社会環境(トイレ等)の整備」(18.6%)と続いている。
- ・性別でみると、男性は「社会全体での教育や啓発」(41.7%)が最も多くなっている。次いで、「学校等、子供のころからの教育や啓発」(40.3%)となっている。一方、女性は「学校等、子供のころからの教育や啓発」(51.0%)が最も多くなっている。次いで、「社会全体での教育や啓発」(49.0%)、「性的少数者に関する相談や支援の充実」(21.8%)と続いている。「学校等、子供のころからの教育や啓発」という回答では、女性の回答割合が約5割と、男性の約4割よりも1割多くなっている。



- ・年代別でみると、20 歳未満、20 歳～24 歳、30 歳～49 歳の年代で、「学校等、子供のころからの教育や啓発」が最も多い回答となっている。一方、他の年代では、「社会全体での教育や啓発」が最も多い回答となっている。

【年代別】





---

## 男女共同参画施策に関することについて

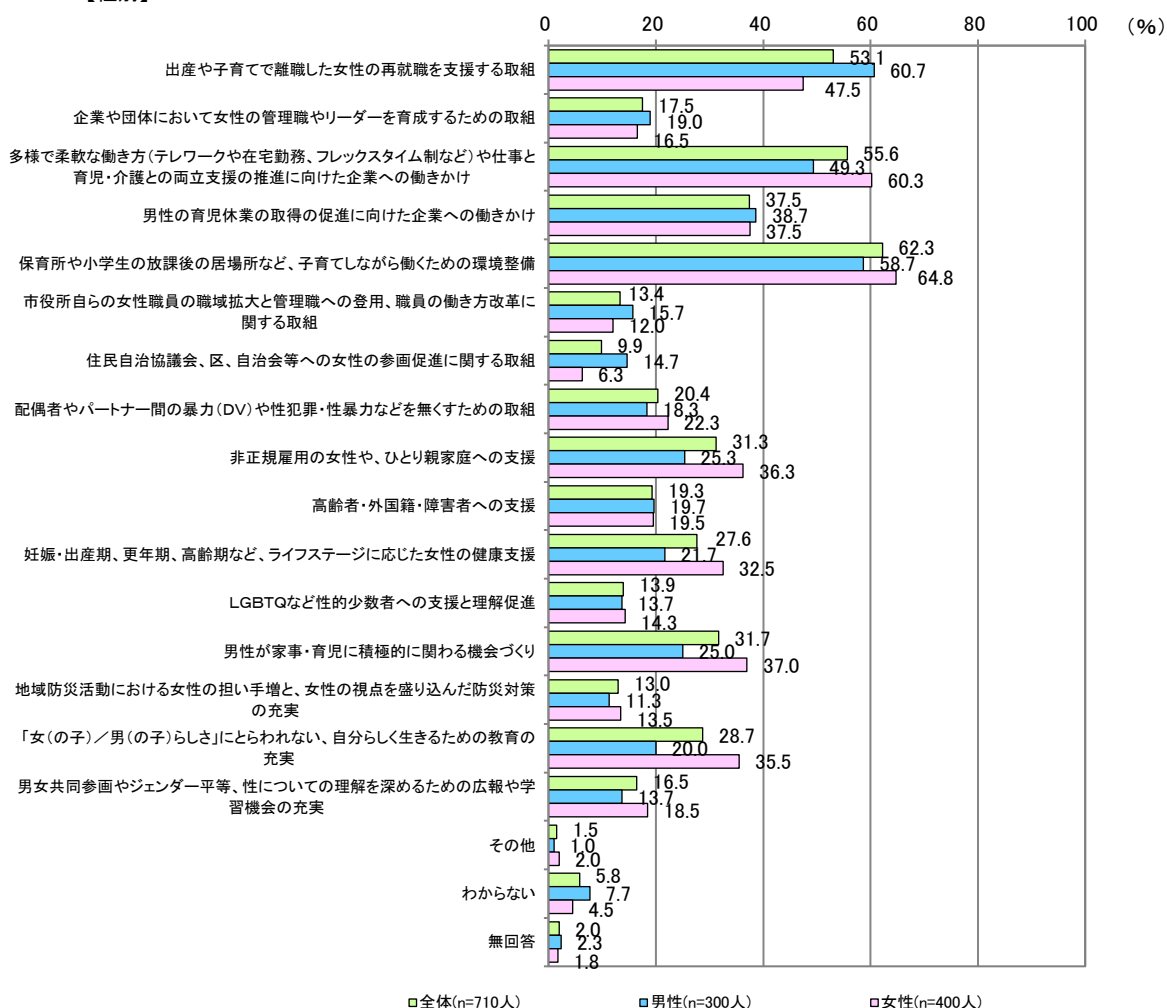
---



問 44 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、長野市が重点をおいて取り組むべきと思うものは、どのようなことですか。（〇はいくつでも）

- ・全体でみると、「保育所や小学生の放課後の居場所など、子育てしながら働くための環境整備」（62.3%）が最も多く、6割以上となっている。次いで、「多様で柔軟な働き方（テレワークや在宅勤務、フレックスタイム制など）や仕事と育児・介護との両立支援の推進に向けた企業への働きかけ」（55.6%）、「出産や子育てで離職した女性の再就職を支援する取組」（53.1%）となっている。
- ・性別でみると、男性は、「出産や子育てで離職した女性の再就職を支援する取組」（60.7%）が最も多くなっている。次に、「保育所や小学生の放課後の居場所など、子育てしながら働くための環境整備」（58.7%）、「多様で柔軟な働き方（テレワークや在宅勤務、フレックスタイム制など）や仕事と育児・介護との両立支援の推進に向けた企業への働きかけ」（49.3%）と続いている。一方、女性は、「保育所や小学生の放課後の居場所など、子育てしながら働くための環境整備」（64.8%）が最も多くなっている。次に、「多様で柔軟な働き方（テレワークや在宅勤務、フレックスタイム制など）や仕事と育児・介護との両立支援の推進に向けた企業への働きかけ」（60.3%）、「出産や子育てで離職した女性の再就職を支援する取組」（47.5%）と続いている。

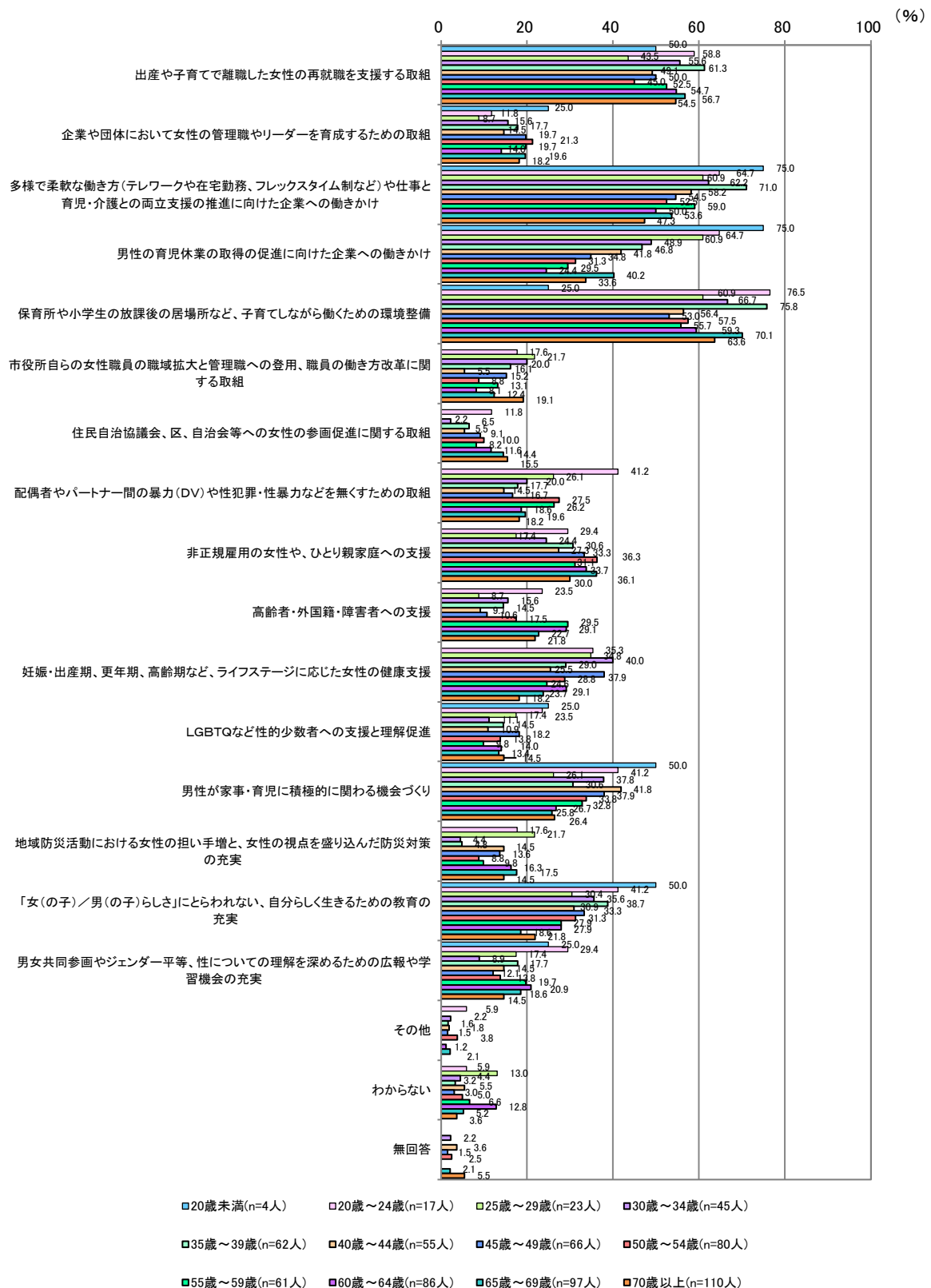
【性別】





- ・年代別でみると、20歳未満、25歳～29歳、40歳～49歳、55歳～59歳では、「多様で柔軟な働き方（テレワークや在宅勤務、フレックスタイム制など）や仕事と育児・介護との両立支援の推進に向けた企業への働きかけ」が最も多くなっている。一方、他の年代では、「保育所や小学生の放課後の居場所など、子育てしながら働くための環境整備」が最も多くなっている。

【年代別】



---

---

## 資 料

---

---



---

---

## 単純集計

---

---



**「男女共同参画に関する市民意識と実態調査」**

アンケート回答数

送付数	回答数	回収率
2,000	710	35.5%

**あなた自身のことについておたずねします。**

F1 あなたの性別を教えてください。(○は1つ)※戸籍上の性別とは関係なく、ご自身の主観でご記入ください。

選択肢	回答数	回答割合
①女性	400	56.3%
②男性	300	42.3%
③その他	2	0.3%
④回答したくない	3	0.4%
無回答	5	0.7%
合計	710	100.0%

F2 あなたの年齢について教えてください。(○は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①20歳未満	4	0.6%
②20歳～24歳	17	2.4%
③25歳～29歳	23	3.2%
④30歳～34歳	45	6.3%
⑤35歳～39歳	62	8.7%
⑥40歳～44歳	55	7.7%
⑦45歳～49歳	66	9.3%
⑧50歳～54歳	80	11.3%
⑨55歳～59歳	61	8.6%
⑩60歳～64歳	86	12.1%
⑪65歳～69歳	97	13.7%
⑫70歳以上	110	15.5%
無回答	4	0.6%
合計	710	100.0%

F3 あなたの職業を教えてください。(○は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①農林漁業の自営業主・家族従業者	18	2.5%
②農林漁業以外の自営業主・家族従業者	24	3.4%
③自由業(開業医、弁護士、会計士、文筆業、芸術家など)	14	2.0%
④会社役員・経営者	31	4.4%
⑤正社員・正職員などの正規雇用者	257	36.2%
⑥パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	178	25.1%
⑦家事専業者	67	9.4%
⑧学生	13	1.8%
⑨無職	101	14.2%
⑩その他	3	0.4%
無回答	4	0.6%
合計	710	100.0%

F4 あなたのご家族の構成(世帯構成)について教えてください。(○は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①単身世帯(含単身赴任)	73	10.3%
②一世代世帯(夫婦・カップルだけ)	219	30.8%
③二世代世帯(親と子)	349	49.2%
④三世代世帯(親と子と孫)	53	7.5%
⑤その他	10	1.4%
無回答	6	0.8%
合計	710	100.0%

F5 あなたは現在、結婚していますか。(○は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①結婚している	517	72.8%
②結婚していない	121	17.0%
③結婚していないがパートナーがいる	10	1.4%
④配偶者と離・死別した	59	8.3%
無回答	3	0.4%
合計	710	100.0%

F6 あなたにお子さんはいらっしゃいますか。(○は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①いる	502	70.7%
②いない	196	27.6%
無回答	12	1.7%
合計	710	100.0%

結婚している方またはパートナーがいる方におたずねします。

F7 配偶者またはパートナーは現在職業に就いていらっしゃいますか。(○は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①いる(正規の社員・職員)	231	43.8%
②いる(非正規・勤務時間は正規雇用と同じ)	27	5.1%
③いる(非正規・パート・アルバイト)	104	19.7%
④いる(その他)	36	6.8%
⑤いない	126	23.9%
無回答	3	0.6%
合計	527	100.0%

一般的なことでおたずねします。

問1 あなたは次にあげる分野で男女は平等になっていると思いますか。(それぞれ○は1つ)

#### 1.家庭生活

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	76	10.7%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	310	43.7%
③平等である	222	31.3%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	31	4.4%
⑤女性の方が非常に優遇されている	11	1.5%
⑥わからない	52	7.3%
無回答	8	1.1%
無回答	710	100.0%

#### 2.学校教育の場

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	21	3.0%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	99	13.9%
③平等である	395	55.6%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	23	3.2%
⑤女性の方が非常に優遇されている	1	0.1%
⑥わからない	156	22.0%
無回答	15	2.1%
合計	710	100.0%

### 3.地域社会

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	66	9.3%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	314	44.2%
③平等である	180	25.4%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	47	6.6%
⑤女性の方が非常に優遇されている	4	0.6%
⑥わからない	85	12.0%
無回答	14	2.0%
合計	710	100.0%

### 4.職場

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	80	11.3%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	280	39.4%
③平等である	198	27.9%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	55	7.7%
⑤女性の方が非常に優遇されている	14	2.0%
⑥わからない	69	9.7%
無回答	14	2.0%
合計	710	100.0%

### 5.法律や制度の上

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	65	9.2%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	266	37.5%
③平等である	227	32.0%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	40	5.6%
⑤女性の方が非常に優遇されている	7	1.0%
⑥わからない	87	12.3%
無回答	18	2.5%
合計	710	100.0%

### 6.社会通念・慣習・しきたり

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	156	22.0%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	405	57.0%
③平等である	60	8.5%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	14	2.0%
⑤女性の方が非常に優遇されている	6	0.8%
⑥わからない	53	7.5%
無回答	16	2.3%
合計	710	100.0%

### 7.政治の場

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	228	32.1%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	318	44.8%
③平等である	86	12.1%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	8	1.1%
⑤女性の方が非常に優遇されている	0	0.0%
⑥わからない	57	8.0%
無回答	13	1.8%
合計	710	100.0%



8.社会全体

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	94	13.2%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	418	58.9%
③平等である	94	13.2%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	29	4.1%
⑤女性の方が非常に優遇されている	5	0.7%
⑥わからない	55	7.7%
無回答	15	2.1%
合計	710	100.0%

問2 次の言葉やことがらについて、知っているか、または聞いたことがありますか。(それぞれ○は1つ)

1. 男女共同参画社会

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	346	48.7%
②聞いたことがある	248	34.9%
③知らない	108	15.2%
無回答	8	1.1%
合計	710	100.0%

2. 女子差別撤廃条約

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	160	22.5%
②聞いたことがある	233	32.8%
③知らない	305	43.0%
無回答	12	1.7%
合計	710	100.0%

3. ポジティブ・アクション(積極的改善措置)

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	91	12.8%
②聞いたことがある	195	27.5%
③知らない	406	57.2%
無回答	18	2.5%
合計	710	100.0%

4. ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	529	74.5%
②聞いたことがある	143	20.1%
③知らない	25	3.5%
無回答	13	1.8%
合計	710	100.0%

5. アンコンシャスバイアス(無意識の偏見)

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	133	18.7%
②聞いたことがある	167	23.5%
③知らない	396	55.8%
無回答	14	2.0%
合計	710	100.0%

6. 長野市男女共同参画推進条例

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	92	13.0%
②聞いたことがある	250	35.2%
③知らない	353	49.7%
無回答	15	2.1%
合計	710	100.0%

7. 女性活躍推進法(女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	153	21.5%
②聞いたことがある	268	37.7%
③知らない	274	38.6%
無回答	15	2.1%
合計	710	100.0%

8. DV防止法(配偶者からの暴力及び被害者の保護者等に関する法律)

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	406	57.2%
②聞いたことがある	247	34.8%
③知らない	45	6.3%
無回答	12	1.7%
合計	710	100.0%

9. 困難女性支援法(困難な問題を抱える女性への支援に関する法律)

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	81	11.4%
②聞いたことがある	196	27.6%
③知らない	420	59.2%
無回答	13	1.8%
合計	710	100.0%

問3 「男性は仕事、女性は家事・育児」という、性別によって役割を固定する考え方について、どう思いますか。(〇は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①賛成	10	1.4%
②どちらかといえば賛成	99	13.9%
③どちらかといえば反対	232	32.7%
④反対	302	42.5%
⑤わからない	59	8.3%
無回答	8	1.1%
合計	710	100.0%

問4 日常の生活で、「女らしさ・男らしさ」や「女性の役割・男性の役割」などを言われたり、期待されたりすることはありますか。(〇は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①よくある	129	18.2%
②たまにある	386	54.4%
③ない	188	26.5%
無回答	7	1.0%
合計	710	100.0%

問4で「1.よくある」または「2.たまにある」を選ばれた方におたずねします。

問5 どのような場で言われたり、期待されたりしますか。(〇はいくつでも)

選択肢	回答数	回答割合
①家庭	232	45.0%
②職場	211	41.0%
③学校	28	5.4%
④地域・近隣	225	43.7%
⑤友人関係	37	7.2%
⑥親族関係	211	41.0%
⑦社会全体(メディアや広告など)	120	23.3%
⑧その他	3	0.6%
無回答	7	1.4%
対象	515	—

問6 それは、どのような内容に関することですか。(〇はいくつでも)

選択肢	回答数	回答割合
①言葉づかい	124	24.1%
②容姿(顔立ち、体つきなど)	85	16.5%
③服装や身だしなみ	125	24.3%
④行動の仕方	237	46.0%
⑤感情表現(泣く、怒るなど)	74	14.4%
⑥進学、進路選択	31	6.0%
⑦ライフイベント(結婚、出産など)	150	29.1%
⑧趣味やスポーツ	23	4.5%
⑨家事・育児・介護	263	51.1%
⑩働き方や仕事内容	246	47.8%
⑪お金(収入や支出に関すること)	106	20.6%
⑫その他	8	1.6%
無回答	7	1.4%
対象	515	—

問7 日常生活における「女らしさ・男らしさ」や「女性の役割・男性の役割」などについて、不便さや不快感、生きづらさを感じますか。(〇は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①よく感じる	55	10.7%
②たまに感じる	271	52.6%
③感じない	183	35.5%
無回答	6	1.2%
合計	515	100.0%

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問8 子ども時代に「女の子／男の子だから〇〇しなさい」や「女の子らしく・男の子らしく」などと言われたことがありますか。(〇は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①あった	487	68.6%
②なかった	92	13.0%
③覚えていない	129	18.2%
無回答	2	0.3%
合計	710	100.0%

問8で「1.あった」を選ばれた方におたずねします。

問9 それは、誰に言われましたか。(〇はいくつでも)

選択肢	回答数	回答割合
①母親	342	70.2%
②父親	221	45.4%
③兄弟姉妹	36	7.4%
④祖母	158	32.4%
⑤祖父	85	17.5%
⑥その他の親族	145	29.8%
⑦近隣住民	82	16.8%
⑧学校の先生	183	37.6%
⑨クラブや習い事の先生	38	7.8%
⑩友人や同じ学校の児童・生徒	80	16.4%
⑪その他	3	0.6%
無回答	2	0.4%
対象	487	—

問10 それは、どのような内容に関することですか。(〇はいくつでも)

選択肢	回答数	回答割合
①言葉づかい	231	47.4%
②容姿(顔立ち、体つきなど)	77	15.8%
③服装や身だしなみ	206	42.3%
④行動の仕方	307	63.0%
⑤感情表現(泣く、怒るなど)	116	23.8%
⑥進学、進路選択	103	21.1%
⑦ライフイベント(結婚、出産など)	94	19.3%
⑧趣味やスポーツ	31	6.4%
⑨家事・育児・介護	115	23.6%
⑩働き方や仕事内容	99	20.3%
⑪お金(収入や支出に関する事)	26	5.3%
⑫その他	7	1.4%
無回答	1	0.2%
対象	487	—

問11 子ども時代に「女らしさ・男らしさ」を言われたことについて、あなたの生き方に影響したと思いますか。(〇は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①影響した	91	18.7%
②少し影響した	182	37.4%
③影響しなかった	214	43.9%
合計	487	100.0%

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問12 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。(〇は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①女性は職業をもたない方がよい	3	0.4%
②結婚するまでは職業をもつ方がよい	7	1.0%
③子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	29	4.1%
④子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい	373	52.5%
⑤子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	123	17.3%
⑥その他	122	17.2%
⑦わからない	43	6.1%
無回答	10	1.4%
合計	710	100.0%

職場における「女性活躍と就労」に関することでおたずねします。

問13 方針決定の場への女性の参画や女性の職域拡大等、女性活躍の必要性について、あなたはどのように考えですか。(〇は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①必要だと思う	449	63.2%
②どちらかといえば必要だと思う	230	32.4%
③必要ないと思う	20	2.8%
無回答	11	1.5%
合計	710	100.0%

現在職業に就いていらっしゃる方におたずねします。

問14 あなたの職場では次のことがらについて、男女は平等になっていると思いますか(次にあげるそれぞれの面で性別によって差があると思いますか)。(それぞれ〇は1つ)

1. 賃金

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	54	10.3%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	108	20.7%
③平等である	291	55.7%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	1	0.2%
⑤女性の方が非常に優遇されている	1	0.2%
⑥わからない	44	8.4%
無回答	23	4.4%
合計	522	100.0%

2. 昇進や昇格

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	78	14.9%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	146	28.0%
③平等である	211	40.4%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	10	1.9%
⑤女性の方が非常に優遇されている	2	0.4%
⑥わからない	50	9.6%
無回答	25	4.8%
合計	522	100.0%

3. 仕事の内容

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	35	6.7%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	112	21.5%
③平等である	254	48.7%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	51	9.8%
⑤女性の方が非常に優遇されている	13	2.5%
⑥わからない	34	6.5%
無回答	23	4.4%
合計	522	100.0%

4. 研修の機会や内容

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	25	4.8%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	66	12.6%
③平等である	351	67.2%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	7	1.3%
⑤女性の方が非常に優遇されている	3	0.6%
⑥わからない	47	9.0%
無回答	23	4.4%
合計	522	100.0%

5. 経験や能力を発揮する機会

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	36	6.9%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	122	23.4%
③平等である	290	55.6%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	10	1.9%
⑤女性の方が非常に優遇されている	1	0.2%
⑥わからない	40	7.7%
無回答	23	4.4%
合計	522	100.0%

問15 あなたの職場では女性の雇用や登用は進んでいると思いますか。(〇は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①進んでいる	171	32.8%
②どちらかといえば進んでいる	187	35.8%
③あまり進んでいない	68	13.0%
④進んでいない	29	5.6%
⑤わからない	42	8.0%
無回答	25	4.8%
合計	522	100.0%

問16 今の職場について、あなたのお考えに近い番号をお選びください。(それぞれ〇は1つ)

1. あなた自身は活躍したい

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	157	30.1%
②やや思う	190	36.4%
③あまり思わない	108	20.7%
④思わない	29	5.6%
⑤わからない	11	2.1%
無回答	27	5.2%
合計	522	100.0%

2. 現在の生活や仕事に満足している

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	123	23.6%
②やや思う	203	38.9%
③あまり思わない	106	20.3%
④思わない	53	10.2%
⑤わからない	13	2.5%
無回答	24	4.6%
合計	522	100.0%

3. 女性が社会で働くには不利な点が多い

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	109	20.9%
②やや思う	204	39.1%
③あまり思わない	104	19.9%
④思わない	55	10.5%
⑤わからない	23	4.4%
無回答	27	5.2%
合計	522	100.0%

4. 仕事を続けキャリアを積んでいきたい

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	128	24.5%
②やや思う	162	31.0%
③あまり思わない	127	24.3%
④思わない	55	10.5%
⑤わからない	22	4.2%
無回答	28	5.4%
合計	522	100.0%

5. 管理職への打診があれば受けてみたい

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	78	14.9%
②やや思う	79	15.1%
③あまり思わない	147	28.2%
④思わない	148	28.4%
⑤わからない	41	7.9%
無回答	29	5.6%
合計	522	100.0%

6. 退職して仕事に就かない

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	9	1.7%
②やや思う	54	10.3%
③あまり思わない	104	19.9%
④思わない	244	46.7%
⑤わからない	81	15.5%
無回答	30	5.7%
合計	522	100.0%

7. 女性も管理職として活躍している

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	133	25.5%
②やや思う	174	33.3%
③あまり思わない	83	15.9%
④思わない	58	11.1%
⑤わからない	46	8.8%
無回答	28	5.4%
合計	522	100.0%

8. 女性の管理職の部下には、なりたくない

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	16	3.1%
②やや思う	49	9.4%
③あまり思わない	143	27.4%
④思わない	251	48.1%
⑤わからない	34	6.5%
無回答	29	5.6%
合計	522	100.0%

現在職業に就いていらっしゃる方または職業経験のある方におたずねします。

問17 女性が活躍するために企業が取り組むべきことはなんだと思いますか。(それぞれ〇は1つ)

1. 女性を管理職へ積極的に登用する

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	202	29.1%
②まあ重要だと思う	302	43.6%
③重要だと思わない	94	13.6%
④わからない	37	5.3%
無回答	58	8.4%
合計	693	100.0%

2. 女性社員・職員の採用拡大

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	238	34.3%
②まあ重要だと思う	306	44.2%
③重要だと思わない	62	8.9%
④わからない	30	4.3%
無回答	57	8.2%
合計	693	100.0%

3. 非正規労働者の正社員・職員への転換・待遇改善

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	294	42.4%
②まあ重要だと思う	247	35.6%
③重要だと思わない	58	8.4%
④わからない	36	5.2%
無回答	58	8.4%
合計	693	100.0%

4. 在宅勤務、時短勤務・フレックスタイム等、勤務場所や勤務時間の柔軟化

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	356	51.4%
②まあ重要だと思う	231	33.3%
③重要だと思わない	30	4.3%
④わからない	22	3.2%
無回答	54	7.8%
合計	693	100.0%

5. 出産や育児等による休業がハンディとならないような人事制度の導入

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	401	57.9%
②まあ重要だと思う	196	28.3%
③重要だと思わない	23	3.3%
④わからない	18	2.6%
無回答	55	7.9%
合計	693	100.0%

6. 企業内託児所や学童保育所などの設置

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	353	50.9%
②まあ重要だと思う	219	31.6%
③重要だと思わない	40	5.8%
④わからない	26	3.8%
無回答	55	7.9%
合計	693	100.0%



離職されている方におたずねします。

問18 再就職される場合の雇用形態について希望されるものをお選びください。(○は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①正規の社員・職員	11	6.5%
②派遣・嘱託・契約・非常勤などの社員・職員	16	9.5%
③パート・アルバイト(家に子どもがいない時間のみなど)	64	38.1%
④その他	15	8.9%
無回答	62	36.9%
合計	168	100.0%

問18で「2・派遣・嘱託などの社員・職員」または「3・パート・アルバイト」を選ばれた方におたずねします。

問19 その理由を次の中から、あなたのお考えに近いものをお選びください。(○は3つまで)

選択肢	回答数	回答割合
①家事や育児などで家族の協力や理解が得られないから	8	10.0%
②正規の社員・職員で雇用する企業が少ないから	17	21.3%
③仕事より家庭生活を優先したいから	40	50.0%
④時間外勤務や休日出勤を避けたいから	28	35.0%
⑤配偶者(特別)控除の範囲内で働きたいから	8	10.0%
⑥積極的に仕事に就くつもりがないから	27	33.8%
⑦その他	6	7.5%
無回答	2	2.5%
対象数	80	—

離職経験のある方におたずねします。

問20 離職の原因(理由)としてあてはまるものをお選びください。(○は3つまで)

選択肢	回答数	回答割合
①結婚	105	26.1%
②出産	100	24.8%
③育児	66	16.4%
④看護	8	2.0%
⑤介護	46	11.4%
⑥転職・起業	63	15.6%
⑦配偶者の転勤	34	8.4%
⑧健康上の理由	59	14.6%
⑨給料が少ない	42	10.4%
⑩定年退職	73	18.1%
⑪解雇等職場の都合	41	10.2%
⑫特に理由はない	10	2.5%
⑬その他	44	10.9%
対象数	403	—

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問21 女性の活躍を進めるうえでどのような問題があると思いますか。(○は3つまで)

選択肢	回答数	回答割合
①家事・育児などと仕事の両立が難しい	569	80.1%
②女性が就ける仕事に限られている	109	15.4%
③活躍したいと思える仕事がない	32	4.5%
④活躍を望む女性が少ない	121	17.0%
⑤お手本となる「活躍する女性」が身近にいない	73	10.3%
⑥結婚・出産で退職する(退職せざるを得ない)女性が多い	370	52.1%
⑦上司・同僚の男性の認識、理解が不十分	255	35.9%
⑧家族の理解が不十分	130	18.3%
⑨その他	27	3.8%
⑩わからない	27	3.8%
無回答	7	1.0%
対象数	710	—

問22 女性が意欲をもって働き続けるためには、何が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

選択肢	回答数	回答割合
①女性の積極的登用	82	11.5%
②能力開発、自己啓発	77	10.8%
③働き方改革の推進	214	30.1%
④福利厚生の充実	162	22.8%
⑤賃金の男女平等	172	24.2%
⑥正規雇用と非正規雇用との待遇差の解消	109	15.4%
⑦家族の理解や協力	263	37.0%
⑧職場の理解や協力	269	37.9%
⑨経営者・管理職の意識改革	152	21.4%
⑩女性自身の意識改革	118	16.6%
⑪育児・介護に関する制度の充実	320	45.1%
⑫ロールモデル(自分が目指したい事を実践している手本となる人)	36	5.1%
⑬その他	19	2.7%
⑭わからない	11	1.5%
無回答	9	1.3%
対象数	710	—

問23 出産・育児などで離職した女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

選択肢	回答数	回答割合
①離職しても同一企業に再雇用されるようにすること	383	53.9%
②求人情報や就職ガイダンスの充実	57	8.0%
③再就職に関する相談体制の充実	163	23.0%
④再就職のための講座やセミナーの充実	56	7.9%
⑤子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備	568	80.0%
⑥保育所などの保育施設の充実	427	60.1%
⑦その他	13	1.8%
⑧わからない	22	3.1%
無回答	13	1.8%
対象数	710	—

**「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」に関することでおたずねします。**

問24 あなたは、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」という言葉をご存知ですか。(〇は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①言葉も内容も知っている	345	48.6%
②言葉は聞いたことがあるが内容は知らない	212	29.9%
③知らない	149	21.0%
無回答	4	0.6%
合計	710	100.0%

問25 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活(学習、趣味、付き合い等)」の優先度についてあなたが理想とする(希望する)生活に最も近いものをお選びください。(〇は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①「仕事」優先	16	2.3%
②「家庭生活」優先	134	18.9%
③「地域活動・個人の生活」優先	28	3.9%
④「仕事」と「家庭生活」をともに優先	262	36.9%
⑤「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	25	3.5%
⑥「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	63	8.9%
⑦「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	171	24.1%
無回答	11	1.5%
合計	710	100.0%

問26 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活(学習、趣味、付き合い等)」の優先度について  
あなたの現実(現状)の生活に最も近いものをお選びください。(○は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①「仕事」優先	152	21.4%
②「家庭生活」優先	187	26.3%
③「地域活動・個人の生活」優先	30	4.2%
④「仕事」と「家庭生活」をともに優先	204	28.7%
⑤「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	29	4.1%
⑥「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	50	7.0%
⑦「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	52	7.3%
無回答	6	0.8%
合計	710	100.0%

問27 あなたは次にあげる家事をしていますか。(それぞれ○は1つ)

1. 掃除

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	355	50.0%
②自分と家族が同じ程度している	158	22.3%
③自分は手伝い程度している	149	21.0%
④していない	40	5.6%
無回答	8	1.1%
合計	710	100.0%

2. 洗濯

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	341	48.0%
②自分と家族が同じ程度している	133	18.7%
③自分は手伝い程度している	119	16.8%
④していない	110	15.5%
無回答	7	1.0%
合計	710	100.0%

3. 食料品、日用品などの買物

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	329	46.3%
②自分と家族が同じ程度している	188	26.5%
③自分は手伝い程度している	149	21.0%
④していない	37	5.2%
無回答	7	1.0%
合計	710	100.0%

4. 食事のしたく

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	350	49.3%
②自分と家族が同じ程度している	101	14.2%
③自分は手伝い程度している	145	20.4%
④していない	106	14.9%
無回答	8	1.1%
合計	710	100.0%

5. 食事の後かたづけ

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	341	48.0%
②自分と家族が同じ程度している	169	23.8%
③自分は手伝い程度している	144	20.3%
④していない	49	6.9%
無回答	7	1.0%
合計	710	100.0%

6. ごみ捨て

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	340	47.9%
②自分と家族が同じ程度している	148	20.8%
③自分は手伝い程度している	126	17.7%
④していない	89	12.5%
無回答	7	1.0%
合計	710	100.0%

問28 あなたの平日の1日あたりの家事従事時間(家事・育児・介護)はどの程度ですか。(○は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①0～1時間未満	173	24.4%
②1～2時間未満	180	25.4%
③2～3時間未満	161	22.7%
④3～5時間未満	110	15.5%
⑤5時間以上	79	11.1%
無回答	7	1.0%
合計	710	100.0%

問29 あなたの休日の1日あたりの家事従事時間(家事・育児・介護)はどの程度ですか。(○は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①0～1時間未満	109	15.4%
②1～2時間未満	176	24.8%
③2～3時間未満	173	24.4%
④3～5時間未満	131	18.5%
⑤5時間以上	114	16.1%
無回答	7	1.0%
合計	710	100.0%

身近に育児または介護の対象者がいる方におたずねします。

問30 あなたは育児または介護をどの程度していますか。それぞれ○は1つ

1. 育児(お孫さんを含む)

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	97	26.9%
②自分と家族が同じ程度している	72	20.0%
③自分は手伝い程度している	72	20.0%
④していない	119	33.1%
合計	360	100.0%

## 2. 介護

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	42	11.7%
②自分と家族が同じ程度している	16	4.4%
③自分は手伝い程度している	25	6.9%
④していない	277	77.0%
合計	360	100.0%

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問31 男性が「育児・介護休業制度」を利用することが進まないのは、どうしてだと思いますか。(〇は3つまで)

選択肢	回答数	回答割合
①主たる家計の稼ぎ手は男性だから	343	48.3%
②職場や同僚に迷惑がかかるから	411	57.9%
③上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから	392	55.2%
④育児、介護は女性の方が向いているから	91	12.8%
⑤昇給、昇格に影響すると考えるから	204	28.7%
⑥その他	56	7.9%
⑦わからない	43	6.1%
無回答	8	1.1%
対象数	710	—

問32 今後、女性と男性がともに仕事・家事・育児・介護・地域活動等に積極的に参加していくためには、  
どのようなことが重要だと思いますか。(〇は3つまで)

選択肢	回答数	回答割合
①男女の固定的な役割分担意識を改める	267	37.6%
②夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる	262	36.9%
③方針・政策決定の場に女性を積極的に登用する	83	11.7%
④雇用機会や昇進など、職場での男女平等をはかる	155	21.8%
⑤労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる	342	48.2%
⑥社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める	225	31.7%
⑦男性の関心を高めるよう啓発や情報提供を行う	59	8.3%
⑧男性のための仲間(ネットワーク)作りを進める	30	4.2%
⑨男性が相談しやすい窓口を設ける	62	8.7%
⑩官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる	212	29.9%
⑪その他	23	3.2%
⑫特に必要なことはない	7	1.0%
⑬わからない	24	3.4%
無回答	7	1.0%
対象数	710	—

「地域社会」に関することでおたずねします。

問33 あなたが住んでいる地域では、自治会・PTA・そのほかの地域での活動において、次のような事例が見受けられますか。(それぞれ〇は1つ)

1. 自治会やPTAの会長は、男性と決まっている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	150	21.1%
②そうではない	250	35.2%
③わからない	301	42.4%
無回答	9	1.3%
合計	710	100.0%

2. 自治会やPTAの責任ある役職はほとんどが男性である

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	333	46.9%
②そうではない	177	24.9%
③わからない	193	27.2%
無回答	7	1.0%
合計	710	100.0%

3. 役員や組織の運営事項は男性だけで決めている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	108	15.2%
②そうではない	297	41.8%
③わからない	293	41.3%
無回答	12	1.7%
合計	710	100.0%

4. 実際の仕事は妻がしているのに、名義は夫になっている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	173	24.4%
②そうではない	204	28.7%
③わからない	321	45.2%
無回答	12	1.7%
合計	710	100.0%

5. 女性自身が責任ある役職に就くのを避けている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	169	23.8%
②そうではない	164	23.1%
③わからない	363	51.1%
無回答	14	2.0%
合計	710	100.0%

6. 女性が責任ある役職に就こうとすると、男性や他の女性から反対される

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	33	4.6%
②そうではない	255	35.9%
③わからない	410	57.7%
無回答	12	1.7%
合計	710	100.0%

問34 あなたが住んでいる地域では、次の1から6の活動について誰が中心となり取り組んでいますか。（それぞれ〇は1つ）

1. 自治会の役員活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	346	48.7%
②女性	6	0.8%
③男性も女性も	176	24.8%
④わからない	178	25.1%
無回答	4	0.6%
合計	710	100.0%

## 2. 自治会の行事等の活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	233	32.8%
②女性	16	2.3%
③男性も女性も	282	39.7%
④わからない	173	24.4%
無回答	6	0.8%
合計	710	100.0%

## 3. PTAの役員活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	62	8.7%
②女性	94	13.2%
③男性も女性も	241	33.9%
④わからない	305	43.0%
無回答	8	1.1%
合計	710	100.0%

## 4. PTAの行事等の活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	40	5.6%
②女性	109	15.4%
③男性も女性も	251	35.4%
④わからない	302	42.5%
無回答	8	1.1%
合計	710	100.0%

## 5. 育成会の役員活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	47	6.6%
②女性	160	22.5%
③男性も女性も	219	30.8%
④わからない	276	38.9%
無回答	8	1.1%
合計	710	100.0%

## 6. 育成会の行事等の活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	36	5.1%
②女性	161	22.7%
③男性も女性も	234	33.0%
④わからない	272	38.3%
無回答	7	1.0%
合計	710	100.0%

問35 持続可能な地域づくりのためには、活動の企画立案・方針決定の場に、あらゆる世代の男女が、互いを尊重し、参画することが重要です。そのためには、女性も地域の重要な方針決定に出ていただく必要があります。あなたは、どうすればそれが可能になると思いますか。  
(〇は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①役員のなかの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置(ポジティブ・アクション)を導入すること	97	13.7%
②積極的改善措置(ポジティブ・アクション)は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること	172	24.2%
③地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと	131	18.5%
④女性が活動し、活躍できるように家族が協力すること	54	7.6%

⑤女性が積極的に役職につく意識をもつこと	71	10.0%
⑥パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	10	1.4%
⑦その他	21	3.0%
⑧わからない	111	15.6%
無回答	43	6.1%
合計	710	100.0%

問36 平時の防災体制や災害発生後の対応にも男女共同参画の視点が必要です。災害に備えるために、これからどのような施策が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

選択肢	回答数	回答割合
①女性も男性も防災活動や訓練に取り組む	407	57.3%
②市の防災会議、災害対策本部、防災担当に女性の委員・職員を増やす	197	27.7%
③避難所などの運営に女性も参画できるようにする	247	34.8%
④防災や災害現場で活動する女性を育成する	168	23.7%
⑤日頃から地域の男女共同参画を進める	222	31.3%
⑥備蓄品について、女性、乳幼児、介護が必要な人、障害者などの視点を入れる	414	58.3%
⑦日頃からコミュニケーション・地域のつながりを大切にする	255	35.9%
⑧性別や立場によって異なる災害時の備え(生活環境、物資、安全など)について知識を普及する	230	32.4%
⑨避難所マニュアルを整備し、女性、乳幼児、子ども、介護が必要な人、障害者などが安全に過ごせるようにする	376	53.0%
⑩その他	12	1.7%
⑪特に必要なことはない	1	0.1%
⑫わからない	29	4.1%
無回答	6	0.8%
対象数	710	—

#### 男女の「人権」に関することでおたずねします。

問37 身近な人(夫・妻・恋人)からの暴力が、DV(ドメスティック・バイオレンス)として問題になっています。次にあげる行為は、DVにあたる行為です。  
あなたは、今までにこれらの行為を受けた又はしたことがありますか。(それぞれ〇は1つ)

##### 1. 刃物などを突きつけて脅す、殴るふりをして脅す

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	20	2.8%
②したことがある	4	0.6%
③受けたこともしたこともある	6	0.8%
④受けたこともしたこともない	661	93.1%
無回答	19	2.7%
合計	710	100.0%

##### 2. なぐる、ける

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	36	5.1%
②したことがある	10	1.4%
③受けたこともしたこともある	17	2.4%
④受けたこともしたこともない	627	88.3%
無回答	20	2.8%
合計	710	100.0%

##### 3. 物を投げつけたり壊したりする

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	52	7.3%
②したことがある	28	3.9%
③受けたこともしたこともある	35	4.9%
④受けたこともしたこともない	575	81.0%
無回答	20	2.8%
合計	710	100.0%



4. 髪の毛をつかんで引きずり回す

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	12	1.7%
②したことがある	1	0.1%
③受けたこともしたこともある	2	0.3%
④受けたこともしたこともない	678	95.5%
無回答	17	2.4%
合計	710	100.0%

5. 大声で怒鳴る

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	85	12.0%
②したことがある	73	10.3%
③受けたこともしたこともある	112	15.8%
④受けたこともしたこともない	426	60.0%
無回答	14	2.0%
合計	710	100.0%

6. メールや郵便物、行動を細かく監視する

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	20	2.8%
②したことがある	3	0.4%
③受けたこともしたこともある	6	0.8%
④受けたこともしたこともない	661	93.1%
無回答	20	2.8%
合計	710	100.0%

7. 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	17	2.4%
②したことがある	1	0.1%
③受けたこともしたこともある	3	0.4%
④受けたこともしたこともない	670	94.4%
無回答	19	2.7%
合計	710	100.0%

8. 「だれのおかげで生活できるんだ」とか「出て行け」と言う

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	69	9.7%
②したことがある	16	2.3%
③受けたこともしたこともある	12	1.7%
④受けたこともしたこともない	596	83.9%
無回答	17	2.4%
合計	710	100.0%

9. 何を言っても無視し続ける

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	57	8.0%
②したことがある	39	5.5%
③受けたこともしたこともある	38	5.4%
④受けたこともしたこともない	557	78.5%
無回答	19	2.7%
合計	710	100.0%

10. 家計に必要な生活費を渡さない

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	36	5.1%
②したことがある	2	0.3%
③受けたこともしたこともある	3	0.4%
④受けたこともしたこともない	651	91.7%
無回答	18	2.5%
合計	710	100.0%

11. 嫌がっているのに性的行為を強要する

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	46	6.5%
②したことがある	6	0.8%
③受けたこともしたこともある	5	0.7%
④受けたこともしたこともない	634	89.3%
無回答	19	2.7%
合計	710	100.0%

12. 避妊に協力しない

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	34	4.8%
②したことがある	5	0.7%
③受けたこともしたこともある	4	0.6%
④受けたこともしたこともない	644	90.7%
無回答	23	3.2%
合計	710	100.0%

問38 あなたはDV(ドメスティック・バイオレンス)にあったとき、相談するところをご存知ですか。

知っている相談窓口をお選びください。(○はいくつでも)

選択肢	回答数	回答割合
①DV相談ナビ	53	7.5%
②長野県女性相談センター	106	14.9%
③県警(警察安全相談窓口)	326	45.9%
④長野県児童虐待・DV24時間ホットライン	102	14.4%
⑤女性の人権ホットライン	115	16.2%
⑥長野県性暴力被害者支援センター“りんどうハートながの”	58	8.2%
⑦県警性被害犯罪ダイヤルサポート110	32	4.5%
⑧長野犯罪被害者支援センター	43	6.1%
⑨長野市福祉事務所(長野市役所子育て家庭福祉課内、篠ノ井支所内)	70	9.9%
⑩長野市男女共同参画センター	35	4.9%
⑪その他	5	0.7%
⑫相談できる窓口は知らない	255	35.9%
無回答	24	3.4%
対象数	710	—

問39 DV(ドメスティック・バイオレンス)についてあなたの考えに最も近いのはどれですか。(○は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う	382	53.8%
②どんな場合でも人権侵害にあたると思う	180	25.4%
③人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	108	15.2%
④人権侵害にあたるとは思わない	0	0.0%
⑤わからない	33	4.6%
無回答	7	1.0%
合計	710	100.0%

問40 あなたは、暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいと思うことは何ですか。(〇はいくつでも)

選択肢	回答数	回答割合
①メールによる相談ができる	166	23.4%
②LINEなどSNSによる相談ができる	243	34.2%
③電話による相談ができる	256	36.1%
④通話料が無料	287	40.4%
⑤24時間相談ができる	391	55.1%
⑥相談内容に関連する、他の相談窓口との連携が行われる	218	30.7%
⑦同性の相談員がいる	292	41.1%
⑧匿名で相談ができる	404	56.9%
⑨弁護士など、法的知識のある相談ができる	329	46.3%
⑩臨床心理士、公認心理師など、心理専門職の相談ができる	227	32.0%
⑪その他	16	2.3%
⑫特になし	18	2.5%
⑬わからない	52	7.3%
無回答	9	1.3%
対象数	710	—

# 「性」の多様性に関することでおたずねします。

問41 あなたは「性的マイノリティ(性的少数者)」または「LGBTQ」という言葉を(どちらか一方でも)知っているか、または聞いたことがありますか。

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	531	74.8%
②言葉は聞いたことがあるが内容は知らない	119	16.8%
③知らない	51	7.2%
無回答	9	1.3%
合計	710	100.0%

問42 性的マイノリティ(性的少数者)についてどのような考えや、イメージをお持ちですか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(〇は3つ)

選択肢	回答数	回答割合
①性の多様性として認めるべきである	449	63.2%
②身近な存在だと思う	170	23.9%
③テレビ等マスコミにも取り上げられており、理解に努めようと思う	296	41.7%
④芸能人や特に注目されている人たちのことで、身近な存在ではない	56	7.9%
⑤理解ができない	34	4.8%
⑥個人の趣味、趣向の問題である	169	23.8%
⑦子供を産むために体の性を尊重すべきである	35	4.9%
⑧治療すれば治る病気である	4	0.6%
⑨関わりたくない	36	5.1%
⑩その他	38	5.4%
無回答	20	2.8%
対象数	710	—

問43 性的マイノリティ(性的少数者)の人権を守るためにどのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに近いものをお選びください(〇は2つ)

選択肢	回答数	回答割合
①社会全体での教育や啓発	324	45.6%
②学校等、子供のころからの教育や啓発	330	46.5%
③社会制度(法制度や条例制定等)の整備	152	21.4%
④社会環境(トイレ等)の整備	132	18.6%
⑤性的少数者に関する相談や支援の充実	156	22.0%
⑥特に必要ない	49	6.9%
⑦その他	22	3.1%
⑧わからない	79	11.1%
無回答	10	1.4%
対象数	710	—

**「男女共同参画施策」に関することでおたずねします。**

問44 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、長野市が重点をおいて取り組むべきと思うものは、どのようなことですか。(〇はいくつでも)

選択肢	回答数	回答割合
①出産や子育てで離職した女性の再就職を支援する取組	377	53.1%
②企業や団体において女性の管理職やリーダーを育成するための取組	124	17.5%
③多様で柔軟な働き方(テレワークや在宅勤務、フレックスタイム制など)や仕事と育児・介護との両立支援の推進に向けた企業への働きかけ	395	55.6%
④男性の育児休業の取得の促進に向けた企業への働きかけ	266	37.5%
⑤保育所や小学生の放課後の居場所など、子育てしながら働くための環境整備	442	62.3%
⑥市役所自らの女性職員の職域拡大と管理職への登用、職員の働き方改革に関する取組	95	13.4%
⑦住民自治協議会、区、自治会等への女性の参画促進に関する取組	70	9.9%
⑧配偶者やパートナー間の暴力(DV)や性犯罪・性暴力などを無くすための取組	145	20.4%
⑨非正規雇用の女性や、ひとり親家庭への支援	222	31.3%
⑩高齢者・外国籍・障害者への支援	137	19.3%
⑪妊娠・出産期、更年期、高齢期など、ライフステージに応じた女性の健康支援	196	27.6%
⑫LGBTQなど性的少数者への支援と理解促進	99	13.9%
⑬男性が家事・育児に積極的に関わる機会づくり	225	31.7%
⑭地域防災活動における女性の担い手増と、女性の視点を盛り込んだ防災対策の充実	92	13.0%
⑮「女(の子)／男(の子)らしさ」にとらわれない、自分らしく生きるための教育の充実	204	28.7%
⑯男女共同参画やジェンダー平等、性についての理解を深めるための広報や学習機会の充実	117	16.5%
⑰その他	11	1.5%
⑱わからない	41	5.8%
無回答	14	2.0%
対象数	710	—

問45 「男女共同参画」及び「女性活躍推進」について、ご意見・ご要望がありましたら、ご記入ください。

選択肢	回答数	回答割合
①文章回答あり	107	15.1%
②文章回答無し	603	84.9%
合計	710	100.0%



---

## 調査票

---



各 位



長野市男女共同参画シンボルマーク

## 「男女共同参画に関する市民意識と実態調査」ご協力をお願い

平素から、市政にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、本市では、心豊かで生きがいのある社会を形成するために、男女が社会の対等な構成員として喜びと責任を共に分かちあい、個性と能力を十分に発揮し、自分らしく生きられる男女共同参画社会の実現のため様々な施策を進めています。

この調査は、男女共同参画や女性活躍の推進など各種施策の基礎資料とするため、令和7年7月1日現在、市内にお住いの18歳以上75歳未満の市民の皆様から、男女2,000人を年代別に無作為によって選ばせていただいた中のお一人としてお願いするものです。

なお、この調査は無記名で行い、お答えはすべて数値に置き換え、統計的に処理した上で分析します。今後の施策推進や啓発のために使用し、集計結果として公表することはありますが、皆様にご迷惑をおかけすることは一切ございませんので、率直なご意見をお聞かせください。

お忙しいところ、大変お手数をおかけしますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

令和7年8月

長野市長 荻原健司

### ご記入にあたってのお願い

- ☆ お答えは、当てはまる番号に○を付けてください。
- ☆ 「その他」に当てはまる場合は、お手数をおかけしますが〔 〕内になるべく具体的に記入してください。
- ☆ 一部の方だけお答えいただく設問もあります。
- ☆ ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに令和7年8月29日(金)までに ポストに投函してください。

この調査についてのお問い合わせは

長野市地域・市民生活部人権・男女共同参画課

電 話：224-5428（直通）

ファクス：224-7547 担当：山本までお願いします。







一般的なことでおたずねします。

問1 あなたは次にあげる分野で男女は平等になっていると思いますか。(それぞれ○は1つ)

	男性の方が 非常に優遇されている	どちらかといえば男性 の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性 の方が優遇されている	女性の方が 非常に優遇されている	わからない
1. 家庭生活	1	2	3	4	5	6
2. 学校教育の場	1	2	3	4	5	6
3. 地域社会	1	2	3	4	5	6
4. 職場	1	2	3	4	5	6
5. 法律や制度の上	1	2	3	4	5	6
6. 社会通念・慣習・しきたり	1	2	3	4	5	6
7. 政治の場	1	2	3	4	5	6
8. 社会全体	1	2	3	4	5	6

問2 次の言葉やことがらについて、知っているか、または聞いたことがありますか。(それぞれ○は1つ)

	知っている	ある 聞いたことが	知らない
1. 男女共同参画社会	1	2	3
2. 女子差別撤廃条約	1	2	3
3. ポジティブ・アクション（積極的改善措置）	1	2	3
4. ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）	1	2	3
5. アンコンシャスバイアス（無意識の偏見）	1	2	3
6. 長野市男女共同参画推進条例	1	2	3
7. 女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）	1	2	3
8. DV防止法（配偶者からの暴力及び被害者の保護等に関する法律）	1	2	3
9. 困難女性支援法（困難な問題を抱える女性への支援に関する法律）	1	2	3

問3 「男性は仕事、女性は家事・育児」という、性別によって役割を固定する考え方について、どう思いますか。(○は1つ)

1. 賛成	2. どちらかといえば賛成	3. どちらかといえば反対	4. 反対	5. わからない
-------	---------------	---------------	-------	----------

問4 日常生活で、「女らしさ・男らしさ」や「女性の役割・男性の役割」などを言われたり、期待されたりすることはありますか。(○は1つ)

1. よくある	2. たまにある	3. ない
---------	----------	-------

問4で「1. よくある」または「2. たまにある」を選ばれた方におたずねします。

問5 どのような場で言われたり、期待されたりしますか。(○はいくつでも)

- |         |                    |         |          |         |
|---------|--------------------|---------|----------|---------|
| 1. 家庭   | 2. 職場              | 3. 学校   | 4. 地域・近隣 | 5. 友人関係 |
| 6. 親族関係 | 7. 社会全体（メディアや広告など） | 8. その他〔 | 〕        |         |

問6 それは、どのような内容に関することですか。(○はいくつでも)

- |                     |                     |             |
|---------------------|---------------------|-------------|
| 1. 言葉づかい            | 2. 容姿（顔立ち、体つきなど）    | 3. 服装や身だしなみ |
| 4. 行動の仕方            | 5. 感情表現（泣く、怒るなど）    | 6. 進学、進路選択  |
| 7. ライフイベント（結婚、出産など） | 8. 趣味やスポーツ          | 9. 家事・育児・介護 |
| 10. 働き方や仕事内容        | 11. お金（収入や支出に関すること） | 12. その他〔    |

問7 日常生活における「女らしさ・男らしさ」や「女性の役割・男性の役割」などについて、不便さや不快感、生きづらさを感じますか。(○は1つ)

- |          |           |         |
|----------|-----------|---------|
| 1. よく感じる | 2. たまに感じる | 3. 感じない |
|----------|-----------|---------|

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問8 子ども時代に「女の子／男の子だから〇〇しなさい」や「女の子らしく・男の子らしく」などと言われたことがありましたか。(○は1つ)

- |        |         |           |
|--------|---------|-----------|
| 1. あった | 2. なかった | 3. 覚えていない |
|--------|---------|-----------|

問8で「1. あった」を選ばれた方におたずねします。

問9 それは、誰に言われましたか。(○はいくつでも)

- |                   |          |          |               |       |
|-------------------|----------|----------|---------------|-------|
| 1. 母親             | 2. 父親    | 3. 兄弟姉妹  | 4. 祖母         | 5. 祖父 |
| 6. その他の親族         | 7. 近隣住民  | 8. 学校の先生 | 9. クラブや習い事の先生 |       |
| 10. 友人や同じ学校の児童・生徒 | 11. その他〔 | 〕        |               |       |

問10 それは、どのような内容に関することですか。(○はいくつでも)

- |                     |                     |             |
|---------------------|---------------------|-------------|
| 1. 言葉づかい            | 2. 容姿（顔立ち、体つきなど）    | 3. 服装や身だしなみ |
| 4. 行動の仕方            | 5. 感情表現（泣く、怒るなど）    | 6. 進学、進路選択  |
| 7. ライフイベント（結婚、出産など） | 8. 趣味やスポーツ          | 9. 家事・育児・介護 |
| 10. 働き方や仕事内容        | 11. お金（収入や支出に関すること） | 12. その他〔    |

問11 子ども時代に「女らしさ・男らしさ」を言われたことについて、あなたの生き方に影響したと思いますか。(○は1つ)

- |         |           |            |
|---------|-----------|------------|
| 1. 影響した | 2. 少し影響した | 3. 影響しなかった |
|---------|-----------|------------|

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問12 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。(○は1つ)

1. 女性は職業をもたない方がよい
2. 結婚するまでは職業をもつ方がよい
3. 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
4. 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
5. 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
6. その他 [ ]
7. わからない

職場における「女性活躍と就労」に関することにおたずねします。

問13 方針決定の場への女性の参画や女性の職域拡大等、女性活躍の必要性について、あなたはどのようにお考えですか。(○は1つ)

1. 必要だと思う
2. どちらかといえば必要だと思う
3. 必要ないと思う

現在、職業に就いていらっしゃる方におたずねします。

問14 あなたの職場では次のことがらについて、男女は平等になっていると思いますか(次にあげるそれぞれの面で性別によって差があると思いますか)。(それぞれ○は1つ)

	優遇されている 非常に 男性の方が	優遇されている 男性の方が どちらかといえば	平等である	優遇されている 女性の方が どちらかといえば	優遇されている 非常に 女性の方が	わからない
1. 賃金	1	2	3	4	5	6
2. 昇進や昇格	1	2	3	4	5	6
3. 仕事の内容	1	2	3	4	5	6
4. 研修の機会や内容	1	2	3	4	5	6
5. 経験や能力を発揮する機会	1	2	3	4	5	6

問15 あなたの職場では女性の雇用や登用は進んでいると思いますか。(○は1つ)

1. 進んでいる
2. どちらかといえば進んでいる
3. あまり進んでいない
4. 進んでいない
5. わからない

	そう思う	やや思う	あまり 思わない	思わない	わからない
1. あなた自身は活躍したい	1	2	3	4	5
2. 現在の生活や仕事に満足している	1	2	3	4	5
3. 女性が社会で働くには不利な点が多い	1	2	3	4	5
4. 仕事を続けキャリアを積んでいきたい	1	2	3	4	5
5. 管理職への打診があれば受けてみたい	1	2	3	4	5
6. 退職して仕事に就かない	1	2	3	4	5
7. 女性も管理職として活躍している	1	2	3	4	5
8. 女性の管理職の部下には、なりたくない	1	2	3	4	5

	とても重要 だと思う	まあ重要 だと思う	重要だ と思わない	わからない
1. 女性を管理職へ積極的に登用する	1	2	3	4
2. 女性社員・職員の採用拡大	1	2	3	4
3. 非正規労働者の正社員・職員への転換・待遇改善	1	2	3	4
4. 在宅勤務、時短勤務・フレックスタイム等、勤務場所や勤務時間の柔軟化	1	2	3	4
5. 出産や育児等による休業がハンディとならないような人事制度の導入	1	2	3	4
6. 企業内託児所や学童保育所などの設置	1	2	3	4

1. 正規の社員・職員

2. 派遣・嘱託・契約・非常勤などの社員・職員

3. パート・アルバイト（家に子どもがいない時間のみなど）

4. その他〔

1. 家事や育児などで家族の協力や理解が得られないから	2. 正規の社員・職員で雇用する企業が少ないから
3. 仕事より家庭生活を優先したいから	4. 時間外勤務や休日出勤を避けたいから
5. 配偶者（特別）控除の範囲内で働きたいから	6. 積極的に仕事に就くつもりがないから
7. その他〔	〕

離職経験のある方におたずねします。

問20 離職の原因（理由）としてあてはまるものをお選びください。（○は3つまで）

- |              |             |           |           |          |
|--------------|-------------|-----------|-----------|----------|
| 1. 結婚        | 2. 出産       | 3. 育児     | 4. 看護     | 5. 介護    |
| 6. 転職・起業     | 7. 配偶者の転勤   | 8. 健康上の理由 | 9. 給料が少ない | 10. 定年退職 |
| 11. 解雇等職場の都合 | 12. 特に理由はない | 13. その他〔  | 〕         |          |

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問21 女性の活躍を進めるうえでどのような問題があると思いますか。（○は3つまで）

- |                          |                               |
|--------------------------|-------------------------------|
| 1. 家事・育児などと仕事の両立が難しい     | 2. 女性が就ける仕事に限られている            |
| 3. 活躍したいと思える仕事がない        | 4. 活躍を望む女性が少ない                |
| 5. お手本となる「活躍する女性」が身近にいない | 6. 結婚・出産で退職する（退職せざるを得ない）女性が多い |
| 7. 上司・同僚の男性の認識、理解が不十分    | 8. 家族の理解が不十分                  |
| 9. その他〔                  | 〕 10. わからない                   |

問22 女性が意欲をもって働き続けるためには、何が必要だと思いますか。（○は3つまで）

- |                    |                                    |
|--------------------|------------------------------------|
| 1. 女性の積極的登用        | 2. 能力開発、自己啓発                       |
| 3. 働き方改革の推進        | 4. 福利厚生の実施                         |
| 5. 賃金の男女平等         | 6. 正規雇用と非正規雇用との待遇差の解消              |
| 7. 家族の理解や協力        | 8. 職場の理解や協力                        |
| 9. 経営者・管理職の意識改革    | 10. 女性自身の意識改革                      |
| 11. 育児・介護に関する制度の実施 | 12. ロールモデル（自分が目指したい事を実践している手本となる人） |
| 13. その他〔           | 〕 14. わからない                        |

問23 出産・育児などで離職した女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要だと思いますか。（○は3つまで）

- |                            |                      |
|----------------------------|----------------------|
| 1. 離職しても同一企業に再雇用されるようにすること | 2. 求人情報や就職ガイダンスの実施   |
| 3. 再就職に関する相談体制の実施          | 4. 再就職のための講座やセミナーの実施 |
| 5. 子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備   | 6. 保育所などの保育施設の実施     |
| 7. その他〔                    | 〕 8. わからない           |

「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」に関することにおたずねします。

問24 あなたは、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉をご存知ですか。（○は1つ）

- |                |                        |         |
|----------------|------------------------|---------|
| 1. 言葉も内容も知っている | 2. 言葉は聞いたことがあるが内容は知らない | 3. 知らない |
|----------------|------------------------|---------|

問25 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活（学習、趣味、付き合い等）」の優先度について  
あなたが理想とする（希望する）生活に最も近いものをお選びください。（○は1つ）

1. 「仕事」優先
2. 「家庭生活」優先
3. 「地域活動・個人の生活」優先
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
5. 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
6. 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先

問26 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活（学習、趣味、付き合い等）」の優先度について  
あなたの現実（現状）の生活に最も近いものをお選びください。（○は1つ）

1. 「仕事」優先
2. 「家庭生活」優先
3. 「地域活動・個人の生活」優先
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
5. 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
6. 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先

問27 あなたは次にあげる家事をしていますか。（それぞれ○は1つ）

	主に 自分が している	家族が 同じ程度 している	自分は 手伝い 程度 している	していない
1. 掃除	1	2	3	4
2. 洗濯	1	2	3	4
3. 食料品、日用品などの買物	1	2	3	4
4. 食事のしたく	1	2	3	4
5. 食事の後かたづけ	1	2	3	4
6. ごみ捨て	1	2	3	4

問28 あなたの平日の1日あたりの家事従事時間（家事・育児・介護）はどの程度ですか。（○は1つ）

1. 0～1 時間未満
2. 1～2 時間未満
3. 2～3 時間未満
4. 3～5 時間未満
5. 5 時間以上

問29 あなたの休日の1日あたりの家事従事時間（家事・育児・介護）はどの程度ですか。（○は1つ）

1. 0～1 時間未満
2. 1～2 時間未満
3. 2～3 時間未満
4. 3～5 時間未満
5. 5 時間以上



身近に育児または介護の対象者がいる方におたずねします。

問30 あなたは育児または介護をどの程度していますか。(それぞれ○は1つ)

	主に自分が している	自分と 家族が 同じ程度 している	自分は 手伝い程度 している	していない
1. 育児（お孫さんを含む）	1	2	3	4
2. 介護	1	2	3	4

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問31 男性が「育児・介護休業制度」を利用することが進まないのは、どうしてだと思いますか。  
(○は3つまで)

1. 主たる家計の稼ぎ手は男性だから
2. 職場や同僚に迷惑がかかるから
3. 上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから
4. 育児、介護は女性の方が向いているから
5. 昇給、昇格に影響すると考えるから
6. その他〔 〕
7. わからない

問32 今後、女性と男性がともに仕事・家事・育児・介護・地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。(○は3つまで)

1. 男女の固定的な役割分担意識を改める
2. 夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる
3. 方針・政策決定の場に女性を積極的に登用する
4. 雇用機会や昇進など、職場での男女平等をはかる
5. 労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる
6. 社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める
7. 男性の関心を高めるよう啓発や情報提供を行う
8. 男性のための仲間（ネットワーク）作りを進める
9. 男性が相談しやすい窓口を設ける
10. 官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる
11. その他〔 〕
12. 特に必要なことはない
13. わからない

「地域社会」に関することでおたずねします。

問33 あなたが住んでいる地域では、自治会・PTA・その他の地域での活動において、次のような事例が見受けられますか。(それぞれ○は1つ)

	そうである	そうではない	わからない
1. 自治会やPTAの会長は、男性と決まっている	1	2	3
2. 自治会やPTAの責任ある役職は、ほとんどが男性である	1	2	3
3. 役員や組織の運営事項は、男性だけで決めている	1	2	3
4. 実際の仕事は妻がしているのに、名義は夫になっている	1	2	3
5. 女性自身が責任ある役職に就くのを避けている	1	2	3
6. 女性が責任ある役職に就こうとすると、男性や他の女性から反対される	1	2	3

問34 あなたが住んでいる地域では、次の1から6の活動について誰が中心となり取り組んでいますか。  
(それぞれ○は1つ)

	男性	女性	男性も女性も	わからない
1. 自治会の役員活動	1	2	3	4
2. 自治会の行事等の活動	1	2	3	4
3. P T Aの役員活動	1	2	3	4
4. P T Aの行事等の活動	1	2	3	4
5. 育成会の役員活動	1	2	3	4
6. 育成会の行事等の活動	1	2	3	4

問35 持続可能な地域づくりのためには、活動の企画立案・方針決定の場に、あらゆる世代の男女が、互いを尊重し、参画することが重要です。そのためにも、女性も地域の重要な方針決定の場に出ていただく必要があります。あなたは、どうすればそれが可能になると思いますか。(〇は1つ)

1. 役員のなかの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）※を導入すること
2. 積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること
3. 地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと
4. 女性が活動し、活躍できるように家族が協力すること
5. 女性が積極的に役職につく意識をもつこと
6. パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者
7. その他〔 〕
8. わからない

※ 積極的改善措置(ポジティブ・アクション)

男女共同参画に關し、男女間の格差を改善するため必要な範囲内において、男女のいずれか一方に対し、当該機会を積極的に提供することをいいます。

問36 平時の防災体制や災害発生後の対応にも男女共同参画の視点が必要です。災害に備えるために、これからどのような施策が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 女性も男性も防災活動や訓練に取り組む
2. 市の防災会議、災害対策本部、防災担当に女性の委員・職員を増やす
3. 避難所などの運営に女性も参画できるようにする
4. 防災や災害現場で活動する女性を育成する
5. 日頃から地域の男女共同参画を進める
6. 備蓄品について、女性、乳幼児、介護が必要な人障害者などの視点を入れる
7. 日頃からコミュニケーション・地域のつながりを大切にする
8. 性別や立場によって異なる災害時の備え（生活環境、物資、安全など）について知識を普及する
9. 避難所マニュアルを整備し、女性、乳幼児、子ども、介護が必要な人、障害者などが安全に過ごせるようにする
10. その他〔 〕
11. 特に必要なことはない
12. わからない

男女の「人権」に関することでおたずねします。

問37 身近な人（夫・妻・恋人）からの暴力が、DV（ドメスティック・バイオレンス）※として問題になっています。次にあげる行為は、DVにあたる行為です。

あなたは、今までにこれらの行為を受けた又はしたことがありますか。(それぞれ○は1つ)

※DV(ドメスティック・バイオレンス)・・・配偶者等に身体的又は精神的な苦痛を与える暴力的行為をいいます。

	受けたことがある	したことがある	受けたことも したこともある	受けたことも したこともない
1. 刃物などを突きつけて脅す、殴るふりをして脅す	1	2	3	4
2. なぐる、ける	1	2	3	4
3. 物を投げつけたり壊したりする	1	2	3	4
4. 髪の毛をつかんで引きずり回す	1	2	3	4
5. 大声で怒鳴る	1	2	3	4
6. メールや郵便物、行動を細かく監視する	1	2	3	4
7. 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する	1	2	3	4
8. 「だれのおかげで生活できるんだ」とか「出て行け」と言う	1	2	3	4
9. 何を言っても無視し続ける	1	2	3	4
10. 家計に必要な生活費を渡さない	1	2	3	4
11. 嫌がっているのに性的行為を強要する	1	2	3	4
12. 避妊に協力しない	1	2	3	4

問38 あなたはDV(ドメスティック・バイオレンス)にあったとき、相談するところをご存知ですか。  
知っている相談窓口をお選びください。(〇はいいくつでも)

1. DV相談ナビ
2. 長野県女性相談センター
3. 県警(警察安全相談窓口)
4. 長野県児童虐待・DV24時間ホットライン
5. 女性の人権ホットライン
6. 長野県性暴力被害者支援センター“りんどうハートながの”
7. 県警性被害犯罪ダイヤルサポート110
8. 長野犯罪被害者支援センター
9. 長野市福祉事務所(長野市役所子育て家庭福祉課内、篠ノ井支所内)
10. 長野市男女共同参画センター
11. その他〔 〕
12. 相談できる窓口は知らない

問39 DV(ドメスティック・バイオレンス)についてあなたの考えに最も近いのはどれですか。  
(〇は1つ)

1. どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う
2. どんな場合でも人権侵害にあたると思う
3. 人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う
4. 人権侵害にあたるとは思わない
5. わからない

問40 あなたは、暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいと思うことは何ですか。  
(〇はいいくつでも)

1. メールによる相談ができる
2. LINEなどSNSによる相談ができる
3. 電話による相談ができる
4. 通話料が無料
5. 24時間相談ができる
6. 相談内容に関連する、他の相談窓口との連携が行われる
7. 同性の相談員がいる
8. 匿名で相談ができる
9. 弁護士など、法的知識のある相談ができる
10. 臨床心理士、公認心理師など、心理専門職の相談ができる
11. その他〔 〕
12. 特にない
13. わからない

**「性」の多様性に関することでおたずねします。**

問 41 あなたは「性的マイノリティ（性的少数者）」または「L G B T Q」という言葉を（どちらか一方でも）知っているか、または聞いたことがありますか。

1. 知っている
2. 言葉は聞いたことがあるが内容は知らない
3. しらない

問 42 性的マイノリティ（性的少数者）についてどのような考えや、イメージをお持ちですか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。（○は3つ）

1. 性の多様性として認めるべきである
2. 身近な存在だと思う
3. テレビ等マスコミにも取り上げられており、理解に努めようと思う
4. 芸能人や特に注目されている人たちのことで、身近な存在ではない
5. 理解ができない
6. 個人の趣味、趣向の問題である
7. 子供を産むために体の性を尊重すべきである
8. 治療すれば治る病気である
9. 関わりたくない
10. その他〔具体的に

〕

問 43 性的マイノリティ（性的少数者）の人権を守るためにどのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに近いものをお選びください（○は2つ）

1. 社会全体での教育や啓発
2. 学校等、子供のころからの教育や啓発
3. 社会制度（法制度や条例制定等）の整備
4. 社会環境（トイレ等）の整備
5. 性的少数者に関する相談や支援の充実
6. 特に必要ない
7. その他〔具体的に
8. わからない

〕

**「男女共同参画施策」に関することでおたずねします。**

問 44 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、長野市が重点をおいて取り組むべきと思うものは、どのようなことですか。  
(〇はいくつでも)

1. 出産や子育てで離職した女性の再就職を支援する取組
2. 企業や団体において女性の管理職やリーダーを育成するための取組
3. 多様で柔軟な働き方（テレワークや在宅勤務、フレックスタイム制など）や仕事と育児・介護との両立支援の推進に向けた企業への働きかけ
4. 男性の育児休業の取得の促進に向けた企業への働きかけ
5. 保育所や小学生の放課後の居場所など、子育てしながら働くための環境整備
6. 市役所自らの女性職員の職域拡大と管理職への登用、職員の働き方改革に関する取組
7. 住民自治協議会、区、自治会等への女性の参画促進に関する取組
8. 配偶者やパートナー間の暴力（DV）や性犯罪・性暴力などを無くすための取組
9. 非正規雇用の女性や、ひとり親家庭への支援
10. 高齢者・外国籍・障害者への支援
11. 妊娠・出産期、更年期、高齢期など、ライフステージに応じた女性の健康支援
12. L G B T Q などの性的少数者への支援と理解促進
13. 男性が家事・育児に積極的に関わる機会づくり
14. 地域防災活動における女性の担い手増と、女性の視点を盛り込んだ防災対策の充実
15. 「女（の子）／男（の子）らしさ」ととらわれない、自分らしく生きるための教育の充実
16. 男女共同参画やジェンダー平等、性についての理解を深めるための広報や学習機会の充実
17. その他〔 〕
18. わからない

問 45 「男女共同参画」及び「女性活躍推進」について、ご意見・ご要望がありましたら、ご記入ください。

アンケート調査はこれで終了です。お忙しいところご協力いただき、誠にありがとうございました。

問 45 「男女共同参画」及び「女性活躍推進」についての自由意見

性別	年齢	職業	記入内容
女性	20 歳～24 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	仕事場によって働くことが難しいところが多く、仕事探しが難しい。時間(出勤)が遅い、自宅に帰るのが遅い、このままだと家庭が出来た時、このまま今の職場で働くことが出来ない。福利厚生がしっかりある会社が増えてほしい。
女性	20 歳～24 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	育休1年は短いと思う。男性も育休とれない職場多い。育休使いたいの、上司から嫌味を言われることがある。
女性	20 歳～24 歳	学生	私は、ボディビル競技や、パーソナルトレーナーになりたいという夢があります。生理学的な違いだけはどうしても変えられないので、それを理解する必要性はあるなと感じます。
女性	25 歳～29 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	保育園に十分な空きがないために、女性が好きなタイミングで復職できない(保育園に入れるまで育休を延長するか、会社によっては退職せざるを得ないことがある)。保育士さんの賃金アップを促し、保育士の数を増やし、待機者を減らしてほしい。仕事と子育てを両立するためにも、手軽な金額でベビーシッターや家事代行を使えるようにしてほしい。病児保育の拡充を望みます。
女性	25 歳～29 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	「女性活躍」とは？主婦という生き方を選んで家事を頑張っている女性は”活躍していない”のか？仕事、家庭生活における役割分担をどうするのか、どうしたいのかを家族や周囲の人としっかりコミュニケーションをとることが大事。そのためには知識がないと選択できない(教育の必要性)加えて、選択肢として平等に機会が確保されていることが必要。戦後、参政権や男女雇用機会均等法など、少しずつ女性にも男性と同じ機会が与えられるようになってきた。しかし、育休制度にしろ、その機会を十分に享受できていないのはなぜなのか？その背景にある、女性や性的マイノリティの人々の生きづらさは何か？を研究していくことが求められているのではないかと感じます。
男性	25 歳～29 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	誘導するような設問がいくつか見受けられました。女性に対しても男性に対しても公平に対応すべきであり、どちらか一方を殊更に優遇、冷遇することは、共同参画や性差の是正からはかけ離れていると感じる場面が多いと感じます。
男性	25 歳～29 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	男女平等というものの、伝統的価値観はすぐには変わることがないと思う。「本当に必要な施策は何か」をよく見極めて行政運営をしてほしい。「女性の活躍」というあまり、男性の権利や負担がもっと増すだけというのは、男性への差別ともなりえると思うので、上手い着地点を見つけて欲しい。
女性	30 歳～34 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	「女性活躍」が子育てなどの負担を抱える女性に、さらに働くことまで求められているように感じる。すべての女性が仕事での活躍を望んでいるわけではなく、家庭に専念したい人もいる。支援を充実させて、どちらも尊重される選択の自由が叶う社会になってほしい。
女性	30 歳～34 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	家の近くの保育所に確実に入れるよう、保育士の待遇を良くして人員確保してほしい。朝の渋滞がひどいのに遠方の保育所しか入れないと、就業できる時間が減る。特に丹波島橋から篠ノ井、稲里あたり。
女性	30 歳～34 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	ひとり親世帯でも安心して生活と子育てができ、女性でも十分に活躍ができる環境にしてほしい。賃金も男女関係なく平等にしてほしい。その辺は男性の方が優遇されると感じます。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	30 歳～34 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	女性活躍推進というが、子どもが具合悪い時の預け先がなく、職場での理解も少ない。正規で働きたくても、時短を選択すると、夜勤ができないと臨時やパートといった扱いとなる。産休、育休中の職員がいる場合、国や県からその事業所に補助金など出ないのか。産休、育休がとりづらく、仕事を辞めるという選択を選ばざるをえない現状もあるのでは？言葉だけがひとりあるきして、実態がともなわない。特殊な職種だから仕方ない、というのはいいかげんやめてはどうか。現状出生率が下がっても仕方ないと言わざるをえない。
男性	30 歳～34 歳	自由業（開業医、弁護士、会計士、文筆業、芸術家など）	結局子育てには時間が必要である。そこをカバーする育休制度、根本的賃金改善が行われない限り男女云々の話ではない。女性が参画できていないのではない、子どもより仕事の社会の構図が日本では根強過ぎるのです。
男性	30 歳～34 歳	会社役員・経営者	専業主婦を悪とするような風潮はよくないと思う。子どもの事を考えたら、小さいうちに母親と過ごすことは大切。経済的余裕があれば、専業主婦（夫）は問題ないと思う。
男性	30 歳～34 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	男女平等であることについては大賛成であるが、無理に女性の管理職や採用を増やすことは「平等」だとは思わない。まずは何が平等なのか問うとともに肉体的、精神的にいい状態を全員が目指せる状態を考えていきたい。
男性	30 歳～34 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	本アンケートの設問内に「家庭を持っていること」前提の質問がいくつかあった、回答不要とするなどの対策を希望する。
女性	35 歳～39 歳	自由業（開業医、弁護士、会計士、文筆業、芸術家など）	興味関心のある人でないと情報に触れようとしないうため、本当に届いてほしい人、意識を変えてほしい人にはなかなか届かない分野だと思います。自分から情報を取りに行かなくとも、地域、職場などで男女共同参画について見聞きする機会が増えるといいと思います。LGBTQなどの性的少数者への支援や理解促進に力を入れていただきたいです。外国籍、障がい者、高齢者など自分の持っていない属性を差別する風潮があることが怖いのです。せめて住んでいる場所には、差別がないよう市政を執り行っていたいただきたいです。
女性	35 歳～39 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	表面上は男女平等・同賃金であっても、時短取得すると昇進が遅れ（表向きに時短だからとは絶対に言わないが）、結果として女性の昇進が遅れている。子どもなし、独身女性は管理職登用されているが、男性より理解が得られず厳しい傾向にある。
女性	35 歳～39 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	育児と仕事の両立は本当に大変で、働かないと生活できない為、120%の力で毎日働いてるのが現状。職場でテレワークもあるが、なかなか取得できないし、子育ての大変さを理解して働き方を柔軟に変えてもらえない。夫一人の給料でも生活できれば時間と気持ちに余裕が生まれるが難しい。残業も多く、家事は頼りにならない。
女性	35 歳～39 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	健康支援が重要と考えます。他地域と比べ産前産後への行政の体づくりへの支援が少なく、個人任せになっています。出産後～子育てに追われ、「気づけば腰痛、膝痛のまま年を重ね、その時点で地域の健康教育に行っても遅い気がします。20代から50代の予防医療に手が届きやすい地域づくりには是非時間を使っていただけると希望が湧きます。長野市の女性がキラキラして子育てや仕事に向き合うことができると 생각합니다。
女性	35 歳～39 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	問 33、34 について PTA、自治会に入っていないければ「地域社会」に属していないかのような設問はいかがなものか（私に子どもはおらず、自治会にも入っていません）。また、アンケート全体を通して、あたかも「女性の意識」そのものに問題があるかのような設問が目立った。「女性が社会進出するためには」という問いはあっても、「男性が」家庭進出する」という視点が無い。「男は仕事、女は家事・育児と仕事」という価値観が強い。「家事・育児・介護と仕事との両立」が女性のみ求められる社会に未来はない。



性別	年齢	職業	記入内容
			「男女共同参画」は「女の領分」であり、男性は考える必要がないという価値観がありはしないか？
女性	35 歳～39 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	男性の多い業界で働く女性として、女性として働く難しさを感じることは多々ある。一方、社会全体を支える行政の立場としては、少子化への対応として、子どもを産み育てる女性、家庭へのバックアップを重視して欲しい。女性や弱者と扱われるLGBTQの人々を優遇するようでは、分断が生まれる。よくも悪くもあるがまま扱われるようになってほしい。また女性が女性らしく、男性が男性らしくいたい人を否定するのも違うと思う。東京都で裁判になっているような、弱者救済に見えた NPO が不正会計をしてというようなことにはならないようにしてほしい。
女性	35 歳～39 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	LGBTQの人を尊重し、自認している性別の更衣室、トイレ等を使用できるようにするのは配慮とは違うと思う。精神的に女性と自認していたとしても、身体的には男性の状態更衣室などに来られたら、女性は恐怖を感じる。
女性	35 歳～39 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	男女性別にとらわれないその人個人として一人ひとり大切である、平等な機会がある、長野市でいてほしいです。
女性	35 歳～39 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	女性が活躍できる世の中になることは良いことですが、出産や子育て介護などこれから考える問題を解決しなければ女性が活躍して下さいといっても、女性に負担が増えすぎてしまいます。大切な問題だと思うので、もっと多くの人の意見を聞いて、女性も男性も皆がいきいきと生活できる市になることを期待しています。
女性	35 歳～39 歳	家事専業者	再就職するまでの間、補助金など市の政策面をもっと充実すべきだと思う。
男性	35 歳～39 歳	農林漁業以外の自営業主・家族従業者	Web でのアンケート実施を検討してください。集計にかかる手間がかかりすぎると思います。人件費は市民の税金なので、省エネ化できるところは積極的に省エネ化し、空いた時間を別の仕事に当てたり、残業を少なくしたりしてください。
男性	35 歳～39 歳	自由業（開業医、弁護士、会計士、文筆業、芸術家など）	自分の妻は正社員で子三人、夫として家事や育児に協力しているつもりだが妻としては時間が足りないと不満そうにしている。男女どちらも同じように仕事するとどうしても家事・育児の分担だけではカバーできない時間帯が出てくる。女性の活躍も大切だがそれを望まず子どもと過ごしながらも仕事を続けたい人への支援が必要だと思う。
男性	35 歳～39 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	紙ではなくオンラインで回答できた方が便利。
女性	40 歳～44 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	小学校高学年くらいからの、学童へ通わなくなった世代の子どもが長期休暇中、親以外の大人が面倒を見てくれる居場所づくりを積極的に行ってほしい。部活もプールもなく子どもが家で暇そうにしています。
女性	40 歳～44 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	女性が育児を主に担いながら、更に社会で活躍しよう、働こうという風潮は辛いものがある。もっと子育てを楽しみたい、子どもと一緒にいる時間を大切にしたいという思いもある中、働かなければ暮らしていけない状況をどうかしてほしい。預けられている子どもが（プラザなど）、もっと体を動かしたり、経験を積める環境を考えてほしい。
女性	40 歳～44 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	男性の育児休業のとり方について、私的には毎日夫がいてくれる必要はなく、週に1、2回半日だけとかそういう制度があってもいいと思う。育児に休みはないはずなのに、自分の休みとしてとらえている男性が少なからずいるように思う。予防接種の時に、とか体調不良等に育休という形で休みをとれる形態があってもいいように思う。
女性	40 歳～44 歳	パート・アルバイト、契約社員	仕事・家事・育児で自分の時間も全くなく、余裕のない女性に、責任の重い仕事・役職を無理に押し付ける必要はない。望んだ女性が望んだポジション

性別	年齢	職業	記入内容
		員・嘱託社員などの非正規雇用者	ンに就ける環境を整えればよい。母親は、PTA 役員、地区の役員など無償の仕事をやたらやらされるが、報酬制にして払った労力や時間に対価を払ってほしい。
女性	40 歳～44 歳	家事専業者	私は女性活躍推進という言葉があまり好きではありません。女性に就職も家事もやった上にさらに頑張れと言われているように聞こえます。男女共同参画についてもです。何もかも男性と女性平等にする必要性はあるのか、私にはわかりません。人には得意、不得意があります。自分が思うように、自分らしく生きていけるようにすることが大切だと思います。男女とか女性とか言っている時点である意味、すでに性別に囚われているような気がします。
女性	40 歳～44 歳	無職	男女共同参画という言葉に違和感を感じる。
男性	40 歳～44 歳	農林漁業以外の自営業主・家族従業者	女性の活躍推進は重要だと感じるが、ポジティブアクションによって女性役員の割合を決めるというのは、より有能な男性が役職につけなかったり、「女性だから」という逆差別になってしまう恐れがあると思う。単純な能力による選出が会社の向上にもつながる。また、女性活躍推進において、男女の平均労働時間が 1.5 倍程と差がある事も問題だと感じる。男性の労働時間を短くする取り組みによって、家事、育児に使う時間が増えれば、自ずと女性が社会に進出し、キャリアを積む事が出来るのではないか。事実、ジェンダーギャップ指数の高いノルウェーでは、男女の平均が、ほぼ同一で、日本の平均のほぼ中間値である。女性への支援だけでなく、男性への支援も重要である。女性ばかり優遇すれば、男性が生きづらくなる。それでは、生産性 GDP など上がるはずがない。
男性	40 歳～44 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	長野市の活動、取り組み、考え方明確に示してほしい。
男性	40 歳～44 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	結婚する人の増加、前向きな世論の形成と意識作り。離婚しないように支援していく制度の普及と周知促進。
女性	45 歳～49 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	何でもかんでも女性が進出、優遇されればいいとは思いません。それぞれの適正、個々の能力を発揮できるような体制が出来てほしいと思う。男性も女性も、気軽に平日休日や昼夜関係なく相談できる場所があって、それを知っていて利用できたらと思う。男性のお料理教室の月謝を支援する(実際に、市でどのような対策がされているのか、勉強不足でよく知りません)。
女性	45 歳～49 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	今の職場は正規職員と臨時職員の賃金の差が大きすぎて働く気力がなくなる。
女性	45 歳～49 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	性別に関係なく、その人の意見、希望が尊重される社会が理想だと思います。固定観念ではなく、男性、女性だからではなく、人として、評価されることが男女共同だと思います。
女性	45 歳～49 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	高校生、大学生への支援がほとんどない。お金がかかるのはこれからなのに、就職氷河期世代には子どもを育てたらお金は全く残りません。当時は育児休暇すら制度がなく結婚→退職があたり前でした。本当に大変です。
女性	45 歳～49 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	仕事に関しては、私はほぼ女性しかいない場で働いています。子育て中の人が多く、お互い様でみなで協力しあいながら早退や欠勤をまかっています。一方、夫の会社は男性が多く、急にお迎えに行かなくてはいけなくなった時などは、早退はしにくいようで、結局私になってしまいます。男性の中でもお互い様が広がればいいと思います。子育て世代は、共働き、「性」の多様性について、柔軟な考えをもっている方が多いように感じます。その一方、年配の特に男性の方は自分が若い頃からの考えが固まってしまっ

性別	年齢	職業	記入内容
			ていて、今の時代の考え方に耳を傾けない方もいるように思います。年配にむけた啓発活動も必要かと思います。
女性	45 歳～49 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	長野市は男女平等から遠い場所にいると思いますので、あえて目指さずに老後を自然の中でゆっくりと過ごしたいと願う高齢富裕層をターゲットにした移住政策で都会からの高齢者を呼び込んだらいいと思います。若い女性の流出が加速している以上、男性の数が割合として増大する中で、男女平等は難しいことです。それが「数で平等」ではなく「質の平等」を目指していけば良いと思う。何よりも女性が「平等に扱ってもらってる」と感じられればそれで良いと思うので。
女性	45 歳～49 歳	家事専業者	男が、女が、という概念にとらわれず、家庭、職場、地域でより良く住みやすい環境を目指していけたら良いと思う。若い夫婦は協力し合ってお互い助け合っている印象。年配者は理解を深めるべき。(TV の CM など使って)。
男性	45 歳～49 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	私は”主夫”として家事全般をしています。子どもの検診など世の中のお母さんの予定で組まれていることが多く、スケジュールが難しいです。仕事は休みの土日に公共サービスを受けられるようにしていただきたい。女性に目が行きがちですが、父が育児をする環境にも目を向けてほしい。細かいことですが、チラシやパンフレットでは、お母さんをイメージするようなイラスト、言葉表現が使われているので、長野市自体が意識改革をすべきだと思います。
男性	45 歳～49 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	あらゆる性の差別を無くすことが重要なのであって、最近の特定の性を優遇する風潮には賛同できない。元々男女(多様性も含め)平等なものであって、役割を別としてきた過去の日本の社会が間違っていたのであり、今後はすべてが平等であるという意識を持てばそれで済むこと。女性を優遇するのではなく、女性を否定する男性を排除していけばよい。※提案、アンケートに時間を要したので、回答にあたって QUO カード 500 円分程度の協力謝礼等あれば、積極的な回答が望めるのではないのでしょうか。
男性	45 歳～49 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	男女平等を言うのであれば、仕事量、地域の活動、納税額等も平等にしてほしい。男性の負担が大きい。また、このアンケートの設問も、意図的に女性(母親・女の子等)を先に書くのであれば、「男女共同」、「男女平等」の表記も、「女男共同」、「女男平等」とすべきで、市の意識も中途半端だと感じた。
女性	50 歳～54 歳	農林漁業の自営業主・家族従業者	このようなアンケートがムダと思う。社会はより良い方向に行っていると思うが、こういったアンケートは要らないと思う。
女性	50 歳～54 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	女性のと言ってるうちは、まだ差別化していると思われる。就職しても、女性が早く結婚してしまうのは、パワハラ、セクハラ、男性が女性を攻撃してもよい文化として未だ当たり前のように思われている事。男性の育児・介護家事の時間を女性と同じくらいにすると理想的。女性は選択肢さえ増やせばうまく生きるのもむしろ男性の選択肢を増やすべく男性のストレス軽減を目的とした AI 等の相談窓口問題解決、改善を試みても面白いと思う(人手不足だから AI)。男性パパ web 会議育児、介護改善掲示板やデータ収集によって AI を充実したらよいのでは？(アイデアまたは 改善、成功体験談)ママ web は既にある気がする。両方あってもいいけど。なるべくわかりやすい入口にしてほしい。長野市の HP などにリンクしてほしい。
女性	50 歳～54 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	まずは中高年の家族での意識改革を考えていかなければと思います。長年染みついたもの難しいです。意識の高い人は行動していますが、全員が当事者意識を持てるように教育が必要だと思います。今のままだと特定の人ばかり負担があり、不平や不満が募ってしまいます。自由に声を上げれる、ケアをしてもらえる場所、もっとオープンな環境を作ってほしいです。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	50 歳～54 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	アンケート内容ただ質問が多くとてもやりづらかった。郵送してくる前に、このページ数確認したのでしょうか？アンケート内容も確認してあるのでしょうか？市役所勤務の方に練習で一度やらせてあるのでしょうか？疑問だらけです。
女性	50 歳～54 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	男女関係なく、1人1人がそれぞれの生き方ができ、その人それぞれが社会からの保障が受けられる様になればいいのになと思います。
女性	50 歳～54 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	現状のやり方には賛同できません。
女性	50 歳～54 歳	家事専業者	難しい問題だと改めて考えさせていただきました。
女性	50 歳～54 歳	家事専業者	地域社会、学校の PTA、育成会、親族のあつまりなど、男性と女性で求められる役割などが、すごく区別されているように思います。仕事上では、男女の区別が少なくなっているように思いますが、家庭や地域の中では、男女の対等さが全く感じられません。地域の中での、男性、女性の扱いの対等を、もっと進める必要があると思います。
男性	50 歳～54 歳	農林漁業の自営業主・家族従業者	「女性が活躍できるように」とすでに女性を特別にすることで男性視点は変わらない。国立大学の男女比 50:50 にとうたったが、実力でやればいいだけなのに考えがすでに男目線であきれる。
男性	50 歳～54 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	男の人も女の人も得意な方をする。そうじも料理も得意な人、好きな人が担当し、それぞれの家庭で分担すればいいと思う。それに対して周りの人は認めてあげるべきだと思う。意外に同性の同世代など同性から理解を得られない部分が多い。
男性	50 歳～54 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	結果平等より機会平等が大切だと思います。制度より意識改革が大切だと思います。
男性	50 歳～54 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	少しずつ進むしかない。
無回答	50 歳～54 歳	会社役員・経営者	女性を優遇する必要はないと思います。フェアに勝負させてくれさえすれば良いと思います。フェアであれば、女性の方が優秀な人材が多いので結果的に男女が平等(の数)になります。ただし、男女が違うことは事実です。単に「平等」にしようと行政が余計な介入をすればひずみを生むだけだと考えます。
女性	55 歳～59 歳	会社役員・経営者	今の日本の社会全体において、心の充実が軽視されている。感謝の心も失っている。毎日の生活に、金銭的余裕、時間的余裕がない親、会話のない家庭。もっと個人の心が豊かになるような価値観を育てるためには、何が必要か？人間は食べ物でできている。その食が、ファストフードやコンビニばかりになっていないか。忙しければ週一回でもいいから、手伝いをして、テレビを消して家族と食をともにし会話する。ありがたうとお互いに感謝をするだけで心が育つ。問題は男女ではなく、今の私たちの心の貧しさである。
女性	55 歳～59 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	保育所など女性が働きやすくなる環境を充実させて下さい。子ども達に関わる仕事(保育園、幼稚園、小学校など)をされている方に対しての待遇や、子どもを預ける場所を拡充し、時間帯や場所を増やして欲しいです。社会全体での子育てができなければ子どもの数はどんどん減っていきます。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	55 歳～59 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	男性・女性をあまり強調すると、かえって難しくなってしまうのではないかと 思っています。お互いさまで皆が協調しながら生きていける社会になれば いいと考えています。
女性	55 歳～59 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	公共機関等の女性用トイレの拡充を強く要望します。トイレの男女平等を 目指してほしい(他自治体より先んじて観光立市としてモデルケースとなっ てほしいです)。
女性	55 歳～59 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	今管理職にある女性の中には、そうなることを前提とされていない教育や 研修を受けてきた人が多いように思う。人の上に立つということはマネジメ ント能力が必要だと思うのだが、それが全く分かってなかったり、好き嫌い で仕事をする人、周りが見えていない人が上に立っていたりして女性のロ ールモデルが育っていない。採用時からその採算を見極めて教育していく こと、何より男性側の意識改革が必要。そのうえで女性の意識の向上かな と思う。
女性	55 歳～59 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	学童で仕事をしていて、年配の我々に対して、暴言、暴力があり、恐怖を感 じることがある。家庭内の影響があると思われる。小学校で男女差につい て、意識の改善を目指す授業を行ってほしいと思う。
女性	55 歳～59 歳	学生	「女性だから」で無理に上の職に就かせるのは無理があるかも。本人の能 力をまず見るべき。40 過ぎると、途端に仕事が少なくなる。希少職(弁護 士)を持っていたも。
男性	55 歳～59 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	建て替えられた南部勤労者活躍支援センターや現在建設中の北部センタ ー等、様々な施設を利用して、男女共同参画の企画やイベントを実施して いったらいいと思います。せっかくある場所なので是非利用者を増やして、 男女共同の場を増やしていったらと思います。
男性	55 歳～59 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	問にあるような言葉が早く過去のものになり、誰もが平等である社会になる ことを望みます。
男性	55 歳～59 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	家庭内から男女共同参画を意識していくべき。男性が家事育児に積極的 に関与していく雰囲気作りが大切である。
男性	55 歳～59 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	今から 30 年前、父親の私が駅前のデパートでベビーカーを押していると、 ジロジロ見られたものです。デパートなどの男性トイレにオムツ代え用の台 もありませんでした。今、そういう設備は整ってきましたが、まだ考え方の上 で、家事育児は女性の領分という習慣は残っています。そういう考えをどう 変えていくのが課題でしょう。
女性	60 歳～64 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	女性自身が「私たちは女性で守られるべき」と、権利の主張は、いかがかと 思う時がある。自身が管理職であるため、権利を主張するならば男性と同 じように働いてほしいと思う場面をいくつも経験してきた。このアンケートも 含め、何かこういう動きに「誘導されている」ような気がする。皆が男女関係 なく、尊重し合える世の中でありたい。
女性	60 歳～64 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	若い女性、もしくは母親をサポートする。祖父、祖母に対して孫休を取れる ようにしていただくようお願いしたいです。働くジジ・ババはこれからも増 えていくと思うので。そして若い女性の視点での活躍を期待したいと思いま す。よろしく願い致します。お仕事お疲れ様です。
女性	60 歳～64 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	格差社会が広がっているように感じます。生まれてきた子ども達が、生まれ てきて良かったと感じて暮らしていけるような社会である必要があると思い ます。そのためには、女性と男性が対等であることが大切なことのひとつと 思っています。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	60 歳～64 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	こうしたアンケートは、よい試みだと思う。結果を広く周知してほしい。
女性	60 歳～64 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	問 44 について⑥今までやってきていないのか？男性の育児休業は家にいて邪魔になるなら、いらないのではないかと？⑧根性は直らない。いくら取組をしても。そこは警察と連絡を取合うぐらいしないと。⑦家族や状況によって参加しづらい又は参加しても自分を疲れさせてしまう場合がでてくる。少子化は男性の給与が低い事、大学など奨学金の返済など親の世代でまかなえない子どもの負担が大きい、結婚年齢をのがす、悪循環。長野市民が安心して暮らせるよう少子化にならぬよう考えて実行にうつして欲しい。
女性	60 歳～64 歳	その他	女性の活躍のために女性が忙しくなるようでは長続きしません。家族の理解や協力、これは女性が家事等やるのが前提の考え方ではないですか？男性が家を空けても何も言われないのに、女性が家を空けるには理解や協力が必要というのは対等ではありません。一人ひとりが自分事とし、アンコンシャスバイアスに気づき減らしていくことが必要だと思います。
男性	60 歳～64 歳	会社役員・経営者	前にも書いたが、仕事か子どもかの問題(対比)にしない。仕事をしなくても、男女平等に。人間として(本能)子ども(人口)を増やす。(出生率2人)できるように、男女共同参画をしてほしい。
男性	60 歳～64 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	ジェンダーギャップについて、日本が世界と比較して下位にある項目を中心に改革していくのがいいと考えます。賃金格差と雇用の問題。政治、各政党の考えが公約として示していればかわれるのでは。オンライン入力もできるようにした方がいいと思います。
男性	60 歳～64 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	市としての情報発信が HP などがメインで見れない方々への伝え方をもう少し考えて欲しい。市としてのビジョンを明確に市民が理解できるようにする為の仕組みともう少し開かれた自治体を目指してほしい。次工程は市民です。
男性	60 歳～64 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	LGBTQは、一部の活動家が進めた話であり、残すべき伝統は、維持していくべきと思う。また、小中学校で生徒会長をやっていた女性ならば、現在の環境でも社会に出て活躍している。少子化のもと、若手労働者の負担が大きくなっている。家計のために無理をする”女性活躍推進”にはならないでほしい。
女性	65 歳～69 歳	農林漁業以外の自営業主・家族従業者	私達が育ってきた時代とは全く違ってきているので正直に言うと、よくわからないというのが実情です。女性、男性それぞれがお互いを認め合い尊敬し合って生きていけるような世の中になってほしいです。
女性	65 歳～69 歳	自由業(開業医、弁護士、会計士、文筆業、芸術家など)	子どもが病気になった時など、女性だけでなく男性も仕事を休めるような職場作り、又その為の政策を実行してほしい。シニアによる子育て支援の拡大。
女性	65 歳～69 歳	会社役員・経営者	人と人が互いに敬い尊びで気づいていいたら自己中心がなくなり比較的穏やかに過ごせると思います。まず人の意見を聞くことから始めましょう。
女性	65 歳～69 歳	無職	最近はかなり男性が育児に参加されてきました。外国に比べるとまだまだ遅れていると思います。
男性	65 歳～69 歳	自由業(開業医、弁護士、会計士、文筆業、芸術家など)	男性・女性のそれぞれが持っている特性を生かすべきだと思う。男性に出来る、出来ない。女性に出来る、出来ない事がある。全てが平等である必要はないと思う。それぞれの良い所を活かしていくことが重要だと思う。

性別	年齢	職業	記入内容
男性	65 歳～69 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	高校・大学を終了後に、多くの人が都会に出ていく。求職、ほか地元に残れる環境を整えることが必要。
男性	65 歳～69 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	貴課の取組は大切なものだと思います。集計結果と分析、考察結果を長野市 HP 等で公表される事を望みます。
男性	65 歳～69 歳	無職	権利の主張に偏ることがない、バランスの取れた仕組みや意識の醸成。
男性	65 歳～69 歳	無職	出産や子育てには、協力しなければならない。男女が問題ではない。人の上に立つのは仕事ができる人だ。LGBTのスポーツ進出(男が女として出れる)はありえない。LGBTは否定はしないが、社会がどうする事ではない。
男性	65 歳～69 歳	無職	子育てをする中で、病気になった子を見るのはあたりまえ、会社が休めない、有休がない、という理由で治らない子を保育所に預け感染が拡大し、また病気になる、このくり返しが無いよう企業がもっと子育てや看護に優しくなってほしい。
男性	65 歳～69 歳	無職	経済の発展とともに労働力として女性の社会進出があり共稼ぎでないと生活が困難となった。女性の活躍は良い事ですすし管理職への登用も良いのですが、管理職への登用を望む女性をどれだけ増やせるか、また女性の社会進出により「家庭」が形が変化している気がします。
女性	70 歳以上	農林漁業以外の自営業主・家族従業者	自分の心が幸せであると思える生き方ができれば最高ですね。世界が平和になってこそその先の実現できるでしょう。戦争の世界を見るたびに心が折れてしまいます。日本の社会も本当に危なくなってきました。先生、警察官、そして政治家の発言。ニュースは悪いことばかりではなく、いいこともお願いしたい。自分は信州に長野に生きられていることに感謝しています。
女性	70 歳以上	家事専業者	離職していますが、仕事をしていた頃のことを思い出しながら答えました。
女性	70 歳以上	家事専業者	グローバルな人にやさしい教育が必要だと思う。幼児教育の充実。指導者の養成。地域活性化の促進。
女性	70 歳以上	家事専業者	日本ではまだ女性の地位が世界に比べて低いと感じます。男性の意識が低いと思います。男女、家庭でも平等になることがこれから結婚されていく若い人にもっと改革が必要なのかなと思います。とにかく日本の女性は大変忙しい、この一言です。私もそうでした。
女性	70 歳以上	家事専業者	就労も子育ても終った年代で役に立つような意見ありませんが、全ての人が暮らしやすく過ごせる事が一番だと思います。
女性	70 歳以上	無職	昔に比べれば、女性の立場も随分改善されてきたのでは。70 才以上の私にとってはそう思います。子育ても支援や無料など、色々と補助があります。が果たしてそれで子どもが増えるのか疑問です。
男性	70 歳以上	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	会社、地域が理解を深める事。
男性	70 歳以上	無職	老人になりましたのですが可能な限り(動けない状態、痛い等)意識してまいります。

性別	年齢	職業	記入内容
男性	70 歳以上	無職	市民一人ひとりの価値観を変えていく、啓蒙活動を地道に行っていくことか と思う。また、部落差別は日本社会からなくなってしまったのでしょうか。部 落問題こそ最も深刻かつ重大な問題であり取り組まなければならないこと かと思います。
男性	70 歳以上	無職	昭和の生まれですから、今風のことはなかなか理解できないところもあり ます。
男性	70 歳以上	無職	女性が社会参画できるような社会環境の整備が必要だと思います。共働き が増えている現状で家事・育児等を代行するシステムの構築が必要だと思 います。
男性	70 歳以上	無職	女性が男性と一緒に社会の中で活動することは基本的に賛成である。当 方大企業に 40 年間勤めたが、男女を差別する雰囲気はほぼ無い。あくま で実力主義である。有給のとりやすさ、育児休暇、育児中の遅出、早退 等々職場制度は、充実していると思う。しかし一番大きなことは、女性自身 が男と同じ様に働きたいとは思っていない点である。女性を管理職に登用 したいと教育やフォローをしても、それに付いてこようとしない女性がまだ 多く単純な話ではない。社会全体が変わらないとダメなのだろうと思う。蛇 足だが、男と女は別の生き物である。同等にと考えることの方が論理的で はない。
男性	70 歳以上	無職	働ける環境を整備すること、主たる家計の稼ぎ手の給料を改善することが 必要だと思います。
無回答	無回答	無回答	女性活躍推進は、素晴らしいことだと思いますが、これが少子化につな がっているような気がします。





令和 7 年 11 月発行

発行 長 野 市

編集 長野市地域・市民生活部 人権・男女共同参画課

長野市大字鶴賀緑町 1613 番地 電話 026 (224) 5032 (直通)

E-mail : [jinken-danjo@city.nagano.lg.jp](mailto:jinken-danjo@city.nagano.lg.jp)

集計 協同組合長野シーアイ開発センター